

女性が住みたくなるスタートアップ事業  
調査報告書

令和4年12月

熊本県・熊本県立大学

はじめに

21 世紀に入って以降、人口減少、少子高齢化、国際化の進展、急速な情報化社会の広がり、相次ぐ災害など、日本社会は様々な課題への対応に迫られてきた。中でも、東京への人口一極集中と地方における人口減少の 2 つが同時に進行するという問題は、世界にかつて類を見ないほどのスピードで人口減少を加速させており、日本の地域社会の今後の持続可能性をも問う重大な課題となっている。

このような課題に対抗するため、現在各地で進められているのが地方創生の取組である。これは、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指す取組であり、全国の各自治体が「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定し懸命に地方創生に取り組んでいるところである。

しかしながら、地方部における人口減少に歯止めをかけ、地域社会の活力を維持していくためには、より一層のターゲットを明確にした政策・施策展開が必要である。そこで、熊本県と熊本県立大学では令和 4 年度の受託事業「女性が住みたくなるスタートアップ事業」として若年女性の県外転出理由を探ることを目的に調査研究を行った。

本報告書は、その調査研究の結果について取りまとめたものである。この報告書で明らかとなった課題が、熊本県の人口減少への対策方法の立案の一助となれば幸いである。

# 女性が住みたくなるスタートアップ事業 調査報告書

## －目次－

### はじめに

I 本調査の目的、方法	1
1. 本調査の目的	1
2. アンケート調査について	1
3. ヒアリング調査について	2
II 熊本県における人口推移と男女共同参画	4
1. 熊本県における若年女性人口の推移	4
2. 男女共同参画の現在	6
III アンケート調査の結果	9
III-1 県外・社会人に対するアンケート	9
III-2 UIJ ターン者に対するアンケート	67
III-3 県外・学生に対するアンケート	108
III-4 アンケートのクロス集計・重回帰分析	145
IV ヒアリング調査の結果	158
IV-1 ヒアリング調査の概要	158
IV-2 県外転出者ヒアリング結果	160
IV-3 UIJ ターン者ヒアリング結果	170
V 女性が住みたくなる地域づくり	177
V-1 県外転出者への調査から見えてきたこと	177
V-2 UIJ ターン者への調査から見えてきたこと	179
V-3 女性が住みたくなる熊本に向けて	182
おわりに	183
資料編	184

# I 本調査の目的・方法

## 1. 本調査の目的

本調査の目的は、20代～30代の若い世代が熊本県から県外に転出する要因を明らかにし、熊本県の人口減少に歯止めをかけると共に、熊本県における男女共同参画社会づくりに有効な施策立案につなげることである。

国においては、近年の若い女性の大都市圏への転入超過増大の背景に、地方に根強く残る固定的性別役割分担意識や男女共同参画への理解不足を挙げている。熊本県においても20代～30代の女性の転出超過数が男性を上回っている現状にあるため、若年層の男女で県外に転出した者、あるいはUIJターンで熊本に戻ってきた者にアンケート・ヒアリングを行い、その実情を探るものである。

## 2. アンケート調査について

### (1) アンケート調査の概要

#### ① アンケートの目的

熊本県出身で県外（東京圏、中部関西圏、福岡県）に居住する者、あるいはUIJターンで熊本に戻ってきた者について、県外への転出理由、熊本県に戻る意思の有無、どのような支援があれば熊本県への移住を検討するか等について意向調査を行うことにより、熊本県における女性の住みたくなる地域づくりのための施策立案の一助とする。

#### ② アンケート項目について

アンケートの実施に当たっては、熊本県立大学の生命倫理審査委員会の審査を受け、承認を受けている。

### (2) 県外者アンケートについて

- ① 対象：熊本県出身で県外（東京圏、中部関西圏、福岡県）に居住する20代～30代の男女
- ② 手法：Webアンケートによる調査（株式会社マクロミルおよびGoogleフォームによる独自アンケート併用）
- ③ 期間：2022年8月～9月
- ④ 回収サンプル数
  - 総数：906サンプル（うち女性655、男性247、不明4）
    - うち社会人：761サンプル（うち女性567、男性192、不明2）
    - うち学生：145サンプル（うち女性88、男性55、不明2）



## ⑤ 分析方法

アンケート総サンプル数のうち、学生は 145 サンプル（16%）を占める。これら県外・学生の回答者については、県外転出の理由が「進学」のみに偏っていたり、就労や子育てに関する設問について実態を踏まえない回答になるなど、県外・社会人の回答と傾向が大きく異なっていることが確認された。両者を一緒に集計してしまうと分析結果にバイアスが生じることとなるため、県外・社会人 761 サンプルと県外・学生 145 サンプルについては別々に集計を行うこととした。

また、集計において男女別に差があるものについて統計手法（カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定、マンホイットニーのU検定等）による有意差の検定を行った。解析には統計ソフト R のバージョン 4.1.3 を用い、有意水準は 5%としている。（以下同じ）

## (3) UIJ ターン者アンケートについて

### ① 対象：熊本県に UIJ ターンした 20 代～30 代の男女

- U ターン：熊本県出身者が熊本県に戻るもの
- I ターン：他県出身者が熊本県に来るもの
- J ターン：他県出身者が一度出身地以外の都道府県に移動してから熊本県に来るもの

### ② 手法：Web アンケートによる調査（Google フォームによる独自アンケート）

### ③ 期間：2022 年 8 月～9 月

### ④ 回収サンプル数

- 総数：326 サンプル（うち女性 169、男性 156、不明 1）

### ⑤ 分析方法

集計において男女別に差があるものについて統計手法（カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定、マンホイットニーのU検定等）による有意差の検定を行った。

## 3. ヒアリング調査について

### (1) ヒアリング調査の概要

#### ① ヒアリングの目的

県外転出者（東京圏、中部関西圏、福岡県在住）および県内転入者（U ターン、I ターン、J ターン）の若年層（20～39 歳）の女性を対象にヒアリングを行い、熊本県を転出した理由や熊本県に戻るために必要なこと等を把握し、女性が住みたくなる魅力的な地域づくりの施策を提案することを目的とする。

#### ② ヒアリング項目について

ヒアリングの実施に当たっては、熊本県立大学の生命倫理審査委員会の審査を受け、承認を受けている。

## (2) 調査方法

個別インタビュー（Zoomにて実施）。

## (3) 調査対象と調査日時

### ① 県外転出者

- 対象者：大都市圏（東京圏、中部関西圏、福岡県）在住の20～39歳の女性
- 調査期間：2022年8月15日～9月13日
- 対象者：23人

### ② UIJターン者

- 対象者：本県へ移住もしくは大都市圏から本県へ戻って就職した20～39歳の女性
- 調査期間：2022年8月16日～8月31日
- 対象者：11人

## (4) ヒアリング内容

第IV章参照。

## II 熊本県における人口推移と男女共同参画

### 1. 熊本県における若年女性人口の推移

本調査はそもそも、20代～30代の若い世代が熊本県から県外に転出する要因を明らかにすることを目的としている。しかし、なぜ若年層（特に若年女性）の転出が重要になるのだろうか。その点についてまずは整理しておく。

#### (1) そもそも「地方創生」とは

現在各地で進められている地方創生については、2014年に発表されたいわゆる「増田レポート<sup>1</sup>」がその端緒となっている。増田レポートの中では、全国の市区町村のおよそ半数（49.8%）に当たる896の市区町村が名指しで「消滅可能性都市」と指摘された。これらの消滅可能性都市は、今後いくら出生率を引き上げても人口減少が止まらず、「消滅する可能性がある」といわざるをえない」（増田寛也編著『地方消滅』中公新書、2014、24頁）とされたのである。この増田レポートをきっかけに全国的に広がった人口減少への不安に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指すことを目的に取り組みされた一連の地域活性化策の通称が「地方創生」である。

では、そもそもなぜ「消滅可能性」となるのか。増田レポートは20代～30代の若年女性の動向に注目している。子どもを出産する層であるこの世代の女性が、現在地方から東京圏に流出し続けており、このことは、地方において人口減少がより加速することを意味している。いずれの自治体にあっても、地方創生を考えるうえで何よりもまず、この「消滅可能性」にどのように立ち向かうかを考えなければならない。

仮に若年女性がほとんど流出しない自治体であっても、人口を維持するためには、合計特殊出生率は2を上回らなければいけないとされる<sup>2</sup>。熊本県の直近の合計特殊出生率は1.60にとどまっており（熊本県「令和2年人口動態調査」）、この状況がかわらないままに熊本県からさらに若年女性が流出することは、熊本県の人口減少がより加速することにつながる。

---

<sup>1</sup> 増田レポートとは、元岩手県知事・総務大臣の増田寛也氏を中心とする民間のシンクタンク「日本創成会議」が作成した報告書と、それに関連した一連のメディアの記事や書籍などを指す。『中央公論』2014年6月号の特集記事「消滅する市町村523」や、同年8月出版の増田氏編著『地方消滅』が有名である。

<sup>2</sup> 合計特殊出生率とは、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、1人の女性がその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。最新の2020年のデータでは、日本全体の合計特殊出生率は1.33となっている（厚生労働省『令和4年版 少子化対策白書』4-5頁）。また、人口を維持するために必要な合計特殊出生率を人口置換水準と呼ぶ。こちらは2020年時点で2.06となっている（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2022」表4-3）。

そのため、20代～30代の女性をいかに熊本県にとどめていくかという視点に立った政策立案が重要になる。若年女性が県外に転出せず県内で就職、結婚、子育てができるような環境を整えるとともに、一度県外に転出した女性が熊本に戻って来やすくなるような支援のあり方について考えなければならない。

## (2) 熊本県の人口推移

それでは、熊本県において男女の人口はどのように推移しているのか。その点を見つめることにしたい<sup>3</sup>。

熊本県の人口について、男女別に表示したのが右図1である。そもそも熊本県は全国平均よりも女性の割合が多い県であり、女性の人口は一貫して男性の人口を上回っている。一方で、その差（灰色の折れ線）は2010年をピークとして下降に転じており、男女の人数差がどんどん縮まってきているのが分かる。

では、男女の人口差はなぜ小さくなってきているのか。その理由として、男女の自然増減の差と社会増減の差を見てみよう。

自然増減（出生数と死亡数の差）を男女別に見た図2では、熊本県の自然増減は2003年からマイナスに転じている。各年も概ね同数の増減で推移してきた男女の差が開くのが2010年代に入ってからである。2011年には女性の自然減が男性を大きく上回り、以降この差は狭まらないまま現在に至っている<sup>4</sup>。

続いて社会増減（転出入の数の差）を見てみよう。男女別の転出超過数を表示した図3では、2000年代を通じて男性の転出超

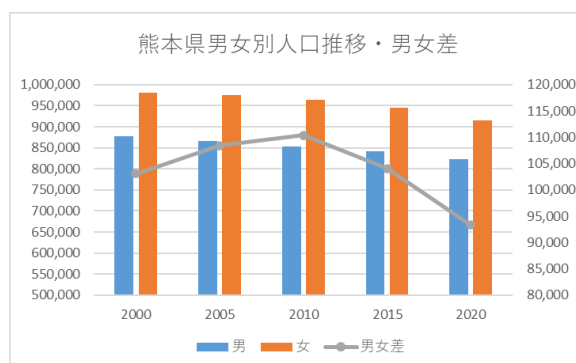


図1 男女別人口推移

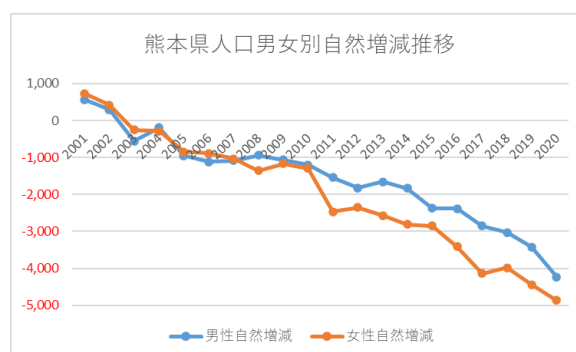


図2 男女別自然増減

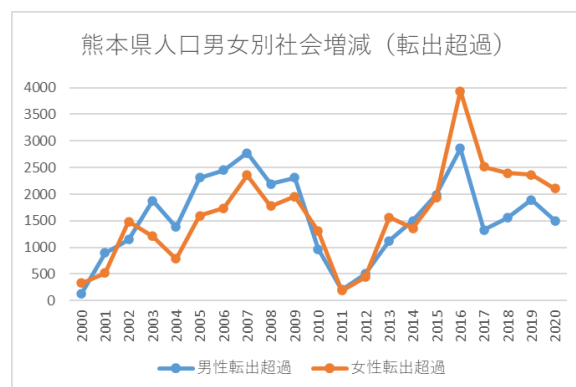


図3 男女別社会増減（転出超過）

<sup>3</sup> 図1、図3の出典は熊本県統計年鑑、図2は熊本県推計人口調査結果報告。

<sup>4</sup> この理由については、女性の人口がそもそも多いため死亡数も相対的に多くなるためであり、人口比で見れば大きくは変わらないと考えることも可能。しかし、2000年代までは同等程度で推移してきたのになぜ差が開いたかについては検証を要する。

過数の方が女性の転出超過を上回っている。転出超過数は 2010 年代に入って一旦落ち着くが、やがて再度上昇に転じ、熊本地震が発生した 2016 年に大きく跳ね上がることとなる。ここで注目すべきは、2016 年の熊本地震以降、女性の転出超過が男性のそれを上回り続けていることである。かつて熊本県は「男性が出て行く県」だったが、熊本地震以降は「女性が出て行く県」となってしまうのである。

上記で見てきたとおり、近年の熊本県は、自然増減と社会増減のダブルパンチで女性が減少する「女性減少県」となっている。自然増減については高齢化の進展もありやむを得ない部分もあるが、社会増減については深刻な状況にある。熊本地震後、一時的に復興需要で県内の景気・雇用が好調となったとされるものの、その雇用の中心は建設や運輸などのどちらかといえば男性向けのものであり、女性の雇用と地域・職種のミスマッチが生じていたとの指摘もあり<sup>5</sup>、働き先を求めた女性の県外流出が加速していた可能性も考えられよう。熊本地震以降も、令和 2 年 7 月豪雨災害など、熊本県は度重なる災害に見舞われており、今後も女性の雇用に対する支援に向けた政策・施策展開が望まれる。

## 2. 男女共同参画の現在

女性の住みやすい地域づくりを行っていくためには、男女共同参画社会の実現が欠かせない。それでは現在の男女共同参画の取組はどのように行われているのだろうか。その点についても瞥見してみよう。

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」であるとされる（男女共同参画社会基本法第 2 条）。しかしながら、日本では未だにこの男女共同参画社会には程遠い実態がある。

男女共同参画の度合いを示すものとして著名な「ジェンダーギャップ指数」(Gender Gap Index : GGI) を見てみよう。GGI は、スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」(World Economic Forum) が毎年発表しているもので、世界各国の男女間の格差について測定し数値化したものである。経済、教育、保健、政治の 4 分野から算出しており、0 が完全不平等、1 が完全平等を表す。この GGI において、最新の 2022 年版での日本の順位は 146 ヶ国中 116 位となっている。この順位は先進国の中で最低レベルであり、アジア地域を見ても韓国や中国、ASEAN 諸国より低くなっている。(図 4 参照)

GGI における日本の順位の変化を暦年で見ても、調査対象国が増えるに従って下落している状況にある。

- 2006 年：115 ヶ国中 80 位

---

<sup>5</sup> 日銀熊本支店「熊本地震関連特別レポート vol.2」2016 参照。

- 2010年：134ヶ国中94位
- 2015年：145ヶ国中101位
- 2020年：153ヶ国中121位
- 2021年：156ヶ国中120位
- 2022年：146ヶ国中116位

最新の2022年については、昨年の120位から116位へと4ポイント順位を上げてはいるものの、調査対象国自体は156から146へと10ヶ国減少しており、調査対象が10減ったにも関わらず順位は4しか上がっていないという残念な結果となっている。

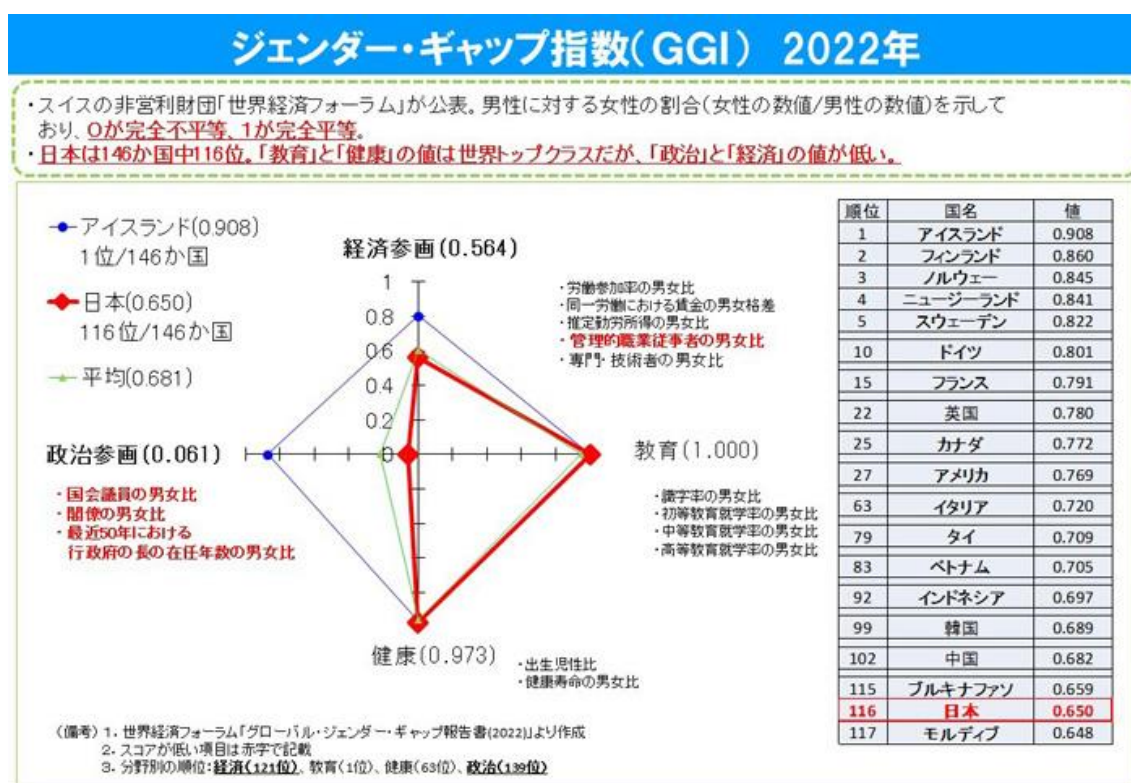


図4 日本のジェンダーギャップ指数(出典:内閣府HP)

ジェンダーギャップ指数の順位が低迷しているのは、経済と政治分野の得点が低いからである。特に政治分野については世界最下位レベルの139位となっており、政治分野に限って見れば、総合評価で世界最下位(146位)であるアフガニスタンよりも下位となっている。このような状況に鑑みれば、日本における男女共同参画社会の実現は未だ途半ばであるといわざるを得ないであろう<sup>6</sup>。

<sup>6</sup> 国連開発計画(UNDP)が発表している「ジェンダー不平等指数」(Gender Inequality Index: GII)では日本は162ヶ国中24位と上位になっており、イギリス(31位)やアメリカ(46位)などよりも順位は高い。このGIIの高順位をもって日本では男女平等が確保

このような状況に対し、国においても様々な取組を行ってきている。現在の日本における男女共同参画を促進するための法的枠組みとして代表的なものは、男女雇用機会均等法（1986）、男女共同参画社会基本法（1999）、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（2015）などがあげられる。

政策的な枠組みとしては、2003年に小泉内閣が「女性のチャレンジ支援」の一環として国が掲げた目標が「202030」（にいまるにいまるさんまる）が存在した。これは2020年までに指導的地位に占める女性の割合を少なくとも30%程度とするというものであった。その後、民主党政権が2012年に提唱した「働くなでしこ大作戦」、自民党安倍内閣が打ち出した「女性の活躍推進」などが打ち出されたものの、「202030」が掲げた指導的地位の増加にはつながらなかった<sup>7</sup>。

2020年に入り「202030」の実現が不可能であることが明らかとなったことを受け、国が12月に策定した「第5次男女共同参画計画」では新たに2つの目標が掲げられた。

- 2030年代に指導的地位に性別の偏りのない社会を目指す
- 2020年代の可能な限り早期に30%を目指す

この目標自体は、「目指すことを目標とする」というかなり曖昧なものとなっており、課題の先送り感が否めない。今後、目標達成のためのより実現性の高い方策が求められよう。

熊本県においては、「男女共同参画社会基本法」に基づき、2001年（平成13年）に熊本県男女共同参画計画（ハーモニープランくまもと21）を策定した。その後、2006年、2011年、2016年の改定を経て、2021年（令和3年）3月に「第5次男女共同参画基本計画」が策定されている。この計画は、男女共同参画社会基本法第14条及び熊本県男女共同参画推進条例第15条の規定に基づく県の基本的な計画となっており、併せて「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」第6条の規定に基づき策定する都道府県推進計画としても位置付けられている。

同計画の基本目標は「男女が互いを尊重し支えあう、多様性に富んだ持続可能な社会の実現」であり、現在、この目標の実現に向けて様々な取組が進められている。今回の調査研究も、この目的を達成するための一環でもある。今後、熊本県における女性の雇用の確保と男女共同参画社会の実現は車の両輪として一体的に取り組んでいかなければならないことはいうまでもないだろう。

---

されていると主張する向きもある。しかしながらGIIの算定には「思春期出生率」などの指標も含まれており、未成年出産が相対的に少ないうえに人身売買的な児童婚の問題もない日本は必然的に順位が上昇することとなる。そのためGIIを根拠に「日本においてはジェンダー平等が実現されている」と主張するのには無理がある。

<sup>7</sup> 山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』岩波書店、2015ほか参照。

### Ⅲ アンケート調査の結果

#### Ⅲ-1 県外・社会人に対するアンケート

##### 1. アンケートについて

###### (1) アンケートの概要

熊本県出身で県外に居住する者について、県外への転出理由、熊本県に戻る意思の有無、どのような支援があれば熊本県への移住を検討するか等について意向調査を行うことにより、熊本県における女性の住みたくなる地域づくりのための施策立案の一助とする。

###### (2) 分析対象

アンケートサンプルのうち16%を占める学生については、県外転出の理由が「進学」のみに偏っていたり、就労や子育てに関する設問について実態を踏まえない回答になるなど、社会人と回答の傾向が大きく異なっている。そのため、本項では学生を除いた社会人761サンプルを対象として分析を行うこととした。

###### (3) 検定手法及びグラフの表示について

集計において男女別に差があるものについて統計手法（カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定、マンホイットニーのU検定等）による有意差の検定を行った。

グラフについては、男女に特徴的な差がある項目については男女別に分けて表示した。逆に、男女に有意な差が無いものについては総数のみのグラフとしている。

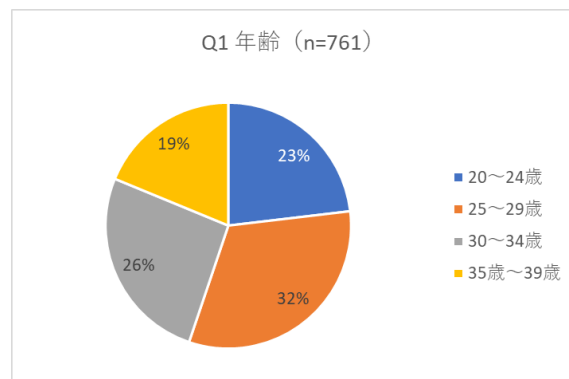
##### 2. 設問毎の結果概要

###### (1) 回答者性別・年齢（Q1-2）

###### ① 回答者年齢（Q1）

回答者の年齢階層については20代が55%、30代が45%を占めている。

年齢	回答数
20～24歳	176
25～29歳	244
30～34歳	198
35歳～39歳	143
総計	761

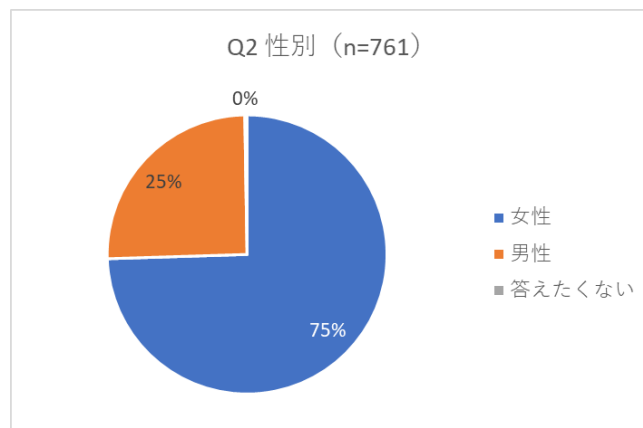




## ② 回答者性別 (Q2)

回答者の性別は女性 7 割強、男性 3 割弱となっている。

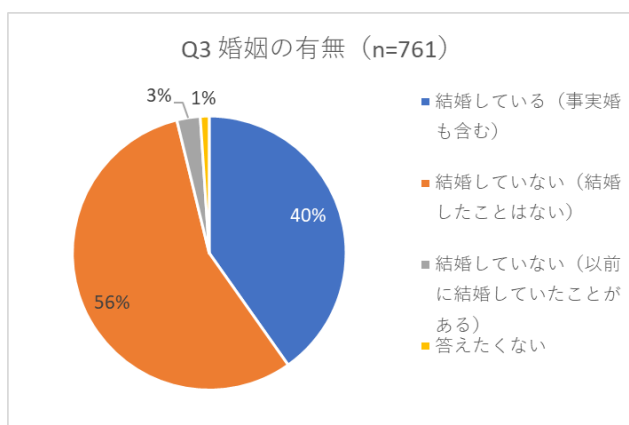
女性	567
男性	192
答えたくない	2
総計	761



## (2) 婚姻について (Q3)

回答者のうち、既婚者が 40%、未婚者が 56%となっている。

	結婚している (事実婚も含む)	結婚していない (結婚したことはない)	結婚していない (以前に結婚していたことがある)	答えたくない
女性(n=761)	225	323	15	4
男性(n=192)	81	101	6	4
答えたくない(n=2)		2		
総計(n=761)	306	426	21	8



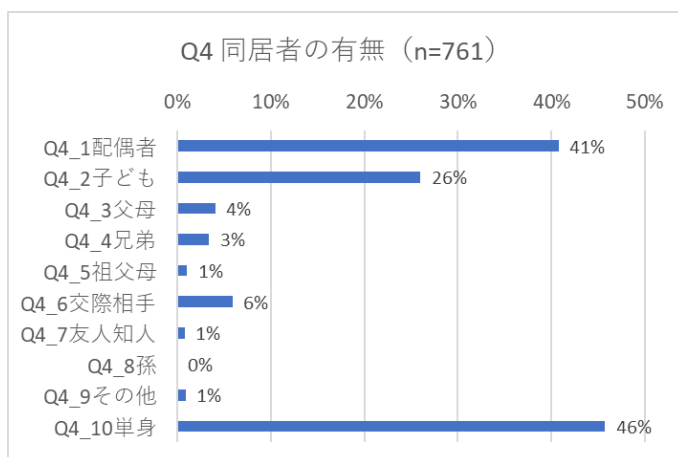
## (3) 同居者および同居の子どもについて (Q4-6)

### ① 同居者について (Q4)

同居者のうち最も多いのは「配偶者」であり、回答者全体の 41%が配偶者と同居していると回答している。(Q3 との回答割合のズレは、結婚はしていないが配偶者と同居していると回答した者が複数いるため。)

次に多いのは「子ども」の26%となっている。また、同居者のいない「単身」で住んでいると回答した者が全体の46%を占めている。

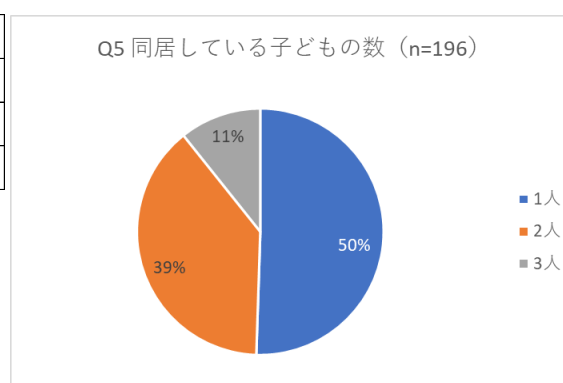
	配偶者	子ども	父・母	兄弟・姉妹	祖父・祖母	交際相手	友人・知人	孫	その他	単身
女性(n=761)	229	142	26	24	6	34	4		5	257
男性(n=192)	81	56	5	2	2	11	2		2	89
答えたくない(n=2)										2
総計(n=761)	310	198	31	26	8	45	6	0	7	348



## ② 同居している子どもの数 (Q5)

子どもと同居していると回答した者について、同居している子どもの数を聞いたところ、1人が50%、2人が39%、3人が11%という回答になった。

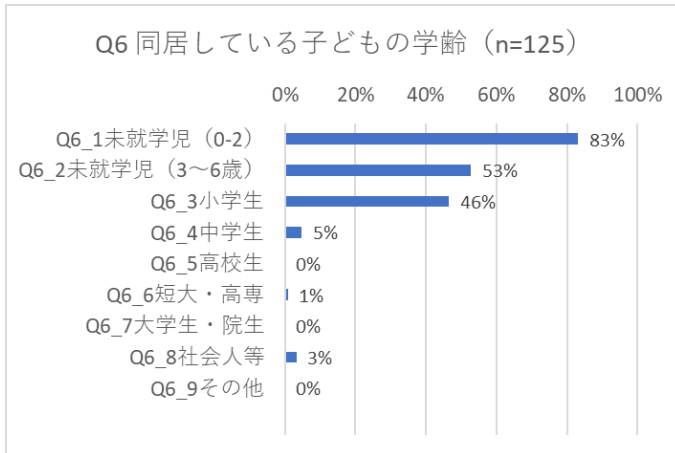
	1人	2人	3人
女性(n=140)	73	51	16
男性(n=56)	26	25	5
総計(n=196)	99	76	21



## ③ 子どもの学齢 (Q6)

同居している子どもの学齢についてたずねた Q6 では、「未就学児 (0-2 歳)」と答えた世帯が最も多く、全体の83%となった。回答は「未就学児 (3-6 歳)」、「小学生」までに集中しているが、これは今回のアンケートの対象者が20代~30代という比較的若い層だったためであろう。

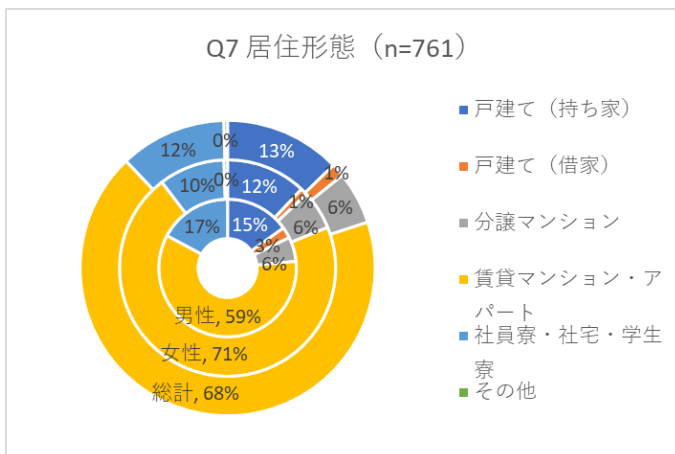
	未就学児	未就学児	小学生	中学生	高校生	短大・高専	大学生・院生	社会人等	その他
女性	67	51	40	5	0	1	0	3	0
男性	37	15	18	1	0	0	0	1	0
総計	104	66	58	6	0	1	0	4	0



#### (4) 住居形態 (Q7)

住居形態については全体の7割近くが「賃貸マンション・アパート」に居住している。女性では「賃貸マンション・アパート」という回答が、男性では「社員寮・社宅・学生寮」という回答が有意に多い ( $p < 0.05$ )。

	戸建て (持ち家)	戸建て (借家)	分譲マンション	賃貸マンション・アパート	社員寮・社宅・学生寮	その他
女性(n=567)	68	6	33	401	56	3
男性(n=192)	29	5	11	114	33	
答えたくない(n=2)				2		
総計(n=761)	97	11	44	517	89	3



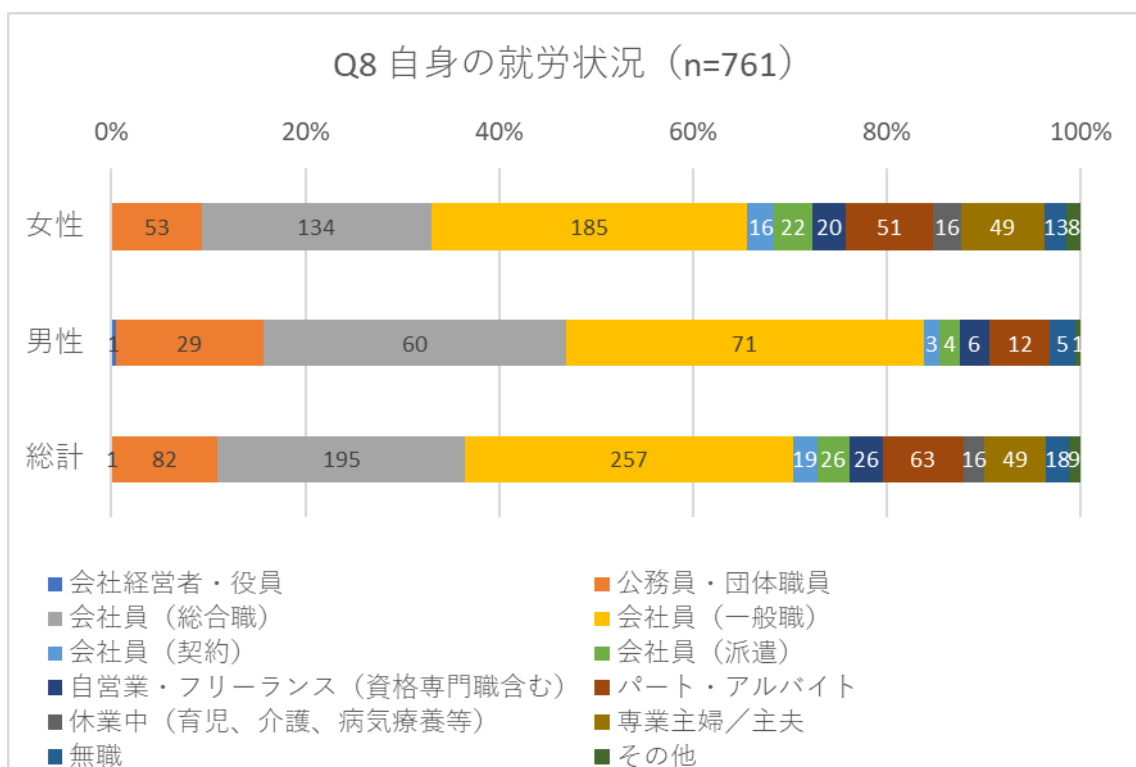
## (5) 自身と配偶者の就労状況 (Q8-9)

### ① 自身の就労状況 (Q8)

自身の就労状況については、全体の3分の1にあたる257名(34%)が「会社員(一般職)」と回答している。次いで、「会社員(総合職)」(195件、26%)、「公務員・団体職員」(82件、11%)となっている。

男女別に見ると、「公務員・団体職員」、「会社員(総合職)」の2つの職種について、女性よりも男性の就労割合の方が有意に多くなっている(p<0.05)。

	会社経営者・役員	公務員・団体職員	会社員(総合職)	会社員(一般職)	会社員(契約)	会社員(派遣)	自営業・フリーランス(資格専門職含む)	パート・アルバイト	休業中(育児、介護、病気療養等)	専業主婦/主夫	無職	その他
女性(n=567)		53	134	185	16	22	20	51	16	49	13	8
男性(n=192)	1	29	60	71	3	4	6	12			5	1
答えたくない(n=2)			1	1								
総計(n=761)	1	82	195	257	19	26	26	63	16	49	18	9

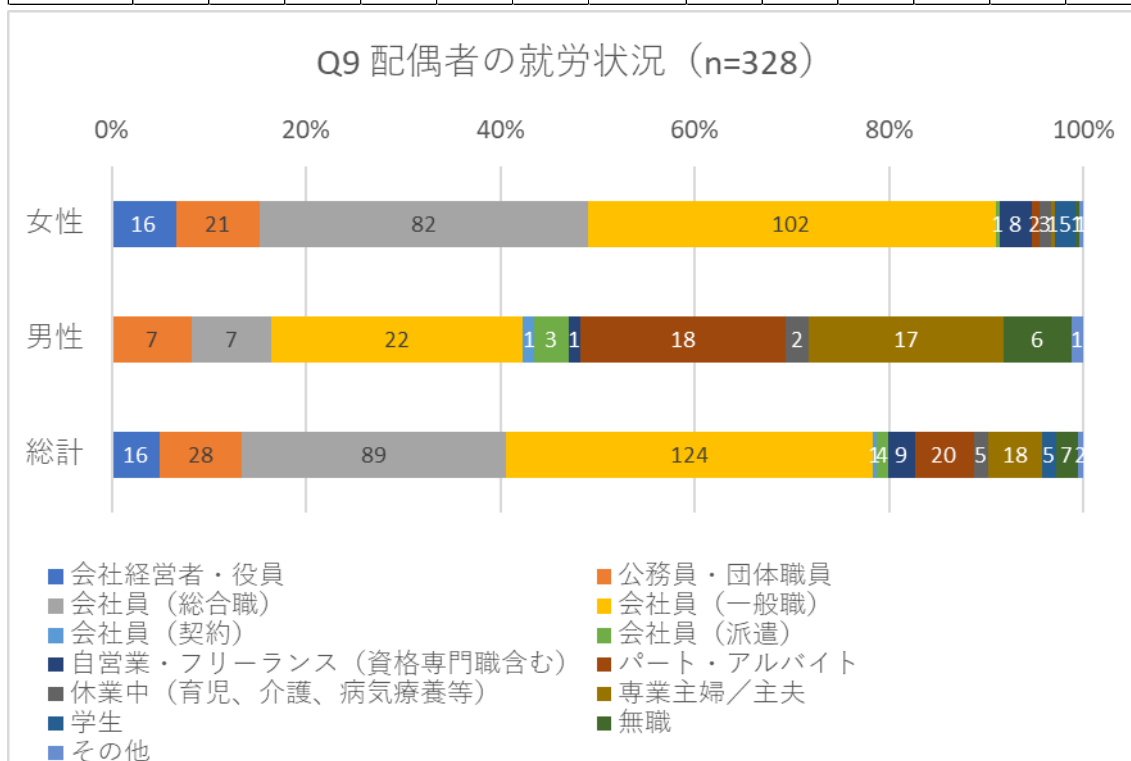


### ② 配偶者の就労状況 (Q9)

配偶者の就労状況については、女性の配偶者(主に男性)の場合9割以上が「経営者」から「会社員(一般職)」までに収まっている。

一方で、男性の配偶者（主に女性）については、同じ項目の割合が4割程度にとどまる。最も多いのは「会社員（一般職）」（22件、26％）で、次いで「パート・アルバイト」（18件、21％）、「専業主婦／主夫」（17件、20％）となっている。

	会社経営者・役員	公務員・団体職員	会社員（総合職）	会社員（一般職）	会社員（契約）	会社員（派遣）	自営業・フリーランス（資格専門職含む）	パート・アルバイト	休業中（育児、介護、病気療養等）	専業主婦／主夫	学生	無職	その他
女性(n=243)	16	21	82	102		1	8	2	3	1	5	1	1
男性(n=85)		7	7	22	1	3	1	18	2	17		6	1
総計(n=328)	16	28	89	124	1	4	9	20	5	18	5	7	2



## (6) 現在の勤務について (Q10-12)

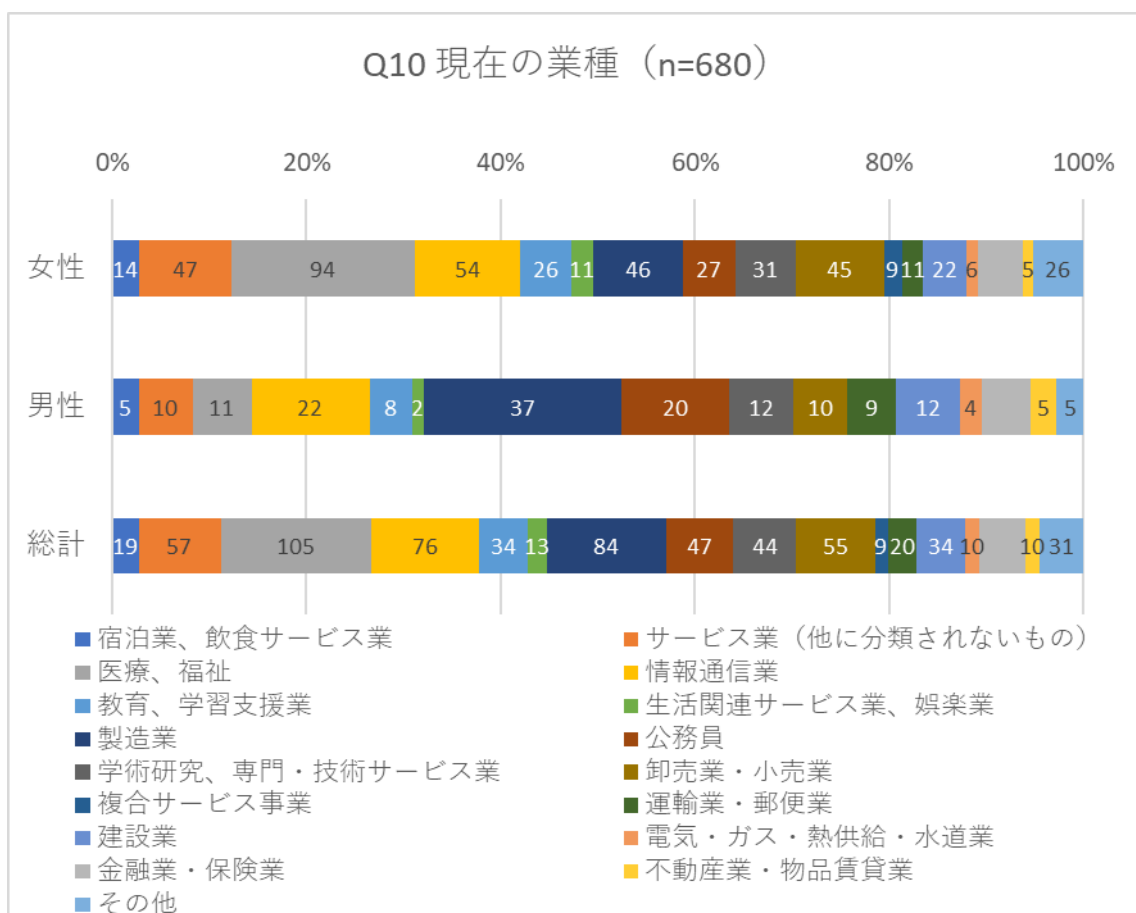
### ① 現在の業種 (Q10)

業種で最も多いのは「医療、福祉」（105件、15％）、次いで「製造業」（84件、12％）、「情報通信業」（76件、11％）などとなっている。

男女別で見ると、「医療、福祉」は女性が、「製造業」及び「公務員」については有意に男性が多い（ $p < 0.05$ ）。特に医療・福祉分野は女性が多くなっており、女性の雇用施策において重要となる。

また、「その他」の記述欄には「インターネット」「ウェブ」「IT」「SE」などの情報通信に含まれると思われる記述も複数存在した。リモートワークに対応しやすい情報通信業についても、今後の熊本県における雇用環境整備を考えるうえで重要となるだろう。

	宿泊業、飲食サービス業	サービス業（他に分類されないもの）	医療、福祉	情報通信業	教育、学習支援業	生活関連サービス業、娯楽業	製造業	公務員	学術研究、専門・技術サービス業
女性(n=497)	14	47	94	54	26	11	46	27	31
男性(n=181)	5	10	11	22	8	2	37	20	12
答えたくない(n=2)							1		1
総計(n=680)									
総計	19	57	105	76	34	13	84	47	44
	卸売業・小売業	複合サービス事業	運輸業・郵便業	建設業	電気・ガス・熱供給・水道業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	鉱業、採石業、砂利採取業	その他
女性(n=497)	45	9	11	22	6	23	5	26	70
男性(n=181)	10		9	12	4	9	5	5	11
答えたくない(n=2)									
総計(n=680)									
総計	55	9	20	34	10	32	10	31	81

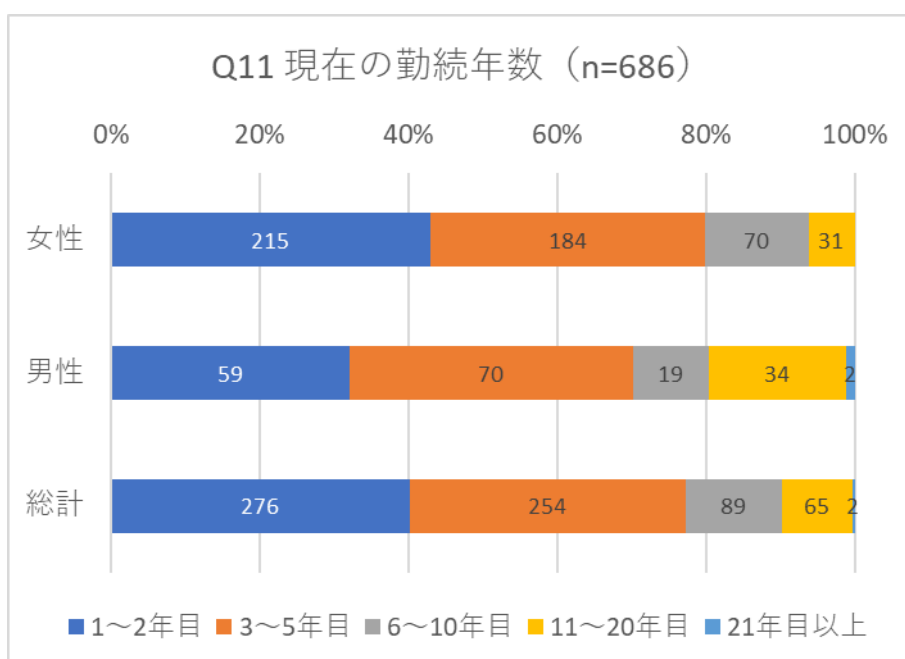


## ② 現在の勤務年数 (Q11)

20代～30代を対象としたアンケートであることもあり、勤務年数は「1～2年目」(276件、40%)が最も多く、次いで「3～5年目」(254件、37%)となっている。

男女で比較してみると、勤務年数が短い「1～2年目」という回答については女性で有意に多くなる一方、「11～20年目」という長い勤続年数については男性が有意に多くなっている ( $p < 0.05$ )。転職回数等が分からないため確言はできないが、女性の方が勤務年数が短い傾向にあるといえるのではないかと。

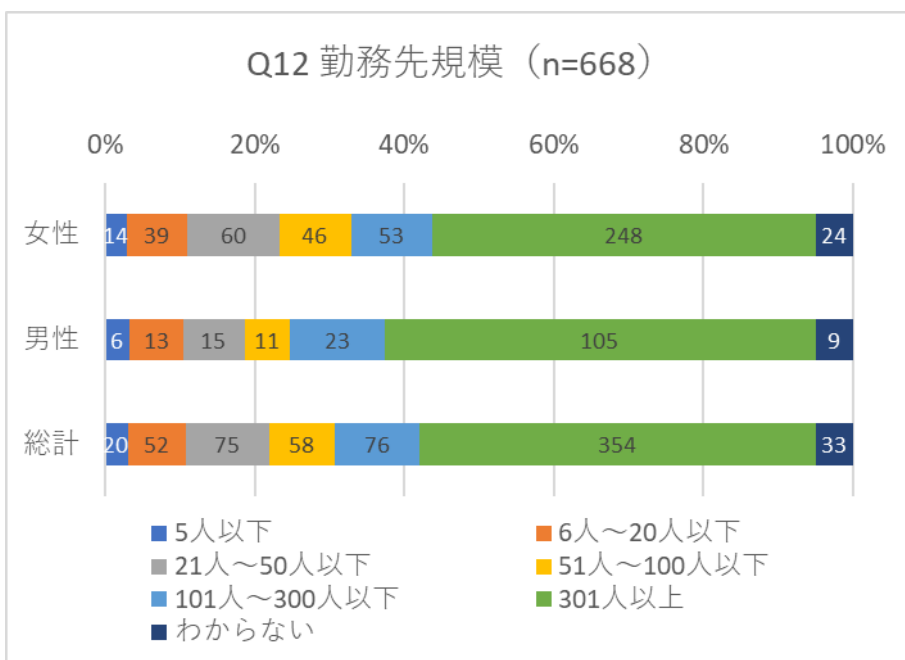
	1～2年目	3～5年目	6～10年目	11～20年目	21年目以上
女性(n=500)	215	184	70	31	
男性(n=184)	59	70	19	34	2
答えたくない(n=2)	2				
総計(n=686)	276	254	89	65	2



## ③ 勤務先の規模 (Q12)

アンケートに回答した者の半数以上 (354件、53%) が従業員 300人以上の大企業で勤務している。男女別にみると、大企業に勤める者の割合が男性の方が大きいように見えるが、統計的には男女間に有意差は無い。

	5人以下	6人～20人 以下	21人～50 人以下	51人～100 人以下	101人～ 300人以下	301人以上	わからない
女性(n=484)	14	39	60	46	53	248	24
男性(n=182)	6	13	15	11	23	105	9
答えたくない(n=2)				1		1	
総計(n=668)	20	52	75	58	76	354	33



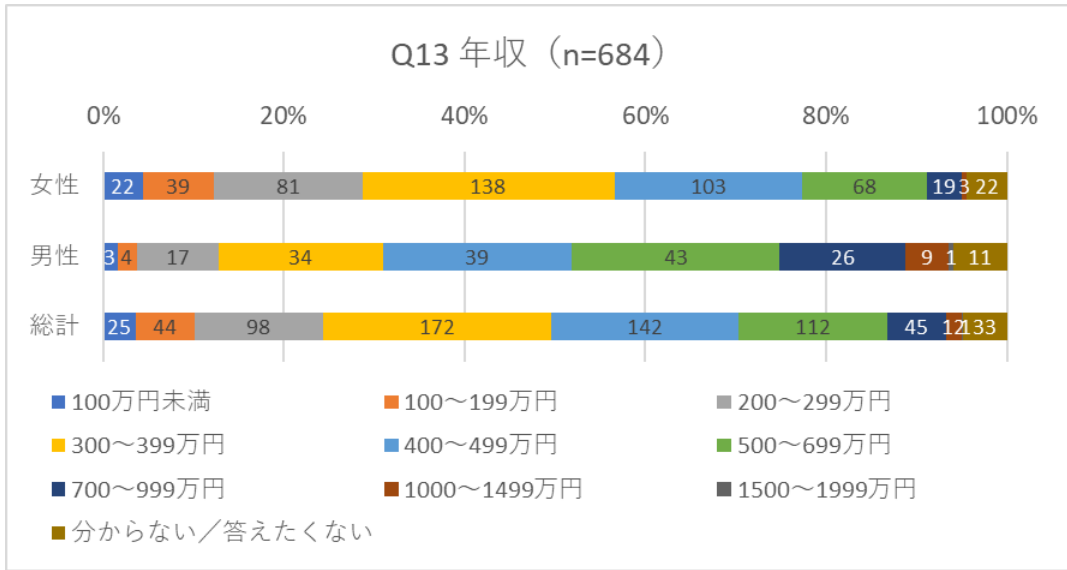
### (7) 現在の年収 (Q13)

現在の年収については、300万円台（300-399万）までで全体の約半分となっている（339件、49%）。

年収については男女差が大きい。男性では年収300万円台までの者の割合が31%であるのに対し、女性のそれは56%と半数を超えている。400万円台については男女とも同程度だが、それを超える額の年収では男性の方が上回っている。大半の階層で統計的に有意な男女差（ $p < 0.05$ ）があり、収入面での男女間格差は明白である。

	100万円 未満	100～ 199万円	200～ 299万円	300～ 399万円	400～ 499万円	500～ 699万円	700～ 999万円	1000～ 1499万 円	1500～ 1999万 円	分から ない/ 答えた くない	総計
女性(n=495)	22	39	81	138	103	68	19	3		22	495
男性(n=187)	3	4	17	34	39	43	26	9	1	11	187
答えたくない(n=2)			1			1					2
総計(n=684)	25	44	98	172	142	112	45	12	1	33	684

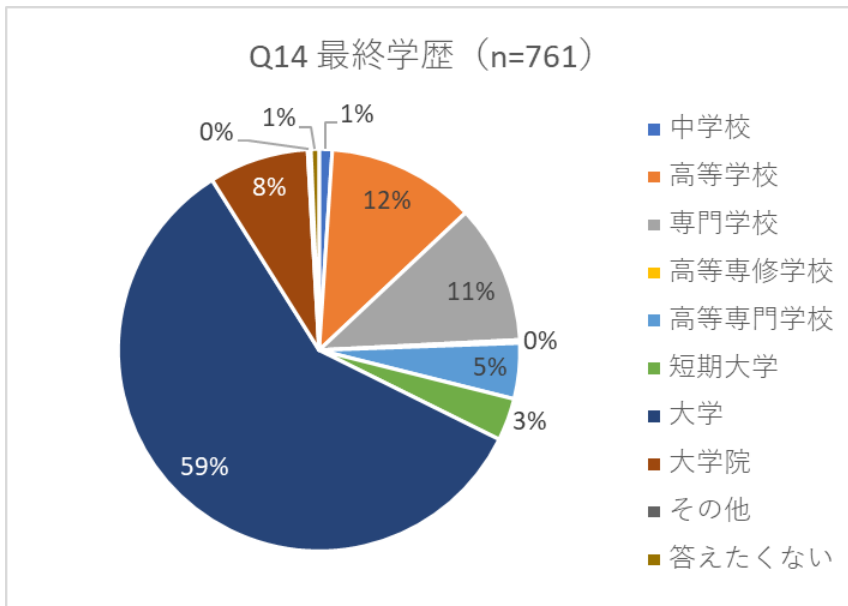




**(8) 最終学歴 (Q14)**

最終学歴については6割が大卒(447件、59%)となっている。学歴については大卒以上とそれ以外で男女に有意差は無い。

行ラベル	中学校	高等学校	専門学校	高等専修学校	高等専門学校	短期大学	大学	大学院	その他	答えたくない	総計	
女性(n=567)		4	61	72	2	22	23	341	37		5	567
男性(n=192)		4	30	12		12	3	105	24	2		192
答えたくない(n=2)				1				1				2
総計(n=761)		8	91	85	2	34	26	447	61	2	5	761

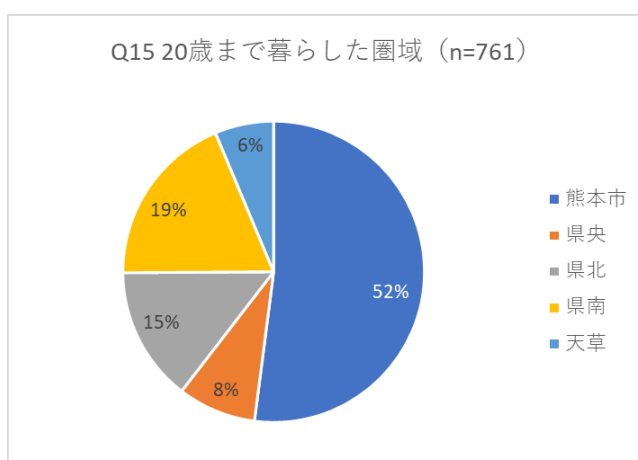


## (9) 居住地 (Q15-17)

### ① 20歳までに最も長く暮らした圏域 (Q15)

最も長く暮らした数が多い圏域については、半数以上が人口割合の多い「熊本市」(396件、52%)と回答している。次いで、「県北」(143件、19%)、「県南」(110件、15%)と続く。

	熊本市	県央	県南	県北	天草	総計
女性(n=567)	291	43	85	113	35	567
男性(n=192)	104	21	25	29	13	192
答えたくない(n=2)	1			1		2
総計(n=761)	396	64	110	143	48	761

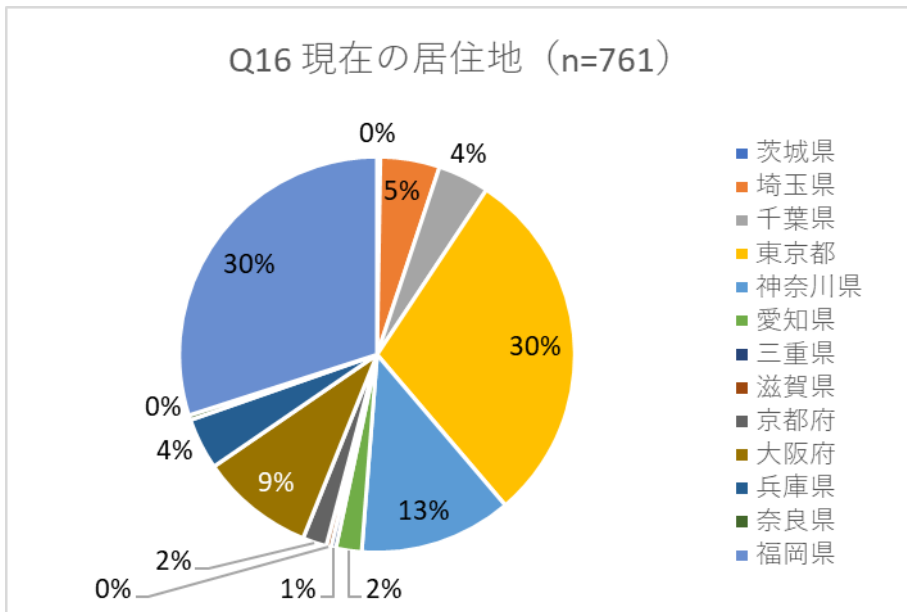


### ② 現在の居住地 (Q16)

現在の居住地については、「福岡県」(228件、30%)、「東京都」(224件、30%)、「神奈川県」(95件、13%)、「大阪府」(71件、9%)などとなっている。居住地の割合については男女に大きな差は見られない。

熊本から最も近い大都市である福岡市を有する「福岡県」の在住者が、人口比で考えても大きな割合を占めている。これら福岡に流出した者に対してどのようなアプローチをするかが大きな課題である。

	茨城県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	福岡県	総計
女性(n=567)	2	23	28	161	71	9	1	3	10	59	25	2	173	567
男性(n=192)		14	4	62	24	7	2		5	12	7	1	54	192
答えたくない(n=2)				1									1	2
総計(n=761)	2	37	32	224	95	16	3	3	15	71	32	3	228	761

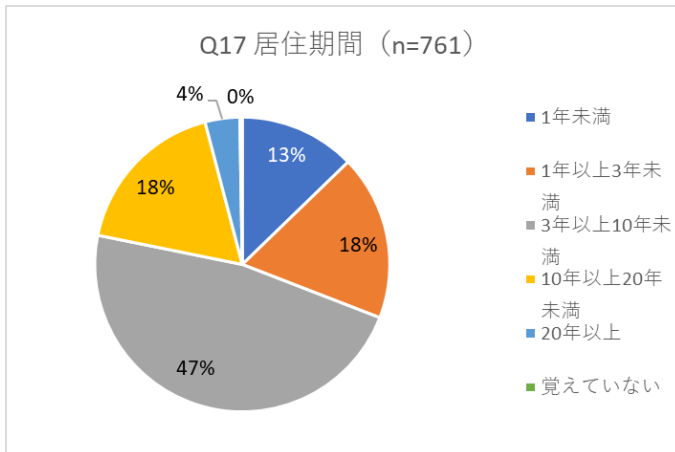


### ③ 居住期間 (Q17)

現在の居住地での居住期間については、半数近くが「3年以上10年未満」(360件、47%)となっている。また、10年以上住んでいる者も大きな割合を占めている(164件、22%)。

居住期間が長期にわたる者については、既に生活基盤が確立しており、熊本への移住・定住促進の施策が効果を発揮しにくいと考えられる。居住期間の短い「1年未満」や「1年以上3年未満」といった者も一定程度いるため(235件、31%)、このような者に対して熊本での仕事や子育てなどの情報をタイムリーに提供していくことが重要となろう。

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	覚えていない
女性(n=567)	74	104	271	99	19	
男性(n=192)	23	34	87	36	10	2
答えたくない(n=2)			2			
総計(n=761)	97	138	360	135	29	2



## (10) 居住地選択の理由 (Q18-20)

### ① 現居住地を選んだ理由 (Q18)

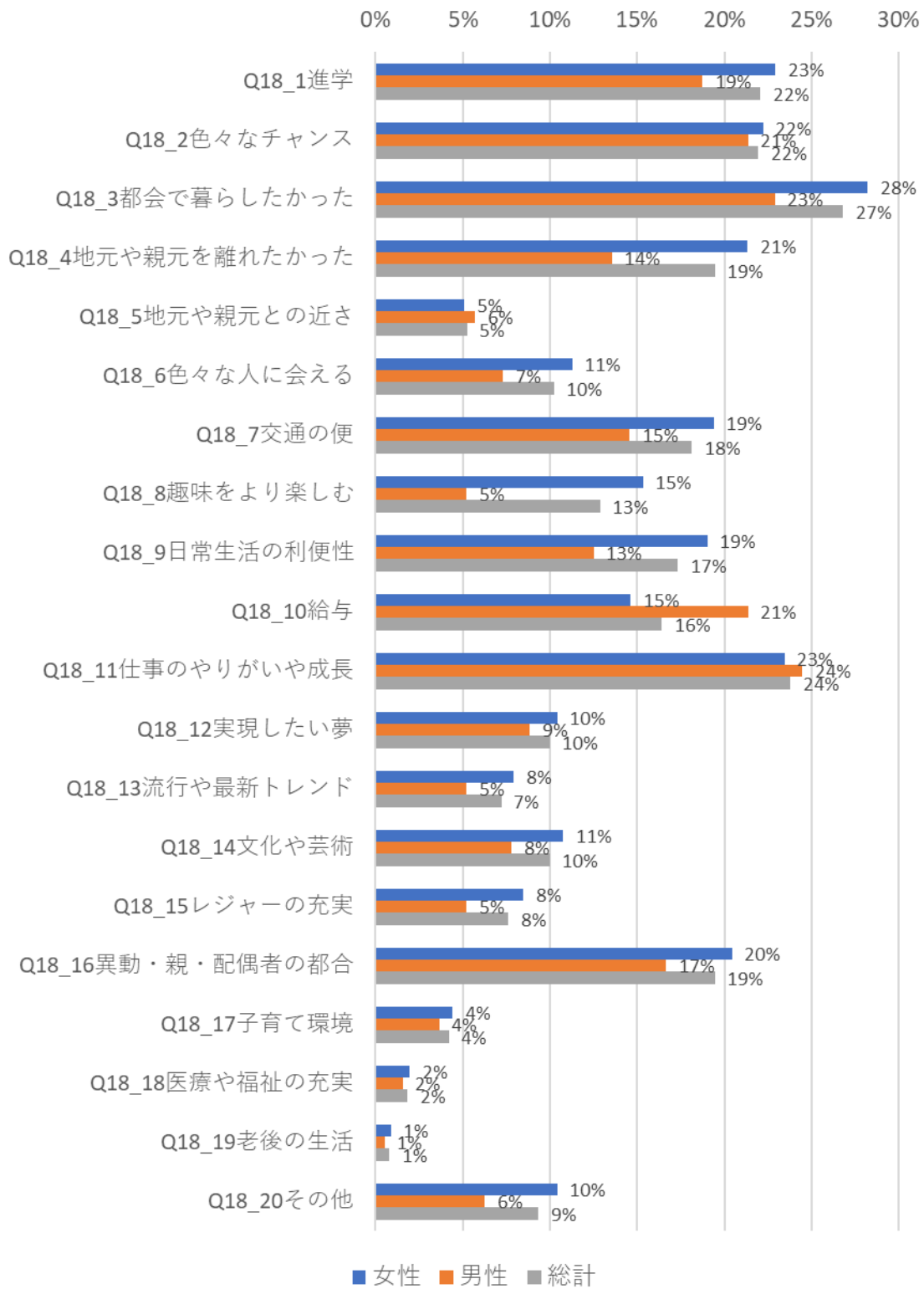
現在の県外の居住地を選んだ理由としては、「都会で暮らしたかったから」(204件、27%)、「やりがいや成長のある仕事に就きたいと思ったから」(181件、24%)、「進学したい大学や専門学校のため」(168件、22%)、「色々なチャンスがあると思ったから」(167件、22%)などが多くなっている。

男女差を見ると、「地元や親元を離れたかったから」、「趣味をより楽しむため」、「日常生活が便利そうだったから」の項目については、性の割合が男性を、「給与の高い仕事に就きたいと思ったから」については男性が女性を、それぞれ有意に上回る結果となっている ( $p < 0.05$ )。

「その他」の理由記載欄については、「結婚」や「交際相手」などの理由や、「転勤のため」、「選択肢がなかった」などの記述が見られた。

行ラベル	Q18_1進学	Q18_2色々なチャンス	Q18_3都会で暮らしたかった	Q18_4地元や親元を離れたかった	Q18_5地元や親元との近さ	Q18_6色々な人に会える	Q18_7交通の便	Q18_8趣味をより楽しむ	Q18_9日常生活の利便性	Q18_10給与
女性(n=567)	130	126	160	121	29	64	110	87	108	83
男性(n=192)	36	41	44	26	11	14	28	10	24	41
答えたくない(n=2)	2			1				1		1
総計(n=761)	168	167	204	148	40	78	138	98	132	125
行ラベル	Q18_11仕事のやりがいや成長	Q18_12実現したい夢	Q18_13流行や最新トレンド	Q18_14文化や芸術	Q18_15レジャーの充実	Q18_16異動・親・配偶者の都合	Q18_17子育て環境	Q18_18医療や福祉の充実	Q18_19老後の生活	Q18_20その他
女性(n=567)	133	59	45	61	48	116	25	11	5	59
男性(n=192)	47	17	10	15	10	32	7	3	1	12
答えたくない(n=2)	1									
総計(n=761)	181	76	55	76	58	148	32	14	6	71

### Q18 現居住地を選んだ理由 (n=761)



② 他県に移住した理由 (Q19)

熊本県に残らず他県を選択した背景については、「希望する職種の仕事が見つからないこと」(254件、33%)が最も多く、次いで「賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと」(204件、27%)、「希望することが学べる進学先がないこと」(157件、21%)、「人間関係やコミュニティに閉塞感があること」(153件、20%)が多くなっている。

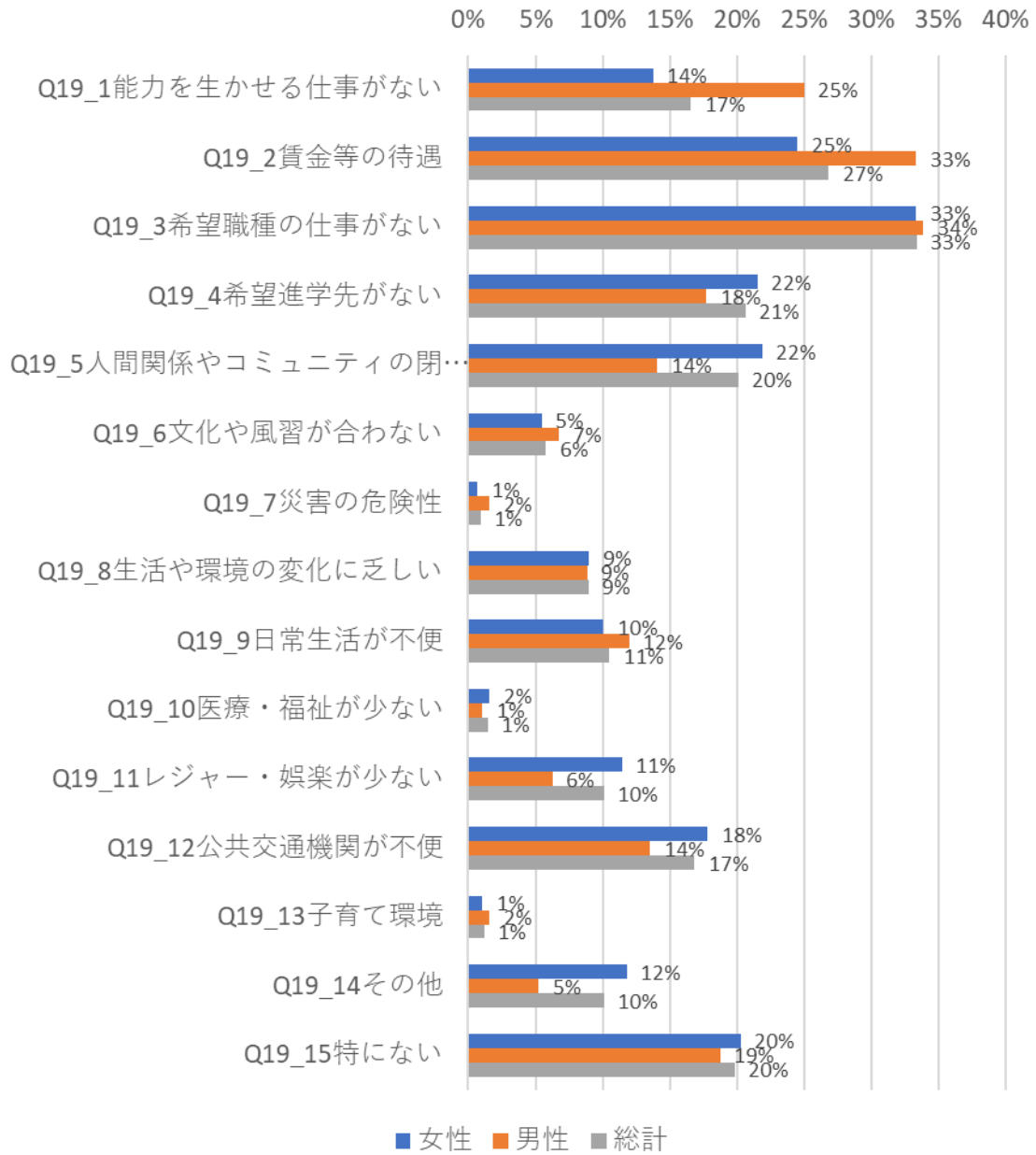
この結果について、国土交通省が令和2年に行った「市民向け国際アンケート調査」(以下、「R2国交省調査」という。)と比較すると、R2国交省調査における回答では「希望する職種の仕事が見つからないこと」の回答は約26%、「賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと」は約20%、「希望することが学べる進学先がないこと」は約15%となっている。いずれの数値についても、熊本県の数値が国交省調査の数値を上回っており、熊本県出身者は、全国平均と比較して就業、進学を背景に移住した割合が高い。

男女別では、「自分の能力を生かせる仕事が見つからないこと」、「賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと」の2つについて男性が女性を、「人間関係やコミュニティに閉塞感があること」、「レジャー・娯楽施設が少ないこと」の2つで女性が男性を有意に上回っている。男性の場合は仕事、女性の場合はプライベートの部分が移住の背景となっていることが分かる。

「その他」の理由記載欄については、「結婚」、「就職」、「転勤」などの理由のほか、少数ながら「男尊女卑の風潮を感じる」、「親元を離れたかった」などの記述もあった。

	Q19_1能力を生かせる仕事がない	Q19_2賃金等の待遇	Q19_3希望職種の仕事がない	Q19_4希望進学先がない	Q19_5人間関係やコミュニティの閉塞感	Q19_6文化や風習が合わない	Q19_7災害の危険性	Q19_8生活や環境の変化に乏しい
女性(n=567)	78	139	189	122	124	31	4	51
男性(n=192)	48	64	65	34	27	13	3	17
答えたくない(n=2)	0	1	0	1	2	0	0	0
総計(n=761)	126	204	254	157	153	44	7	68
	Q19_9日常生活が不便	Q19_10医療・福祉が少ない	Q19_11レジャー・娯楽が少ない	Q19_12公共交通機関が不便	Q19_13子育て環境	Q19_14その他	Q19_15特にない	
女性(n=567)	57	9	65	101	6	67	115	
男性(n=192)	23	2	12	26	3	10	36	
答えたくない(n=2)	0	0	0	1	0	0	0	
総計(n=761)	80	11	77	128	9	77	151	

### Q19 他県に移住した理由 (n=761)



③ 居住地を選択する際に重視すること (Q20)

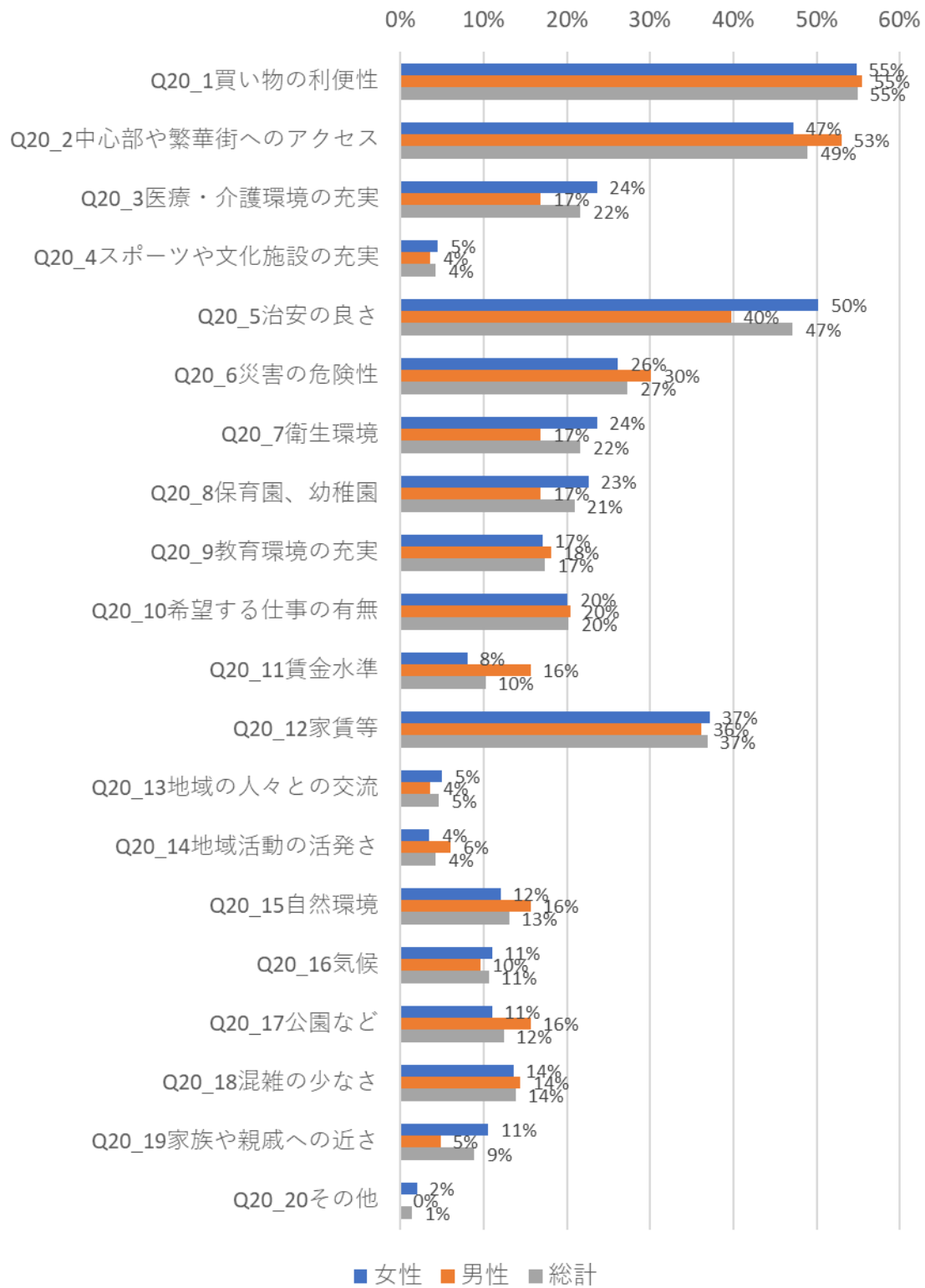
居住地を選択する際に重視する点については、「食料品や日用品の買い物の便利さ」(155件、55%)、「都市の中心部や繁華街へのアクセスの良さ」(138件、49%)、「治安の良さ」(133件、47%)、「家賃等の住まいに関する費用の安さ」(104件、37%)などが高くなっている。買い物等の利便性や中心部へのアクセスの良さについては立地に左右されるため、大都市圏と同等の条件を整備することは難しい。一方で治安の良さや住まいの費用の安さについては熊本県においても大都市圏と対抗できる環境にあると考えられるため、これらの情報を県外者に対していかに発信していくかを考える必要があるだろう。

なお、この項目については、男女間の回答で統計的に有意な差は無かった。

	Q20_1買い物の利便性	Q20_2中心部や繁華街へのアクセス	Q20_3医療・介護環境の充実	Q20_4スポーツや文化施設の充実	Q20_5治安の良さ	Q20_6災害の危険性	Q20_7衛生環境
女性(n=199)	109	94	47	9	100	52	47
男性(n=83)	46	44	14	3	33	25	14
総計(n=282)	155	138	61	12	133	77	61
	Q20_8保育園、幼稚園	Q20_9教育環境の充実	Q20_10希望する仕事の有無	Q20_11賃金水準	Q20_12家賃等	Q20_13地域の人々との交流	Q20_14地域活動の活発さ
女性(n=199)	45	34	40	16	74	10	7
男性(n=83)	14	15	17	13	30	3	5
総計(n=282)	59	49	57	29	104	13	12
	Q20_15自然環境	Q20_16気候	Q20_17公園など	Q20_18混雑の少なさ	Q20_19家族や親戚への近さ	Q20_20その他	
女性(n=199)	24	22	22	27	21	4	
男性(n=83)	13	8	13	12	4	0	
総計(n=282)	37	30	35	39	25	4	



## Q20 居住地を選択する際重視すること (n=282)

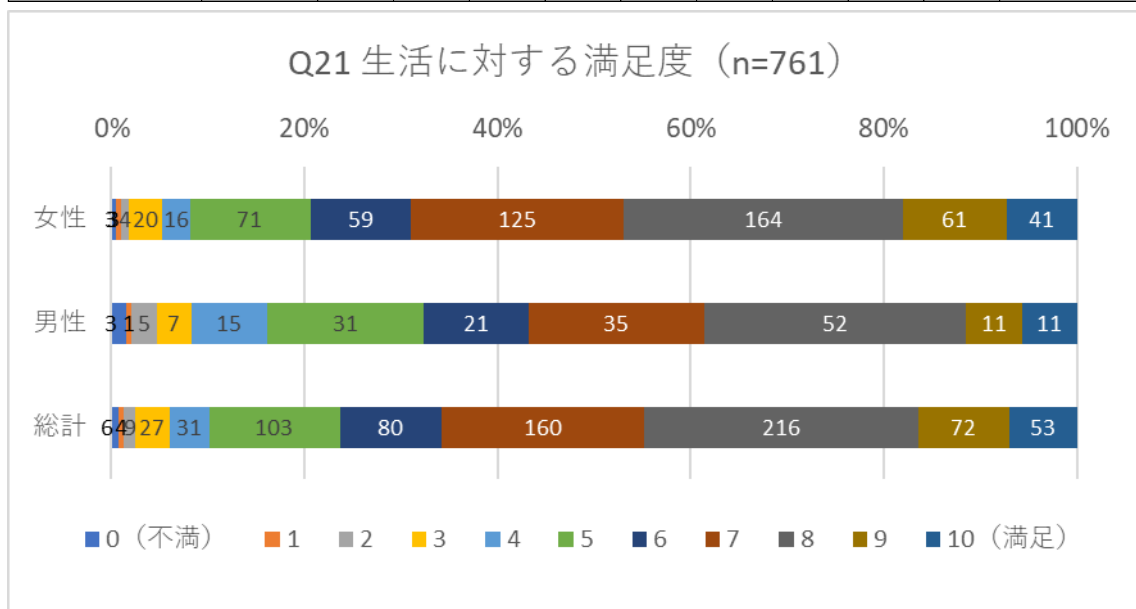


## (11) 生活・仕事の満足度 (Q20-21)

### ① 現在の生活に関する満足度 (Q21)

現在の生活に対する満足度については、満足度 8 (216 件、28%) が最も多くなった。全体的に男性よりも女性の方が生活に対する満足度が高い傾向にある。統計的にも、女性の満足度の順序尺度の平均値は  $7.04 \pm 1.85$  であり、男性の満足度の  $6.47 \pm 2.10$  と比べ有意な差が見られる (マンホイットニーの U 検定、 $p=0.0012$ )。

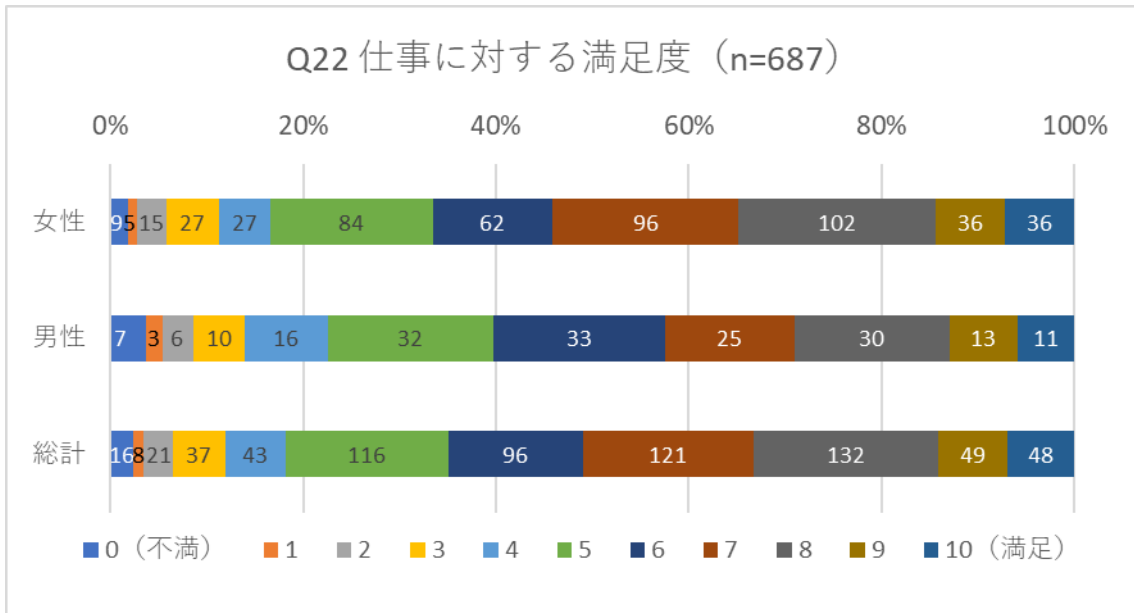
	0 (不満)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (満足)
女性(n=567)	3	3	4	20	16	71	59	125	164	61	41
男性(n=192)	3	1	5	7	15	31	21	35	52	11	11
答えたくない(n=2)						1					1
総計(n=761)	6	4	9	27	31	103	80	160	216	72	53



### ② 現在の仕事に関する満足度 (Q22)

現在の仕事に対する満足度についても、満足度 8 (132 件、19%) が最も多くなったが、他の尺度との相違は生活に対する満足度に比べれば少なく、満足度 7 (121 件、18%)、満足度 5 (116 件、17%) との差は小さい。仕事に対する満足度の男女差についても、女性の満足度の平均値は  $6.39 \pm 2.22$  であり、男性の満足度の平均値である  $5.96 \pm 2.38$  と比べて有意に高くなっている (マンホイットニーの U 検定、 $p=0.033$ )。

	0 (不満)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (満足)
女性(n=499)	9	5	15	27	27	84	62	96	102	36	36
男性(n=186)	7	3	6	10	16	32	33	25	30	13	11
答えたくない(n=2)							1				1
総計(n=687)	16	8	21	37	43	116	96	121	132	49	48



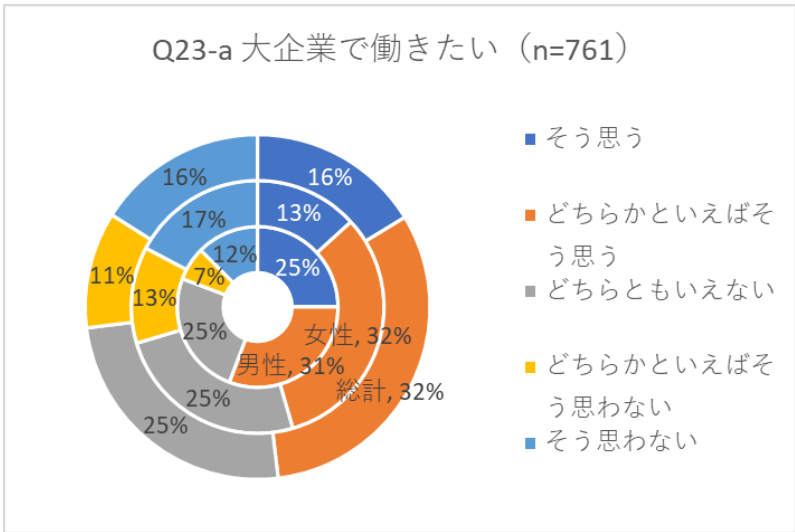
## (12) 仕事観について (Q23)

「大企業で働きたい」、「中小企業で働きたい」、「ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい」、「独立・起業したい」、「出身地で働きたい」という5つの項目について、そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらともいえない・どちらかといえばそう思わない・そう思わないの5件法でたずねた。

### ① 大企業で働きたい (Q23-a)

大企業で働くことについては、同意（そう思う、どちらかといえばそう思う）が半数近い48%、不同意（そう思わない、どちらかといえばそう思わない）が27%となった。男女別では、男性の方が同意している割合が多い ( $p < 0.05$ )。

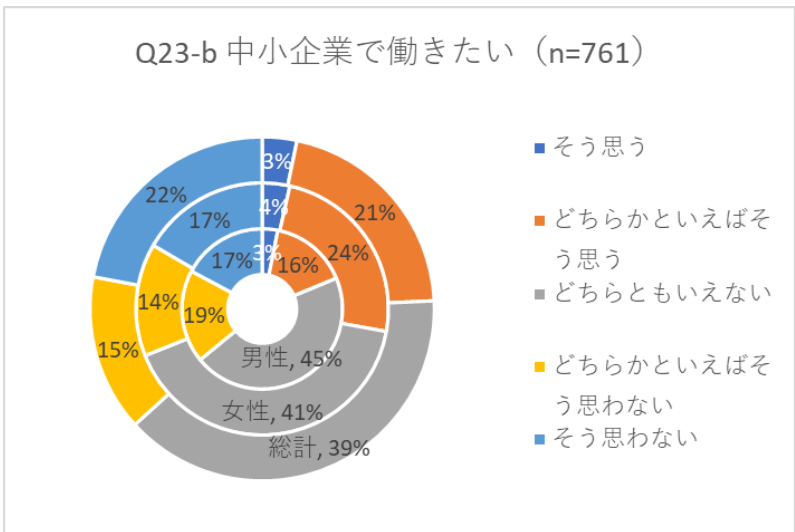
	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=567)	75	183	141	70	98
男性(n=192)	48	59	48	13	24
答えたくない(n=2)	1		1		
総計(n=761)	124	242	190	83	122



② 中小企業で働きたい (Q23-b)

中小企業で働くことについては、同意が25%、不同意が33%に減少し、4割以上が「どちらともいえない」と回答している。男女別では、女性の方が同意する割合が多くなっている。(ただし統計的に有意な差があるとまではいえない。)

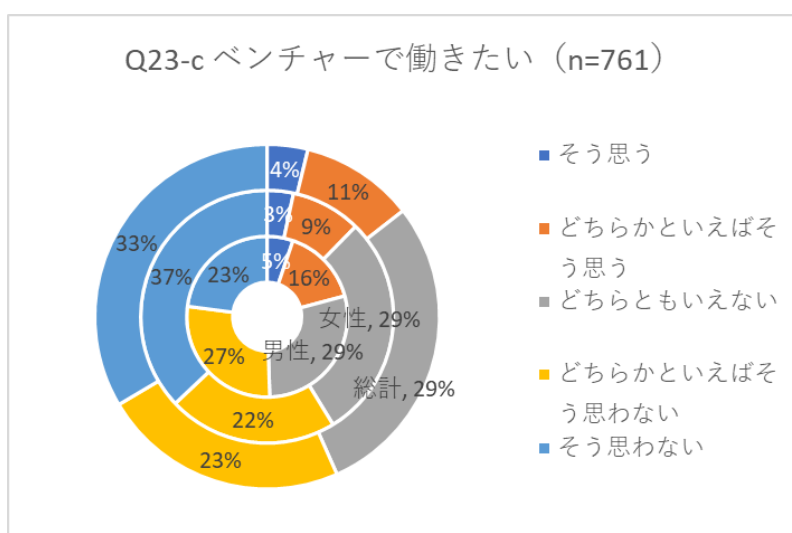
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=567)	20	138	233	82	94
男性(n=192)	6	30	87	36	33
答えたくない(n=2)			1		1
総計(n=761)	26	168	321	118	128



③ ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい (Q23-c)

ベンチャー・スタートアップ企業で働くことについては、同意が15%まで減少する一方、不同意が56%と半数を超えた。男女別で見ると、男性の方がベンチャーやスタートアップ企業における就労に同意する割合が多くなっている ( $p < 0.05$ )。

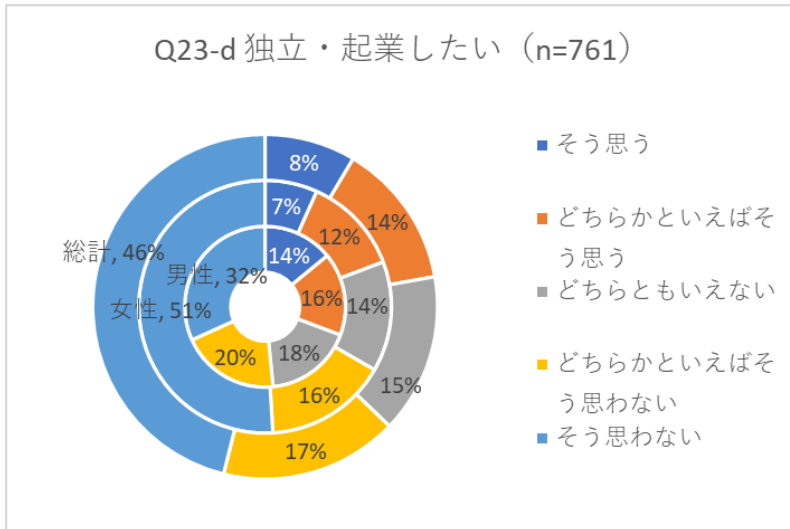
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=567)	19	51	164	123	210
男性(n=192)	10	30	55	53	44
答えたくない(n=2)			1		1
総計(n=761)	29	81	220	176	255



④ 独立・起業したい (Q23-d)

独立・起業については、同意が22%、不同意が63%であった。不同意の割合はこれまでで最も大きくなっている。男女別に見ると、男性の方が独立・起業に関する同意の割合が多く不同意が少ない ( $p < 0.05$ )。

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=567)	38	71	80	89	289
男性(n=192)	27	32	34	38	61
答えたくない(n=2)			1		1
総計(n=761)	65	104	114	127	351



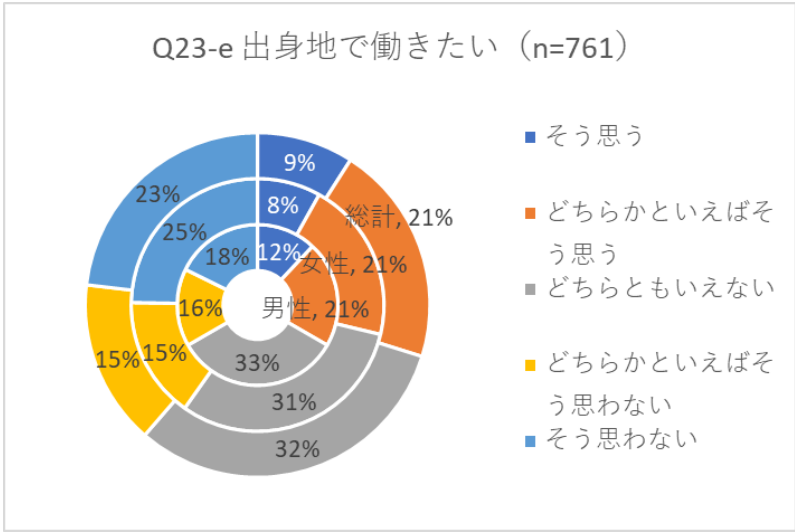
⑤ 出身地で働きたい (Q23-e)

出身地 (熊本県) で働くことについては、同意が 30%、不同意が 38%となった。この設問については、これまでの設問と質が異なり、働きたい企業の規模ではなく働きたい場所 (出身地) に関する質問であり、Q34 でたずねている「熊本に戻る意思」と関連するものとなっている。

この結果については、R2 国交省調査における類似の設問の調査結果である「東京圏外出身で東京圏在住者」が「地元で働きたい」と考えている割合である 19% (そう思う 4%、どちらかといえばそう思う 15%) よりも高くなっており、熊本県出身者は全国平均に比べて「地元で働きたい」という仕事観を持つ割合は高いことが分かる。

男女別でみると、女性よりも男性の方がやや出身地で働きたいという希望が多くなっている ( $p < 0.05$ )。

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=567)	46	117	176	88	140
男性(n=192)	23	41	64	30	34
答えたくない(n=2)					2
総計(n=761)	69	158	240	118	176



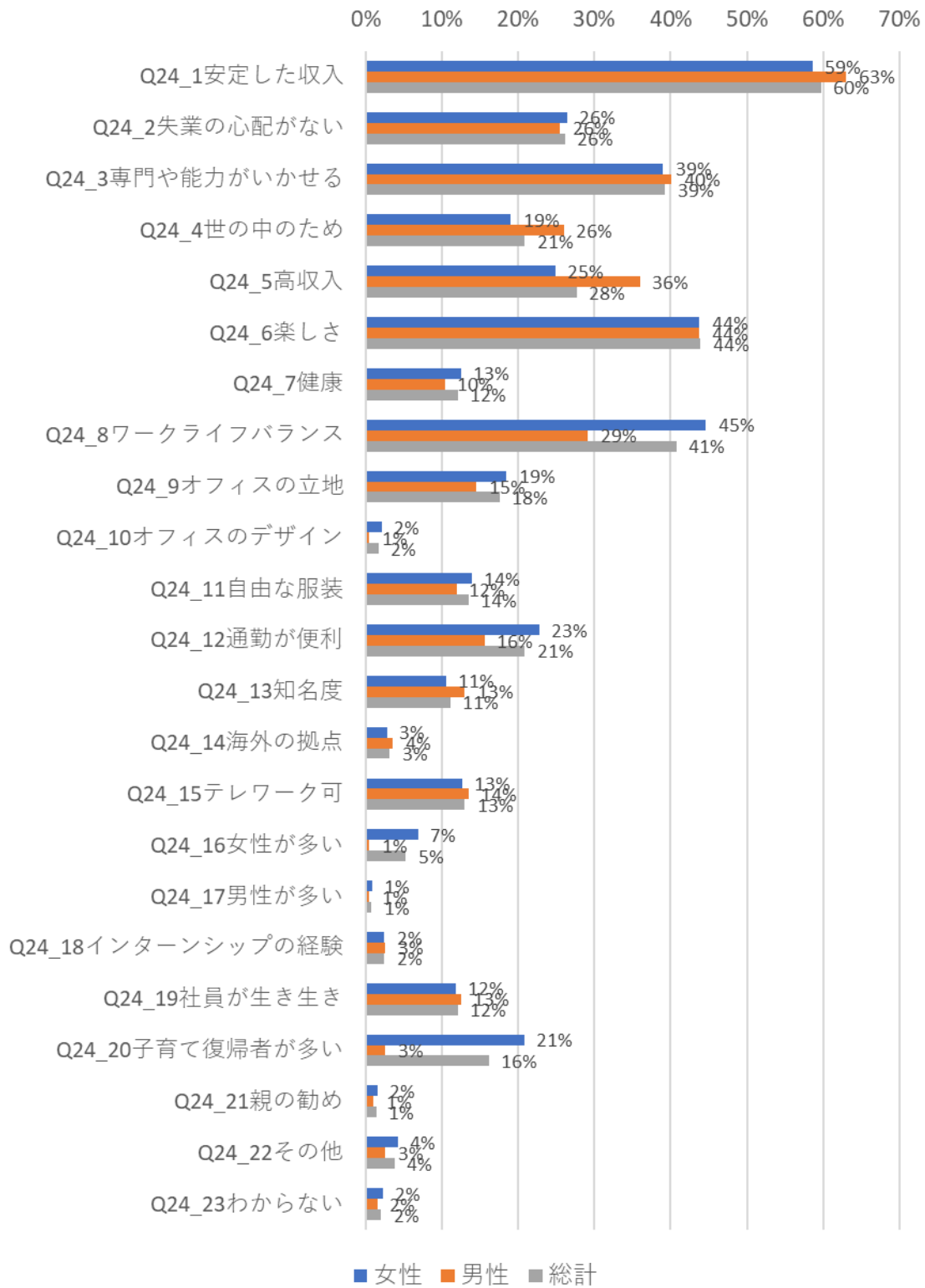
(14) 仕事を選ぶに当たって重視したもの (Q24)

仕事を選ぶうえで重視した項目として、「収入が安定している」(454件、60%)が最も高くなっている。次いで、「自分にとって楽しい」(334件、44%)、「私生活とバランスがとれる」(310件、41%)、「自分の専門知識や能力がいかせる」(299件、39%)などが高い。男女別にみると、男性は「高い収入が得られる」、女性は「私生活とバランスがとれる」、「通勤が便利」、「女性が多い」、「子育てから復帰して働いている人が多い」の各項目が統計的に有意に多くなっている。女性の場合、安定した収入は重視するものの、ワークライフバランスや子育てなどの生活面を高収入よりも重視していることがうかがえる。

その他の記述欄では、「福利厚生」や「研修の充実」のほか、「キャリアアップのため」、「職場の雰囲気」、「LGBTフレンドリーな企業」などの意見もあった。

	Q24_1安定した収入	Q24_2失業の心配がない	Q24_3専門や能力がいかせる	Q24_4世の中のため	Q24_5高収入	Q24_6楽しさ	Q24_7健康	Q24_8ワークライフバランス	Q24_9オフィスの立地	Q24_10オフィスのデザイン	Q24_11自由な服装	Q24_12通勤が便利
女性(n=567)	332	150	221	108	141	248	71	253	105	12	79	129
男性(n=192)	121	49	77	50	69	84	20	56	28	1	23	30
答えたくない(n=2)	1		1	1	1	2	1	1	1		1	
総計(n=761)	454	199	299	159	211	334	92	310	134	13	103	159
	Q24_13知名度	Q24_14海外の拠点	Q24_15テレワーク可	Q24_16女性が多い	Q24_17男性が多い	Q24_18インターンシップの経験	Q24_19社員が生き生き	Q24_20子育て復帰が多い	Q24_21親の勧め	Q24_22その他	Q24_23わからない	
女性(n=567)	60	16	72	39	5	14	67	118	9	24	13	
男性(n=192)	25	7	26	1	1	5	24	5	2	5	3	
答えたくない(n=2)		1	1				1					
総計(n=761)	85	24	99	40	6	19	92	123	11	29	16	

### Q24 仕事を選ぶに当たって重視したもの (n=761)





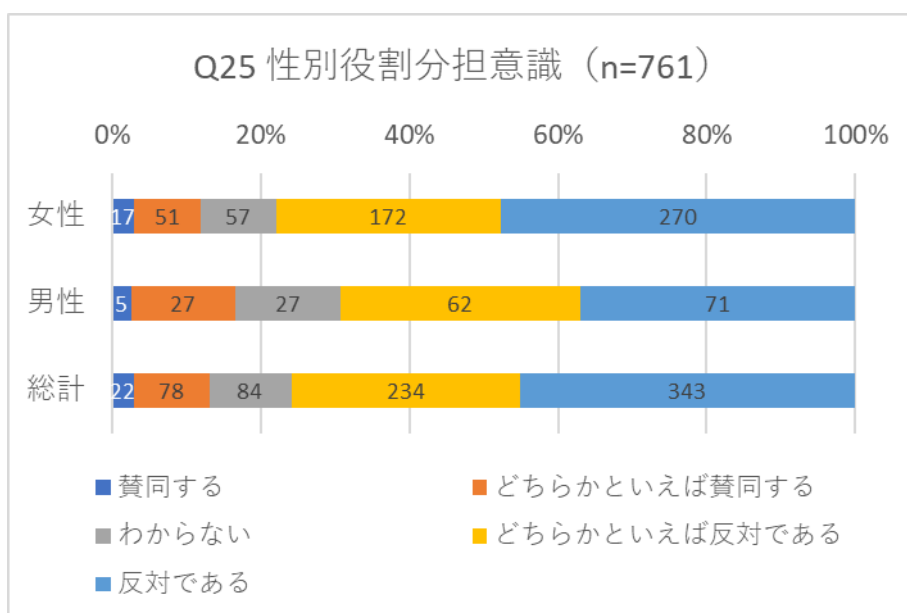
## (15) アンコンシャスバイアスについて (Q25-27)

### ① 性別役割分担意識に賛成するか (Q25)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった性別役割分担意識について賛同するかという問いに対し、「反対」(343件、45%)と「どちらかといえば反対」(234件、31%)を合わせた否定派は4分の3以上を占め、「賛同」(22件、3%)と「どちらかといえば賛同」(78件、10%)を合わせた賛同派を大きく上回った。

なお、男女別で賛同派と否定派に差が存在するかを比較したが、統計的に有意な差は見当たらなかった。

	賛同する	どちらかといえ ば賛同する	わからない	どちらかといえ ば反対である	反対である
女性(n=567)	17	51	57	172	270
男性(n=192)	5	27	27	62	71
答えたくない(n=2)					2
総計(n=761)	22	78	84	234	343



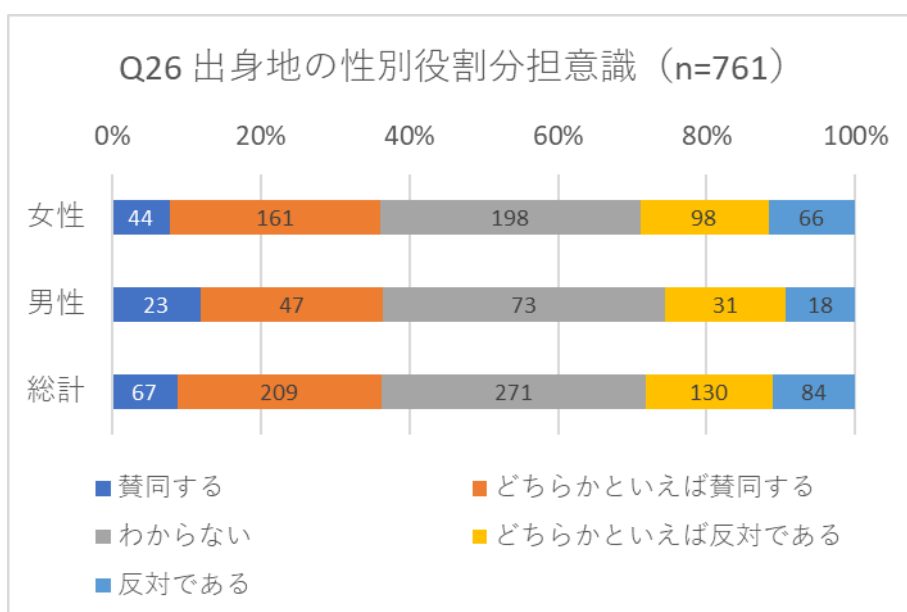
### ② 出身地の人たちは性別役割分担意識に賛成するか (Q26)

出身地の人たちが「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった性別役割分担意識について賛同するかという問いに対し、「反対」(84件、11%)と「どちらかといえ  
ば反対」(130件、17%)を合わせた否定派は合計28%とかなり減少し、その分「賛  
同」(67件、9%)と「どちらかといえ  
ば賛同」(209件、27%)を合わせた賛同派が  
36%に増えている。多くの回答者が、自分の出身地では固定的な性別役割分担意識が強  
いと感じていることがうかがえる。

こちらの設問についても男女別で賛同派と否定派に差が存在するかを比較したが、統計的に有意な差は見当たらなかった。

なお、この設問について、R2 国交省調査における「国内の女性であり東京圏外出身で東京圏在住者」の回答と比較すると、国交省調査では賛同派 48%（賛同する 15%、どちらかといえば賛同する 33%）、否定派 21%（反対である 4%、どちらかといえば反対である 17%）となっている。比較してみると、今回のアンケートにおける地元の人たちの性別役割分担意識に対する捉え方は、全国の平均よりは低くなっている。

	賛同する	どちらかといえば賛同する	わからない	どちらかといえば反対である	反対である
女性(n=567)	44	161	198	98	66
男性(n=192)	23	47	73	31	18
答えたくない(n=2)		1		1	
総計(n=761)	67	209	271	130	84



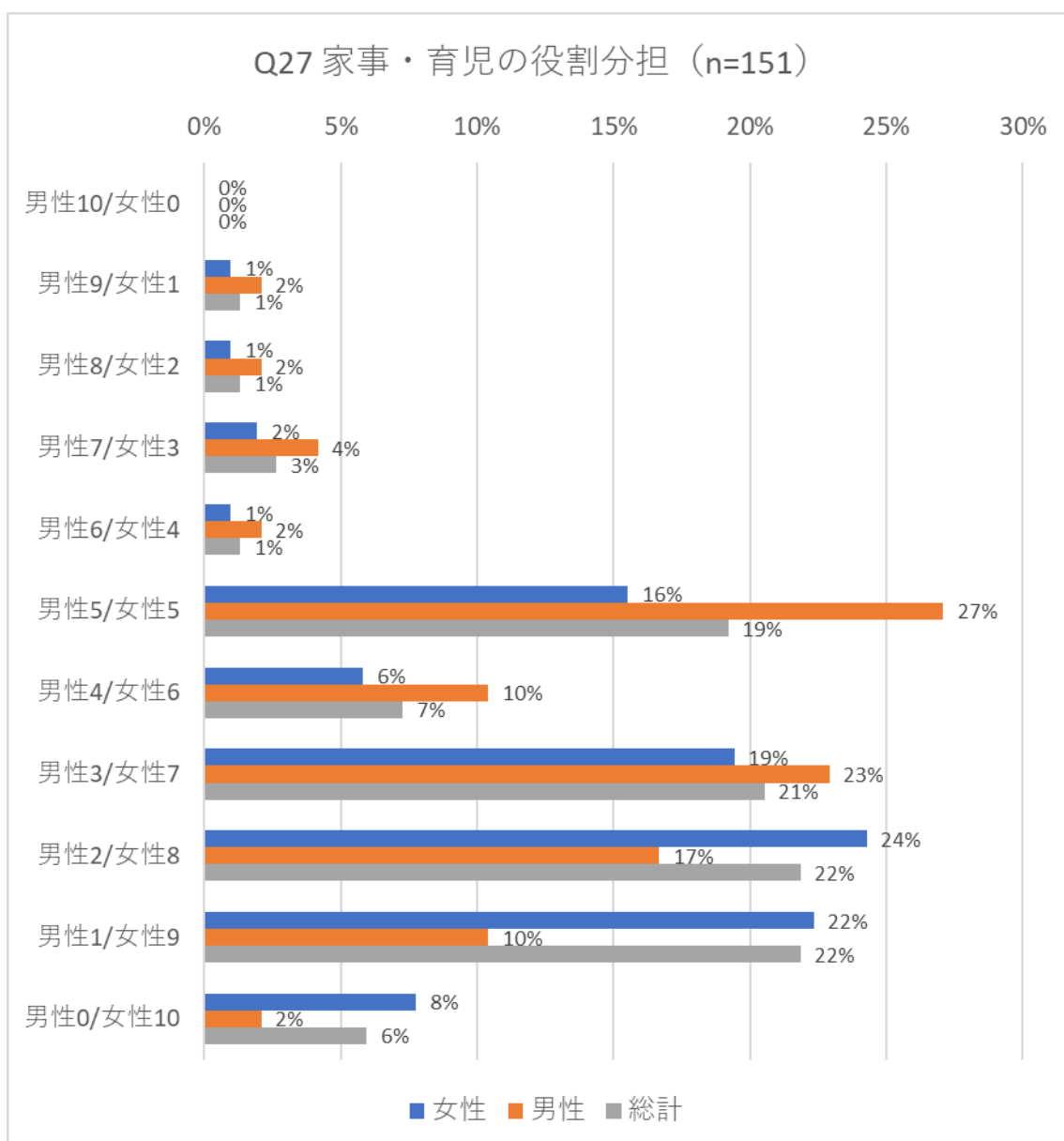
### ③ 家事・育児の役割分担状況 (Q27)

家庭における家事・育児等の家庭内での役割分担の状況についてたずねた問いに対し、女性 8 割という回答が最も多く、女性 7 割および女性 9 割と合わせて全体の回答の 6 割以上を占めた。グラフを見ても、全体的に女性の割合が多くなる下の方に回答が固まっており、やはり家事・育児では女性の負担が多くなっていることが分かる。

男女別に見ると、男性では「男性 5 割・女性 5 割」という対等の家事負担の回答が 27%と最も多くなっている。同項目における女性の回答とは有意な差があり、男女間の役割分担に関する意識の差が見て取れる。

※ この設問についてはアンケートの設定ミスにより回答サンプル数が他の設問よりも少なくなっていることに留意されたい。

	男性10割 女性0割	男性9割 女性1割	男性8割 女性2割	男性7割 女性3割	男性6割 女性4割	男性5割 女性5割	男性4割 女性6割	男性3割 女性7割	男性2割 女性8割	男性1割 女性9割	男性0割 女性10割
女性(n=103)	0	1	1	2	1	16	6	20	25	23	8
男性(n=48)	0	1	1	2	1	13	5	11	8	5	1
総計(n=151)	0	2	2	4	2	29	11	31	33	28	9

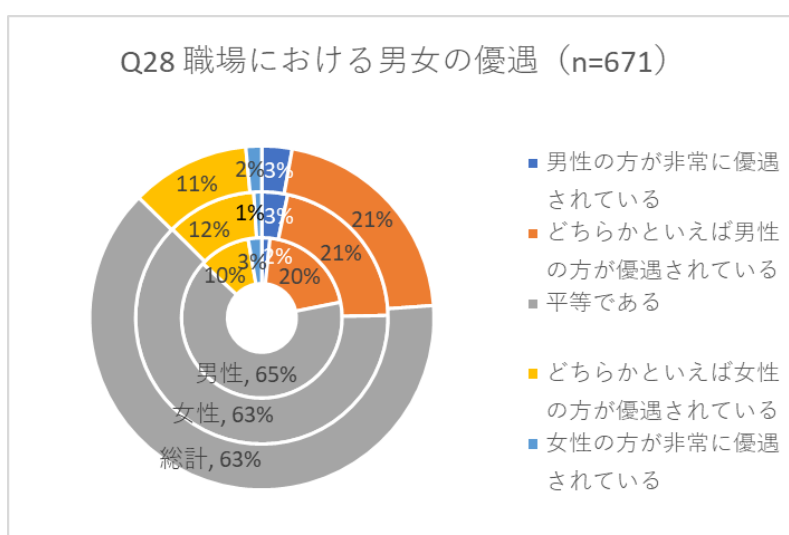


## (16) 職場における男女共同参画 (Q28-29)

### ① 職場における男女の優遇 (Q28)

職場において男女どちらが優遇されているかという問いについては、「平等である」(426件、63%)という回答が最も多くなっているものの、「優遇されている」という回答の割合としては男性の方が多い。

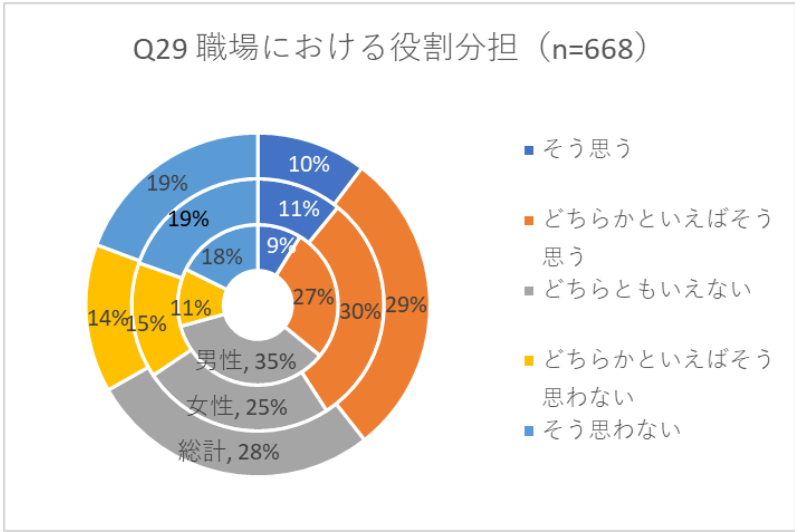
	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性(n=486)	16	104	305	56	5
男性(n=183)	3	37	119	19	5
答えたくない(n=2)			2		
総計(n=671)	19	141	426	75	10



### ② 職場における男女の役割分担 (Q29)

「職場(仕事)において、男性の方がより重要な役割を担い、意思決定に関わるといった、男女の役割分担という考えはありますか」という問いについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が39%と、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」の合計33%と比べやや上回っている。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=485)	53	145	120	72	95
男性(n=181)	16	49	63	21	32
答えたくない(n=2)					2
総計(n=668)	69	194	183	93	129



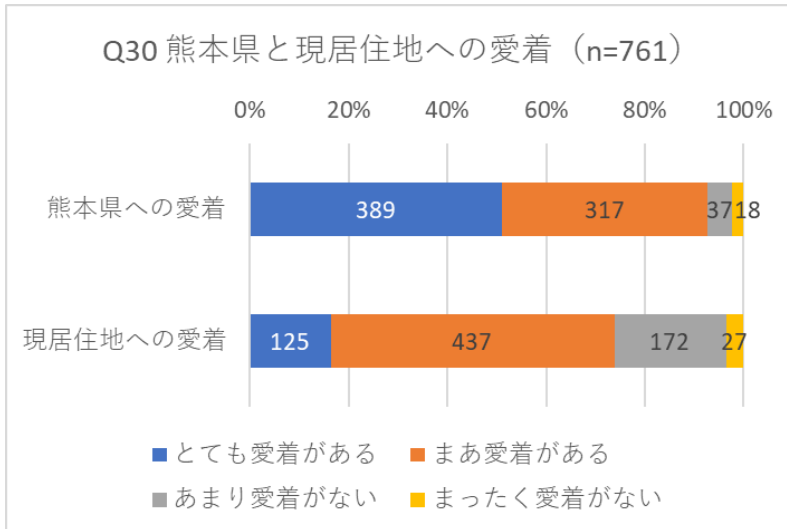
(17) 自治体への愛着 (Q30)

熊本県への愛着と住んでいる都府県への愛着をたずねた設問について、熊本県に対して「とても愛着がある」と「まあ愛着がある」と答えた者は9割以上となっている。特に、「とても愛着がある」と答えている者の割合だけで5割を超えている。この設問について、R2 国交省調査における「東京圏外出身で東京圏在住者」の回答と比較すると、国交省調査で「とても愛着がある」、「まあ愛着がある」と答えているのは81%であり、熊本県出身者の地元に対する愛着は全国平均よりも高い。

なお、現在住んでいる場所に対しても7割以上愛着があると答えてはいるものの、「とても愛着がある」の答えは2割に満たず、熊本県に対する答えとは大きく異なっている。

熊本県への愛着	とても愛着がある	まあ愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない
女性(n=567)	300	230	27	10
男性(n=192)	89	86	9	8
答えたくない(n=2)		1	1	
総計(n=761)	389	317	37	18

現住県への愛着	とても愛着がある	まあ愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない
女性(n=567)	94	321	133	19
男性(n=192)	31	116	38	7
答えたくない(n=2)			1	1
総計(n=761)	125	437	172	27



(18) 熊本県へのイメージ (Q31-32)

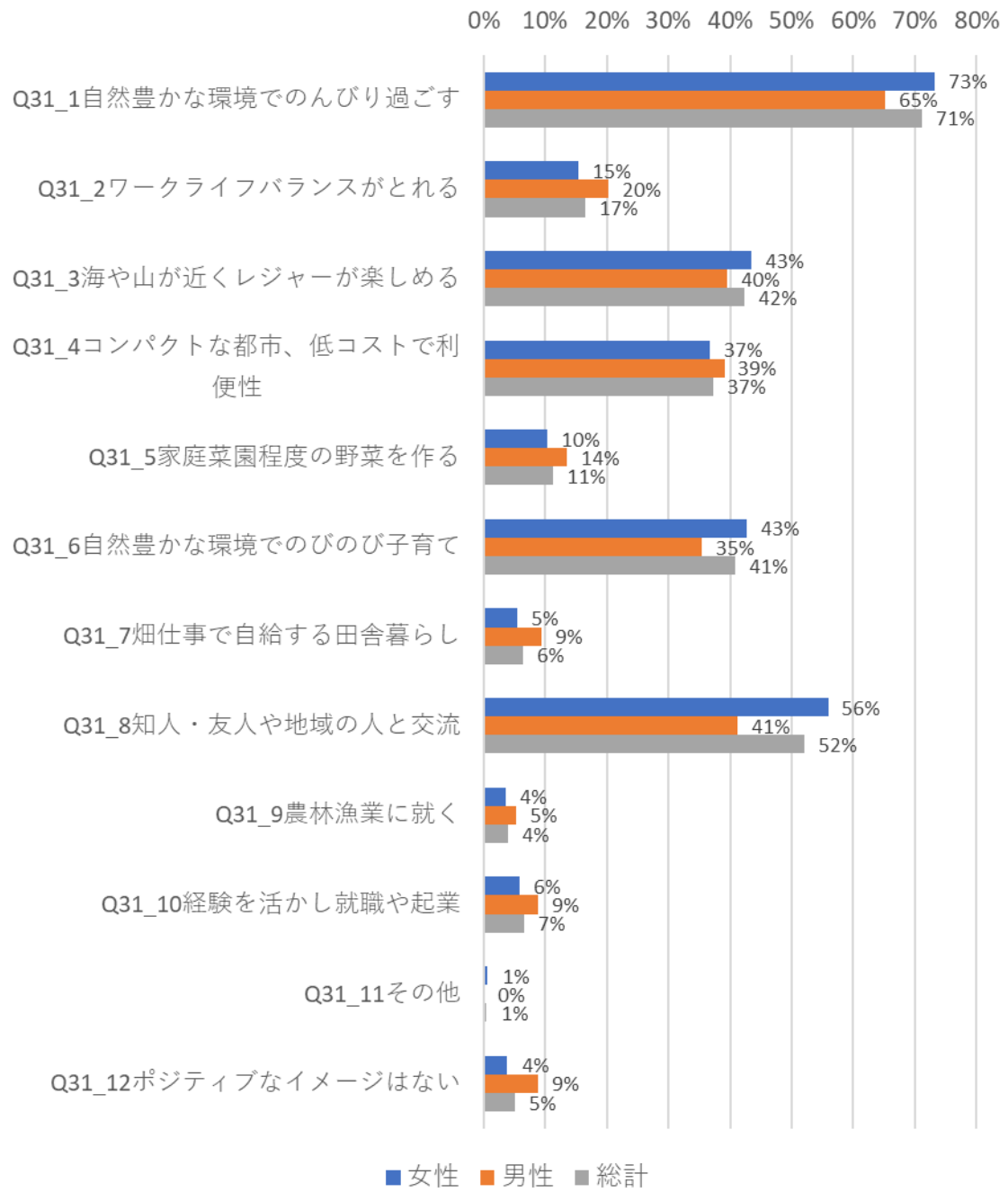
① 熊本県へのポジティブイメージ (Q31)

熊本県に対するポジティブなイメージとして、「自然豊かな環境でのんびりと過ごす暮らし」(542件、71%)が最も多く、次いで「以前からの知人・友人や地域の人と交流しながらの暮らし」(396件、52%)、「海や山が近く、気軽にレジャーが楽しめる暮らし」(322件、42%)、「自然豊かな環境でのびのびと子育てする暮らし」(311件、41%)などが高くなっている。

その他の記述についても「水の豊かさ」があげられており、全体として、自然豊かな熊本県というイメージが強い。

	Q31_1自然豊かな環境でのんびり過ごす	Q31_2ワークライフバランスがとれる	Q31_3海や山が近くレジャーが楽しめる	Q31_4コンパクトな都市、低コストで利便性	Q31_5家庭菜園程度の野菜を作る	Q31_6自然豊かな環境でのびのび子育て
女性(n=567)	415	87	246	208	59	242
男性(n=192)	125	39	76	75	26	68
答えたくない(n=2)	2			1	1	1
総計(n=761)	542	126	322	284	86	311
	Q31_7畑仕事で自給する田舎暮らし	Q31_8知人・友人や地域の人と交流	Q31_9農林漁業に就く	Q31_10経験を活かし就職や起業	Q31_11その他	Q31_12ポジティブなイメージはない
女性(n=567)	31	317	20	33	4	22
男性(n=192)	18	79	10	17	0	17
答えたくない(n=2)						
総計(n=761)	49	396	30	50	4	39

### Q31 熊本へのポジティブイメージ (n=761)



② 熊本県へのネガティブイメージ (Q32)

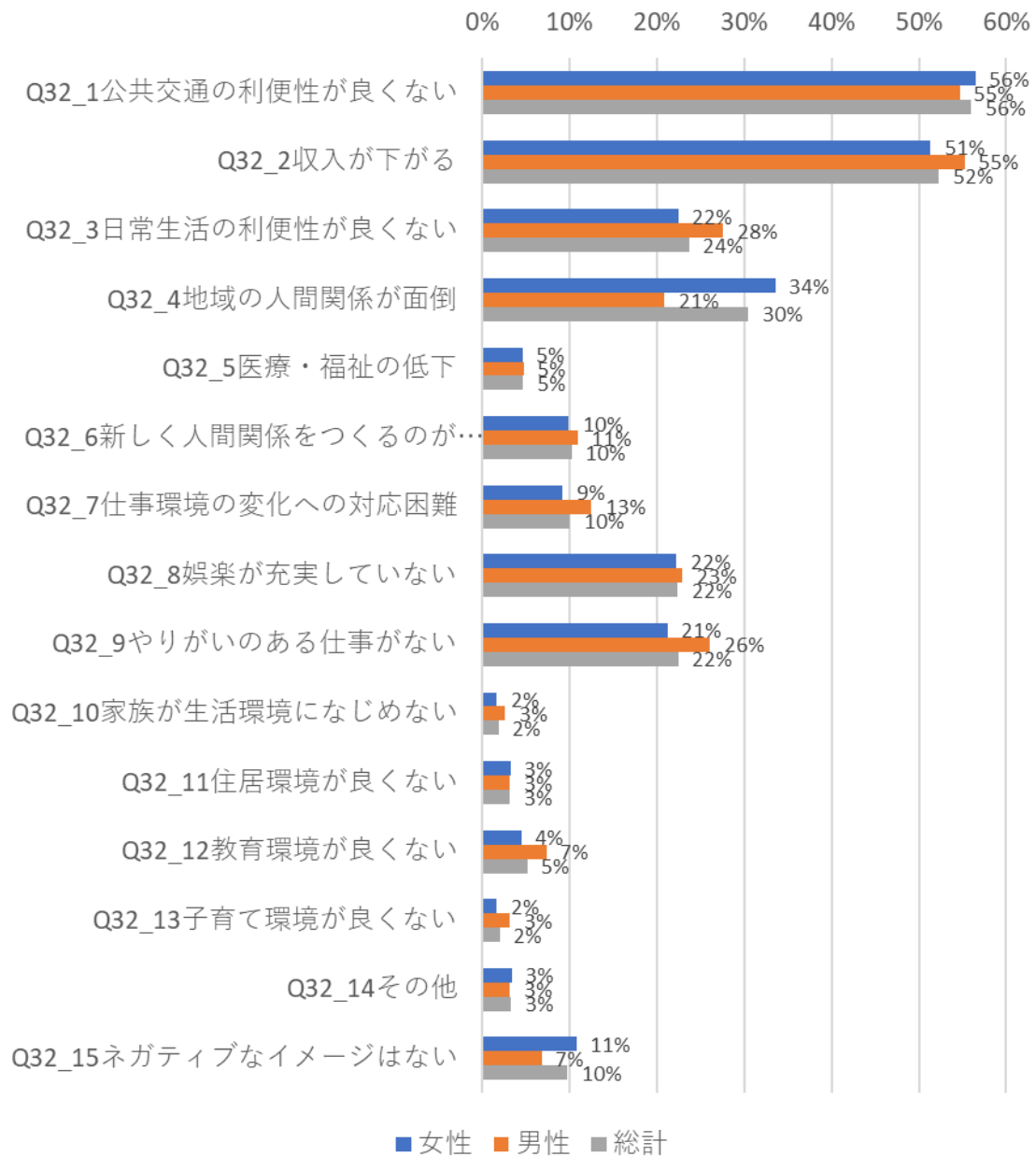
熊本県に対するネガティブなイメージとしては、「公共交通の利便性が良くない」(426件、56%)が最も多く、次いで「収入が下がる」(398件、52%)、「限られた地域の強い人間関係の中で生活することが面倒、難しい」(232件、30%)が続く。特に地域の強い人間関係が面倒という意識は女性の方が有意に強い(p<0.05)。

その他の記述欄では、「男尊女卑のイメージ」など意識面の問題を指摘する声が複数見られた。また、「自然災害の多さ」や「車が必要」という意見もあった。

	Q32_1公共交通の利便性が良くない	Q32_2収入が下がる	Q32_3日常生活の利便性が良くない	Q32_4地域の人間関係が面倒	Q32_5医療・福祉の低下
女性(n=567)	320	291	127	190	26
男性(n=192)	105	106	53	40	9
答えたくない(n=2)	1	1		2	
総計(n=761)	426	398	180	232	35
	Q32_6新しく人間関係をつくるのが面倒	Q32_7仕事環境の変化への対応困難	Q32_8娯楽が充実していない	Q32_9やりがいのある仕事がない	Q32_10家族が生活環境になじめない
女性(n=567)	56	52	126	120	9
男性(n=192)	21	24	44	50	5
答えたくない(n=2)	1			1	
総計(n=761)	78	76	170	171	14
	Q32_11住居環境が良くない	Q32_12教育環境が良くない	Q32_13子育て環境が良くない	Q32_14その他	Q32_15ネガティブなイメージはない
女性(n=567)	18	25	9	19	61
男性(n=192)	6	14	6	6	13
答えたくない(n=2)					
総計(n=761)	24	39	15	25	74



### Q32 熊本へのネガティブイメージ (n=761)

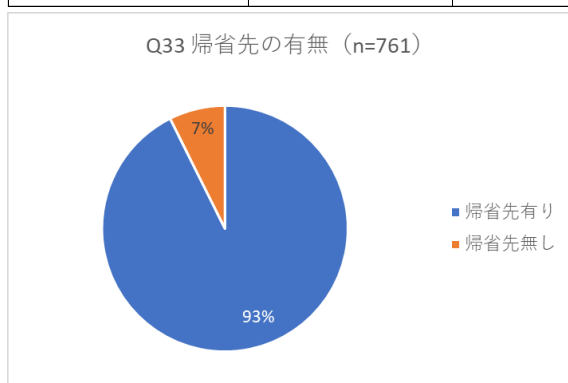


## (19) 熊本に戻ることにについて (Q33-41)

### ① 帰省先の有無 (Q33)

帰省先の有無については、有りと答えた者が全体の93%となっている。

	帰省先有り	帰省先無し
女性(n=567)	529	38
男性(n=192)	174	18
答えたくない(n=2)	2	
総計(n=761)	705	56

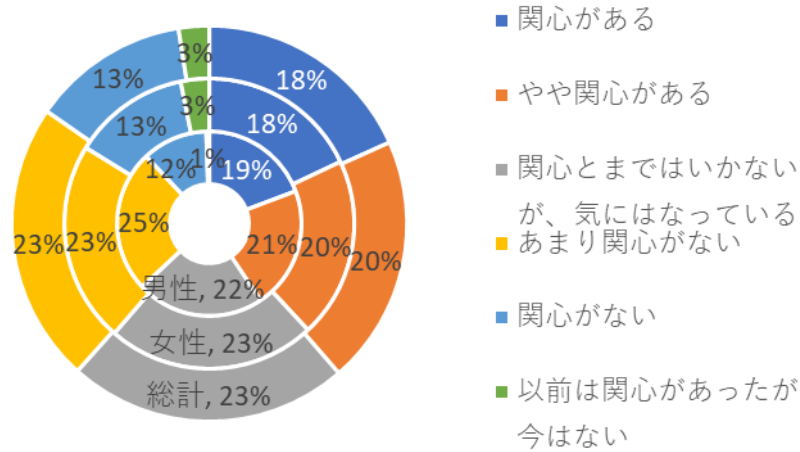


### ② 熊本に戻って暮らすことへの関心 (Q34)

「熊本県に戻って暮らすことに関心がありますか」という設問に対し、関心があると回答した「意向層」は61%（関心がある18%+やや関心がある20%+気にはなっている23%）となった。この数値は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が令和2年に行った「移住に関するアンケート調査」（以下、「R2内閣府調査」という。）における「意向層」の49.8%（関心がある15.6%+やや関心がある15.5%+気にはなっている18.7%）と比べて10ポイント以上も高い。同調査では、関東圏出身者と地方圏出身の「意向層」の割合を別々に調べているが、そのうち地方圏出身者の意向層は61.7%となっており、本アンケートでの回答結果とほぼ同等となっている。

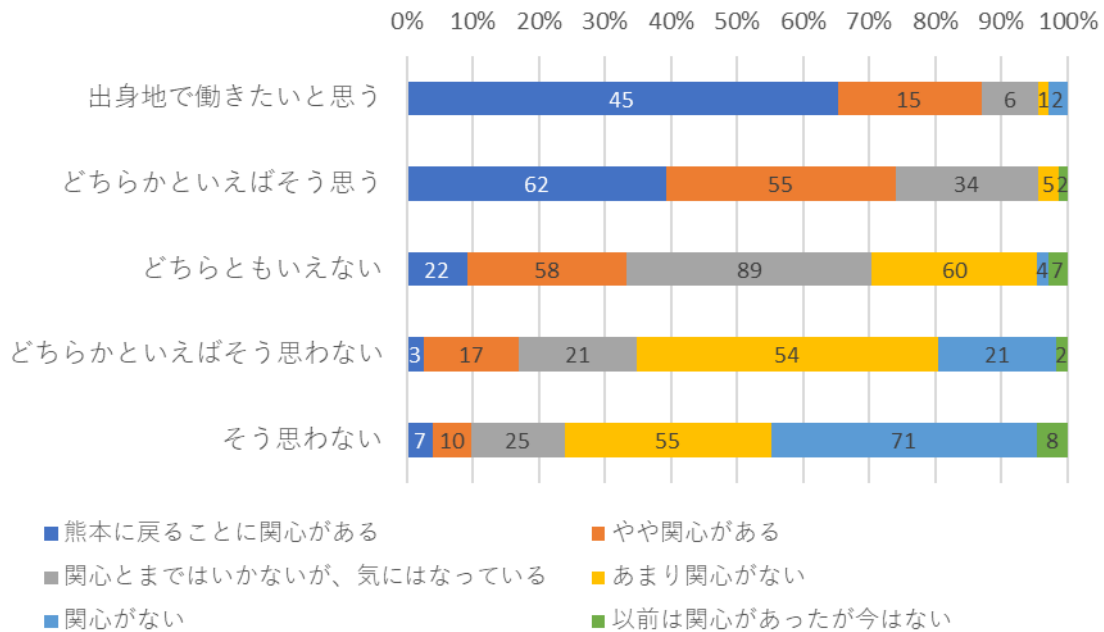
	関心がある	やや関心がある	関心とまではい かないが、気には なっている	あまり関心がない	関心がない	以前は関心があ ったが今はない
女性(n=567)	102	114	132	127	74	18
男性(n=192)	37	41	43	48	22	1
答えたくない(n=2)					2	
総計(n=761)	139	155	175	175	98	19

### Q34 熊本に戻る意思 (n=761)



Q23-e でたずねた「出身地で働きたい」という設問での回答と、本設問での回答の関係性について示したクロス集計表においても、出身地で働きたいかという質問に「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた者が、Q34において「熊本に関心がある」、「やや興味がある」、「気にはなっている」のいずれかに回答した割合は95%以上となっており、極めて高い関連性を示している。

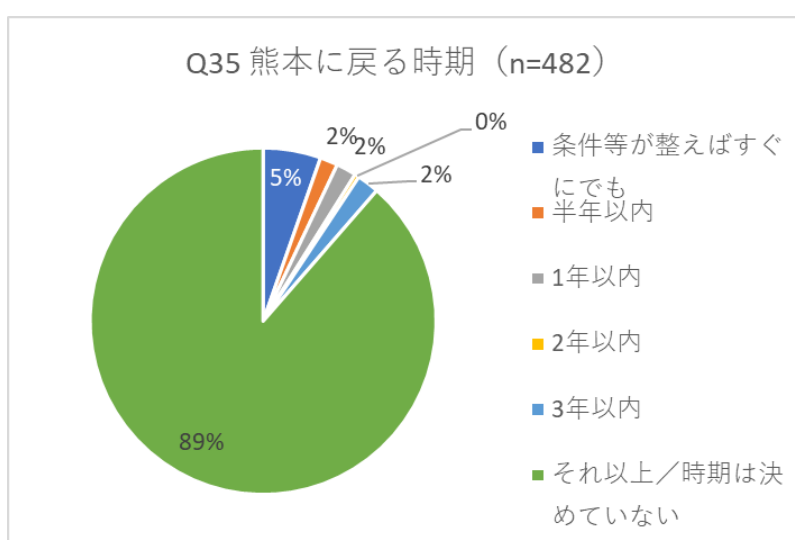
### Q23-e/Q34 出身地での就労と帰熊の意思 (n=761)



### ③ 熊本に戻る時期（Q35）

「具体的に熊本県に戻って暮らす時期は決まっていますか」という設問に対し、9割近くは「3年以上または時期は決めていない」としている。一方で、5%の者は条件が整えばすぐにでも熊本に戻る意向があると回答している。

	条件等が整えばすぐにでも	半年以内	1年以内	2年以内	3年以内	それ以上／時期は決めていない
女性(n=354)	17	8	7	2	6	314
男性(n=128)	9			2		4
総計(n=482)	26	8	9	2	10	427



#### 【参考】

「条件が整えばすぐにでも」と回答した26名については、他の回答よりもより具体性を持って検討を行っていると考えられる。この26名について、その各属性のうち特徴的なものを参考までに記載する。

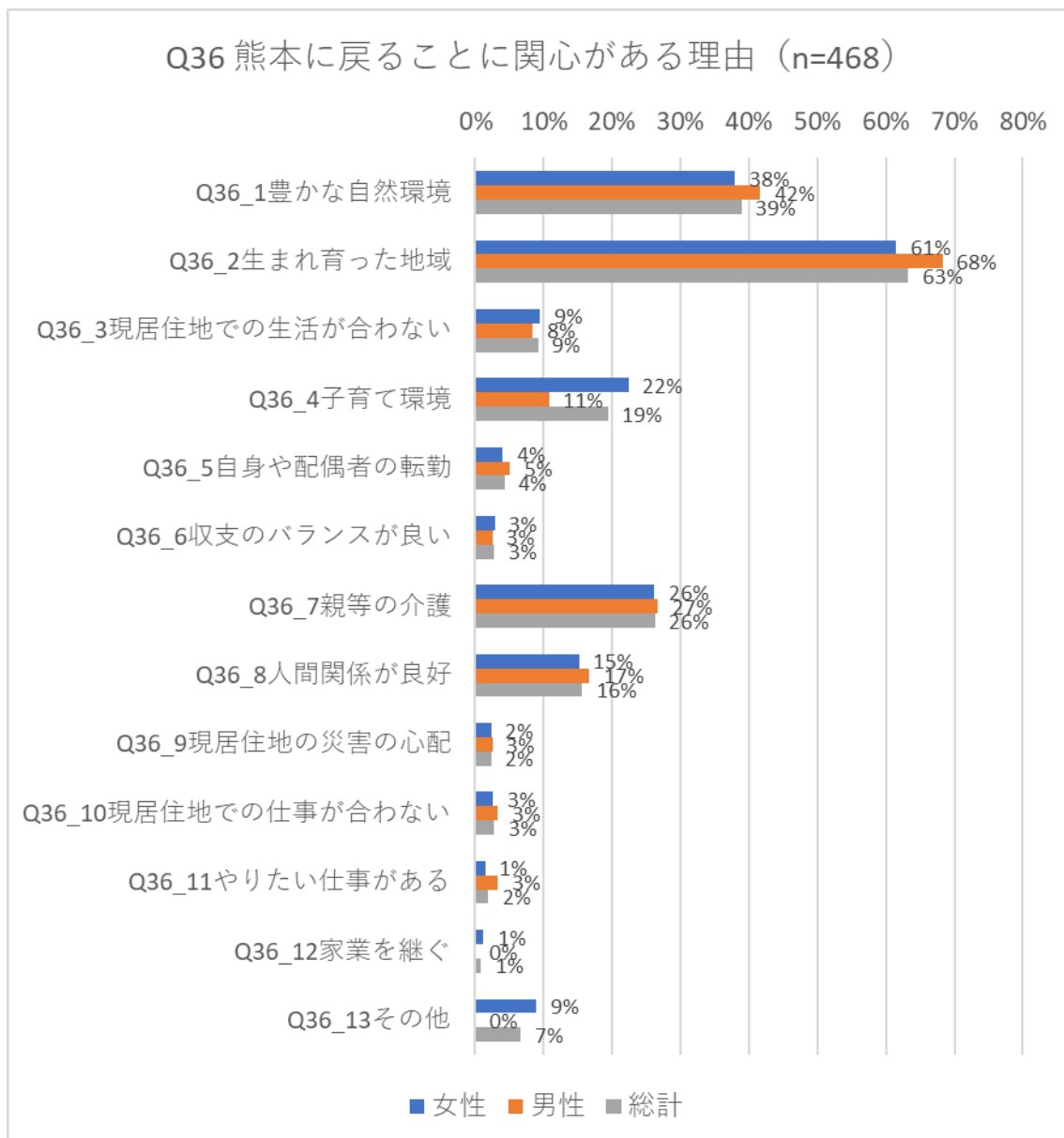
- Q1 年齢 25-29歳：11、30-34歳：8
- Q2 性別 男性：9、女性：17
- Q3 婚姻 結婚している：15、結婚していない：11
- Q5 子どもの数 0人：15
- Q7 住居形態 賃貸マンション・アパート：16
- Q11 勤労年数 3-5年：15
- Q16 現居住地 東京都：8、福岡県：10
- Q30-a 熊本県にとっても愛着がある：23
- Q33 帰省先や実家がある：26
- Q42 熊本県で子育てがしたいと思う：19

④ 熊本に戻って暮らすことに関心がある理由 (Q36)

熊本に戻ることに関心がある理由については「生まれ育った地域で暮らしたいため」(296件、63%)が最も多く、次いで「豊かな自然環境があるため」(182件、39%)が続く。「子育てする環境が整っていると感じたため」(91件、19%)については女性の回答が特に多くなっている。その他の記述欄については、「親・家族がいる」という回答が特に多い。また、「リモートワークの環境が整ってきたので」という意見もあった。

この結果をR2内閣府調査における同様の設問と比較すると、R2内閣府調査の全体では「豊かな自然環境があるため」が54.8%と最も高く、次いで「生まれ育った地域で暮らしたいため」が16.2%となっている。また、同調査の地方圏出身者の数字は「生まれ育った地域で暮らしたいため」38.4%、「豊かな自然環境があるため」40.9%、「子育てをする環境が整っていると感じたため」11.1%等となっている。「生まれ育った地域で暮らしたい」という回答の数値については今回のアンケートの結果がR2内閣府調査を大きく上回っており、熊本県出身者の地元熊本への愛着度合いは高いことがうかがえる。また、熊本の子育て環境についても、R2内閣府調査より評価が高い。

	Q36_1豊かな自然環境	Q36_2生まれ育った地域	Q36_3現居住地での生活が合わない	Q36_4子育て環境	Q36_5自身や配偶者の転勤	Q36_6収支のバランスが良い	Q36_7親等の介護
女性(n=348)	132	214	33	78	14	10	91
男性(n=120)	50	82	10	13	6	3	32
総計(n=468)	182	296	43	91	20	13	123
	Q36_8人間関係が良好	Q36_9現居住地の災害の心配	Q36_10現居住地での仕事が合わない	Q36_11やりたい仕事がある	Q36_12家業を継ぐ	Q36_13その他	
女性(n=348)	53	8	9	5	4	31	
男性(n=120)	20	3	4	4	0	0	
総計(n=468)	73	11	13	9	4	31	

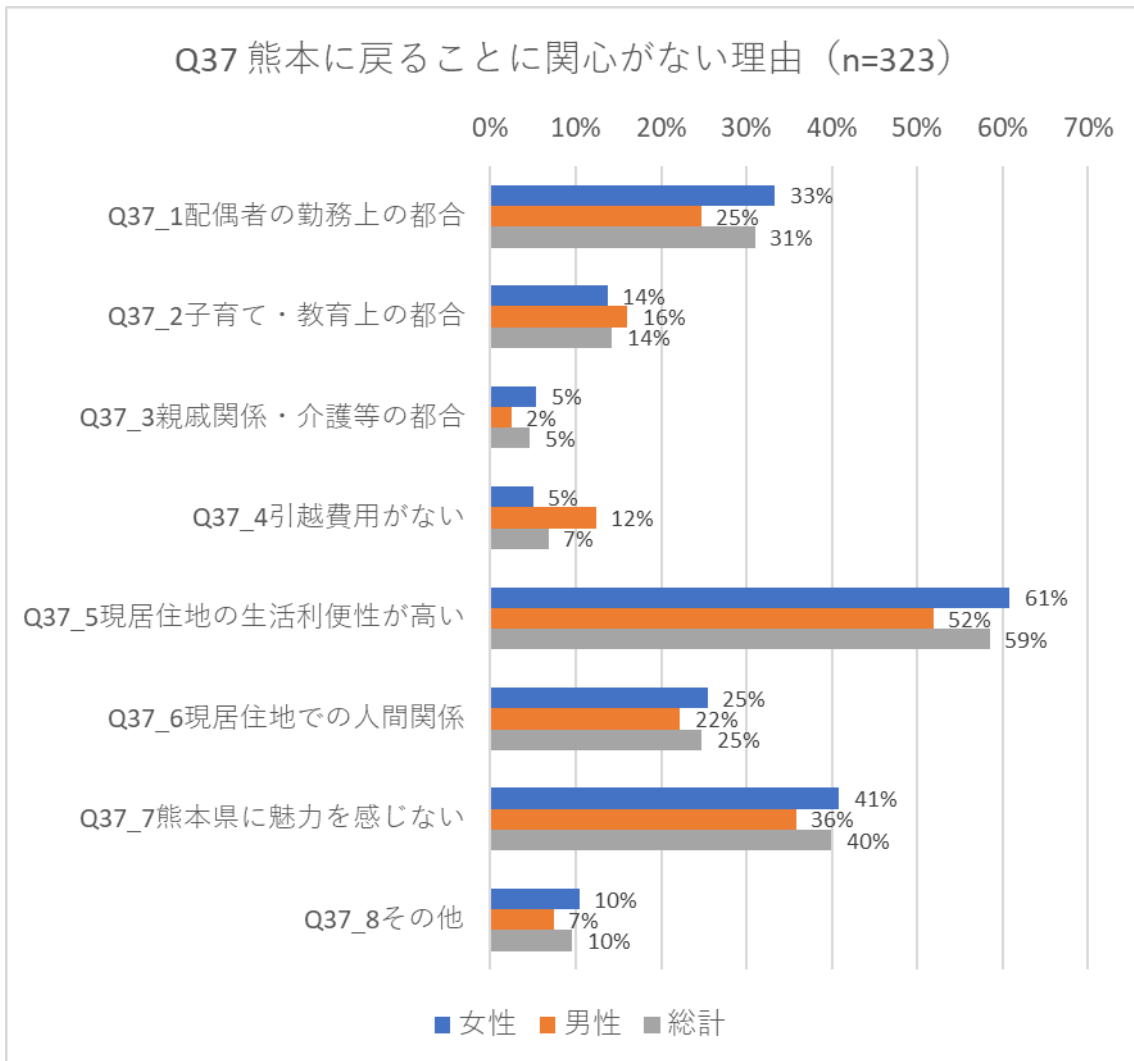


#### ⑤ 熊本に戻って暮らすことに興味が無い理由 (Q37)

熊本に戻ることに興味が無い理由をたずねた問いについては「現居住地の生活利便性が高いため」(189件、59%)が最も多く、次いで「熊本県に戻って暮らすことに魅力を感じないため」(129件、40%)、「配偶者・パートナーの勤務上の都合」(100件、31%)と続く。

その他の記述欄では、「自身の仕事の都合」という回答が多数を占めている。

	Q37_1配偶者の勤務上の都合	Q37_2子育て・教育上の都合	Q37_3親戚関係・介護等の都合	Q37_4引越費用がない	Q37_5現居住地の生活利便性が高い	Q37_6現居住地での人間関係	Q37_7熊本県に魅力を感じない	Q37_8その他
女性(n=240)	80	33	13	12	146	61	98	72
男性(n=81)	20	13	2	10	42	18	29	34
答えたくない(n=2)					1	1	2	
総計(n=323)	100	46	15	22	189	80	129	106



⑥ 熊本で期待するライフスタイル、実現したいこと (Q38)

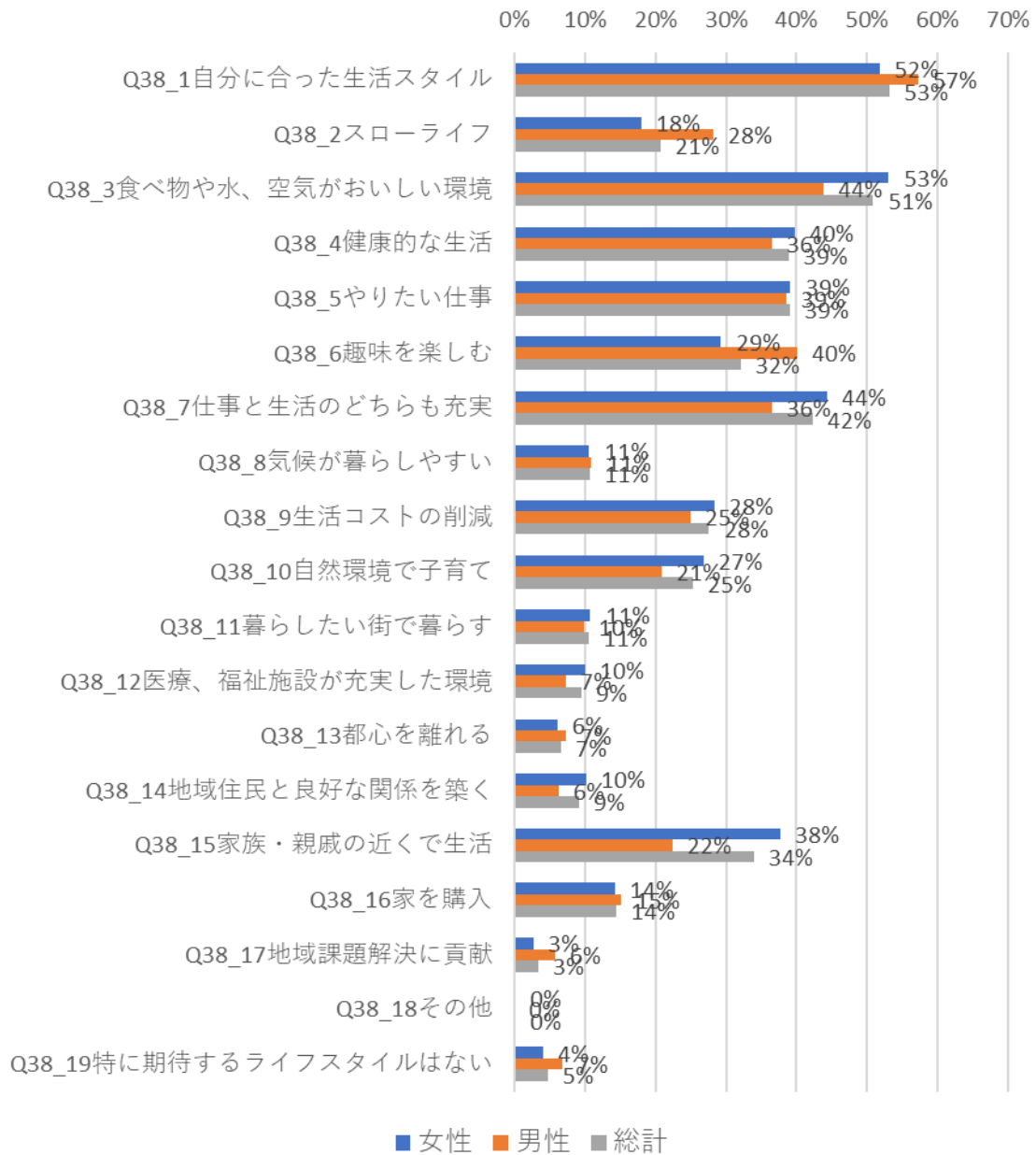
「あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、期待するライフスタイル、実現したいことは何ですか」という設問については、「自分に合った生活スタイルを送ること」(405件、53%)が最も多く、次いで「食べ物や水、空気がおいしい環境で生活すること」(387件、51%)等が続く。

男女別では、特に女性において「家族・親戚の近くで生活すること」の回答が有意に多くなっている。

	Q38_1自分に合った生活スタイル	Q38_2スローライフ	Q38_3食べ物や水、空気がおいしい環境	Q38_4健康的な生活	Q38_5やりたい仕事	Q38_6趣味を楽しむ	
女性(n=567)	294	102	301	225	222	166	
男性(n=192)	110	54	84	70	74	77	
答えたくない(n=2)	1	2	2	1	1	1	
総計(n=761)	405	158	387	296	297	244	
	Q38_7仕事と生活のどちらも充実	Q38_8気候が暮らしやすい	Q38_9生活コストの削減	Q38_10自然環境で子育て	Q38_11暮らしたい街で暮らす	Q38_12医療、福祉施設が充実した環境	
女性(n=567)	251	60	161	152	61	57	
男性(n=192)	70	21	48	40	19	14	
答えたくない(n=2)	1		1			1	
総計(n=761)	322	81	210	192	80	72	
	Q38_13都心を離れる	Q38_14地域住民と良好な関係を築く	Q38_15家族・親戚の近くで生活	Q38_16家を購入	Q38_17地域課題解決に貢献	Q38_18その他	Q38_19特に期待するライフスタイルはない
女性(n=567)	35	58	214	81	15	1	23
男性(n=192)	14	12	43	29	11		13
答えたくない(n=2)	1		1				
総計(n=761)	50	70	258	110	26	1	36



### Q38 熊本でのライフスタイル (n=761)



⑦ 熊本での暮らしの不安や懸念点 (Q39)

熊本に戻って暮らす場合の不安や懸念点については、「賃金が安いこと」(275件、57%)、「働き口が見つからないこと」(264件、55%)、「公共交通機関が不便なこと」(232件、48%)の3つに集中している。

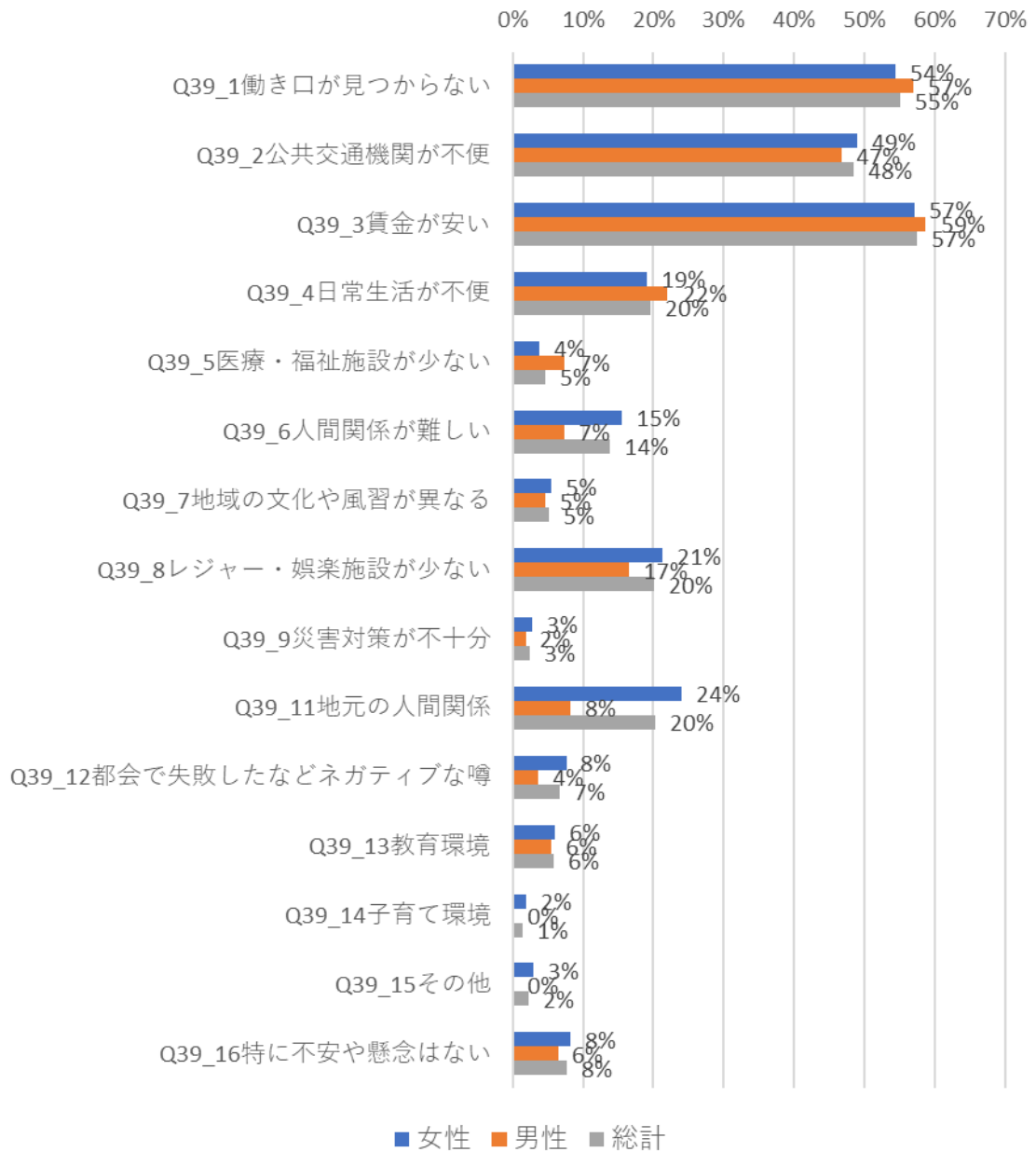
この3つが高いことについては、R2内閣府調査においてもその傾向は変わらない。一方で、R2内閣府調査では5番目に不安が大きくなっている「医療・福祉施設が少ないこと」(地方圏出身者の23.4%が回答)については、今回調査では同様の回答をした割合は5%と非常に低くなっており、医療・福祉施設の充実が熊本の強みであることをうかがわせる。

また、男女別では、女性の懸念点として「地元などで過去の人間関係に戻って生活すること」が有意に多くっており、その他の記述欄でも「男女格差」「風習」などに対する懸念の声があった。

(※回答選択肢10については選択肢設定ミスのため除外)

	Q39_1働き口が見つからない	Q39_2公共交通機関が不便	Q39_3賃金が安い	Q39_4日常生活が不便	Q39_5医療・福祉施設が少ない
女性(n=567)	200	180	210	70	14
男性(n=192)	62	51	64	24	8
答えたくない(n=2)					
総計(n=761)	264	232	275	94	22
	Q39_6人間関係が難しい	Q39_7地域の文化や風習が異なる	Q39_8レジャー・娯楽施設が少ない	Q39_9災害対策が不十分	Q39_11地元の人間関係
女性(n=567)	57	20	78	10	88
男性(n=192)	8	5	18	2	9
答えたくない(n=2)					
総計(n=761)	66	25	96	12	97
	Q39_12都会で失敗したなどネガティブな噂	Q39_13教育環境	Q39_14子育て環境	Q39_15その他	Q39_16特に不安や懸念はない
女性(n=567)	28	22	7	11	30
男性(n=192)	4	6			7
答えたくない(n=2)					
総計(n=761)	32	28	7	11	37

### Q39 熊本に戻って暮らす際の不安や懸念点 (n=479)



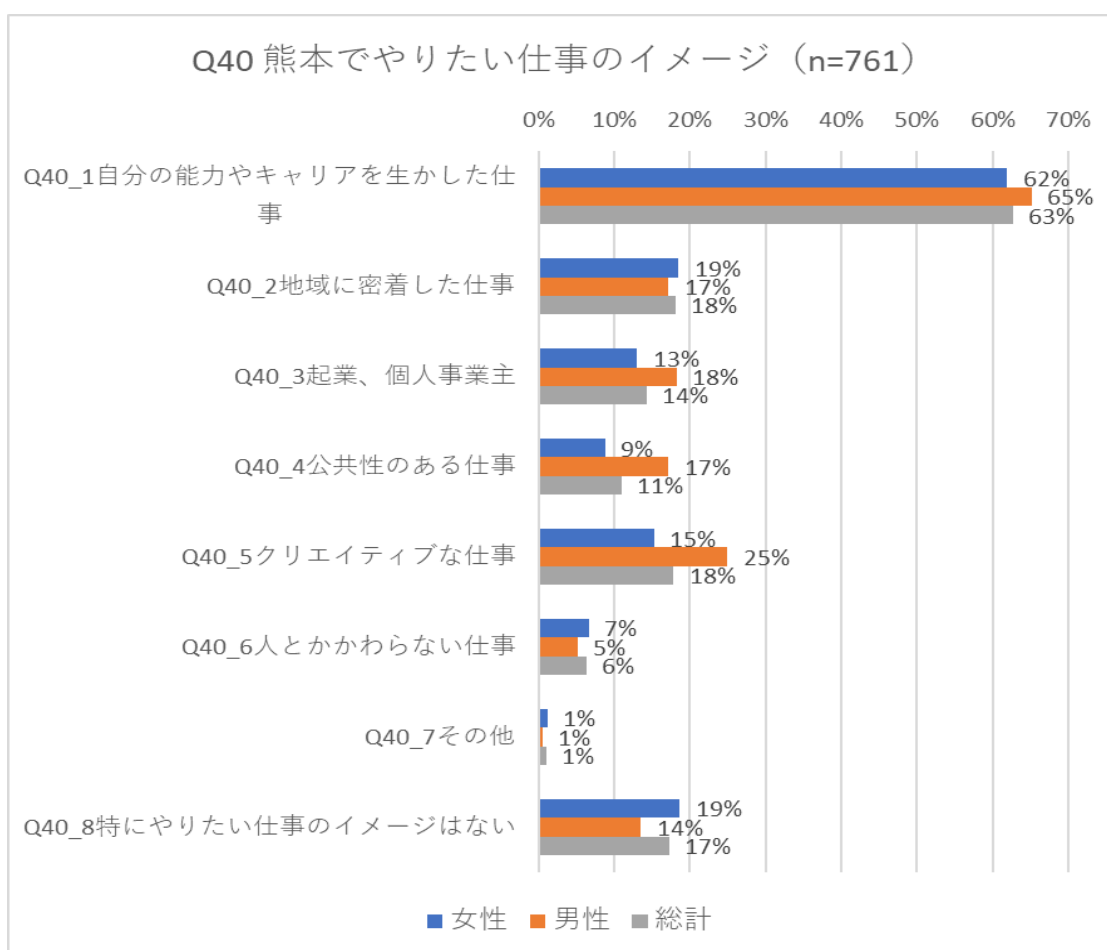
⑧ 熊本でやりたい仕事のイメージ (Q40)

熊本でやりたい仕事のイメージについては「自分の能力やキャリアを生かした仕事がしたい」(477件、63%)が突出して高くなっている。

この結果について、R2内閣府調査における類似の設問の調査結果である「自分の能力やキャリアを生かした仕事がしたい」の回答46.8%と比べて、15ポイント以上も高い。

男女別では、「クリエイティブ、イノベティブな仕事がしたい」、「地域課題解決に向けた公共性のある仕事がしたい」について男性の方が有意に高い回答となっている。

	Q40_1自分の能力やキャリアを生かした仕事	Q40_2地域に密着した仕事	Q40_3起業、個人事業主	Q40_4公共性のある仕事	Q40_5クリエイティブな仕事	Q40_6人とかわからない仕事	Q40_7その他	Q40_8特にやりたい仕事のイメージはない
女性(n=567)	351	105	74	50	87	38	7	106
男性(n=192)	125	33	35	33	48	10	1	26
答えたくない(n=2)	1			1	1			
総計(n=761)	477	138	109	84	136	48	8	132



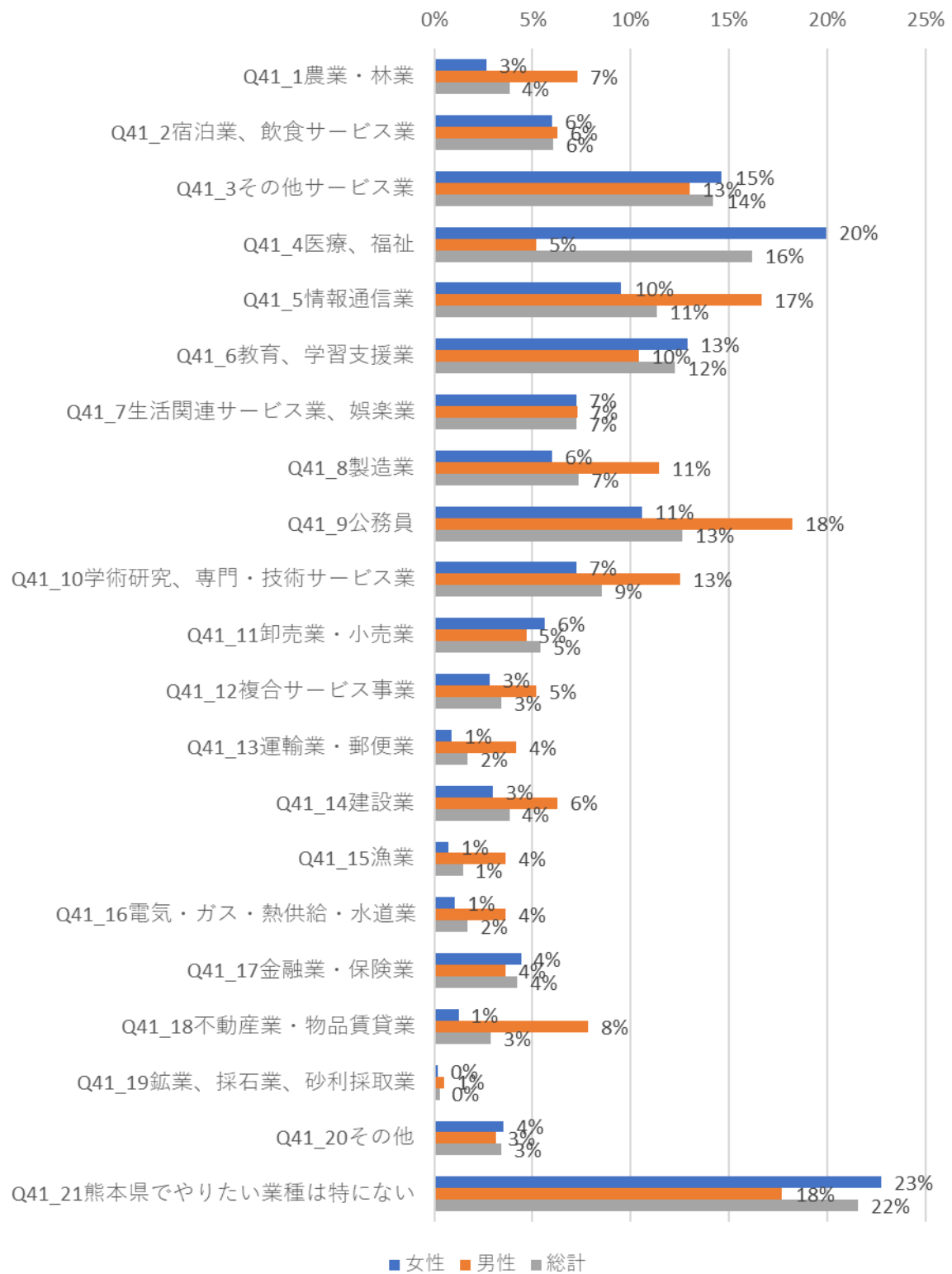
⑨ 熊本でやりたい業種 (Q41)

熊本でやりたい業種については「医療、福祉」(123件、16%)、「サービス業(他に分類されないもの)」(108件、14%)、「公務員」(96件、13%)「教育、学習支援業」(93件、12%)、「情報通信業」(86件、11%)などが比較的高くなっている。

男女別に見ると、男性が大きく上回る業種は「公務員」、「情報通信業」、「学術研究」、「製造業」など複数存在する。女性については「医療、福祉」のみ、男性に比べて希望が圧倒的に多い。

	Q41_1農業・林業	Q41_2宿泊業、飲食サービス業	Q41_3その他サービス業	Q41_4医療、福祉	Q41_5情報通信業	Q41_6教育、学習支援業	Q41_7生活関連サービス業、娯楽業
女性(n=567)	15	34	83	113	54	73	41
男性(n=192)	14	12	25	10	32	20	14
答えたくない(n=2)							
総計(n=760)	29	46	108	123	86	93	55
	Q41_8製造業	Q41_9公務員	Q41_10学術研究、専門・技術サービス業	Q41_11卸売業・小売業	Q41_12複合サービス事業	Q41_13運輸業・郵便業	Q41_14建設業
女性(n=567)	34	60	41	32	16	5	17
男性(n=192)	22	35	24	9	10	8	12
答えたくない(n=2)		1					
総計(n=760)	56	96	65	41	26	13	29
	Q41_15漁業	Q41_16電気・ガス・熱供給・水道業	Q41_17金融業・保険業	Q41_18不動産業・物品賃貸業	Q41_19鉱業、採石業、砂利採取業	Q41_20その他	Q41_21熊本県でやりたい業種は特にない
女性(n=567)	4	6	25	7	1	20	129
男性(n=192)	7	7	7	15	1	6	34
答えたくない(n=2)							1
総計(n=760)	11	13	32	22	2	26	164

### Q41 熊本県でやりたい業種 (n=760)



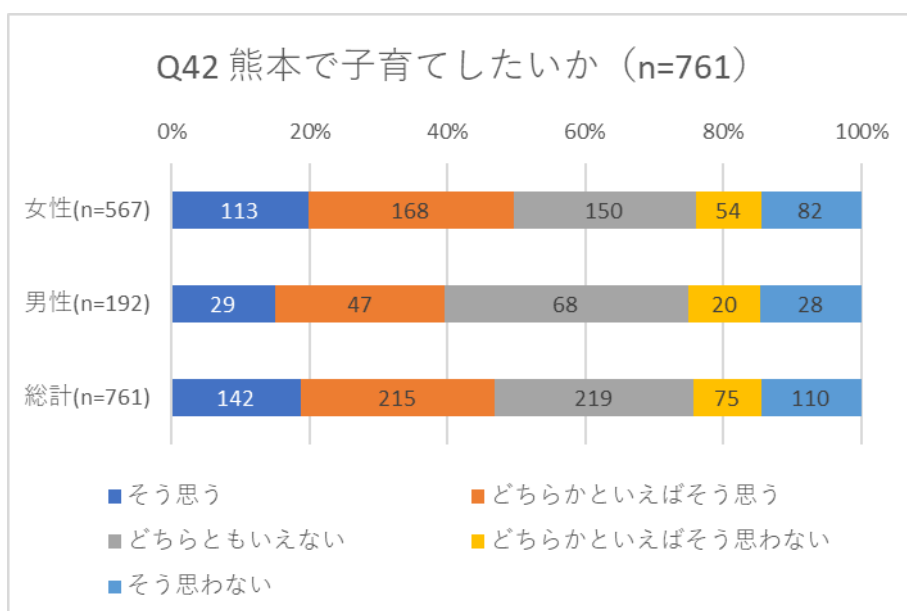
## (20) 熊本での子育て (Q42-44)

### ① 熊本に戻っての子育ての希望 (Q42)

熊本に戻って子育てを希望したいと思うかという設問については、希望する者が全体の47%（「そう思う」19%、「どちらかといえばそう思う」28%）と半数近くなった。

男女別では、女性の方が熊本に戻っての子育てを希望する割合が多い。（統計的な有意差が現れるまでではない。）

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ば そう思わない	そう思わない
女性(n=567)	113	168	150	54	82
男性(n=192)	29	47	68	20	28
答えたくない(n=2)			1	1	
総計(n=761)	142	215	219	75	110



### ② 熊本県で子育てを希望したいと思わない理由 (Q43)

熊本県で子育てを希望したいと思わない理由については、「進学先（大学・専門学校等）の選択肢が少ない」（82件、34%）、「自身の就職先がない」（77件、32%）、「公共交通機関が利用しづらい」（60件、25%）などが大きくなった。

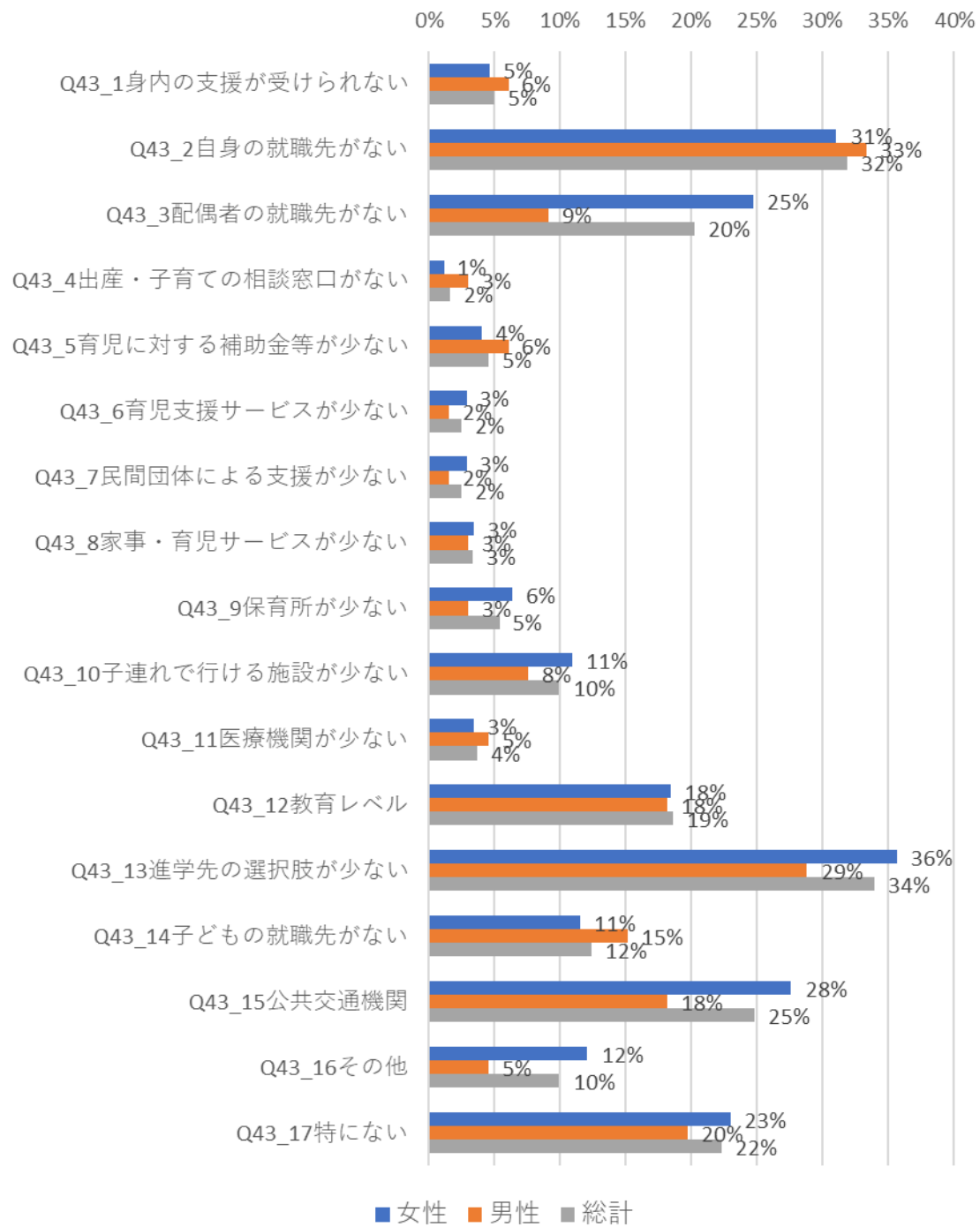
逆に、実際に子育てをするときに利用することとなる「相談窓口」や「育児支援」などのサービス、「保育所」や「医療機関」などについて否定的な印象を持つ者はほとんどいない。

その他の記述欄では、「子どもを産むつもりはない」という趣旨の回答も複数見られた。

	Q43_1身内の支援が受けられない	Q43_2自身の就職先がない	Q43_3配偶者の就職先がない	Q43_4出産・子育てに関する相談窓口がない	Q43_5育児に対する補助金等が少ない	Q43_6育児支援サービスが少ない
女性(n=174)	8	54	43	2	7	5
男性(n=66)	4	22	6	2	4	1
答えたくない(n=2)		1				
総計(n=242)	12	77	49	4	11	6
	Q43_7民間団体による支援が少ない	Q43_8活用できる家事・育児サービスが少ない	Q43_9保育所が少ない	Q43_10子連れで行ける施設が少ない	Q43_11医療機関が少ない	Q43_12教育レベル
女性(n=174)	5	6	11	19	6	32
男性(n=66)	1	2	2	5	3	12
答えたくない(n=2)						1
総計(n=242)	6	8	13	24	9	45
	Q43_13進学先の選択肢が少ない	Q43_14子どもの就職先がない	Q43_15公共交通機関	Q43_16その他	Q43_17熊本県で子育てしたくない理由は特にない	
女性(n=174)	62	20	48	21	40	
男性(n=66)	19	10	12	3	13	
答えたくない(n=2)	1				1	
総計(n=242)	82	30	60	24	54	



### Q43 熊本県で子育てしたくない理由 (n=242)



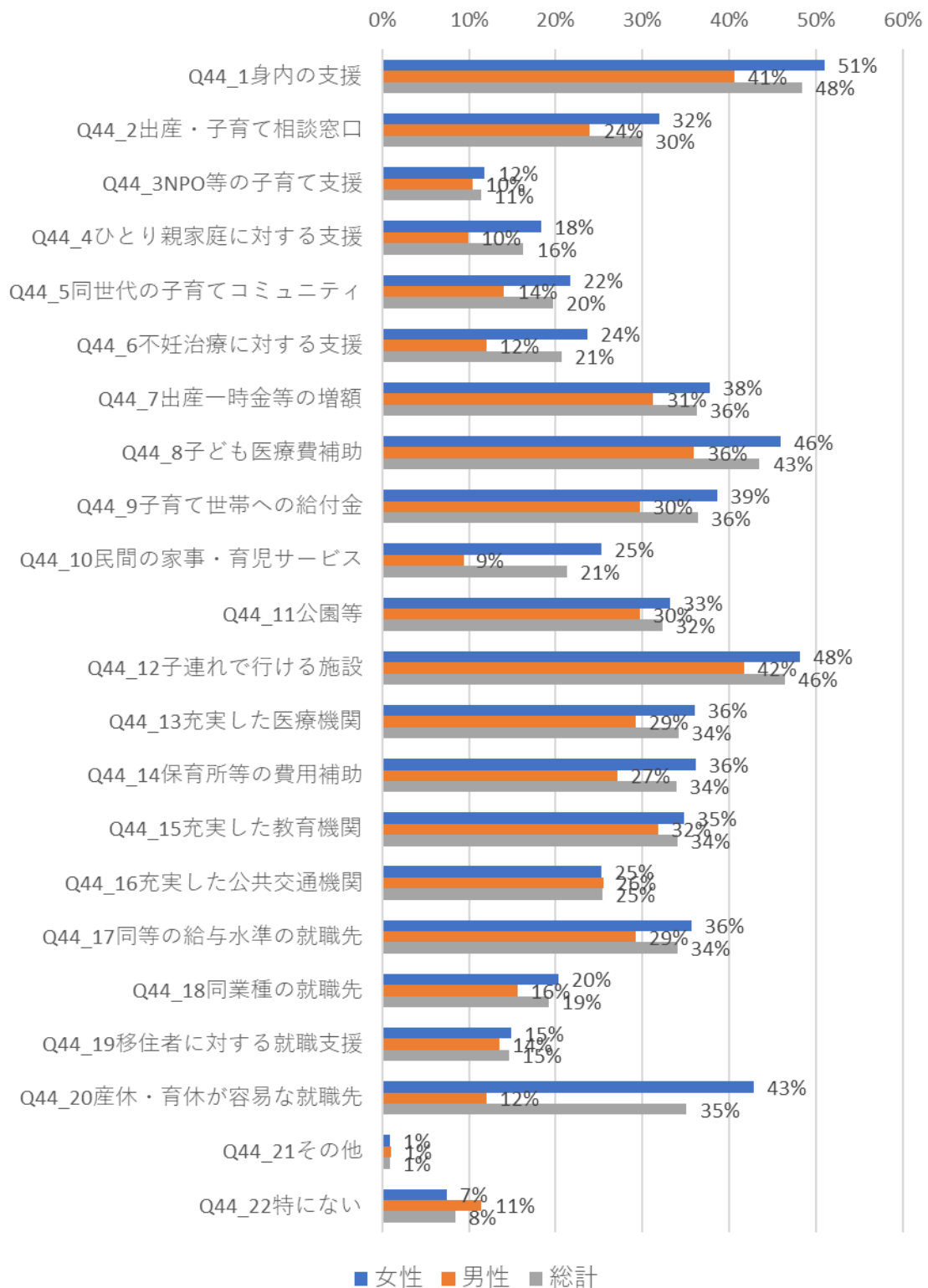
③ 熊本県で子育てするうえで必要な支援（Q44）

熊本県で子育てするうえでどういった子育て支援・環境が必要かという問いに対しては、「親や親族等の身内の支援」（368件、48%）が最も多く、次いで「子どもを連れて行ける施設」（353件、46%）、「子ども医療費補助」（331件、43%）などが多くなっている。

その他の記述欄では、「レベルの高い学校が必要」、「収入による補助の制限がないこと」などの記載があった。

	Q44_1身内の支援	Q44_2出産・子育て相談窓口	Q44_3NPO等の子育て支援	Q44_4ひとり親家庭に対する支援	Q44_5同世代の子育てコミュニティ	Q44_6不妊治療に対する支援	Q44_7出産一時金等の増額	
女性(n=567)	289	181	67	104	123	134	214	
男性(n=192)	78	46	20	19	27	23	60	
答えたくない(n=2)	1	1		1			2	
総計(n=761)	368	228	87	124	150	157	276	
	Q44_8子ども医療費補助	Q44_9子育て世帯への給付金	Q44_10民間の家事・育児サービス	Q44_11公園等	Q44_12子連れで行ける施設	Q44_13充実した医療機関	Q44_14行政による保育所等の費用補助	
女性(n=567)	260	219	143	188	273	204	205	
男性(n=192)	69	57	18	57	80	56	52	
答えたくない(n=2)	2	1	1	1			1	
総計(n=761)	331	277	162	246	353	260	258	
	Q44_15充実した教育機関	Q44_16充実した公共交通機関	Q44_17同等の給与水準の就職先	Q44_18同業種の就職先	Q44_19移住者に対する就職支援	Q44_20産休・育休取得が容易な就職先	Q44_21その他	Q44_22特にない
女性(n=567)	197	143	202	115	84	243	5	42
男性(n=192)	61	49	56	30	26	23	2	22
答えたくない(n=2)	1	1	1	1	1	1		
総計(n=761)	259	193	259	146	111	267	7	64

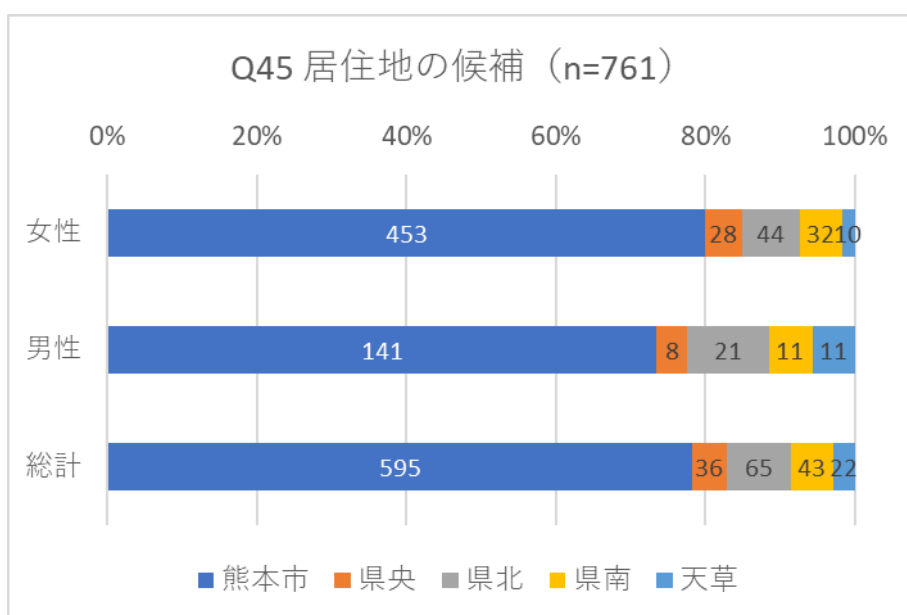
### Q44 熊本での子育てに必要な支援 (n=761)



## (21) 居住地の候補 (Q45)

熊本県に戻って暮らす場合に候補となる圏域についてたずねた設問では、「熊本市」という回答が8割程度(595件、78%)となっている。

	熊本市	県央	県北	県南	天草
女性(n=567)	453	28	44	32	10
男性(n=192)	141	8	21	11	11
答えたくない(n=2)	1				1
総計(n=761)	595	36	65	43	22



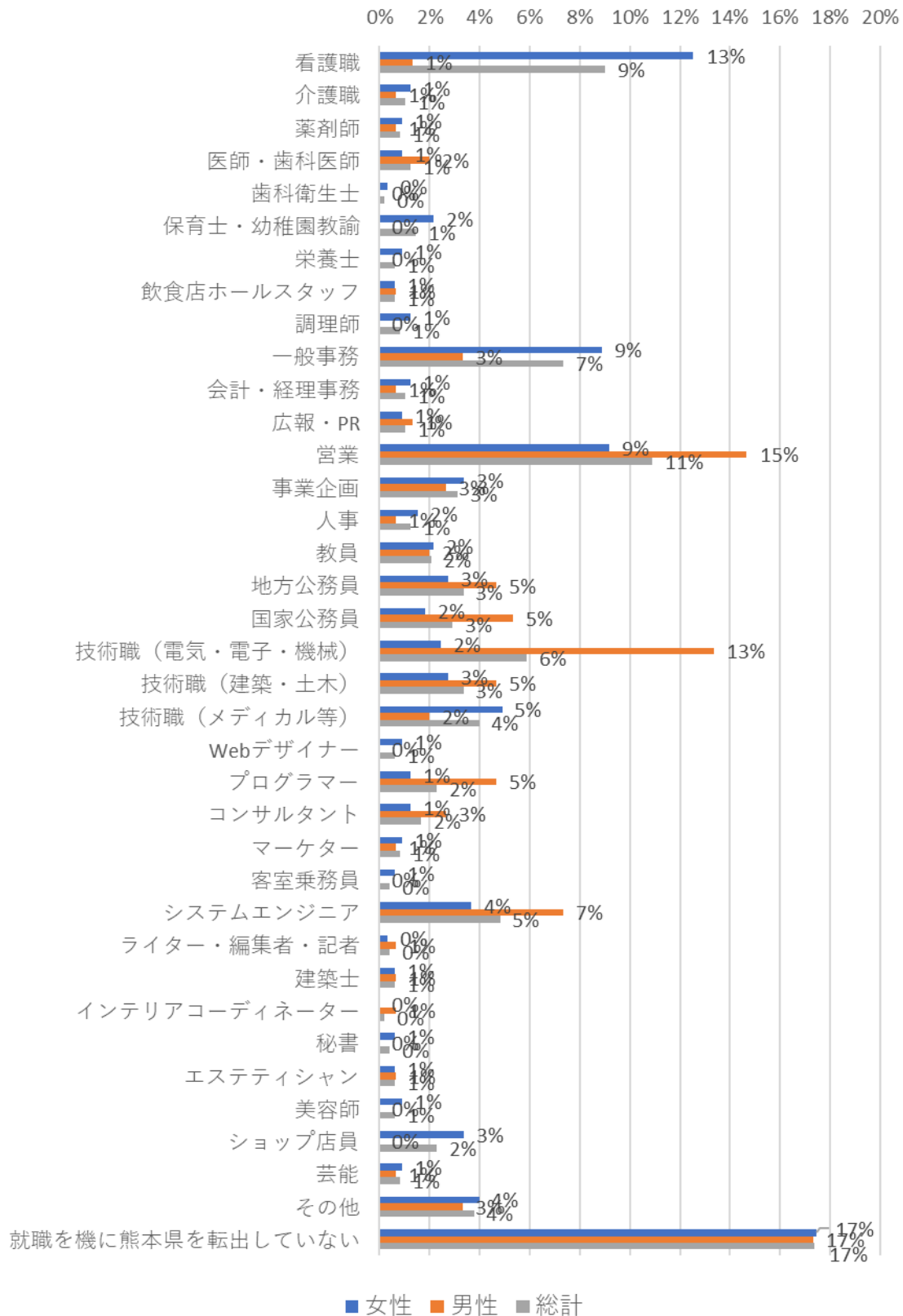
## (22) 就職を機に転出した者の就労について (Q46-48)

### ① 就職を機に転出した者の現在の職種 (Q46)

就職を機に熊本県外に転出した者の現在の職種については、「営業」(52件、11%)、「看護職」(43件、9%)、「一般事務」(35件、7%)などが比較的多い。看護職、一般事務などは女性の割合の方が多く、営業、技術職(電気・電子・機械)、SEなどは男性の割合の方が多い。

	看護職	介護職	薬剤師	医師・歯科 医師	歯科衛生士	保育士・幼 稚園教諭	
女性(n=327)	41	4	3	3	1	7	
男性(n=150)	2	1	1	3			
答えたくない(n=1)							
総計(n=478)	43	5	4	6	1	7	
	栄養士	飲食店ホー ルスタッフ	調理師	一般事務	会計・経理 事務	広報・PR	
女性(n=327)	3	2	4	29	4	3	
男性(n=150)		1		5	1	2	
答えたくない(n=1)				1			
総計(n=478)	3	3	4	35	5	5	
	営業	事業企画	人事	教員	地方公務員	国家公務員	
女性(n=327)	30	11	5	7	9	6	
男性(n=150)	22	4	1	3	7	8	
答えたくない(n=1)							
総計(n=478)	52	15	6	10	16	14	
	技術職（電 気・電子・ 機械）	技術職（建 築・土木）	技術職（メ ディカル・化 学・食品・化 粧品）	Webデザイ ナー	プログラ マー	コンサルタ ント	
女性(n=327)	8	9	16	3	4	4	
男性(n=150)	20	7	3		7	4	
答えたくない(n=1)							
総計(n=478)	28	16	19	3	11	8	
	マーケター	客室乗務員	システムエン ジニア	ライター・ 編集者・記 者	建築士	インテリア コーディネ ーター	
女性(n=327)	3	2	12	1	2		
男性(n=150)	1		11	1	1	1	
答えたくない(n=1)							
総計(n=478)	4	2	23	2	3	1	
	秘書	エステティ シャン	美容師	ショップ店 員	芸能	その他	就職を機に熊 本県を転出し ていない
女性(n=327)	2	2	3	11	3	13	57
男性(n=150)		1			1	5	26
答えたくない(n=1)							
総計(n=478)	2	3	3	11	4	18	83

### Q46 転出者の現在の職種 (n=327)

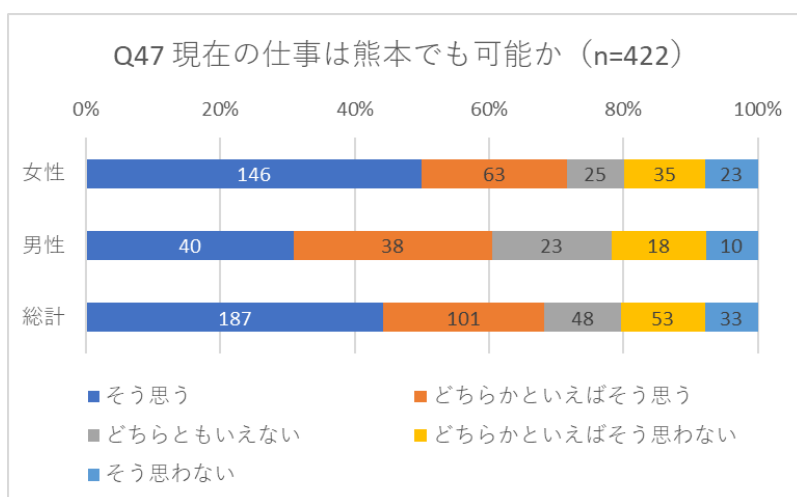


### ② その仕事は熊本県でも可能か (Q47)

就職を機に熊本県外に転出した者に対して、現在の仕事は熊本県でも就労可能かどうかをたずねた設問については、「そう思う」(187件、44%) + 「どちらかといえばそう思う」(101件、24%) を合わせた肯定的な意見が7割近くになった。

男女別に見ると、女性の方が肯定的な意見が72%だったのに対し、男性の方が60%と、女性の方が熊本県でも現在の仕事は可能だと考えている割合が多い。(統計的な有意差が現れるまでではない。)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=292)	146	63	25	35	23
男性(n=129)	40	38	23	18	10
答えたくない(n=1)	1				
総計(n=422)	187	101	48	53	33



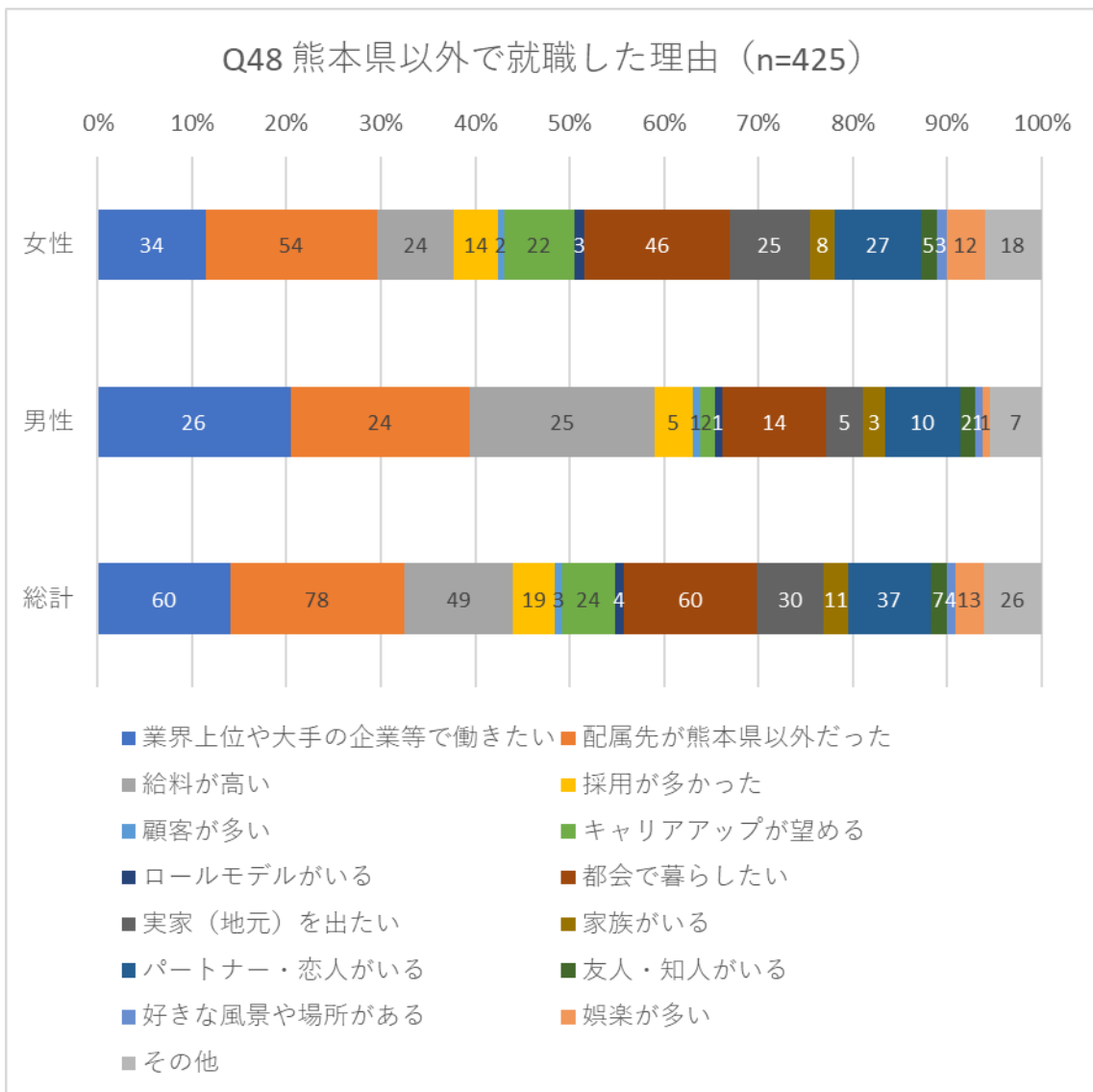
### ③ 熊本県以外で就職した理由 (Q48)

就職を機に熊本県外に転出した者に対して、熊本県以外で就職した最も大きな理由についてたずねた設問では、「配属先が熊本県以外だった」(78件、18%)、「業界上位や大手の企業等で働きたい」(60件、14%)、「都会で暮らしたい」(60件、14%)、「給料が高い」(49件、11%) などの回答が多かった。

男女別に見ると、男性は「業界上位や大手の企業等で働きたい」、「給料が高い」などが女性よりも高い一方、女性は「都会で暮らしたい」が多くなっている。

その他の記述欄では、「求人がなかったため」という意見が多くなっている。自分の希望に合う採用が県外だったため、そちらで働くことを選択したということであろう。

	業界上位 や大手の 企業等で 働きたい	配属先が 熊本県以 外だった	給料が高 い	採用が多 かった	顧客が多 い	キャリア アップが 望める	ロールモ デルがい る	都会で暮 らしたい
女性(n=297)	34	54	24	14	2	22	3	46
男性(n=127)	26	24	25	5	1	2	1	14
答えたくない(n=1)								
総計(n=425)	60	78	49	19	3	24	4	60
	実家（地 元）を出 たい	家族がい る	パート ナー・恋 人がいる	友人・知 人がいる	好きな風 景や場所 がある	娯楽が多 い	その他	
女性(n=297)	25	8	27	5	3	12	18	
男性(n=127)	5	3	10	2	1	1	7	
答えたくない(n=1)							1	
総計(n=425)	30	11	37	7	4	13	26	





### 3. 県外・社会人に対するアンケート結果の小括

県外に居住する社会人に対して、熊本県への移住定住の促進に向けてどのようなアプローチが有効か、いくつかのアンケート結果から得られる示唆をあげておく。

#### (1) 熊本県に戻ることを検討している者のイメージ

Q35 の【参考】に示したとおり、熊本県に戻ることを検討している者のイメージは概ね以下のようなになると考えられる。

- 「年齢は 20 代後半～30 代前半、女性、まだ子どもはいない、現在の職場での勤労年数は 3-5 年程度、東京都または福岡県在住、帰省先や実家があり、熊本で子育てを考えている」

#### (2) 熊本の魅力のアピールについて

複数のアンケート項目の結果から、熊本県出身者の熊本に対する愛着は平均と比して非常に強いことが分かる。(Q23-e、Q30、Q34 など)

Q31 に見られるとおり、熊本県のポジティブイメージとして「自然豊かな環境」があげられている。このような熊本県のイメージを、都市圏に居住している熊本県出身者にタイムリーに提供するための方策の検討が必要であろう。

#### (3) ターゲットとしやすい層

Q10、Q41 などからは、医療・福祉職が働きかけやすい層であることが示唆される。医療・福祉職の勤務先については熊本県も充実しているため、雇用の懸念点についても解消されやすいことが Q39 から分かる。

対象者の居住地としては福岡県が考えられる (Q16)。福岡県在住者については距離的に近いこともあり、心理的障壁が低くなる可能性が高い。

さらに、「熊本での子育て」について関心が高いことも Q42 から確認された。子育て環境が整っていること (Q36)、家族・身内の支援が期待されていること (Q44) などに鑑みれば、「地元に戻って親の近くでのびのび子育てを行う」というイメージを基調とした働きかけが移住定住促進に有効な手段となろう。

#### (4) アンコンシャスバイアスについて

性別役割分担意識については Q25-26 でたずねているが、その他の自由記載欄においても「男尊女卑」などの言葉が散見される。女性には「地域の強い人間関係が面倒」という意識も見られる (Q32)。このようなアンコンシャスバイアスを低減し、男女共同参画社会を実現していくことが必要である。

## III-2 UIJ ターン者に対するアンケート

### 1. アンケートについて

#### (1) アンケートの目的

熊本県出身または一度県外に転出し再度熊本に戻った者、または他県出身で熊本県に居住する者について、県外への転出理由、なぜ熊本県に戻ったのか、どのような支援があれば熊本県への移住を検討するか等について意向調査を行うことにより、熊本県における女性の住みたくなる地域づくりのための施策立案の一助とする。

#### (2) 検定手法及びグラフの表示について

集計において男女別に差があるものについて統計手法（カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定、マンホイットニーのU検定等）による有意差の検定を行った。

グラフについては、男女に特徴的な差がある項目については男女別に分けて表示した。逆に、男女に有意な差が無いものについては総数のみのグラフとしている。

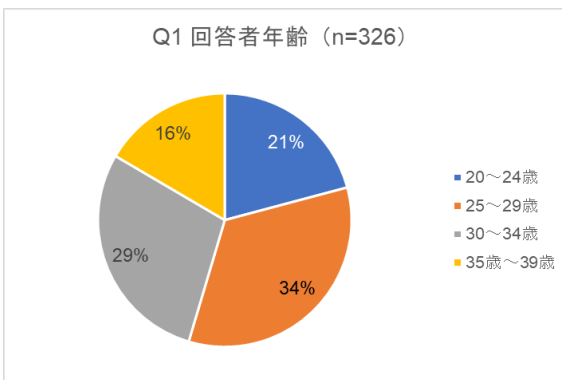
### 2. 設問毎の結果概要

#### (1) 回答者性別・年齢 (Q1-2)

##### ① 回答者年齢 (Q1)

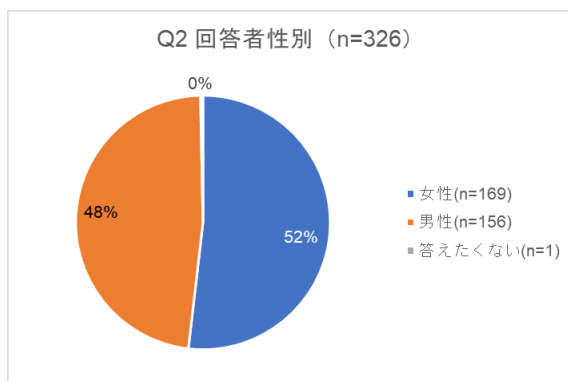
回答者の年齢階層については20代が54%、30代が46%となっている。

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳～39歳
女性(n=169)	46	60	41	22
男性(n=156)	21	50	53	32
答えたくない(n=1)	1			
総計(n=326)	68	110	94	54



## ② 回答者性別 (Q2)

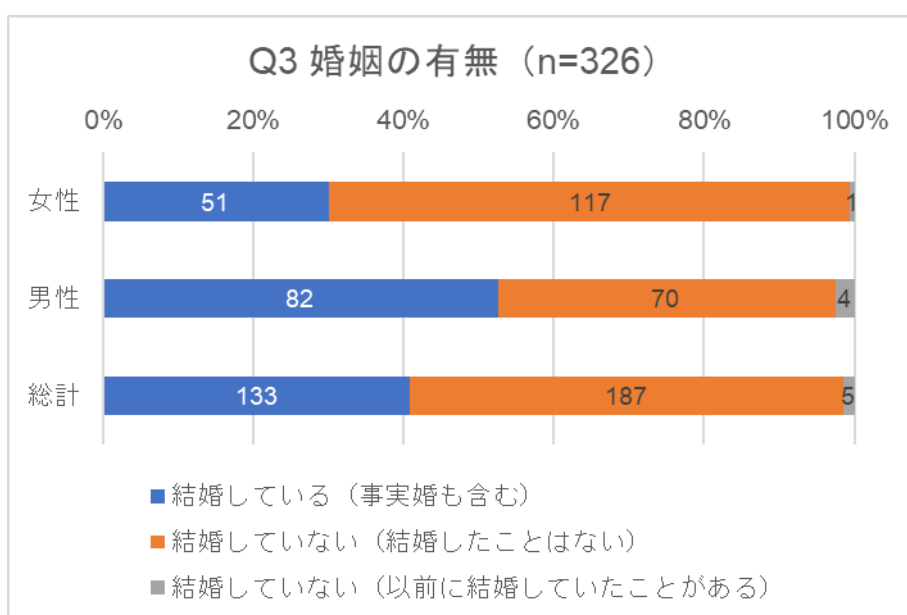
回答者の性別は女性 169 名、男性 156 名、答えたくない 1 名で、男女ほぼ半々となっている。



## (2) 婚姻について (Q3)

回答者のうち、既婚者が 41%、未婚者が 59%となっている。男女別では、特に女性に未婚との回答が多い。

	結婚している (事実婚も含む)	結婚していない (結婚したことはない)	結婚していない (以前に結婚していたことがある)	答えたくない
女性(n=169)	51	117	1	
男性(n=156)	82	70	4	
答えたくない(n=1)				1
総計(n=326)	133	187	5	1

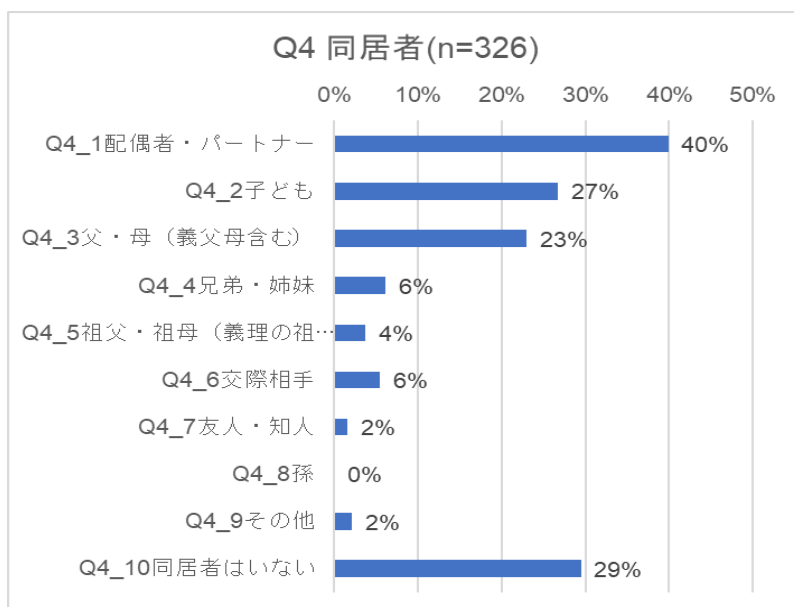


### (3) 同居者および同居の子どもについて (Q4-6)

#### ① 同居者について (Q4)

同居者のうち最も多いのは「配偶者」であり、回答者全体の40%が配偶者と同居していると回答している。次に多いのは「子ども」の27%、「父母」の23%となっている。県外居住者と異なり、UIターン者は父母（義父母）と同居している割合が多いのが特徴である。同居者のいない「単身」で住んでいると回答した者は全体の29%を占めている。

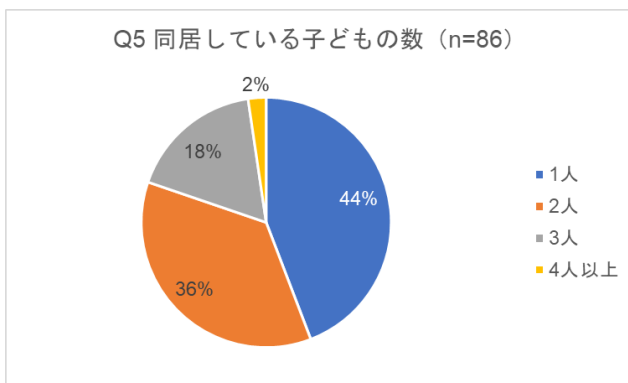
	Q4_1配偶者・パートナー	Q4_2子ども	Q4_3父・母	Q4_4兄弟・姉妹	Q4_5祖父・祖母
女性(n=169)	50	35	35	10	8
男性(n=156)	80	52	40	10	4
答えたくない(n=1)					
総計(n=326)	130	87	75	20	12
	Q4_6交際相手	Q4_7友人・知人	Q4_8孫	Q4_9その他	Q4_10同居者はいない
女性(n=169)	9	5		5	62
男性(n=156)	9			1	34
答えたくない(n=1)				1	
総計(n=326)	18	5		7	96



#### ② 同居している子どもの数 (Q5)

子どもと同居していると回答した者について、同居している子どもの数を聞いたところ、1人が44%、2人が36%、3人が17%となった。また、4人以上いると回答した者も2%いた。

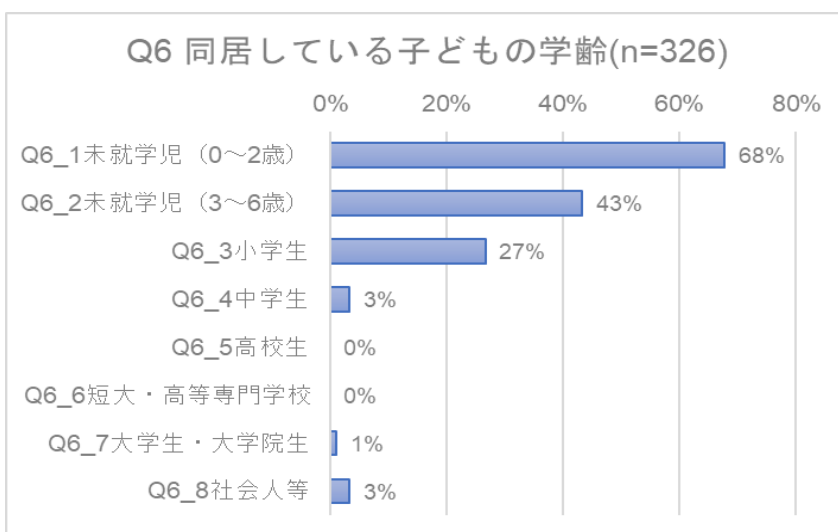
	1人	2人	3人	4人以上
女性	17	12	4	1
男性	21	19	11	1
答えたくない(n=1)				
総計	38	31	15	2



### ③ 子どもの学齢 (Q6)

同居している子どもの学齢についてたずねた Q6 では、「未就学児 (0-2 歳)」と答えた世帯が 68% と最も多くなった。回答は「未就学児 (3-6 歳)」、「小学生」までに集中しているが、これは今回のアンケートの対象者が 20 代～30 代という比較的若い層だったためと考えられる。

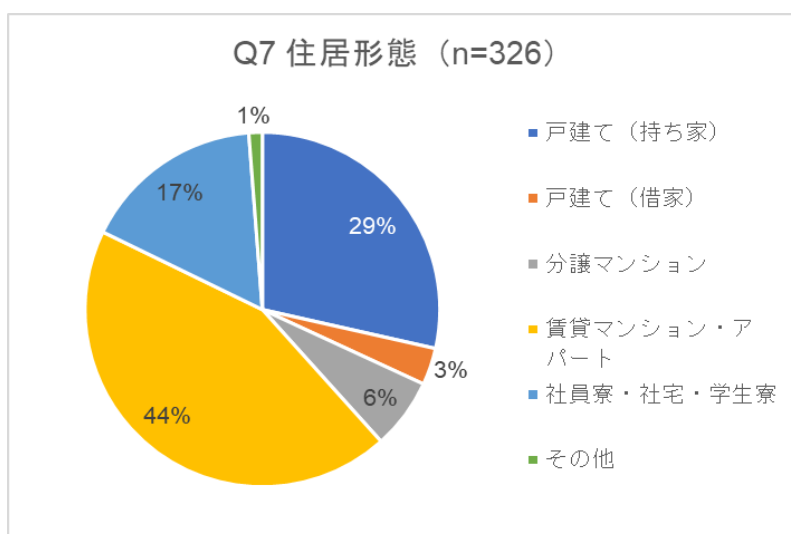
	Q6_1未就学児 (0～2歳)	Q6_2未就学児 (3～6歳)	Q6_3小学生	Q6_4中学生	Q6_5高校生	Q6_6短大・高等専門学校	Q6_7大学生・大学院生	Q6_8社会人等	Q6_9その他
女性(n=169)	21	18	8	2				1	2
男性(n=156)	40	21	16	1			1	2	
答えたくない(n=1)								0	
総計(n=326)	61	39	24	3			1	3	2



#### (4) 住居形態 (Q7)

住居形態については44%が「賃貸マンション・アパート」、29%が「戸建て (持ち家)」に住んでいる。県外者向けのアンケートでは戸建ての割合が13%だったのに対し、UIJターナーは戸建てが多くなっている。

	戸建て (持ち家)	戸建て (借家)	分譲マンション	賃貸マンション・アパート	社員寮・社宅	その他
女性	42	4	9	83	31	
男性	51	7	12	60	22	4
答えたくない(n=1)					1	
総計	93	11	21	143	54	4



#### (5) 自身と配偶者の就労状況 (Q8-9)

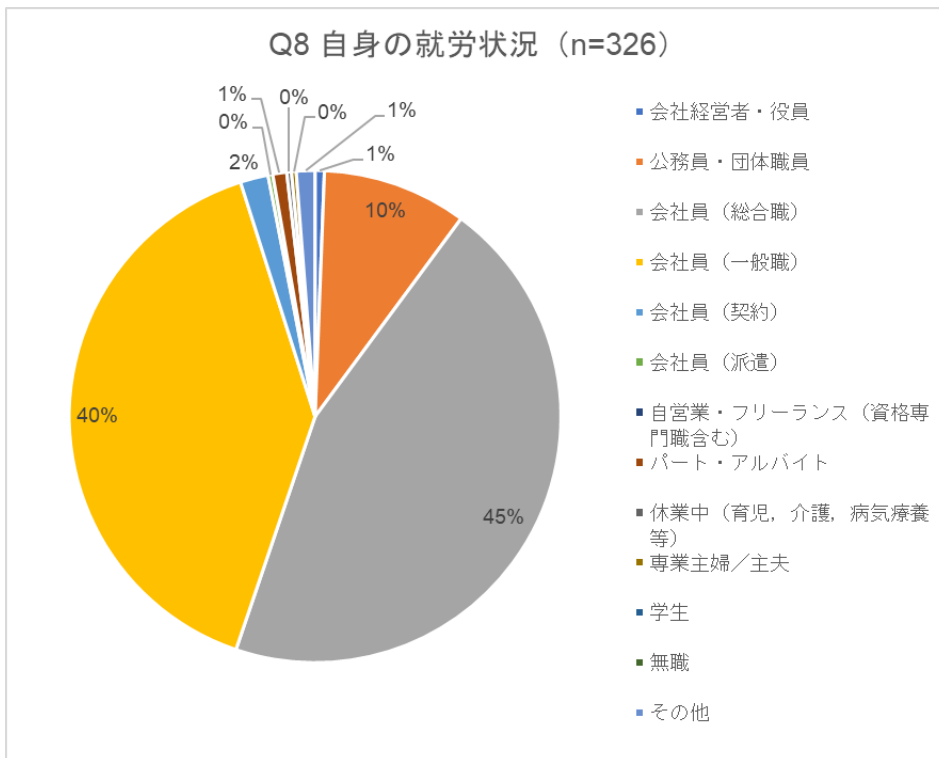
##### ① 自身の就労状況 (Q8)

自身の就労状況については、45%が「会社員 (総合職)」、40%が「会社員 (一般職)」、10%が「公務員・団体職員」と回答している。いわゆる正規雇用として働く者 (公務員、総合職、一般職の合計) が全体に占める割合は95%に及ぶ。

なお、県外者向けアンケートで「会社員 (総合職)」と回答したのは26%であり、UIJターナー者 (45%) は県外者 (26%) に比して総合職という形で働く割合が有意に多い ( $p < 0.05$ )。また、「総合職で働く女性」の割合についても、県外アンケートでは24%のところ、UIJターナー者の場合は32%とこちらも有意に多くなっている ( $p < 0.05$ )。

総じて、県外者よりもUIJターナーの方が安定した雇用形態で働いている割合が高いといえよう。

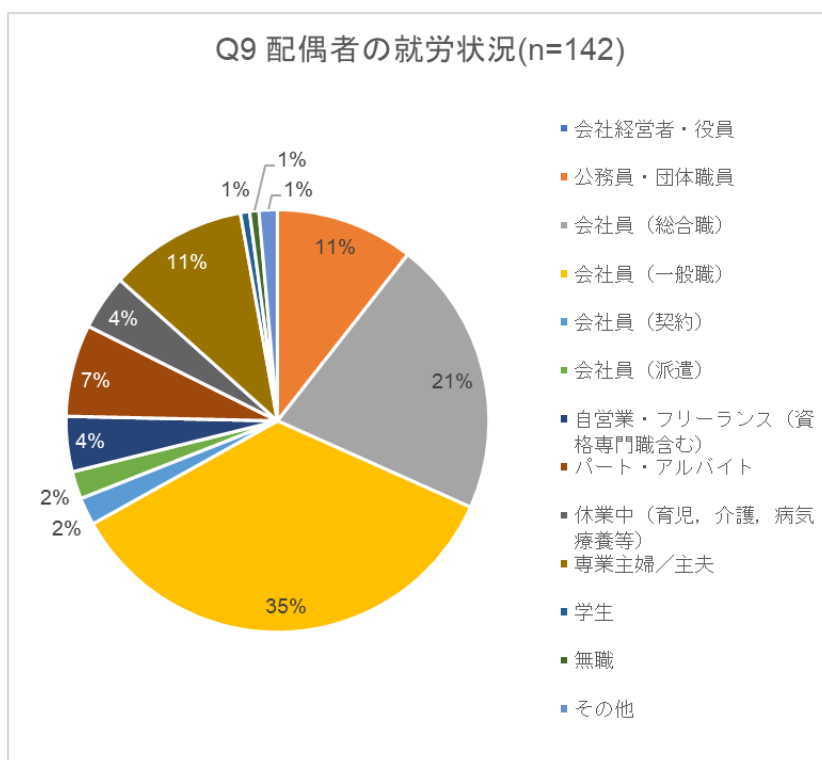
	会社経営者・役員	公務員・団体職員	会社員（総合職）	会社員（一般職）	会社員（契約）	会社員（派遣）
女性(n=169)		15	54	88	2	1
男性(n=156)	2	16	93	41	4	
答えたくない(n=1)				1		
総計(n=326)	2	31	147	130	6	1
	パート・アルバイト	休業中（育児，介護，病気療養等）	専業主婦／主夫	学生	無職	その他
女性(n=169)	3	1	1			4
男性(n=156)						
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	3	1	1			4



## ② 配偶者の就労状況 (Q9)

配偶者の就労状況については、「会社員（一般職）」（35%）が最も多く、次いで「会社員（総合職）」（21%）、「公務員・団体職員」（11%）、「専業主婦／主夫」（11%）となっている。

	会社経営者・役員	公務員・団体職員	会社員（総合職）	会社員（一般職）	会社員（契約）	会社員（派遣）	自営業・フリーランス（資格専門職含む）	パート・アルバイト	休業中（育児，介護，病氣療養等）	専業主婦／主夫	学生	無職	その他
女性(n=57)		10	17	23			3				1	1	2
男性(n=85)		5	13	27	3	3	3	10	6	15			
総計(n=142)		15	30	50	3	3	6	10	6	15	1	1	2



## (6) 現在の勤務について (Q10-12)

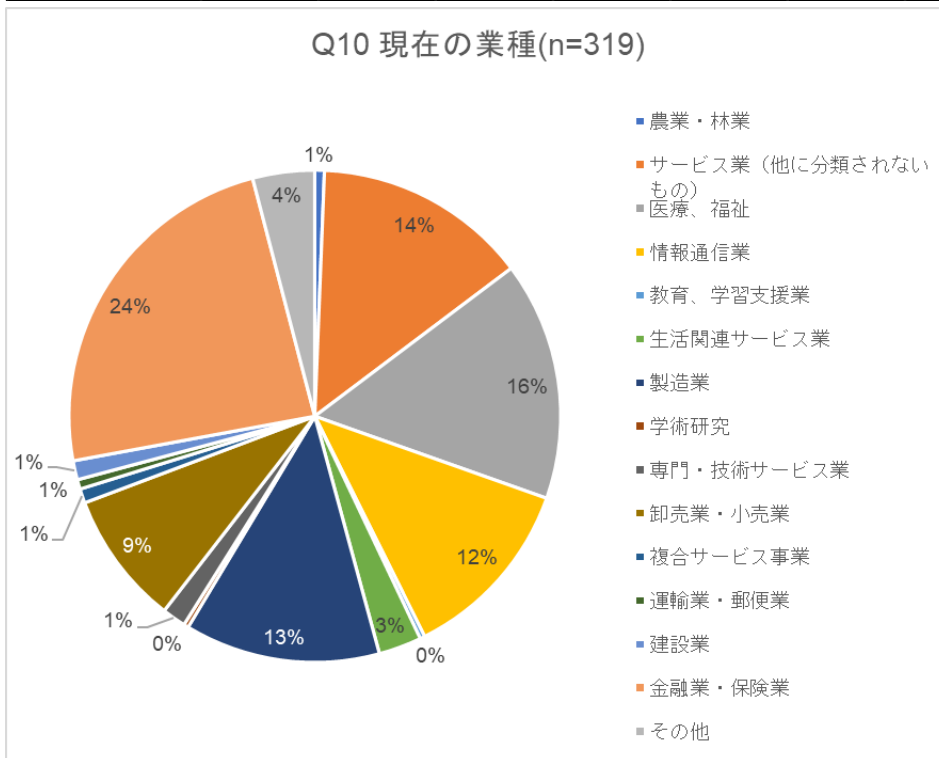
### ① 現在の業種 (Q10)

業種で最も多いのは「金融業・保険業」(24%)であり、次いで「医療、福祉」(16%)、「サービス業（他に分類されないもの）」(14%)、「製造業」(13%)、「情報通信業」(12%)などとなっている。

男女別で見ると、「医療、福祉」および「サービス業（他に分類されないもの）」は女性が、「金融業・保険業」、「製造業」及び「情報通信業」については男性が多い。



	農業・林業	サービス業 (他に分類 されないもの)	医療、福祉	情報通信業	教育、学習 支援業	生活関連 サービス業	製造業	学術研究
女性(n=165)	1	39	32	16		8	18	
男性(n=154)	1	6	18	23	1	1	23	1
総計(n=319)	2	45	50	39	1	9	41	1
	専門・技術 サービス業	卸売業・小 売業	複合サービ ス事業	運輸業・郵 便業	建設業	金融業・保 険業	その他	
女性(n=165)	3	13		1	1	28	5	
男性(n=154)	2	15	3	1	3	48	8	
総計(n=319)	5	28	3	2	4	76	13	

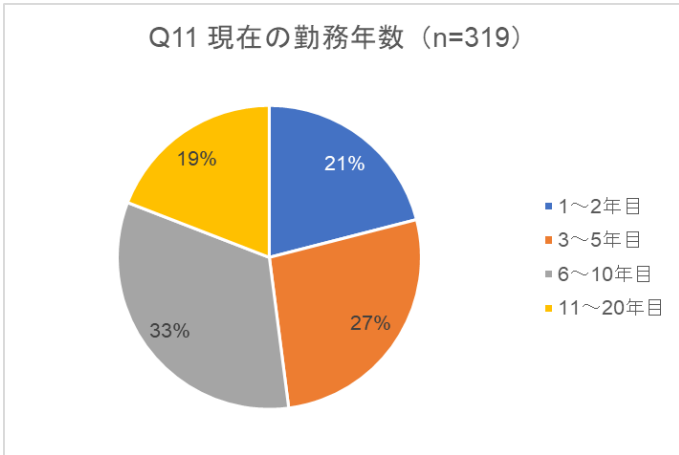


② 現在の勤務年数 (Q11)

UIターン者については、勤務年数は「6～10年目」(33%)が最も多く、次いで「3～5年目」(27%)となっている。

男女で比較してみると、勤務年数が短い「1～2年目」という回答については女性で有意に多くなる (p<0.05)。

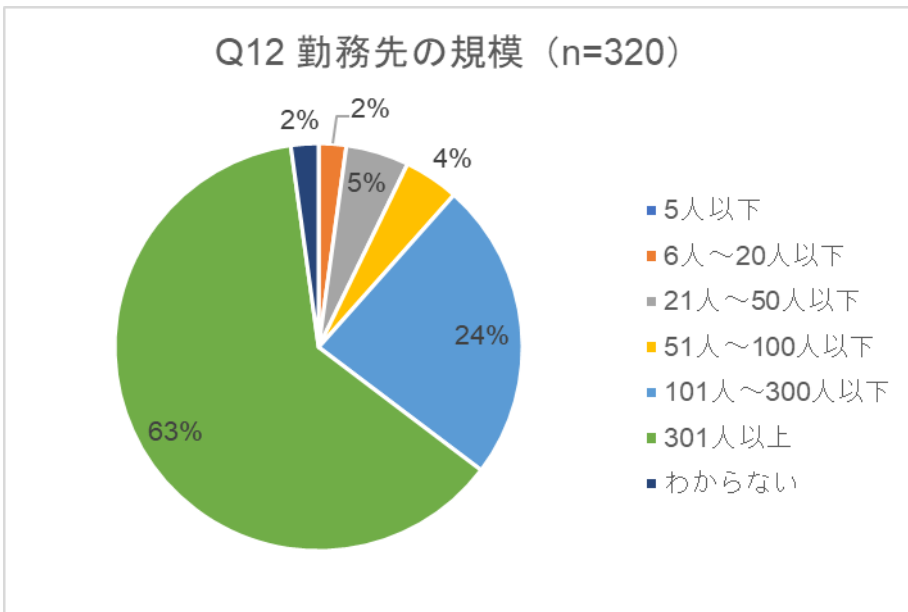
	1～2年目	3～5年目	6～10年目	11～20年目
女性(n=165)	43	45	49	30
男性(n=154)	24	41	56	31
総計(n=319)	67	86	105	61



③ 勤務先の規模 (Q12)

回答した者の63%が従業員300人以上の大企業で勤務している。男女別にみると、大企業に勤める者の割合が男性の方が大きいように見えるが、統計的には男女間に有意差は無い。

	5人以下	6人~20人以下	21人~50人以下	51人~100人以下	101人~300人以下	301人以上	わからない
女性(n=167)		6	11	8	32	105	5
男性(n=153)		1	5	6	44	95	2
総計(n=320)		7	16	14	76	200	7

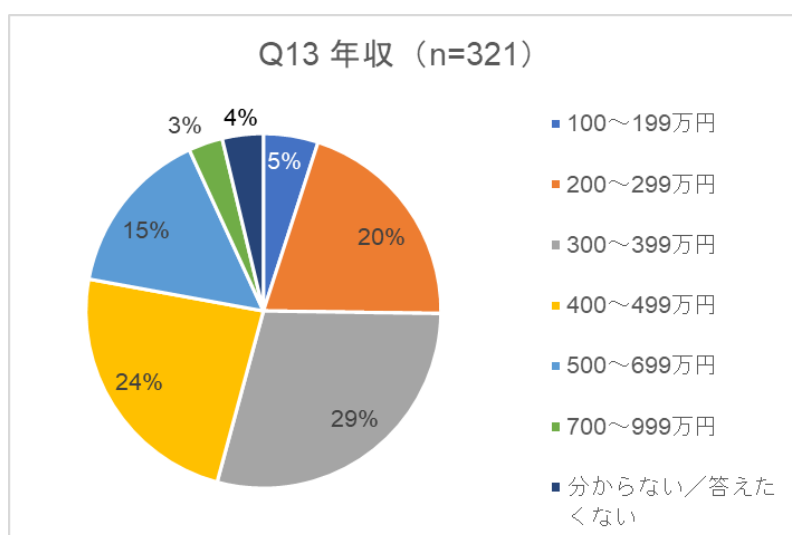


### (7) 現在の年収 (Q13)

現在の年収については、なし～300万円台（300-399万）までの低い所得層で54%と全体の半分以上を占める。こちらについては、県外者のアンケートにおける同様の設問の回答（49%）よりもその割合が大きく、やはり都市圏と比して年収が下がる傾向にある。

また、年収については男女差も大きい。300～400万円台については男女とも同程度だが、それを下回る額では女性の方が、超える額の年収では男性の方が有意に多くなっている。

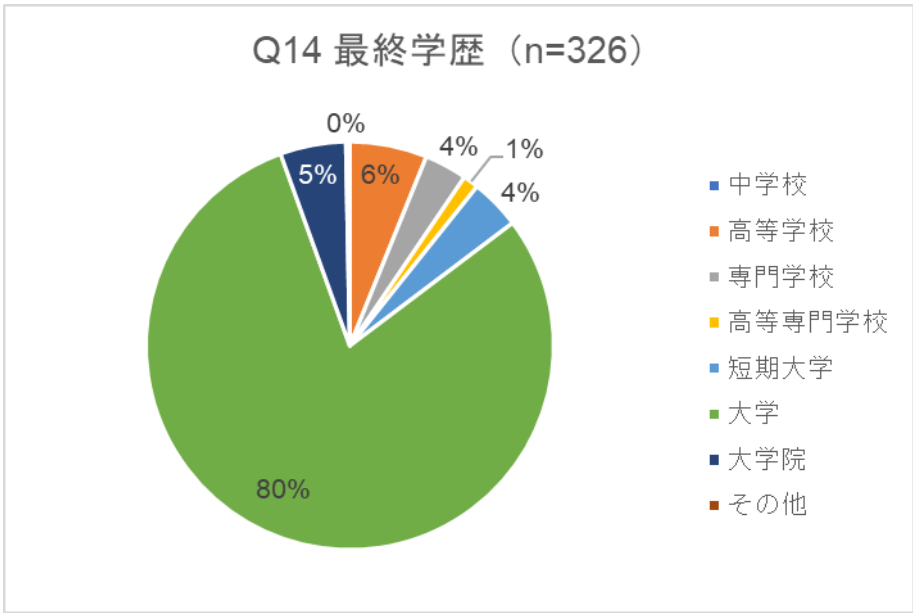
	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400～499万円	500～699万円	700～999万円	分からない／答えたくない
女性(n=167)	13	51	49	30	13	2	9
男性(n=154)	3	14	44	46	36	8	3
総計(n=321)	16	65	93	76	49	10	12



### (8) 最終学歴 (Q14)

最終学歴については80%が大卒となっている。県外者アンケートの同様の設問に占める大卒の割合が59%であることを考えると、「比較的高学歴の者が県外から熊本県に戻ってきて働いている」という傾向が分かる。

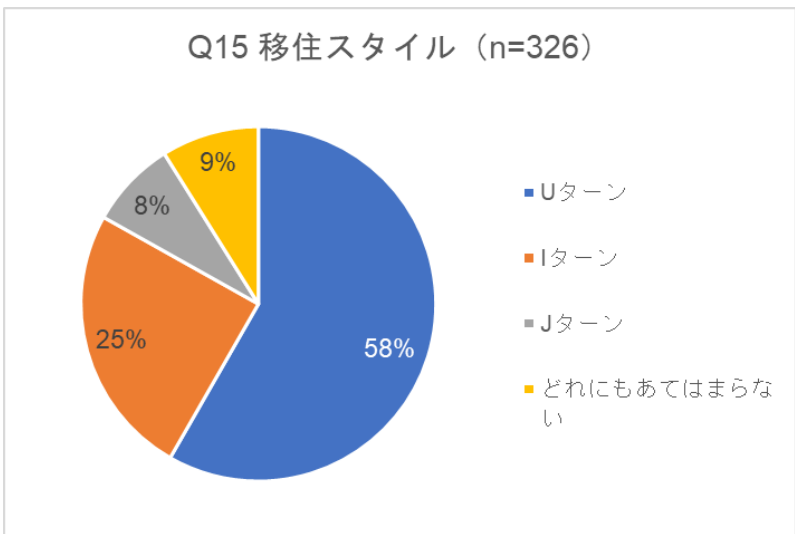
	中学校	高等学校	専門学校	高等専門学校	短期大学	大学	大学院	その他
女性(n=169)		13	7	2	12	128	6	1
男性(n=156)		7	4	2	1	131	11	
答えたくない(n=1)						1		
総計(n=326)		20	11	4	13	260	17	1



(9) 移住スタイル (Q15)

移住形態については、熊本県出身者が熊本県に戻る「Uターン」が58%、他県出身者が熊本県に来る「Iターン」が25%、他県出身者が一度出身地以外の都道府県に移動してから熊本県に来る「Jターン」が8%となっている。

	Uターン	Iターン	Jターン	どれにもあてはまらない
女性(n=169)	83	47	20	19
男性(n=156)	107	33	6	10
答えたくない(n=1)		1		
総計(n=326)	190	81	26	29

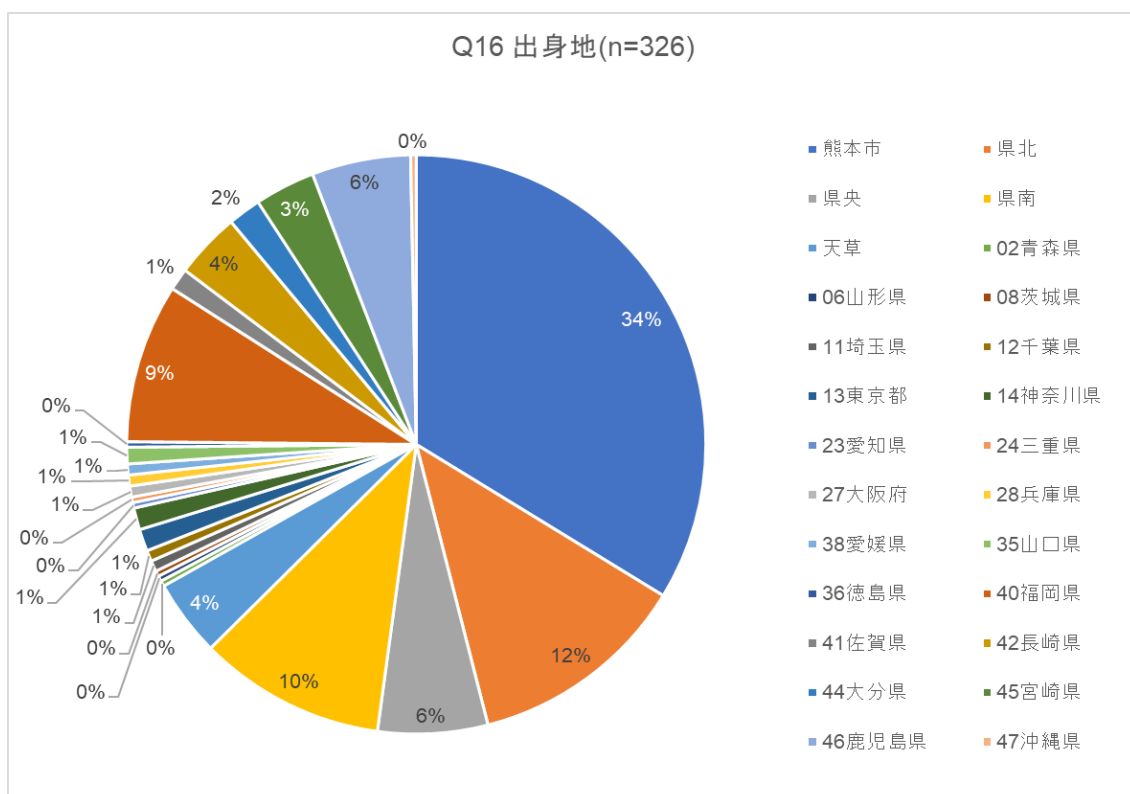


## (10) 居住地 (Q16-17)

### ① 出身地 (Q16)

出身地については熊本市出身 (Uターン) が 34% と 3 分の 1 程度になった。また、県外では福岡 (9%) や鹿児島 (6%) が多い。

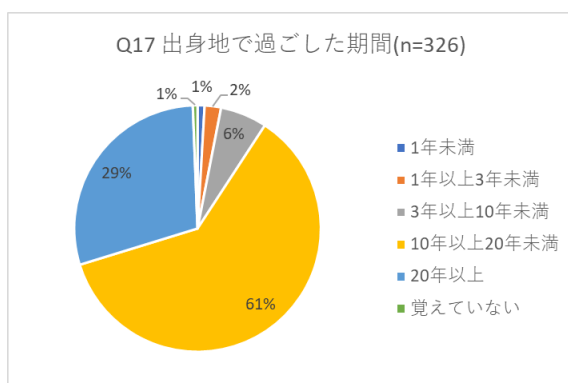
	熊本市	県北	県央	県南	天草	02青森県	06山形県	08茨城県	11埼玉県
女性(n=169)	52	15	5	20	8		1		2
男性(n=156)	57	25	15	14	6	1		1	
答えたくない(n=1)	1								
総計(n=326)	110	40	20	34	14	1	1	1	2
	12千葉県	13東京都	14神奈川県	23愛知県	24三重県	27大阪府	28兵庫県	38愛媛県	35山口県
女性(n=169)	2	1	2	1	1		2		3
男性(n=156)		3	2			2		2	
答えたくない(n=1)									
総計(n=326)	2	4	4	1	1	2	2	2	3
	36徳島県	40福岡県	41佐賀県	42長崎県	44大分県	45宮崎県	46鹿児島県	47沖縄県	
女性(n=169)		19	4	9	4	8	10		
男性(n=156)	1	10		3	2	3	8	1	
答えたくない(n=1)									
総計(n=326)	1	29	4	12	6	11	18	1	



② 出身地で何年過ごしたか (Q17)

出身地で過ごした年数については、「10年以上20年未満」が61%、「20年以上」が29%と、長期間出身地で過ごした者が多い。

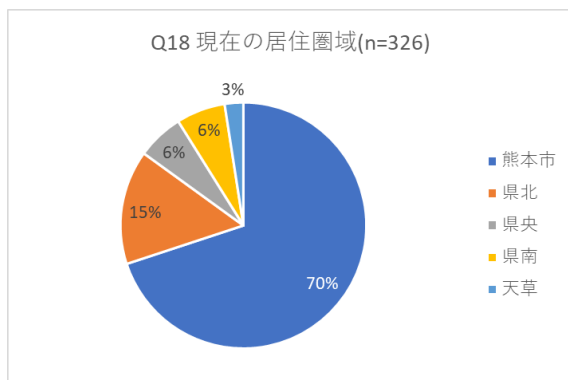
	1年未満	1年以上3年未満	3年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	覚えていない
女性(n=169)		5	11	100	52	1
男性(n=156)	2	2	9	99	43	1
答えたくない(n=1)	1					
総計(n=326)	3	7	20	199	95	2



③ 現在の居住圏域 (Q18)

現在の居住圏域については、「熊本市」が70%と最も多く、次いで「県北」の15%となっている。

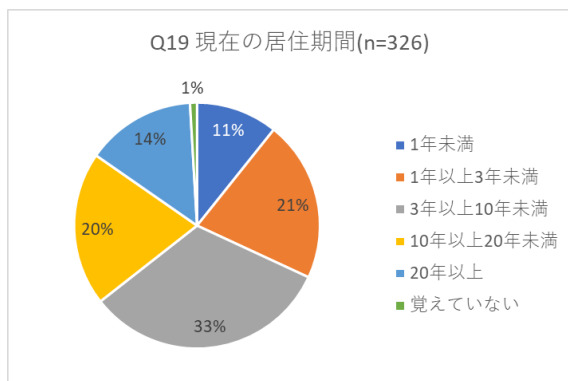
	熊本市	県北	県央	県南	天草
女性(n=169)	122	23	8	11	5
男性(n=156)	105	26	12	10	3
答えたくない(n=1)	1				
総計(n=326)	228	49	20	21	8



④ 居住期間 (Q19)

現在の居住地での居住期間については、「3年以上10年未満」が33%と最も多く、「1年以上3年未満」の21%が続く。また、10年以上住んでいる者も20%いる。

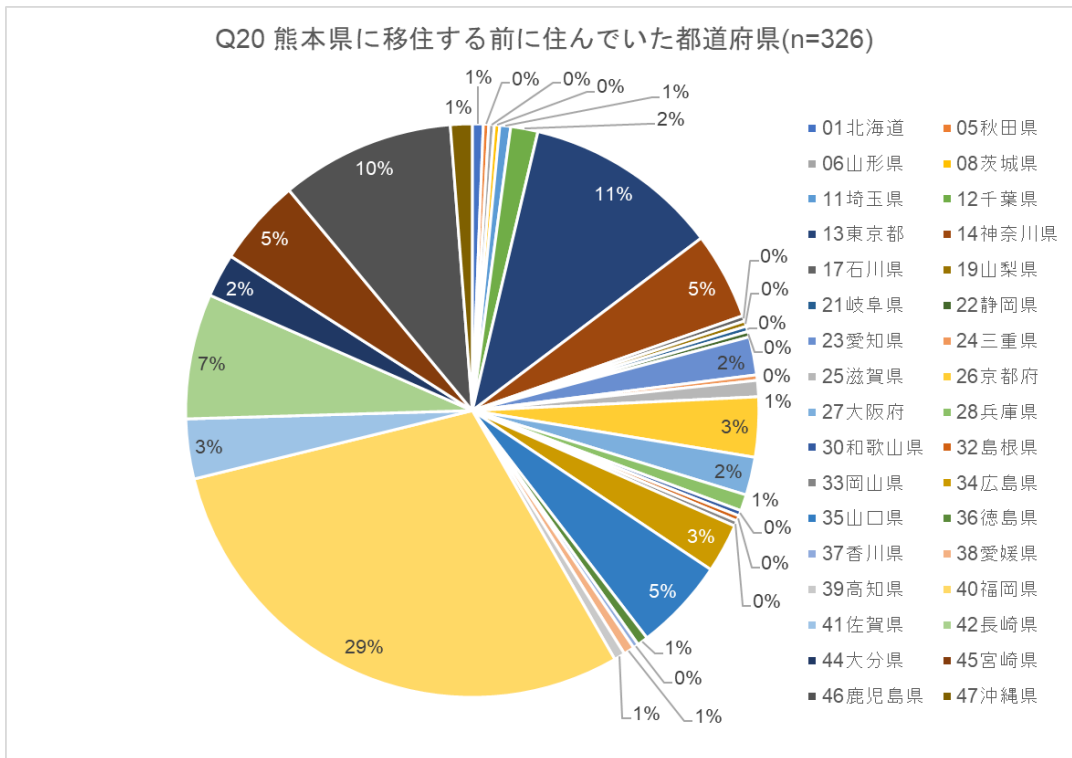
	1年未満	1年以上3年未満	3年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	覚えていない
女性(n=169)	17	37	56	32	24	3
男性(n=156)	17	32	50	34	23	
答えたくない(n=1)	1					
総計(n=326)	35	69	106	66	47	3



⑤ 熊本県に移住する前に住んでいた都道府県 (Q20)

熊本県に移住する前に住んでいた都道府県については「福岡県」が29%と最も多く、次いで「東京都」の11%、「鹿児島県」の10%と続く。熊本県に隣接する大都市圏である福岡県からの移住者が多いことが分かる。

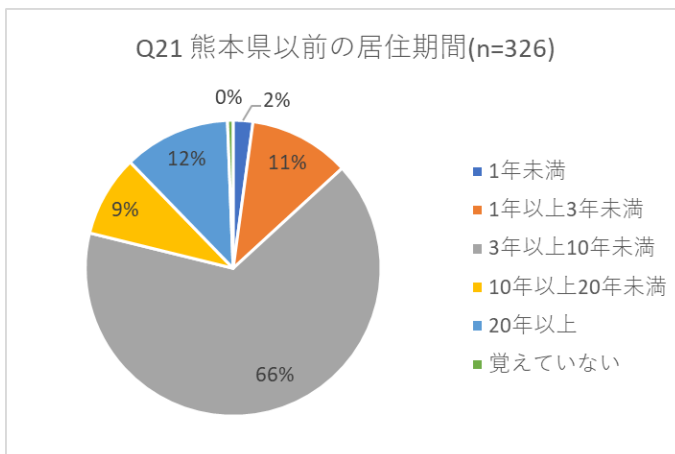
	01北海道	05秋田県	06山形県	08茨城県	11埼玉県	12千葉県	13東京都	14神奈川県	17石川県
女性(n=169)	2	6	18		1	5	1	134	2
男性(n=156)		20	12	4		3		117	
答えたくない(n=1)								1	
総計(n=326)	2	1	1	1	2	5	36	16	1
	19山梨県	21岐阜県	22静岡県	23愛知県	24三重県	25滋賀県	26京都府	27大阪府	28兵庫県
女性(n=169)									
男性(n=156)									
答えたくない(n=1)									
総計(n=326)	1	1	1	7	1	3	11	7	3
	30和歌山県	32島根県	33岡山県	34広島県	35山口県	36徳島県	37香川県	38愛媛県	39高知県
女性(n=169)									
男性(n=156)									
答えたくない(n=1)									
総計(n=326)	1	1	1	9	17	2	1	2	2
	40福岡県	41佐賀県	42長崎県	44大分県	45宮崎県	46鹿児島県	47沖縄県		
女性(n=169)									
男性(n=156)									
答えたくない(n=1)									
総計(n=326)	96	11	23	8	16	32	4		



⑥ 熊本県に移住する前に住んでいた都道府県での居住期間 (Q21)

熊本県に移住する前に住んでいた都道府県で何年暮らしたかについては、「3年以上10年未満」が最も多く66%と3分の2を占める。次いで、「20年以上」の12%、「1年以上3年未満」の11%、「1年以上3年未満」の11%と続く。

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	覚えていない
女性(n=169)	3	21	105	15	24	1
男性(n=156)	3	15	109	14	14	1
答えたくない(n=1)	1					
総計(n=326)	7	36	214	29	38	2

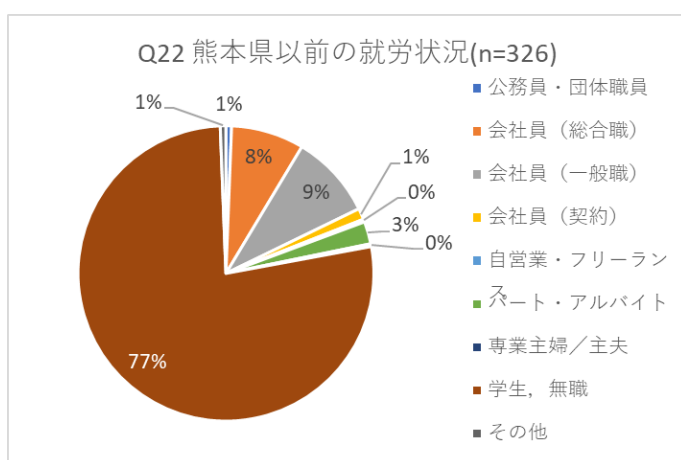




⑦ 熊本県に移住する前に住んでいた都道府県での就労状況 (Q22)

熊本県に移住する前に住んでいた都道府県での就労状況については、77%と圧倒的多数を「学生、無職」が占める。前設問と本設問から、「県外の大学を卒業した学生が熊本に就職する」というのがUIJターンの典型的なパターンの一つであることが見て取れる。

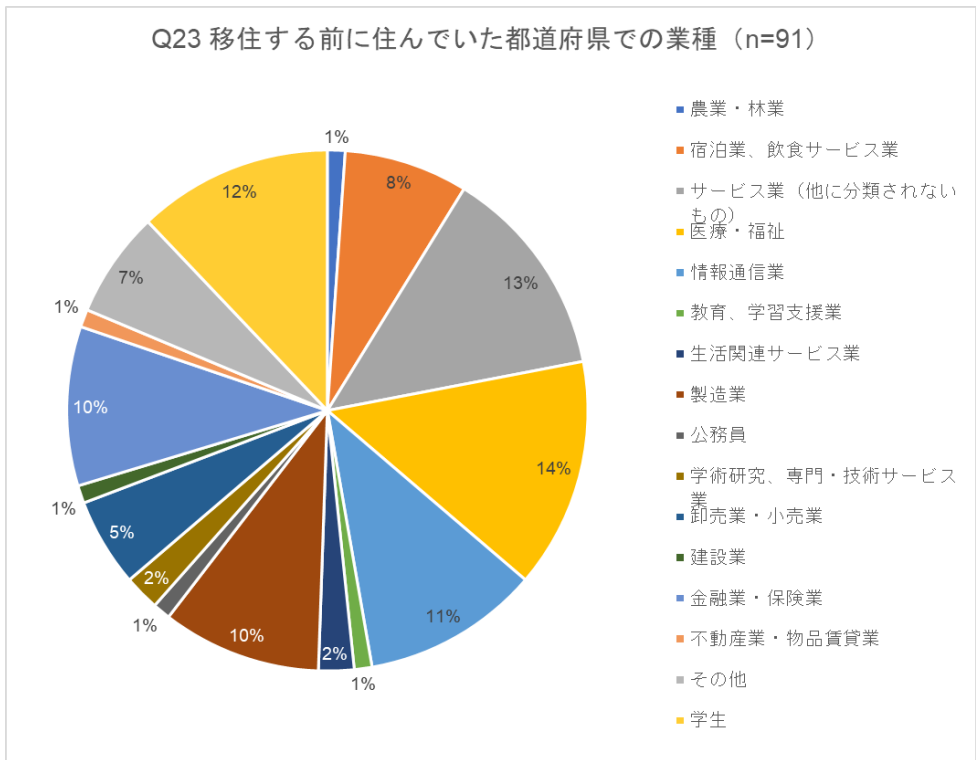
	公務員・ 団体職員	会社員 (総合 職)	会社員 (一般 職)	会社員 (契約)	自営業・フ リーランス (資格専門職 含む)	パート・ アルバイト	専業主婦 /主夫	学生、無 職	その他
女性(n=169)	2	6	18		1	5	1	134	2
男性(n=156)		20	12	4		3		117	
答えたくない(n=1)								1	
総計(n=326)	2	26	30	4	1	8	1	252	2



⑧ 熊本県に移住する前に住んでいた都道府県での業種 (Q23)

熊本県に移住する前に住んでいた都道府県での業種については、「医療・福祉」(14%)、「サービス業(その他)」(13%)、「情報通信業」(11%)などが多い。

	農業・林業	宿泊業、飲 食サービス 業	サービス業 (他に分類 されないも の)	医療・福祉	情報通信業	教育、学習 支援業	生活関連 サービス業	製造業
女性(n=44)	1	2	8	9	1		2	2
男性(n=46)		5	4	4	9			7
答えたくない(n=1)						1		
総計(n=91)	1	7	12	13	10	1	2	9
	公務員	学術研究	卸売業・小 売業	建設業	金融業・保 険業	不動産業・ 物品賃貸業	その他	学生
女性(n=44)	1	2	3		5		5	3
男性(n=46)			2	1	4	1	1	8
答えたくない(n=1)								
総計(n=91)	1	2	5	1	9	1	6	11

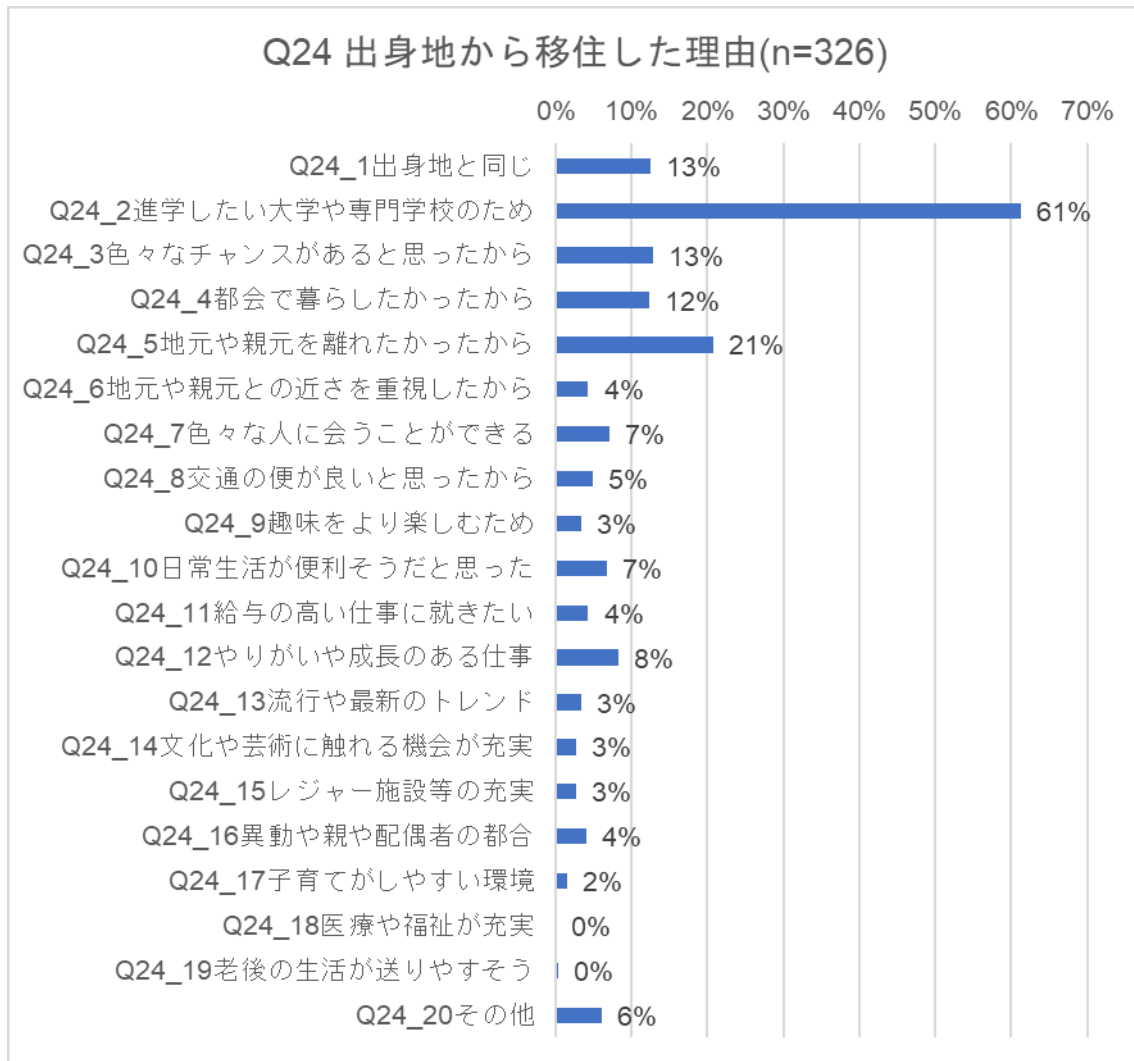


(10) 移住の理由 (Q24-27)

① 出身地から熊本県に移住する前に住んでいた都道府県に移住した理由 (Q24)

出身地から熊本県に移住する前に住んでいた都道府県に移住した理由については、「進学したい大学や専門学校のため」が61%と最も多く、次いで「地元や親元を離れたかったから」(21%)、「色々なチャンスがあると思ったから」(13%)、「出身地と熊本県に移住前に住んでいた都道府県は同じ」(13%)、「都会で暮らしたかったから」(12%)などが多くなっている。

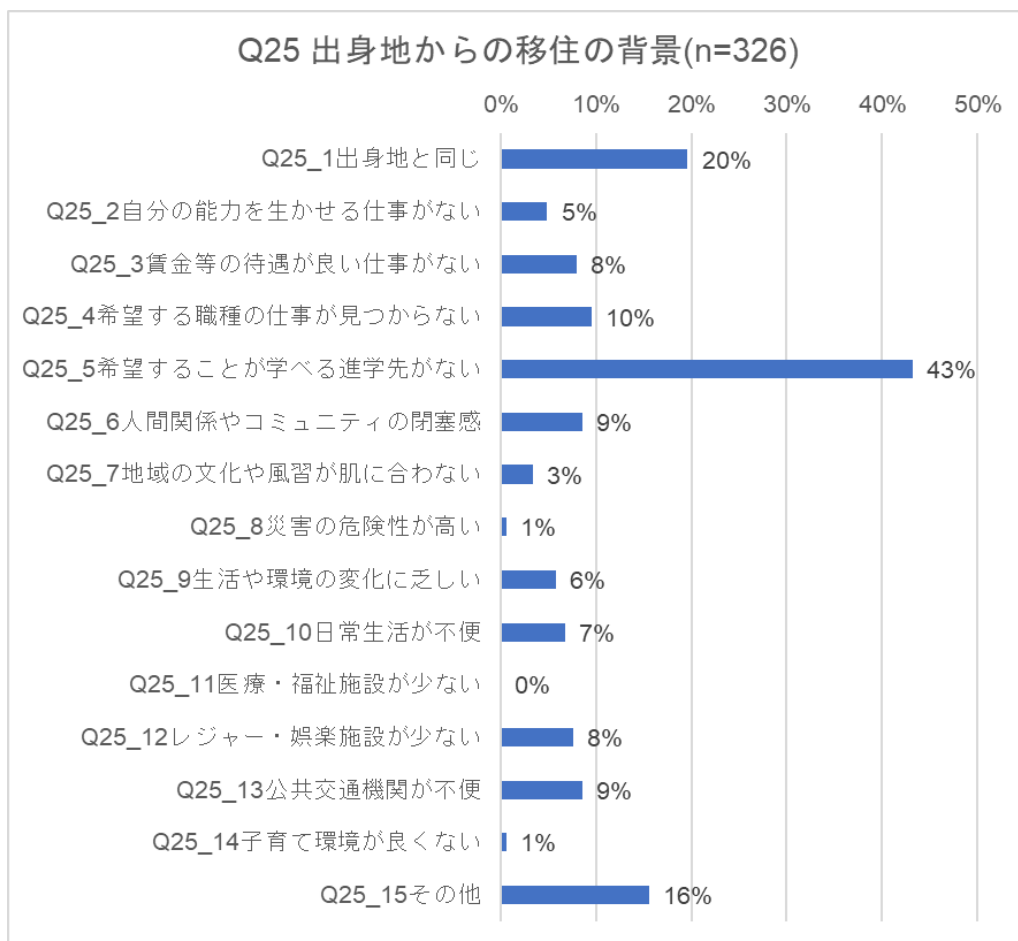
	Q24_1出身地と移住前に住んでいた都道府県は同じ	Q24_2進学したい大学や専門学校のため	Q24_3色々なチャンスがあると思ったから	Q24_4都会で暮らしたかったから	Q24_5地元や親元を離れたかったから	Q24_6地元や親元との近さを重視したから	Q24_7色々な人に会うことができると思ったから	Q24_8交通の便が良いと思ったから	Q24_9趣味をより楽しむため	Q24_10日常生活が便利そうだったから
女性(n=169)	21	103	19	20	37	7	12	9	6	14
男性(n=156)	20	97	23	20	31	7	11	7	5	8
答えたくない(n=1)										
総計(n=326)	41	200	42	40	68	14	23	16	11	22
	Q24_11給与の高い仕事に就きたい	Q24_12やりがいや成長のある仕事に就きたい	Q24_13流行や最新のトレンドを手しやすい	Q24_14文化や芸術に触れる機会が充実	Q24_15レジャー施設などが充実している	Q24_16異動や親や配偶者の都合	Q24_17子育てがしやすい環境	Q24_18医療や福祉が充実している	Q24_19老後の生活が送りやすい	Q24_20その他
女性(n=169)	5	13	5	4	5	6	2			13
男性(n=156)	9	14	6	5	3	7	3		1	7
答えたくない(n=1)					1					
総計(n=326)	14	27	11	9	9	13	5		1	20



② 出身地から他県に移住することを選択した背景となった事情 (Q25)

出身地から他県を選択した背景については、「希望することが学べる進学先がないこと」が43%と最も多かった。また、移住していない者（出身地と熊本県に移住前に住んでいた都道府県は同じと回答した者）も20%いた。

	Q24_1出身地と移住前に住んでいた都道府県は同じ	Q25_2自分の能力を生かせる仕事が見つからない	Q25_3賃金等の待遇が良い仕事が見つからない	Q25_4希望する職種の仕事が見つからない	Q25_5希望することが学べる進学先がない	Q25_6人間関係やコミュニティに閉塞感がある	Q25_7地域の文化や風習が肌に合わない	Q25_8災害の危険性が高い
女性(n=169)	30	3	6	13	76	18	6	
男性(n=156)	34	13	20	18	64	10	5	2
答えたくない(n=1)					1			
総計(n=326)	64	16	26	31	141	28	11	2
	Q25_9生活や環境の変化に乏しい	Q25_10日常生活が不便	Q25_11医療・福祉施設が少ない	Q25_12レジャー・娯楽施設が少ない	Q25_13公共交通機関が不便	Q25_14子育て環境が良くない	Q25_15その他	
女性(n=169)	8	12		14	19		32	
男性(n=156)	11	10		11	9	2	19	
答えたくない(n=1)								
総計(n=326)	19	22		25	28	2	51	

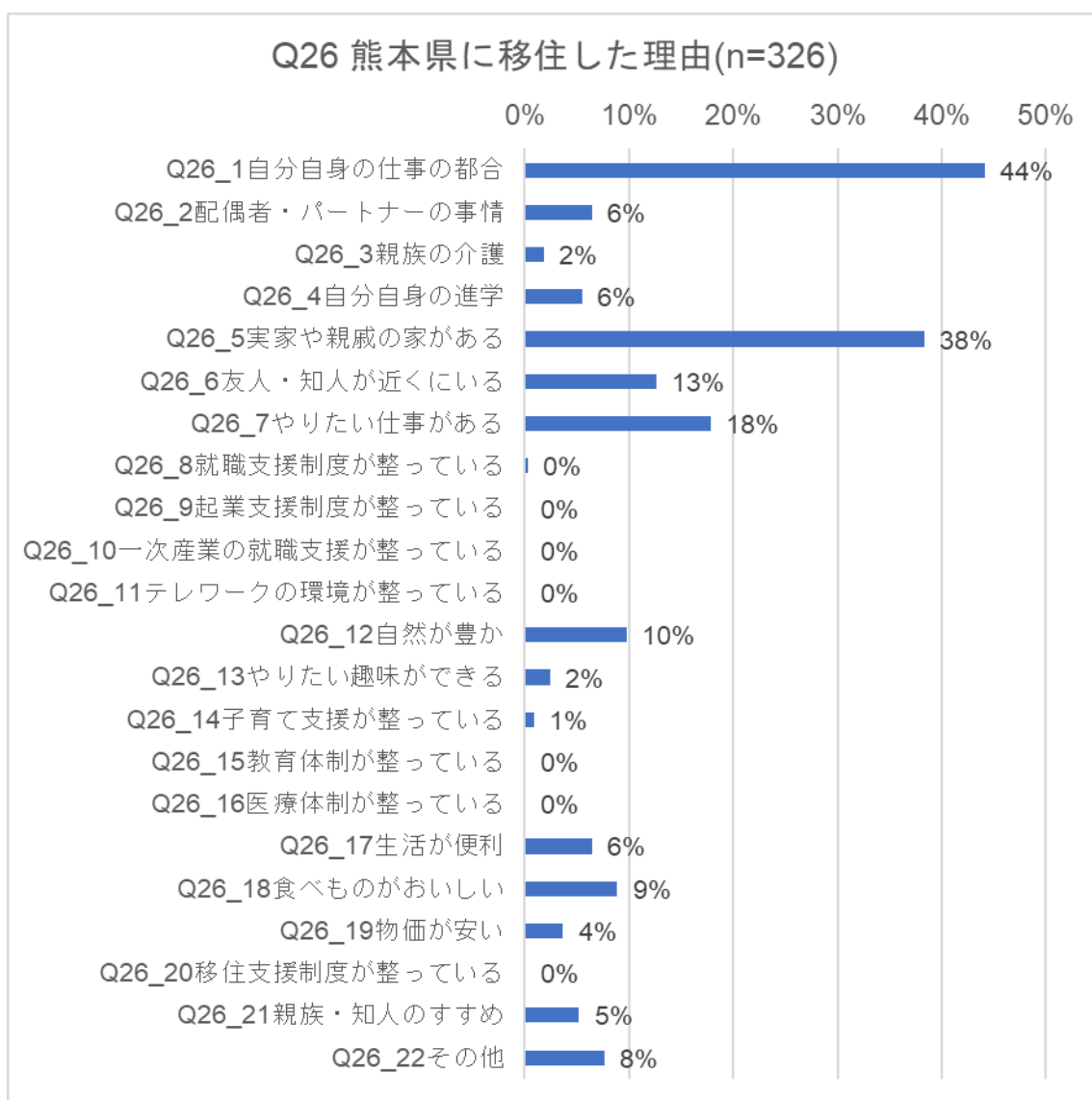


③ 熊本県に移住した理由 (Q26)

熊本県に移住した目的や理由については、「自分自身の仕事の都合」が44%と最も多く、次いで「実家や親戚の家がある」38%となった。

その他の回答としては、「地元だから」、「実家に近くなるから」などの他、「水がおいしい」といった回答もあった。

	Q26_1自分自身の仕事の都合	Q26_2配偶者・パートナーの事情	Q26_3親族の介護	Q26_4自分自身の進学	Q26_5実家や親戚の家がある	Q26_6友人・知人が近くにいる
女性(n=169)	73	12	3	9	60	25
男性(n=156)	70	9	3	9	65	16
答えたくない(n=1)	1					
総計(n=326)	144	21	6	18	125	41
	Q26_7やりたい仕事がある	Q26_8就職支援制度が整っている	Q26_9起業支援制度が整っている	Q26_10一次産業の就職支援が整っている	Q26_11テレワークの環境が整っている	Q26_12自然が豊かな
女性(n=169)	32					17
男性(n=156)	26	1				15
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	58	1				32
	Q26_13やりたい趣味ができる	Q26_14子育て支援が整っている	Q26_15教育体制が整っている	Q26_16医療体制が整っている	Q26_17生活が便利	
女性(n=169)	3	1			11	
男性(n=156)	5	2			10	
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	8	3			21	
	Q26_18食べものおいしい	Q26_19物価が安い	Q26_20移住支援制度が整っている	Q26_21親族・知人のすすめ	Q26_22その他	
女性(n=169)	16	3		9	17	
男性(n=156)	13	9		8	8	
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	29	12		17	25	

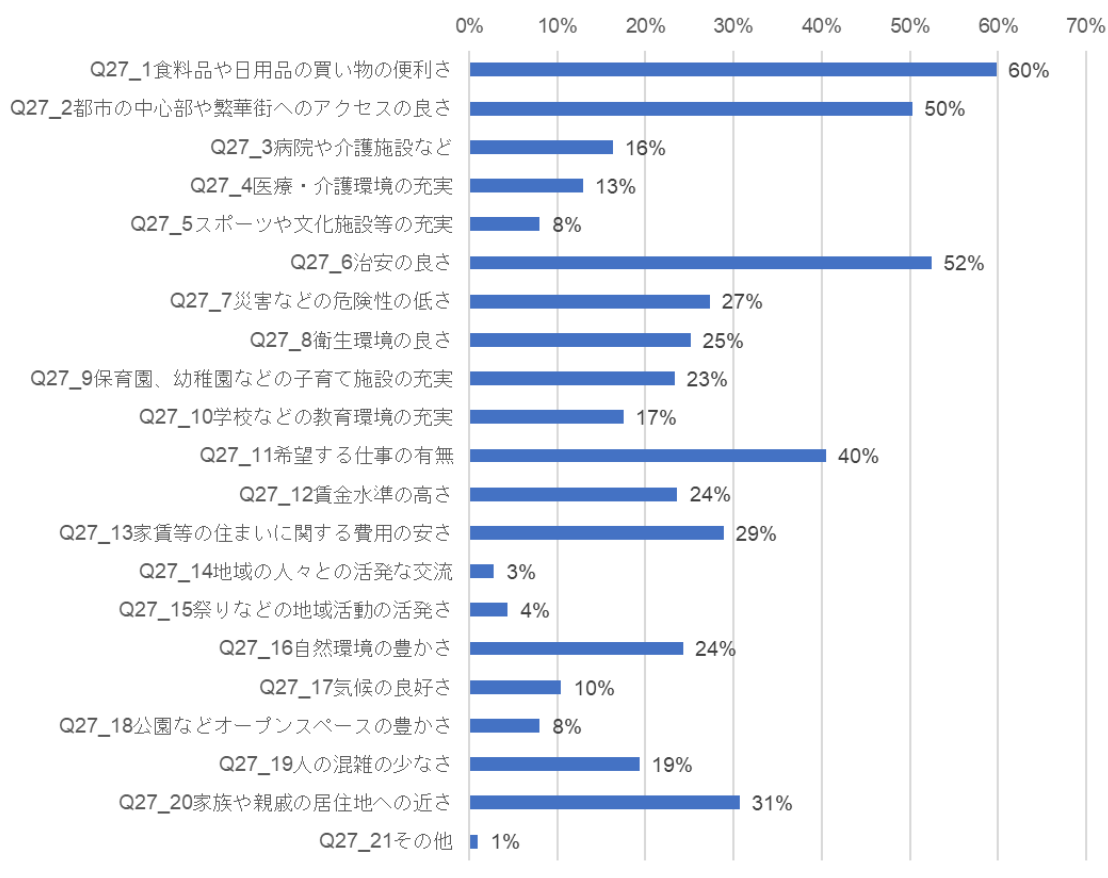


#### ④ 居住地を選択する際に重視すること (Q27)

居住地を選択する際に重視する点については、「食料品や日用品の買い物の便利さ」60%、「治安の良さ」53%、「都市の中心部や繁華街へのアクセスの良さ」50%、「希望する仕事の有無」41%などが高くなっている。県外者のアンケートで第3位の37%と高くなっていた「家賃等の住まいに関する費用の安さ」については、29%と相対的に下がっている。

	Q27_1食料品や日用品の買い物の便利さ	Q27_2都市の中心部や繁華街へのアクセスの良さ	Q27_3病院や介護施設など	Q27_4医療・介護環境の充実	Q27_5スポーツや文化施設等の充実	Q27_6治安の良さ	Q27_7災害（地震、風水害、土砂災害）などの危険性の低さ
女性(n=169)	108	91	28	21	9	109	48
男性(n=156)	86	72	24	20	16	61	40
答えたくない(n=1)	1	1	1	1	1	1	1
総計(n=326)	195	164	53	42	26	171	89
	Q27_8衛生環境の良さ	Q27_9保育園、幼稚園などの子育て施設の充実	Q27_10学校などの教育環境の充実	Q27_11希望する仕事の有無	Q27_12賃金水準の高さ	Q27_13家賃等の住まいに関する費用の安さ	Q27_14地域の人々との活発な交流
女性(n=169)	45	34	26	81	44	50	5
男性(n=156)	36	41	31	51	33	44	4
答えたくない(n=1)	1	1					
総計(n=326)	82	76	57	132	77	94	9
	Q27_15祭りなどの地域活動の活発さ	Q27_16自然環境の豊かさ	Q27_17気候の良好さ	Q27_18公園などオープンスペースの豊かさ	Q27_19人の混雑の少なさ	Q27_20家族や親戚の居住地への近さ	Q27_21その他
女性(n=169)	8	42	21	17	33	61	0
男性(n=156)	6	37	13	9	29	39	3
答えたくない(n=1)					1		0
総計(n=326)	14	79	34	26	63	100	3

### Q27 居住地を選択する際に重視すること(n=326)

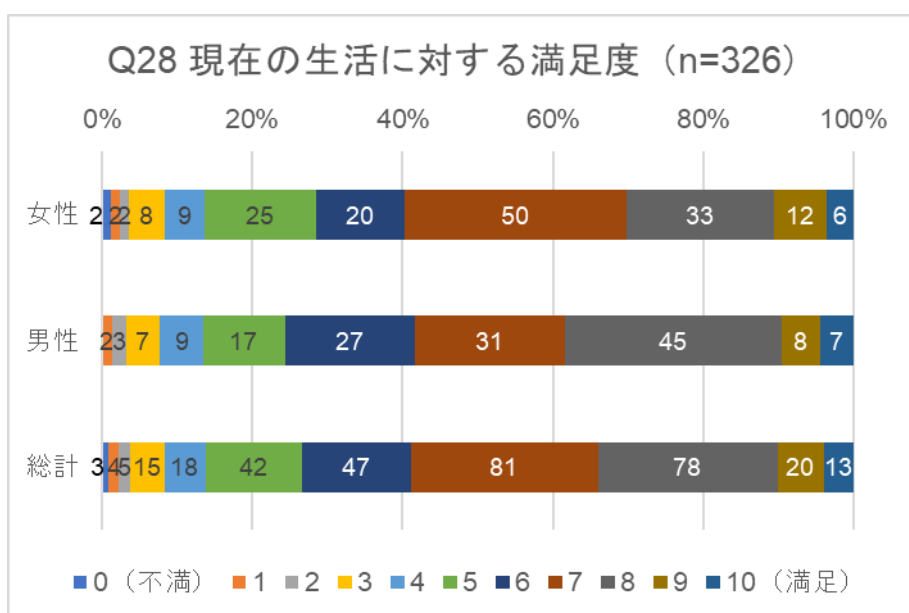


### (11) 生活・仕事の満足度 (Q28-29)

#### ① 現在の生活に関する満足度 (Q28)

現在の生活に対する満足度については、満足度7が25%と最も多くなった。生活の満足度については男女別の有意差は無い。(マンホイットニーのU検定、 $p=0.472$ )。

	0 (不満)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (満足)
女性(n=167)	2	2	2	8	9	25	20	50	33	12	6
男性(n=155)		2	3	7	9	17	27	31	45	8	7
答えたくない(n=1)	1										
総計(n=326)	3	4	5	15	18	42	47	81	78	20	13



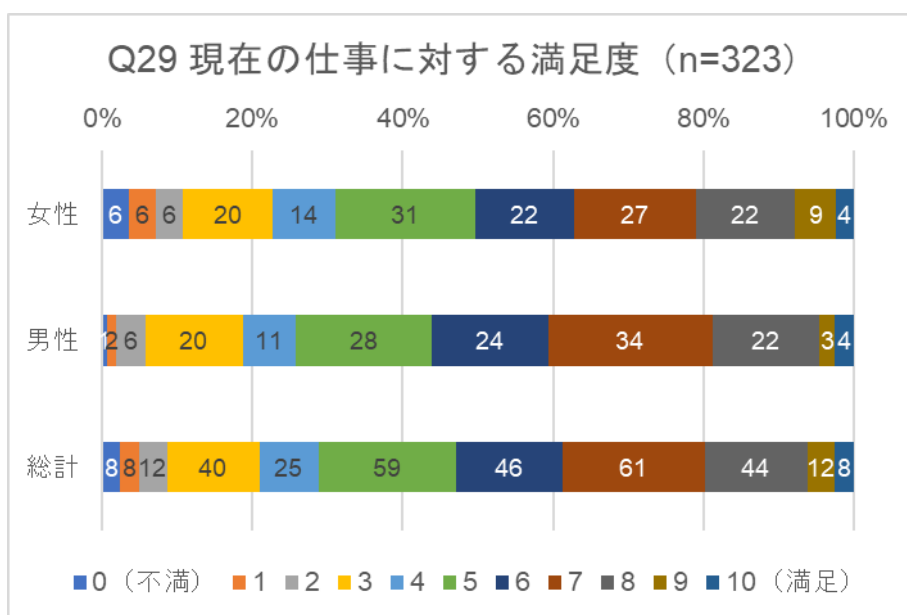
#### ② 現在の仕事に関する満足度 (Q29)

現在の仕事に対する満足度については、満足度7が19%であり、満足度5が18%で続く。全体的に生活と比べて仕事の満足度は低くなっている。

仕事に対する満足度についても、男女間で有意差は見られない(マンホイットニーのU検定、 $p=0.410$ )。

	0 (不満)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (満足)
女性(n=167)	6	6	6	20	14	31	22	27	22	9	4
男性(n=155)	1	2	6	20	11	28	24	34	22	3	4
答えたくない(n=1)	1										
総計(n=326)	8	8	12	40	25	59	46	61	44	12	8





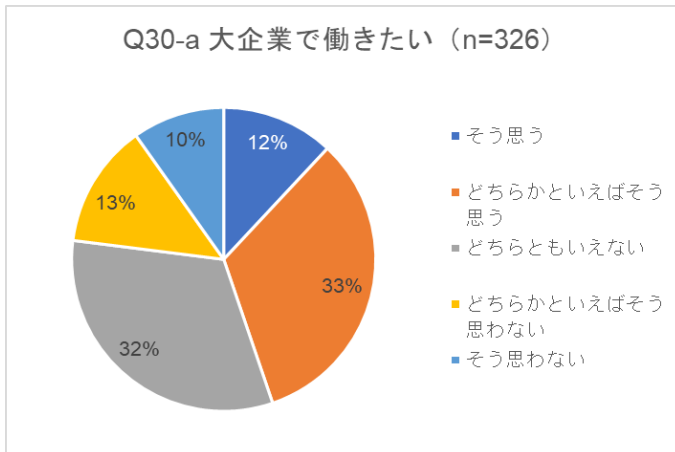
## (12) 仕事観について (Q30)

「大企業で働きたい」、「中小企業で働きたい」、「ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい」、「独立・起業したい」、「出身地で働きたい」という5つの項目について、そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらともいえない・どちらかといえばそう思わない・そう思わないの5件法でたずねた。

### ① 大企業で働きたい (Q30-a)

大企業で働くことについては、同意（そう思う、どちらかといえばそう思う）が半数近い45%、不同意（そう思わない、どちらかといえばそう思わない）が23%となった。

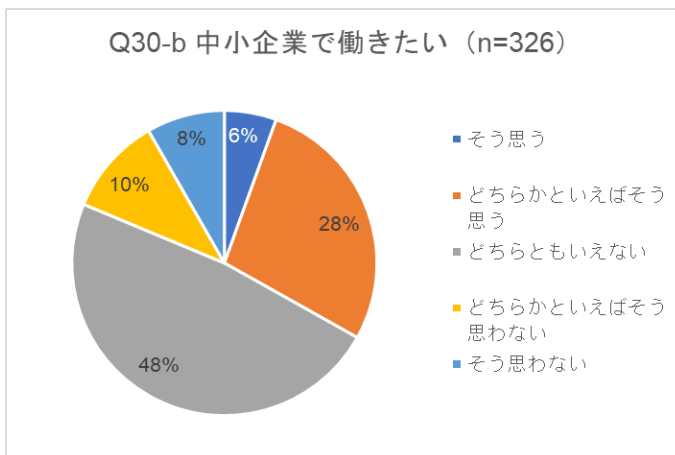
	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=169)	16	55	57	27	14
男性(n=156)	23	52	48	16	17
答えたくない(n=1)					1
総計(n=326)	39	107	105	43	32



② 中小企業で働きたい (Q30-b)

中小企業で働くことについては、48%と半数近くが「どちらともいえない」と回答している。

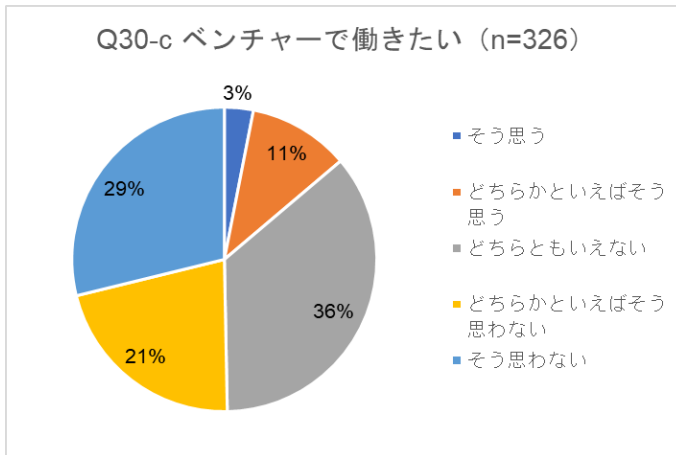
	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=169)	11	49	85	14	10
男性(n=156)	7	41	71	20	17
答えたくない(n=1)			1		
総計(n=326)	18	90	157	34	27



③ ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい (Q30-c)

ベンチャー・スタートアップ企業で働くことについては、50%と半数が不同意になっている。

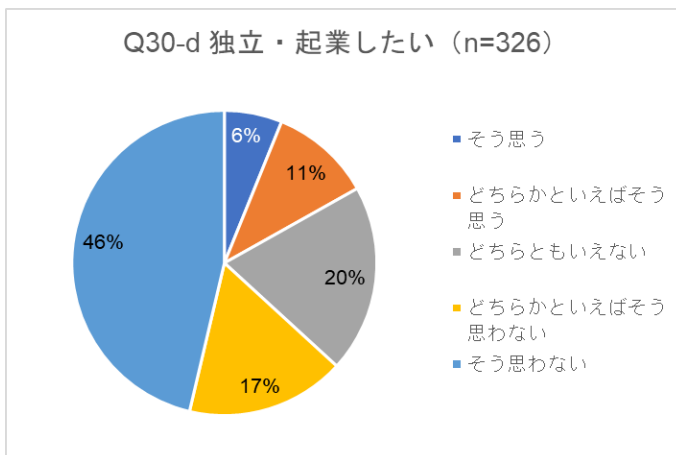
	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=169)	7	7	57	43	55
男性(n=156)	3	28	59	27	39
答えたくない(n=1)			1		
総計(n=326)	10	35	117	70	94



#### ④ 独立・起業したい (Q30-d)

独立・起業については、同意が17%、不同意が63%であった。不同意の割合はこれまでで最も大きくなっている。

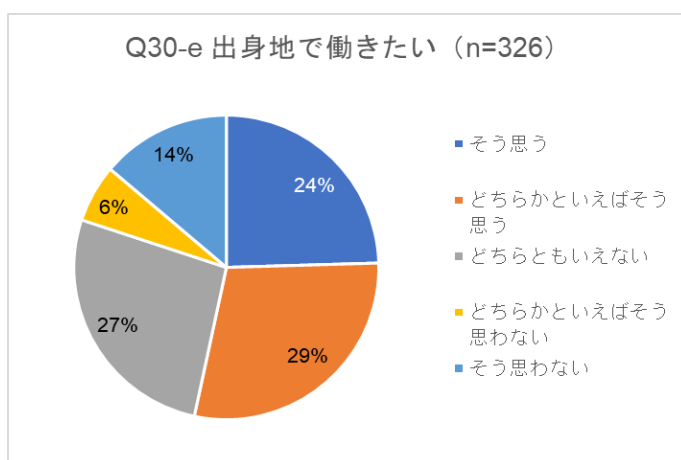
	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらともいえ ない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
女性(n=169)	5	8	31	27	98
男性(n=156)	15	27	33	28	53
答えたくない(n=1)			1		
総計(n=326)	20	35	65	55	151



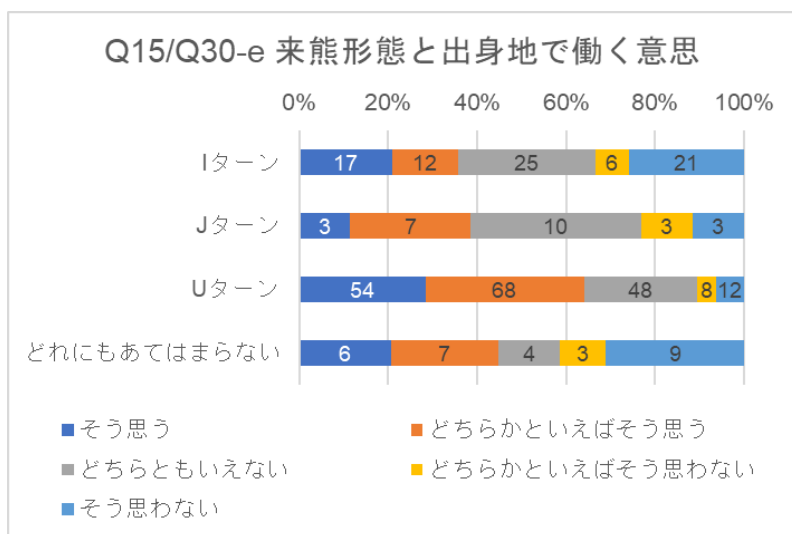
⑤ 出身地で働きたい (Q30-e)

出身地 (熊本県) で働くことについては、同意が 53% と半数を超えた。この設問については、これまでの設問と質が異なり、働きたい企業の規模ではなく働きたい場所 (出身地) に関する質問となっている。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=169)	34	47	50	12	26
男性(n=156)	46	47	36	8	19
答えたくない(n=1)			1		
総計(n=326)	80	94	87	20	45



この「出身地で働きたいと思うかどうか」という設問について、Uターン、Iターン、Jターンのそれぞれの者にたずねてみたところ、既に出身地に戻って働いているUターン者がこの設問に「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答している割合は、やはり6割以上と突出して高くなっている。

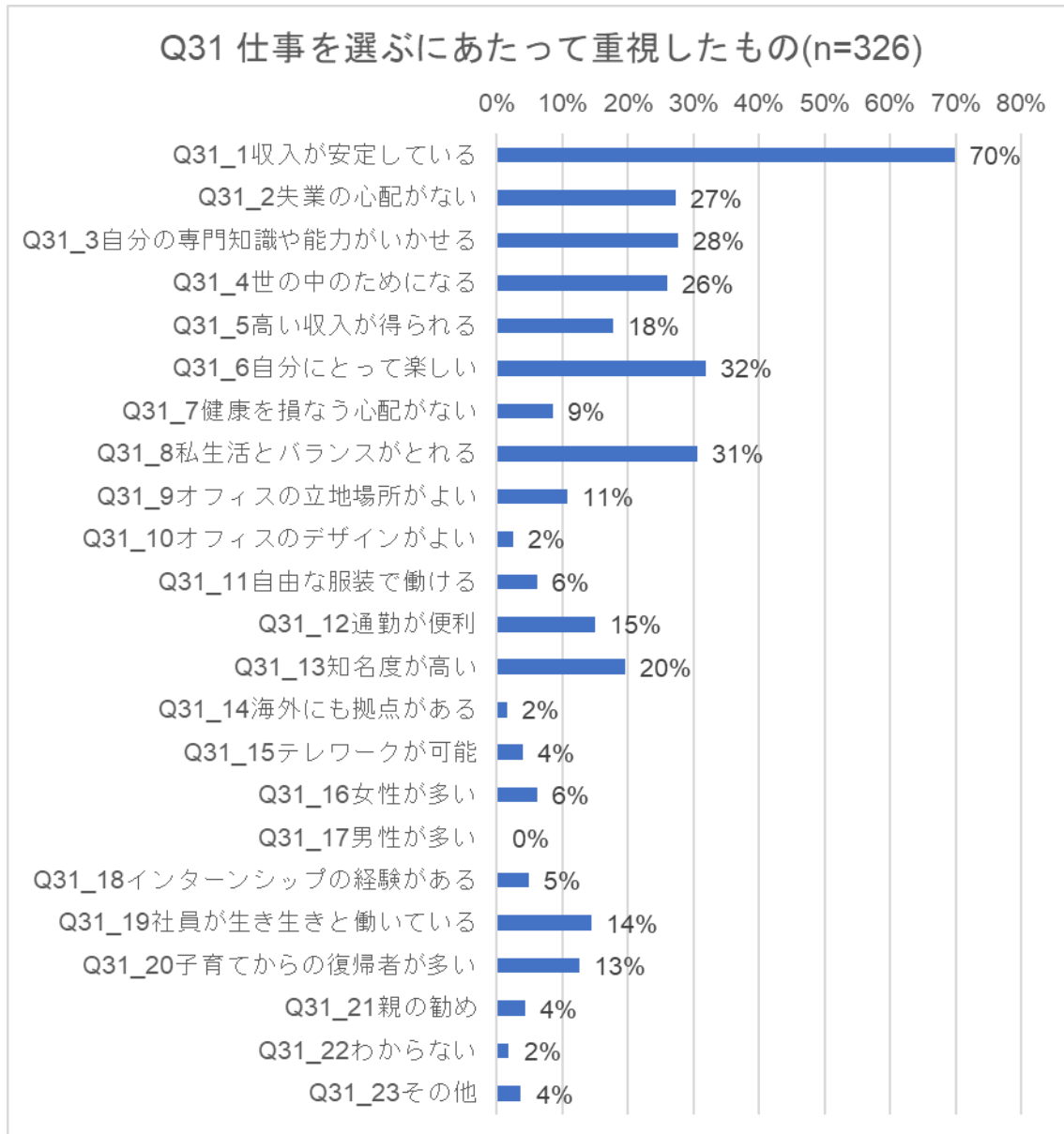


#### (14) 仕事を選ぶに当たって重視したもの (Q31)

仕事を選ぶうえで重視した項目として、「収入が安定している」が70%と最も高くなっている。次いで、「自分にとって楽しい」(32%)、「私生活とバランスがとれる」(31%)などが続く。

男女別にみると、男性の場合は「自分の専門知識や能力がいかせる」の項目について、女性の場合は「私生活とバランスがとれる」、「通勤が便利」、「女性が多い」、「社員がいきいきと働いている」、「子育てから復帰して働いている人が多い」の各項目について、統計的に有意に多くなっている。

	Q31_1収入が安定している	Q31_2失業の心配がない	Q31_3自分の専門知識や能力がいかせる	Q31_4世のためになる	Q31_5高い収入が得られる	Q31_6自分にとって楽しい
女性(n=169)	120	50	36	38	27	57
男性(n=156)	107	38	53	46	30	46
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	228	89	90	85	58	104
	Q31_7健康を損なう心配がない	Q31_8私生活とバランスがとれる	Q31_9オフィスの立地場所がよい	Q31_10オフィスのデザインがよい	Q31_11自由な服装で働ける	Q31_12通勤が便利
女性(n=169)	17	60	20	5	10	36
男性(n=156)	10	39	14	3	9	12
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	28	100	35	8	20	49
	Q31_13知名度が高い	Q31_14海外にも拠点がある	Q31_15テレワークが可能	Q31_16女性が多い	Q31_17男性が多い	Q31_18インターンシップの経験がある
女性(n=169)	31	4	8	19		11
男性(n=156)	33	1	5			5
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	64	5	13	20		16
	Q31_19社員が生き生きと働いている	Q31_20子育てから復帰して働いている人が多い	Q31_21親の勧め	Q31_22わからない	Q31_23その他	
女性(n=169)	30	36	11	3	9	
男性(n=156)	17	4	3	3	3	
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	47	41	14	6	12	

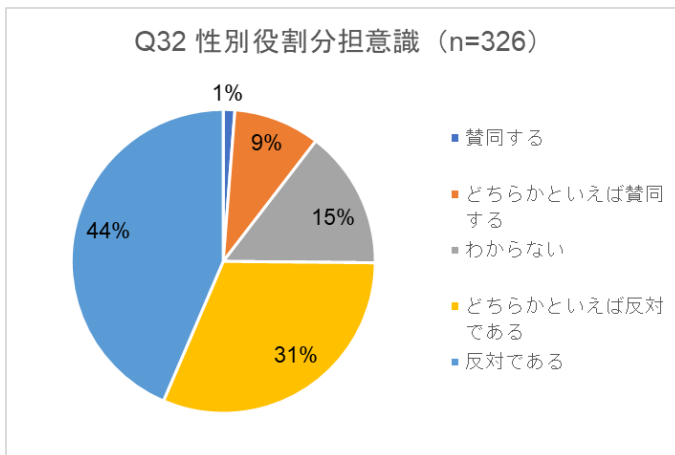


#### (15) アンコンシャスバイアスについて (Q32-34)

##### ① 性別役割分担意識に賛成するか (Q32)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった性別役割分担意識について賛同するかという問いに対し、「反対」(44%)と「どちらかといえば反対」(31%)を合わせた否定派は4分の3となり、「賛同」(1%)と「どちらかといえば賛同」(9%)を合わせた賛同派を大きく上回った。

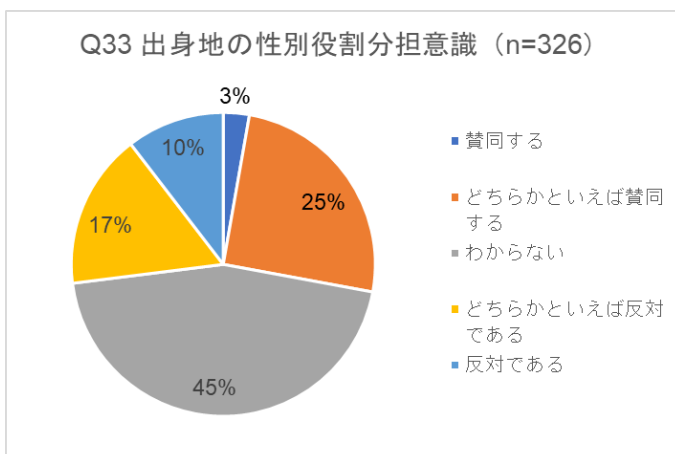
	賛同する	どちらかといえば 賛同する	わからない	どちらかといえば 反対である	反対である
女性(n=169)	2	14	25	57	71
男性(n=156)	2	16	22	45	71
答えたくない(n=1)			1		
総計(n=326)	4	30	48	102	142



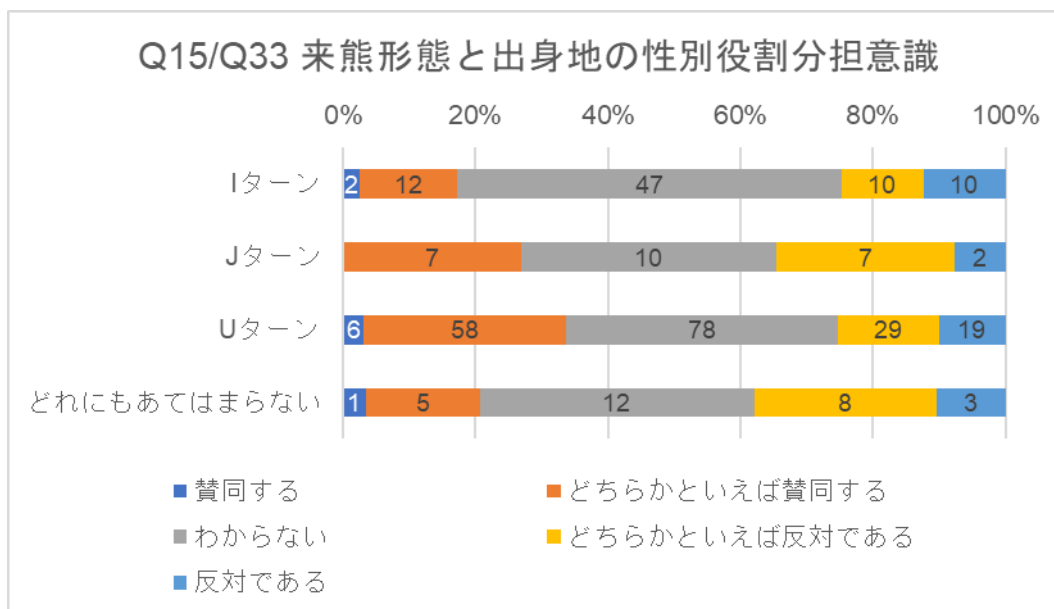
② 出身地の人たちは性別役割分担意識に賛成するか (Q33)

出身地の人たちが「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった性別役割分担意識について賛同するかという問いに対しては、「反対」(10%)と「どちらかといえば反対」(17%)を合わせた否定派は合計27%となり、「賛同」(3%)と「どちらかといえば賛同」(25%)を合わせた賛同派が28%になっている。

	賛同する	どちらかといえば 賛同する	わからない	どちらかといえば 反対である	反対である
女性(n=169)	5	43	71	30	20
男性(n=156)	4	39	75	24	14
答えたくない(n=1)			1		
総計(n=326)	9	82	147	54	34



UIJ ターンそれぞれでの回答を見てみると、I・J ターン者に比べ熊本県出身である U ターン者の方が「出身地の人が性別役割分担意識の賛同派である」と回答する率が高くなっている。統計的にも有意な差があり、熊本県におけるアンコンシャスバイアスの存在を示唆するものといえよう。



### ③ 家事・育児の役割分担状況 (Q34)

※ この設問についてはアンケートの設定ミスにより回答の集計が不可能であった。

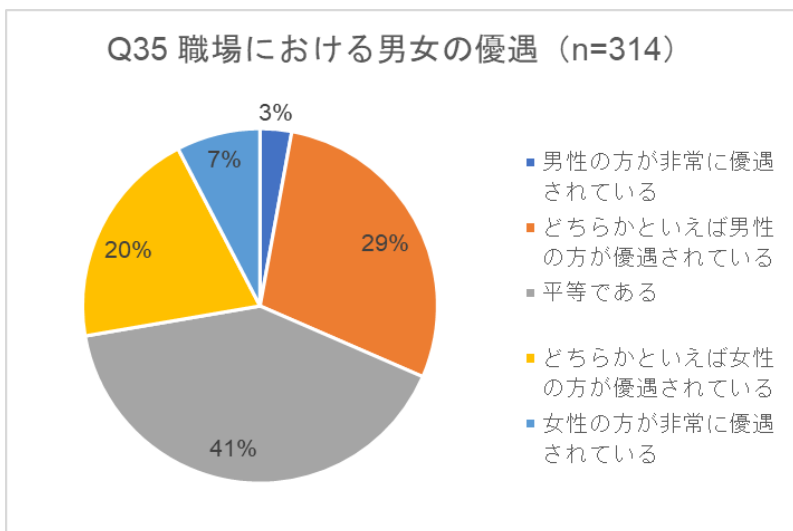
## (16) 職場における男女共同参画 (Q35-36)

### ① 職場における男女の優遇 (Q35)

職場において男女どちらが優遇されているかという問いについては、「平等である」(41%)という回答が最も多くなっている。一方で、この「平等である」という回答の割合は県外者のアンケートにおける同様の設問の回答結果(63%)を大きく下回っており、職場における男女共同参画が県外ほどには進んでいないことをうかがわせる結果となっている。



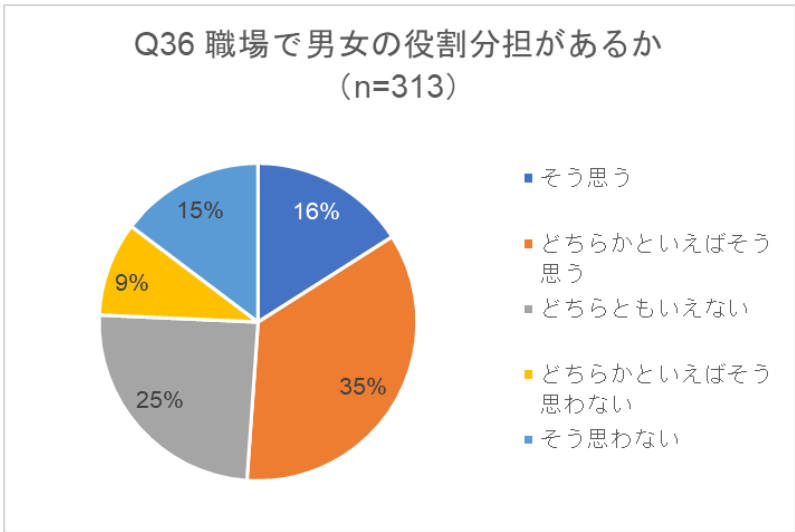
	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女性(n=162)	7	47	60	39	9
男性(n=151)	2	43	68	24	14
答えたくない(n=1)					1
総計(n=314)	9	90	128	63	24



## ② 職場における男女の役割分担 (Q36)

「職場（仕事）において、男性の方がより重要な役割を担い、意思決定に関わるといった、男女の役割分担という考えはありますか」という問いについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が51%と半数を超えた。この回答についても、Q35の設問と同様、県外者に対するアンケートでの同様の設問における「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（39%）を大きく上回っている。

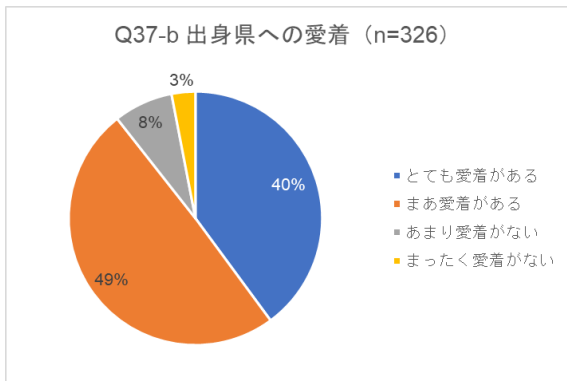
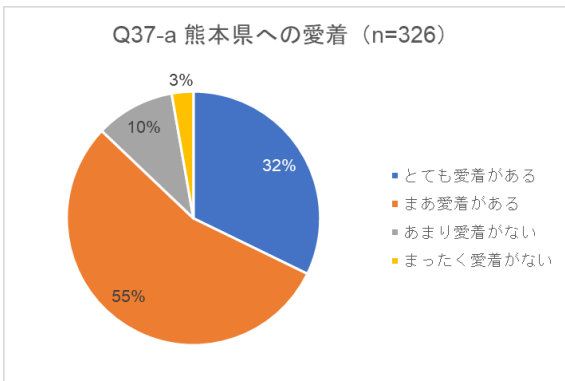
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=162)	29	54	36	23	23
男性(n=151)	21	56	41	7	23
総計(n=313)	50	110	77	30	46



(17) 自治体への愛着 (Q37)

熊本県への愛着と出身都道府県への愛着をたずねた設問については、熊本県に対して「とても愛着がある」と「まあ愛着がある」と答えた者は87%、出身県に対して同様に答えた者は90%となった。

熊本県への愛着	とても愛着がある	まあ愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない
女性(n=169)	55	85	25	4
男性(n=156)	50	94	8	4
答えたくない(n=1)				1
総計(n=326)	105	179	33	9
出身県への愛着	とても愛着がある	まあ愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない
女性(n=109)	49	46	11	3
男性(n=89)	30	52	4	3
総計(n=198)	79	98	15	6



## (18) 移住して期待より良かった点・悪かった点 (Q38-39)

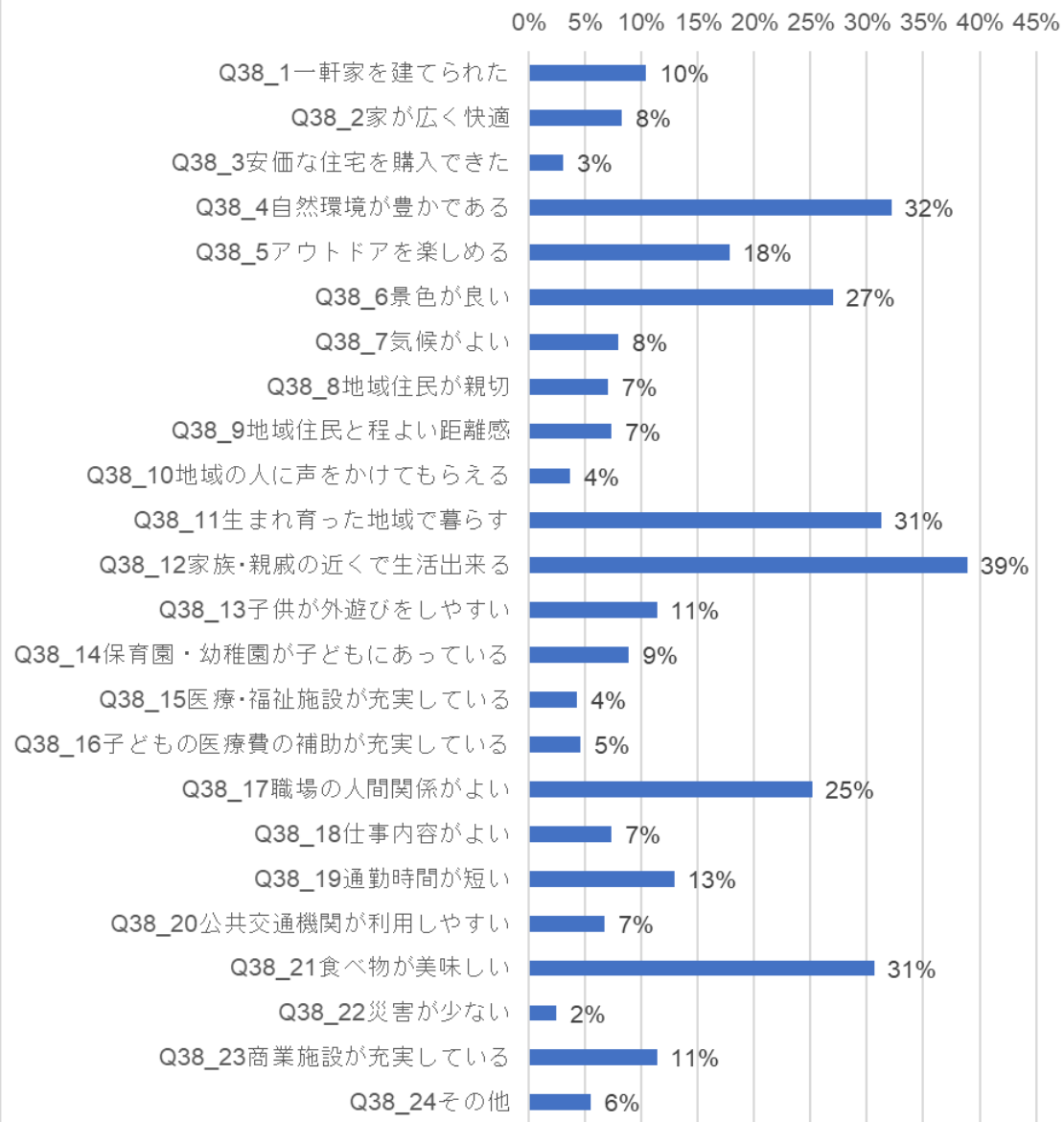
### ① 期待より良かった点 (Q38)

熊本県に移住して期待より良かった点は何かとたずねた設問については、「家族・親戚の近くで生活出来る」(39%)が最も多く、次いで「自然環境が豊かである」(32%)、「生まれ育った地域で暮らすことが出来る」(31%)、「食べ物が美味しい」(31%)、「景色が良い」(27%)、「職場の人間関係が良い」(25%)などが高くなっている。

その他の記述欄では「物価が安い」、「景観に歴史を感じる」などの意見があった。

	Q38_1一軒家を建てられた	Q38_2家が広く快適	Q38_3安価な住宅を購入できた	Q38_4自然環境が豊かである	Q38_5アウトドア(キャンプや釣りなど)を楽しめる	Q38_6景色が良い
女性(n=169)	14	12	4	51	24	56
男性(n=156)	20	15	6	54	34	32
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	34	27	10	105	58	88
	Q38_7気候が良い	Q38_8地域住民が親切	Q38_9地域住民と程よい距離感で過ごしやすい	Q38_10地域の人に声をかけてもらえる	Q38_11生まれ育った地域で暮らすことが出来る	Q38_12家族・親戚の近くで生活出来る
女性(n=169)	14	13	12	6	48	73
男性(n=156)	12	10	12	6	54	54
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	26	23	24	12	102	127
	Q38_13子供が外遊びをしやすい	Q38_14保育園・幼稚園などが子どもにあっている	Q38_15医療・福祉施設が充実している	Q38_16子どもの医療費の補助が充実している	Q38_17職場の人間関係が良い	Q38_18仕事内容が良い
女性(n=169)	14	17	7	9	61	11
男性(n=156)	23	12	7	6	21	13
答えたくない(n=1)						
総計(n=326)	37	29	14	15	82	24
	Q38_19通勤時間が短い	Q38_20公共交通機関が利用しやすい	Q38_21食べ物が美味しい	Q38_22災害が少ない	Q38_23商業施設が充実している	Q38_24その他
女性(n=169)	27	17	58	4	22	11
男性(n=156)	14	5	42	4	15	7
答えたくない(n=1)	1					
総計(n=326)	42	22	100	8	37	18

### Q38 熊本県に移住して期待より良かった点(n=326)



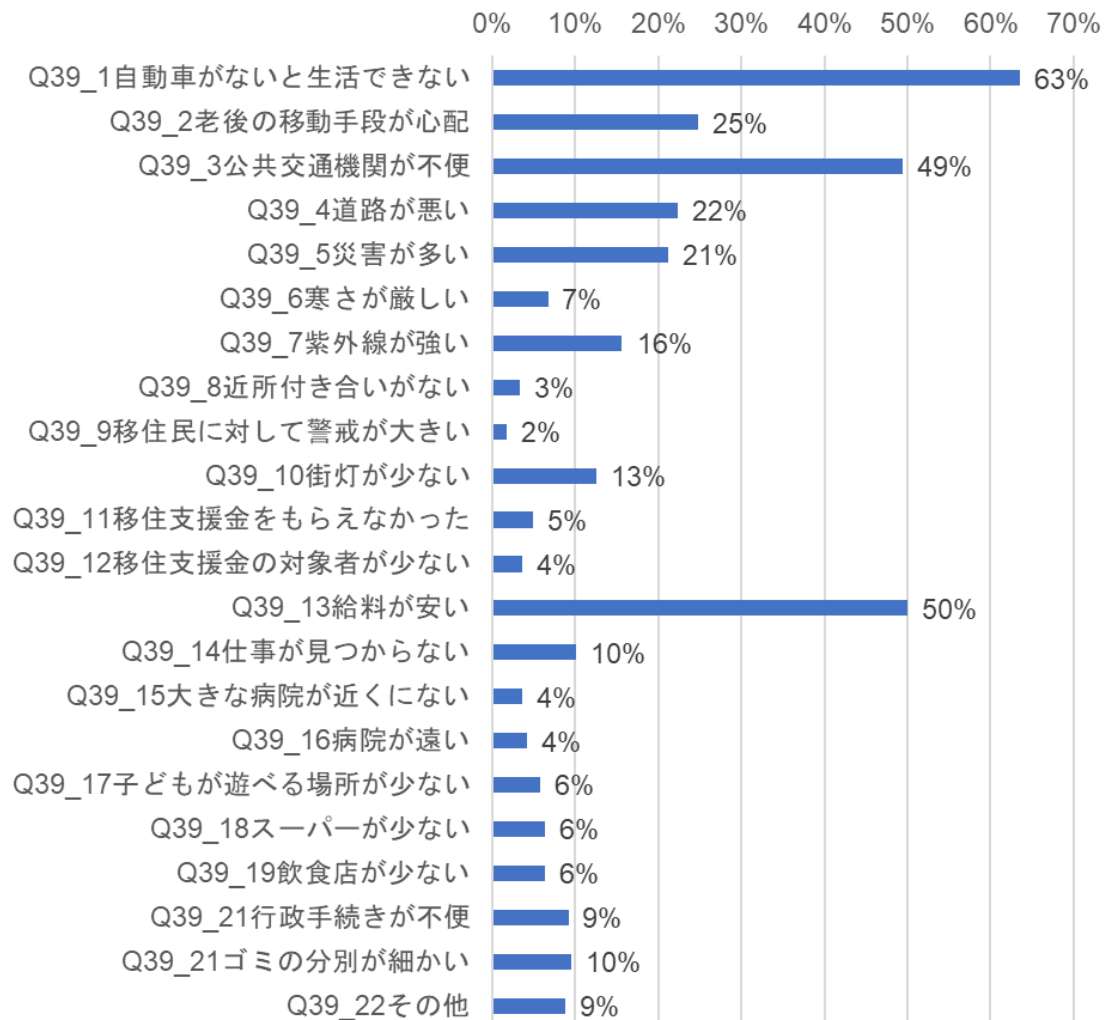
### ② 期待より悪かった点 (Q39)

熊本県に移住して期待より悪かった点については、「自動車がないと生活できない」(63%)、「給料が安い」(50%)、「公共交通機関が不便」(49%)の3つが最も多くなった。「交通の利便性」「収入」については、県外者アンケートでも熊本県のネガティブイメージの2トップであったが、こちらでも同様の結果となっている。

その他の記述欄でも、「交通渋滞がひどい」といった意見が複数見られた。また、「結婚して一人前という考え方が残っており、古い考え方に息が詰まる」といった意見もあった。

	Q39_1自動車がないと生活できない	Q39_2老後の移動手段が心配	Q39_3公共交通機関が不便	Q39_4道路が悪い(狭い・舗装がされていないなど)	Q39_5災害が多い	Q39_6寒さが厳しい	Q39_7紫外線が強い	Q39_8近所付き合いがない	Q39_9移住民に対して警戒が大きい	Q39_10街灯が少ない	Q39_11移住支援金をもらえなかった
女性(n=169)	106	42	73	36	39	11	36	4	4	27	8
男性(n=156)	100	38	87	36	29	11	14	7	1	13	8
答えたくない(n=1)	1	1	1	1	1		1		1	1	
総計(n=326)	207	81	161	73	69	22	51	11	6	41	16
	Q39_12移住支援金の対象になる人が少ない	Q39_13給料が安い	Q39_14仕事が見つからない	Q39_15大きな病院が近くにない	Q39_16病院が遠い	Q39_17子どもが遊べる場所が少ない	Q39_18スーパーが少ない	Q39_19飲食店が少ない	Q39_21行政手続きが不便	Q39_21ゴミの分別が細かい	Q39_22その他
女性(n=169)	9	97	14	9	11	11	15	16	16	10	19
男性(n=156)	3	65	18	2	2	8	5	5	14	20	10
答えたくない(n=1)		1	1	1	1		1			1	
総計(n=326)	12	163	33	12	14	19	21	21	30	31	29

### Q39 熊本県に移住して期待より悪かった点(n=326)



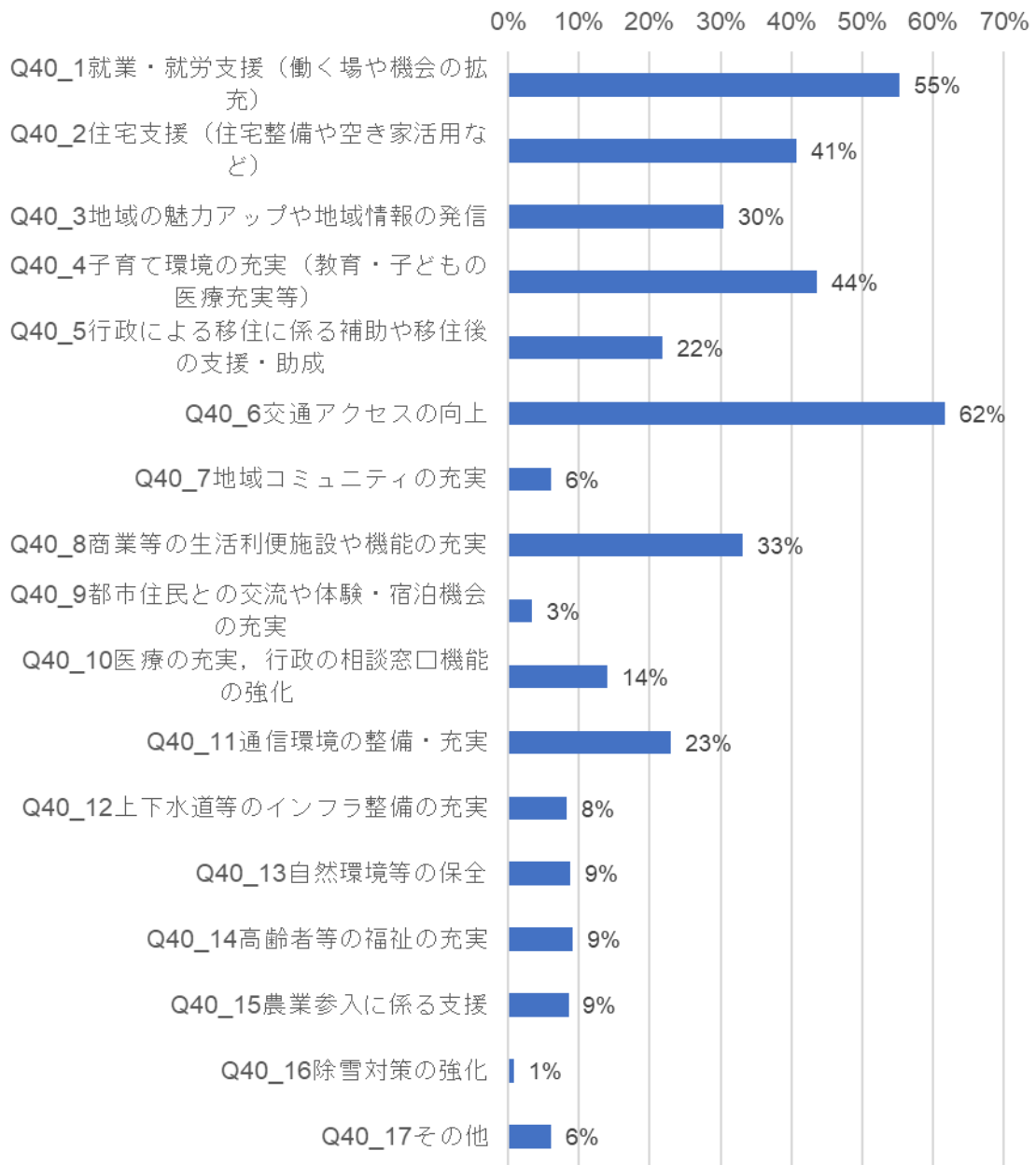
### (19) 熊本への移住者を増やすために必要な支援 (Q40)

「ご自身の体験をふまえ、熊本県への移住者を増やすために必要な支援や有効だと思う取り組みは何だと思いますか」という設問に対しては、「交通アクセスの向上」が62%と最も多くなった。これは、Q39の「期待より悪かった点」においても交通の部分に不満が集中したのと同様の理由であろう。次いで、「就業・就労支援（働く場や機会の拡充）」（55%）、「子育て環境の充実（教育・子どもの医療充実など）」（44%）、「住宅支援（住宅整備や空き家活用など）」（41%）などが高くなっている。

その他の記述欄においても、記述のあった20件のうち半数にあたる10件で「賃金・給与の引き上げ」の記載があった。選択肢として同様の項目が無かったため「その他」に記載したものと思われ、収入面に対する要望も多いことをうかがわせる。

	Q40_1就業・就労支援（働く場や機会の拡充）	Q40_2住宅支援（住宅整備や空き家活用など）	Q40_3地域の魅力アップや地域情報の発信	Q40_4子育て環境の充実（教育・子どもの医療充実など）	Q40_5行政による移住に係る補助や移住後の支援・助成	Q40_6交通アクセスの向上
女性(n=169)	97	67	51	75	35	109
男性(n=156)	82	65	47	66	35	91
答えたくない(n=1)	1	1	1	1	1	1
総計(n=326)	180	133	99	142	71	201
	Q40_7地域コミュニティの充実	Q40_8商業等の生活利便施設や機能の充実	Q40_9都市住民との交流や体験・宿泊機会の充実	Q40_10医療の充実、行政の相談窓口機能の強化	Q40_11通信環境の整備・充実（Wi-fi, インターネット環境）	Q40_12上下水道等のインフラ整備の充実
女性(n=169)	10	61	5	27	41	13
男性(n=156)	9	46	5	18	33	13
答えたくない(n=1)	1	1	1	1	1	1
総計(n=326)	20	108	11	46	75	27
	Q40_13自然環境等の保全	Q40_14高齢者等の福祉の充実	Q40_15農業参入に係る支援	Q40_16除雪対策の強化	Q40_17その他	
女性(n=169)	15	20	12	1	13	
男性(n=156)	13	9	15	1	7	
答えたくない(n=1)	1	1	1	1		
総計(n=326)	29	30	28	3	20	

### Q40 熊本県への移住を増やすための支援 (n=326)



## (20) 熊本での子育て (Q41)

「熊本県で子育てをするにあたり、より充実してほしい支援・環境はどのようなものですか」という設問については、「子ども医療費補助」(54%)、「出産一時金等の増額」(51%)、「行政による子育て世帯への給付金」(45%)、「子どもを連れて行ける施設」(44%)などが高くなった。

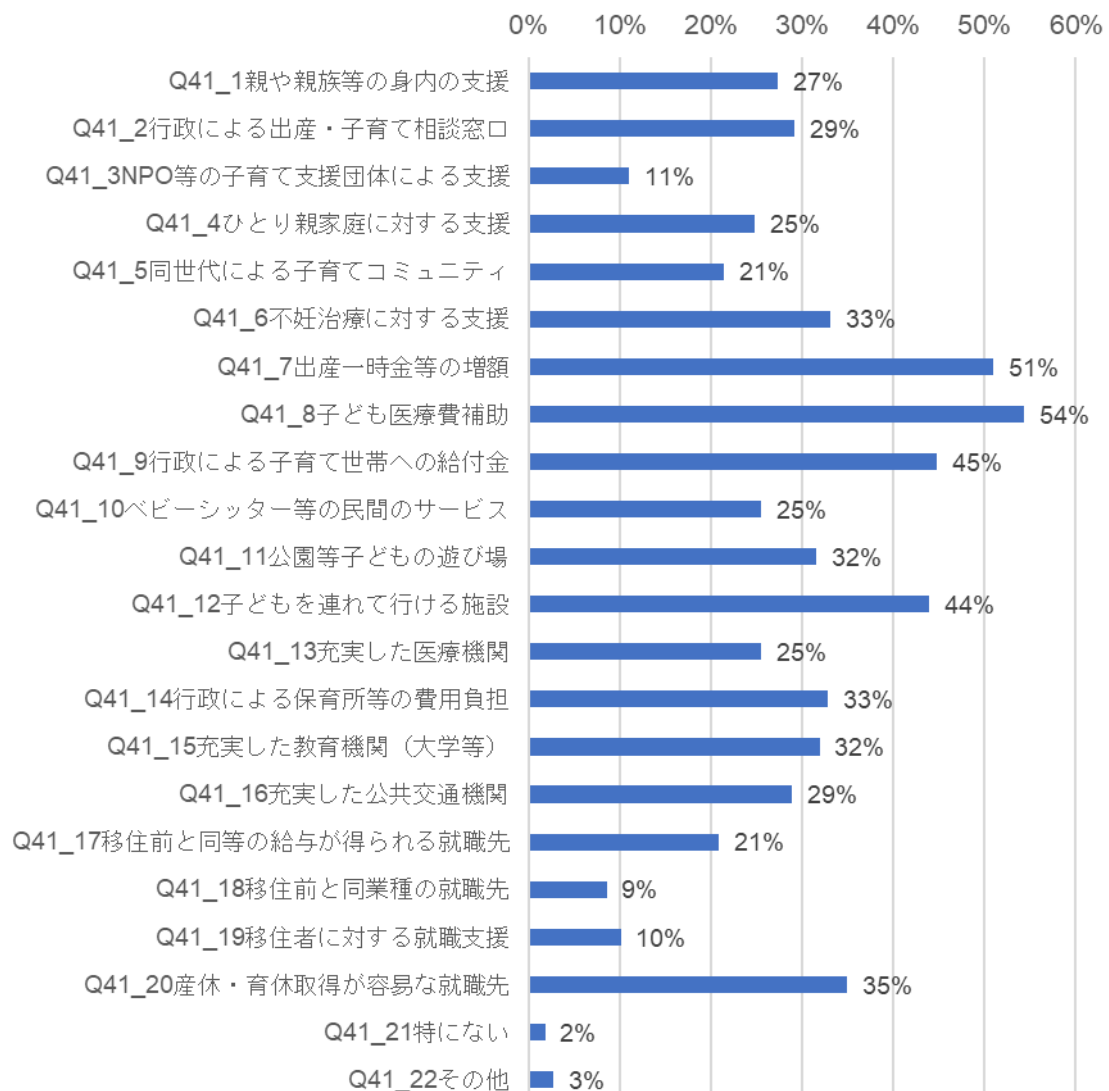
県外者に対するアンケートでの同様の設問においては「親や親族等の身内の支援」という回答が最も多くなっていたが、特にUターン者は現状で身内からの支援を受けることができていると思われるため、金銭的な支援の方に要望が集中したと考えられる。

その他の記述欄では、「教育にかかる費用の支援」、「男性の育休取得推進」、「両親だけでなく祖父母も育休取得できるような制度を」、「企業内保育所の設置」などの意見があった。

	Q41_1親や親族等の身内の支援	Q41_2行政による出産・子育て相談窓口	Q41_3NPO等の子育て支援団体による支援	Q41_4ひとり親家庭に対する支援	Q41_5同世代による子育てに関するコミュニティ	Q41_6不妊治療に対する支援
女性(n=169)	42	54	22	52	38	72
男性(n=156)	46	40	13	28	31	35
答えたくない(n=1)	1	1	1	1	1	1
総計(n=326)	89	95	36	81	70	108
	Q41_7出産一時金等の増額	Q41_8子ども医療費補助	Q41_9行政による子育て世帯への給付金	Q41_10ベビーシッター等の民間の家事・育児サービス	Q41_11公園等子どもの遊び場	Q41_12子どもを連れて行ける施設
女性(n=169)	91	95	77	58	60	82
男性(n=156)	74	81	68	24	43	60
答えたくない(n=1)	1	1	1	1		1
総計(n=326)	166	177	146	83	103	143
	Q41_13充実した医療機関	Q41_14行政による保育所等の費用負担	Q41_15充実した教育機関(大学, 専門学校等)	Q41_16充実した公共交通機関	Q41_17移住前と同等の給与水準が得られる就職先	
女性(n=169)	53	52	54	48	34	
男性(n=156)	30	54	49	45	33	
答えたくない(n=1)		1	1	1	1	
総計(n=326)	83	107	104	94	68	
	Q41_18移住前と同業種の就職先	Q41_19移住者に対する就職支援	Q41_20産休・育休取得が容易な就職先	Q41_21特にない	Q41_22その他	
女性(n=169)	13	18	72	2	9	
男性(n=156)	14	14	41	4		
答えたくない(n=1)	1	1	1			
総計(n=326)	28	33	114	6	9	



### Q41 熊本県で充実すべき子育て支援・環境(n=326)



### 3. UIJ ターンに対するアンケート結果の小括

熊本県にUIJ ターンしてきた者について、いくつかのアンケート結果から得られる示唆をあげておく。

#### (1) UIJ ターン者のイメージ

Q14によれば、UIJ ターン者の最終学歴については80%が大卒となっている。県外者アンケートでの同様の設問での大卒の割合が59%であることを考えると、「比較的高学歴の者が県外から熊本県に戻ってきて働いている」という傾向が分かる。

また、Q8に示したとおり、UIJ ターン者のうちいわゆる正規雇用として働く者（公務員、総合職、一般職の合計）は95%となっている。総じて、県外者よりもUIJ ターンの方が安定した雇用形態で働いている割合が高くなっている。

さらにQ20から、熊本県に移住する前に住んでいた都道府県については、福岡県が29%と最も多く、さらに鹿児島県も10%と高くなっている。

このことに鑑みれば、例えば九州各県（特に福岡県）において安定しない雇用形態にしている者に対して熊本での雇用情報をタイムリーに届けていくことが出来れば、UIJ ターンの増加につなげることができるのではないかと考えられる。

#### (2) アンコンシャスバイアスについて

性別役割分担意識についてはQ32-33でたずねているが、特にUターン者は「出身地の人が性別役割分担意識の賛同派である」と回答する率が有意に高く、熊本県におけるアンコンシャスバイアスの根深さが強く示唆される。

また、Q35で「職場において男女どちらが優遇されているか」とたずねているが、「平等である」と回答した割合である41%は、県外者アンケートにおける同様の設問の63%を大きく下回っており、職場における男女共同参画が県外ほどには進んでいないことをうかがわせる。地域や職場における男女共同参画を強力に推進していかなければ、県外からの有為な人材を熊本県に呼び込むのは難しい。より一層の努力が必要となろう。

#### (3) 交通問題への問題意識

熊本に移住して悪かった点（Q39）、移住者を増やすための取組の提言（Q40）のいずれにおいても、交通の問題に対する指摘が集中する結果となった。これらの問題意識は、公共交通の不便さに対するものと、渋滞などの車社会に対するものに大別される。熊本はどうしても車中心の社会となるが、特に東京圏や福岡県に居住したことのある者にとってはこの状況に強い不満を抱くことになる。このような交通問題についていかに対応していくかも今後の課題となろう。

### III-3 県外・学生に対するアンケート

#### 1. アンケートについて

##### (1) アンケートの概要

熊本県出身で県外に居住する者について、県外への転出理由、熊本県に戻る意思の有無、どのような支援があれば熊本県への移住を検討するか等について意向調査を行うことにより、熊本県における女性の住みたくなる地域づくりのための施策立案の一助とする。

##### (2) 分析対象

県外者アンケートサンプルのうち 16%を占める学生について本項で分析を行う。

##### (3) 検定手法及びグラフの表示について

集計において男女別に差があるものについて統計手法（カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定、マンホイットニーのU検定等）による有意差の検定を行った。

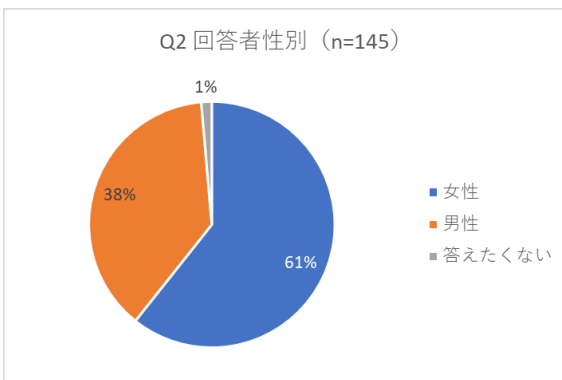
なお、学生についてはサンプル数が少ないこともあり、基本的に集計表のみを提示し、特徴的な項目についてのみグラフを表示することとした。

#### 2. 設問毎の結果概要

##### (1) 回答者性別・年齢 (Q1-2)

回答者の性別については女性が 61%、男性が 38%。年齢階層については 20～24 歳が 97%を占めている。

	20～24歳	25～29歳	30～34歳
女性(n=88)	84	3	1
男性(n=55)	54	1	
答えたくない(n=2)	2		
総計(n=145)	140	4	1



## (2) 婚姻について (Q3)

回答者のうち未婚者が97%となっている。

	結婚している（事実婚も含む）	結婚していない（以前に結婚していたことがある）	結婚していない（結婚したことはない）
女性(n=88)	2	3	83
男性(n=55)			55
答えたくない(n=2)			2
総計(n=145)	2	3	140

## (3) 同居者および同居の子どもについて (Q4-6)

### ① 同居者について (Q4)

大半を占める85%が同居者のいない「単身」で住んでいると回答している。

	Q4_1配偶者	Q4_2子ども	Q4_3父母	Q4_4兄弟	Q4_5祖父母	Q4_6交際相手	Q4_9その他	Q4_10単身
女性(n=88)	3	1	5	5	2	3	1	71
男性(n=55)	0	0	1	3	1	2	0	50
答えたくない(n=2)								2
総計(n=145)	3	1	6	8	3	5	1	123

### ② 同居している子どもの数 (Q5)

子どもと同居していると回答した者は2名のみであった。(うち1名は結婚していると回答しているが、もう1名はQ3で未婚、かつQ4で「単身」で住んでいると回答している。)

女性	1
男性	1
答えたくない	
総計	2

### ③ 子どもの学齢 (Q6)

同居している子どもの学齢については以下のとおりの回答となった。(回答を精査してみると、「未就学児(0-2歳)」と回答した1名を除き、他の回答者は全員が未婚かつ単身で住んでいると回答している。)

	Q6_1未就学児(0-2)	Q6_2未就学児(3~6歳)	Q6_3小学生	Q6_4中学生	Q6_7大学生・院生
女性	1	6	6	1	1
男性	1	9	5	3	0
総計	2	15	11	4	1

#### (4) 住居形態 (Q7)

住居形態については、大半 (86%) が「賃貸マンション・アパート」に居住している。

	戸建て (持ち家)	戸建て (借家)	分譲マンション	賃貸マンション・アパート	社員寮・社宅・学生寮	その他
女性(n=88)	2		3	75	8	
男性(n=55)	1	1		48	4	1
答えたくない(n=2)				2		
総計(n=145)	3	1	3	125	12	1

#### (5) 自身と配偶者の就労状況 (Q8-9)

##### ① 自身の就労状況 (Q8)

自身の就労状況については全員学生のみ。(100%)

##### ② 配偶者の就労状況 (Q9)

配偶者の就労状況については女性 4 名から回答があった。(このうち「学生」と回答した 2 名については、Q3 で未婚、かつ Q4 で「単身」で住んでいると回答している。)

	公務員・団体職員	会社員 (総合職)	学生
女性	1	1	2
男性			
答えたくない			
総計	1	1	2

#### (6) 現在の勤務について (Q10-12)

##### ① 現在の業種 (Q10)

現在の業種については 5 名から回答があった。(こちらについてはアルバイト先、あるいは現在の学習内容等を回答している可能性がある。)

	医療、福祉	学術研究、専門・技術サービス業	教育、学習支援業	宿泊業、飲食サービス業
女性	1	1	1	1
男性		1		
答えたくない				
総計	1	2	1	1

② 現在の勤務年数 (Q11)

勤務年数については6名から回答があった。(こちらもアルバイト先の勤務年数、あるいは就学年数を回答している可能性がある。)

	1～2年目
女性	4
男性	2
答えたくない	
総計	6

③ 勤務先の規模 (Q12)

勤務先の規模については2名から回答があった。(こちらもアルバイト先、あるいは学習先の規模を回答している可能性がある。)

	51人～100人以下	6人～20人以下
女性	1	1
男性		
答えたくない		
総計	1	1

(7) 現在の年収 (Q13)

現在の年収については3名から回答があった。

	100万円未満
女性	3
男性	
答えたくない	
総計	3

(8) 最終学歴 (Q14)

最終学歴については79%が大学、17%が大学院と回答している。

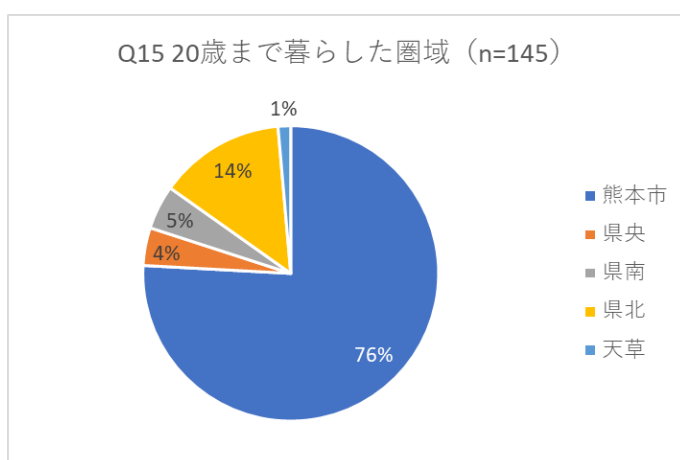
	高等学校	専門学校	大学	大学院
女性(n=88)	3	3	69	13
男性(n=55)			43	12
答えたくない(n=2)			2	
総計(n=145)	3	3	114	25

(9) 居住地 (Q15-17)

① 20歳までに最も長く暮らした圏域 (Q15)

最も長く暮らした数が多い圏域については、66%が人口割合の多い「熊本市」と回答している。

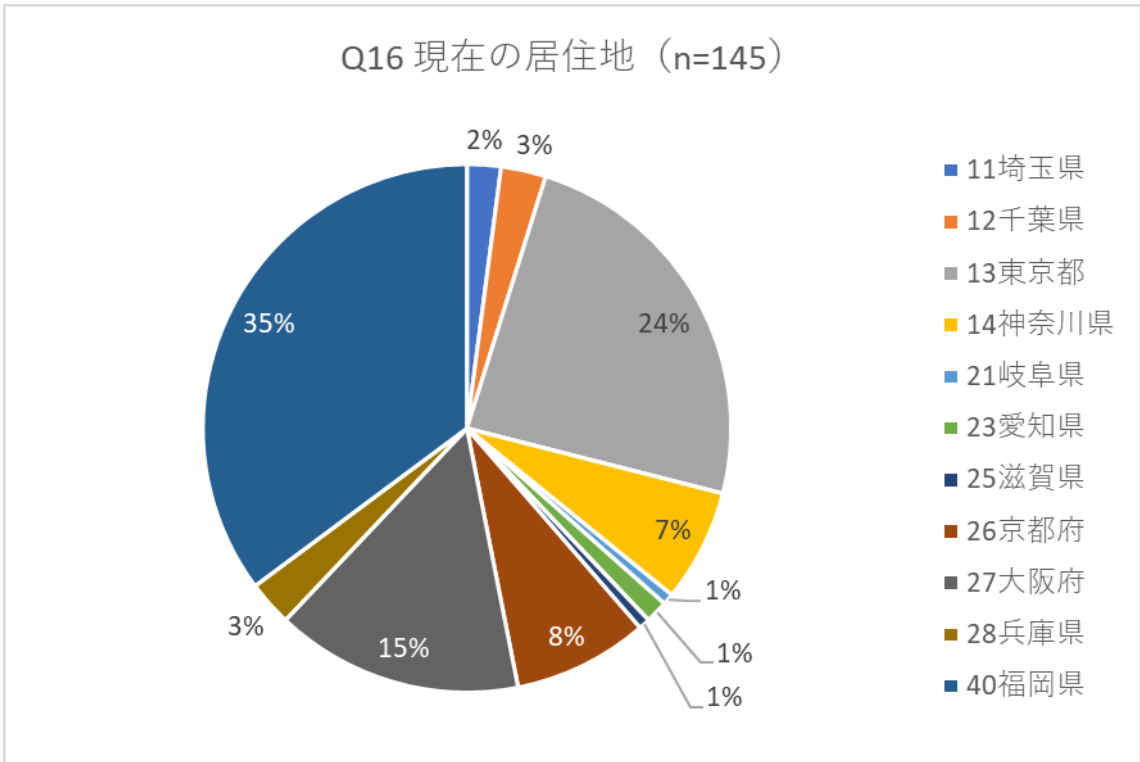
	熊本市	県北	県央	県南	天草
女性(n=88)	57	15	7	8	1
男性(n=55)	38	8	4	4	1
答えたくない(n=2)		1	1		
総計(n=145)	95	24	12	12	2



② 現在の居住地 (Q16)

現在の居住地については、「福岡県」(35%)、「東京都」(24%)、「大阪府」(15%) などとなっている。居住地の割合については男女に大きな差は見られない。

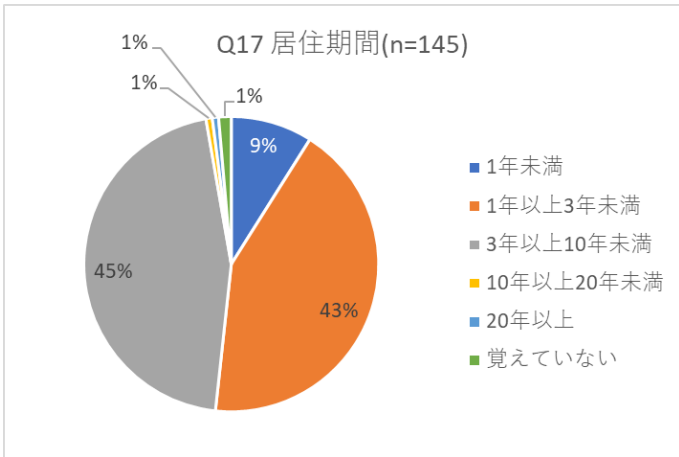
	11埼玉県	12千葉県	13東京都	14神奈川県	21岐阜県	23愛知県	25滋賀県	26京都府	27大阪府	28兵庫県	40福岡県
女性(n=88)	3	4	18	5	1	1	1	9	12	2	32
男性(n=55)			15	5		1		3	10	2	19
答えたくない(n=2)			2								
総計(n=145)	3	4	35	10	1	2	1	12	22	4	51



③ 居住期間 (Q17)

現在の居住地での居住期間については、半数近くが「1年以上3年未満」と「3年以上10年未満」で大半を占める。

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	覚えていない
女性(n=88)	7	39	39	1	1	1
男性(n=55)	6	23	25			1
答えたくない(n=2)			2			
総計(n=145)	13	62	66	1	1	2



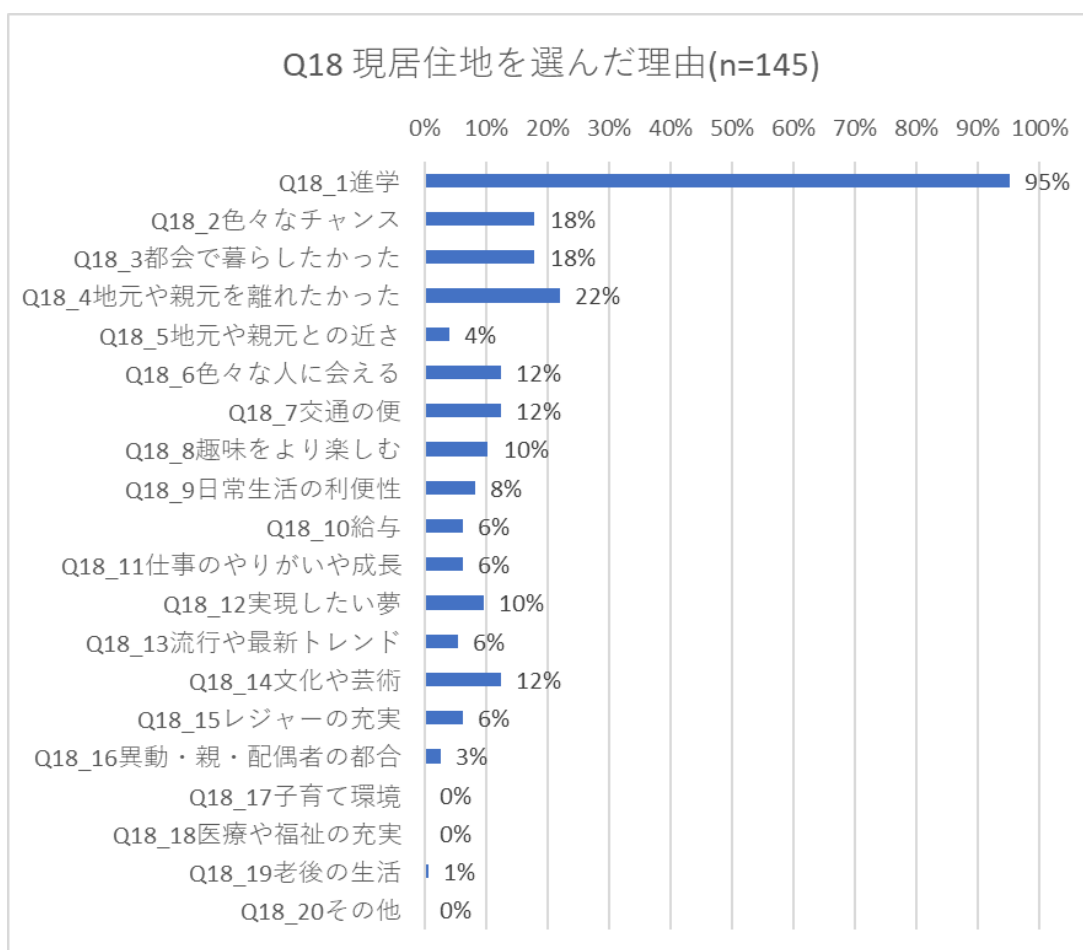


## (10) 居住地選択の理由 (Q18-20)

### ① 現居住地を選んだ理由 (Q18)

現在の県外の居住地を選んだ理由としては、「進学したい大学や専門学校のため」が95%と当然ながら最も多くなった。その他としては、「地元や親元を離れたかったから」(22%)、「色々なチャンスがあると思ったから」(20%)、「都会で暮らしたかったから」(20%) などがあった。

	Q18_1進学	Q18_2色々なチャンス	Q18_3都会で暮らしたかった	Q18_4地元や親元を離れたかった	Q18_5地元や親元との近さ	Q18_6色々な人に会える	Q18_7交通の便	Q18_8趣味をより楽しむ	Q18_9日常生活の利便性	Q18_10給与
女性(n=88)	84	14	17	21	5	10	15	11	10	7
男性(n=55)	52	11	9	10	1	8	3	4	2	2
総計(n=145)	138	26	26	32	6	18	18	15	12	9
	Q18_11仕事のやりがいや成長	Q18_12実現したい夢	Q18_13流行や最新トレンド	Q18_14文化や芸術	Q18_15レジャーの充実	Q18_16異動・親・配偶者の都合	Q18_17子育て環境	Q18_18医療や福祉の充実	Q18_19老後の生活	Q18_20その他
女性(n=88)	7	8	5	14	6	3			1	
男性(n=55)	2	4	3	3	3	1			0	
総計(n=145)	9	14	8	18	9	4			1	

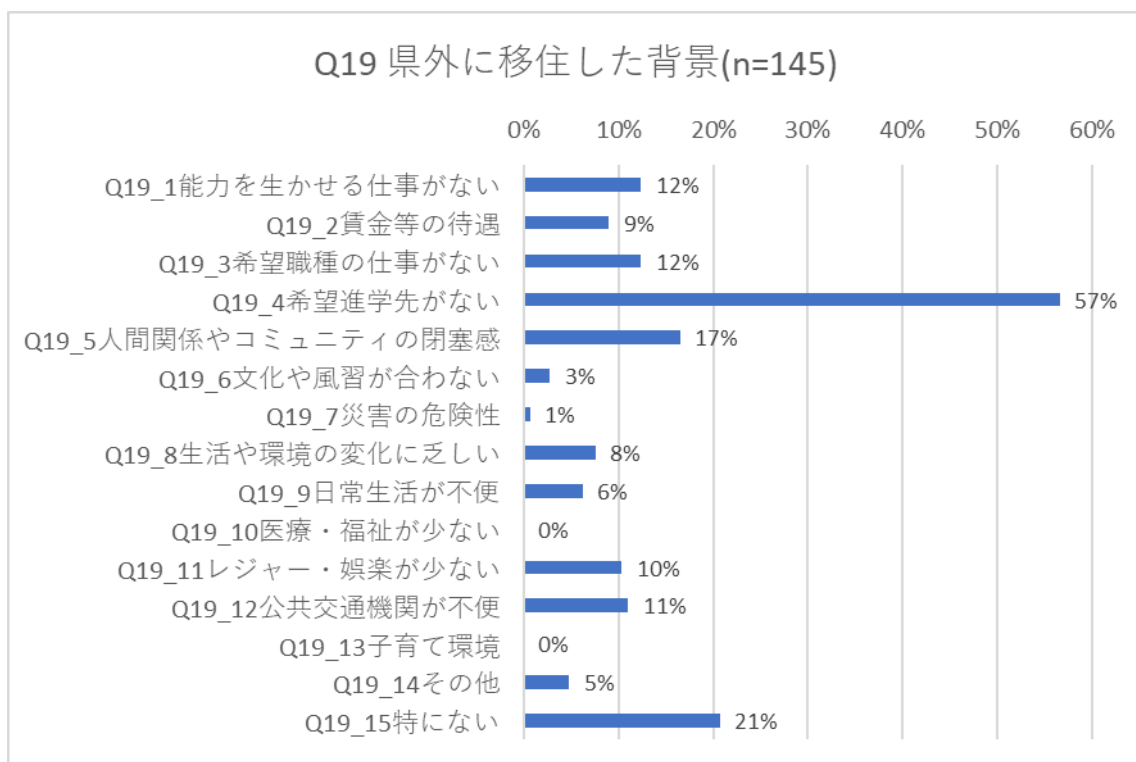


## ② 他県に移住した理由 (Q19)

熊本県に残らず他県を選択した背景についてはやはり「希望することが学べる進学先がないこと」(57%)が最も多かった。また、「人間関係やコミュニティに閉塞感があること」(17%)も比較的多くなっている。サンプル数が少ないため有意差があるとまではいえないが、人間関係やコミュニティの閉塞感については女性の方の回答が多い。

「その他」の理由記載欄については、「結婚」、「就職」、「転勤」などの理由のほか、少数ながら「男尊女卑の風潮を感じる」、「親元を離れたかった」などの記述もあった。

	Q19_1能力を生かせる仕事がない	Q19_2賃金等の待遇	Q19_3希望職種の仕事がない	Q19_4希望進学先がない	Q19_5人間関係やコミュニティの閉塞感	Q19_6文化や風習が合わない	Q19_7災害の危険性	Q19_8生活や環境の変化に乏しい
女性(n=88)	8	7	10	52	18	3	0	10
男性(n=55)	10	6	7	29	6	1	1	1
総計(n=145)	18	13	18	82	24	4	1	11
	Q19_9日常生活が不便	Q19_10医療・福祉が少ない	Q19_11レジャー・娯楽が少ない	Q19_12公共交通機関が不便	Q19_13子育て環境	Q19_14その他	Q19_15特にない	
女性(n=88)	7		13	15		2	20	
男性(n=55)	2		2	1		5	10	
総計(n=145)	9		15	16		7	30	



③ 居住地を選択する際に重視すること (Q20)

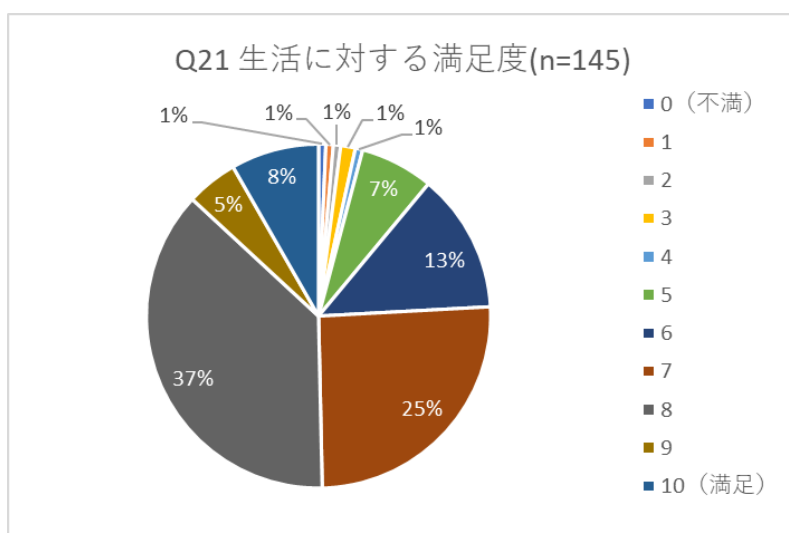
※この設問についてはアンケートの設定ミスにより回答の集計が不可能であった。

(11) 生活・仕事の満足度 (Q20-21)

① 現在の生活に関する満足度 (Q21)

現在の生活に対する満足度については、満足度 8 (37%)、満足度 7 (25%) が多くな  
った。男女別では特に有為さはみられない (p=0.375)。

	0 (不満)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (満足)
女性(n=88)	1	1	1		1	4	13	25	33	5	4
男性(n=55)				2		5	6	12	20	2	8
答えたくない(n=2)						1			1		
総計(n=145)	1	1	1	2	1	10	19	37	54	7	12



② 現在の仕事に関する満足度 (Q22)

この設問についてはサンプル数が極めて少ないため、参考に結果のみ表示する。

	0 (不満)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 (満足)
女性	1					1		1			2
男性						1			1		
答えたくない											
総計	1					2		1	1		2

## (12) 仕事観について (Q23)

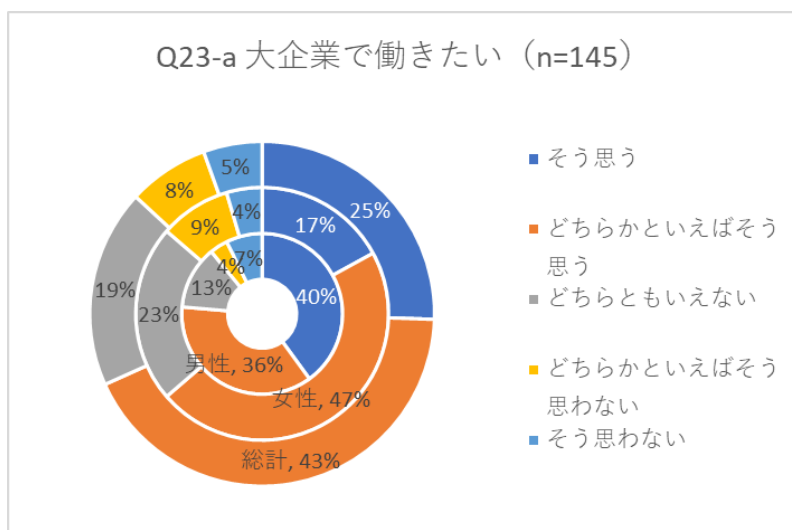
「大企業で働きたい」、「中小企業で働きたい」、「ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい」、「独立・起業したい」、「出身地で働きたい」という5つの項目について、そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらともいえない・どちらかといえばそう思わない・そう思わないの5件法でたずねた。

### ① 大企業で働きたい (Q23-a)

大企業で働くことについては、同意（そう思う、どちらかといえばそう思う）が69%となった。この数値は、県外に転出した社会人に対する同様のアンケート結果（48%）に比べて大幅に増えている。

男女別では、男性の方が同意する割合が多くなっている。（ただし統計的に有意な差があるとまではいえない。）

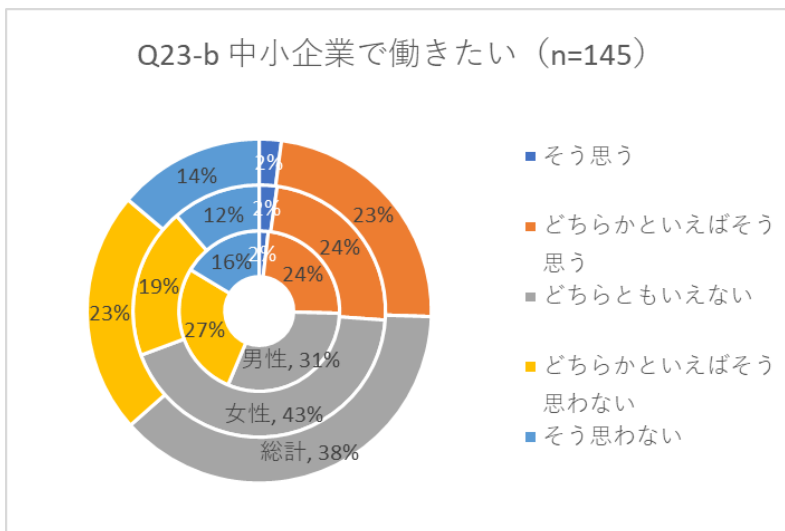
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=88)	15	41	20	8	4
男性(n=55)	22	20	7	2	4
答えたくない(n=2)		1		1	
総計(n=145)	37	62	27	11	8



### ② 中小企業で働きたい (Q23-b)

中小企業で働くことについては、同意が24%、不同意が37%となっている。こちらは県外・社会人アンケートと大きく変わらない。

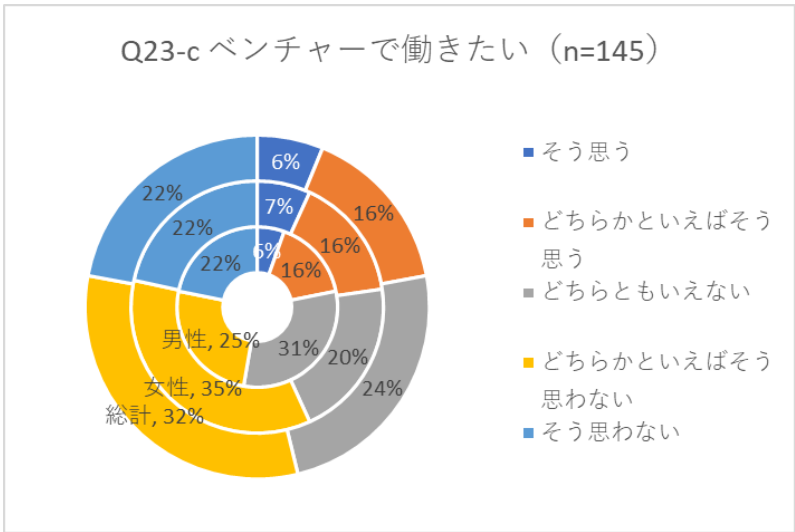
Q23-a	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=88)	2	21	38	17	10
男性(n=55)	1	13	17	15	9
答えたくない(n=2)				1	1
総計(n=145)	3	34	55	33	20



### ③ ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい (Q23-c)

ベンチャー・スタートアップ企業で働くことについては、同意が22%、不同意が54%となった。県外・社会人アンケートでは同意が15%にとどまっていたのに比べ、同意の割合が増えている。

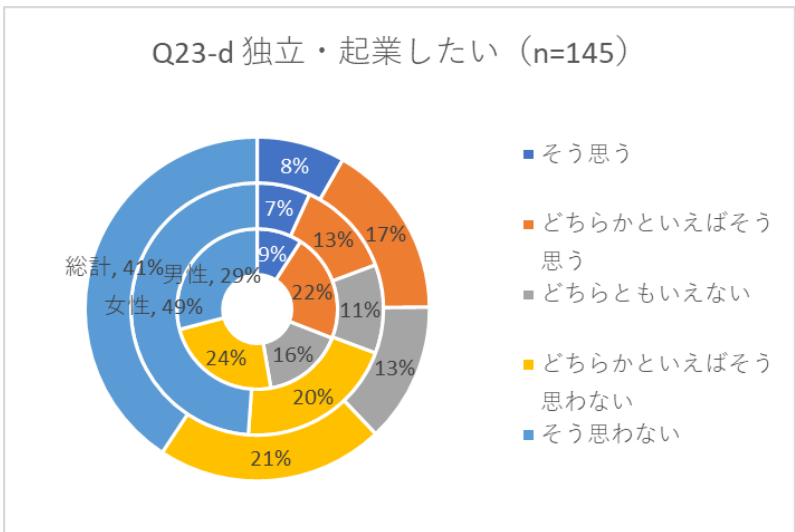
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=567)	19	51	164	123	210
男性(n=192)	10	30	55	53	44
答えたくない(n=2)			1		1
総計(n=761)	29	81	220	176	255



④ 独立・起業したい (Q23-d)

独立・起業については、同意が25%、不同意が62%であった。不同意の割合はこれまでで最も大きくなっている。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=88)	6	11	10	18	43
男性(n=55)	5	12	9	13	16
答えたくない(n=2)	1	1			
総計(n=145)	12	24	19	31	59



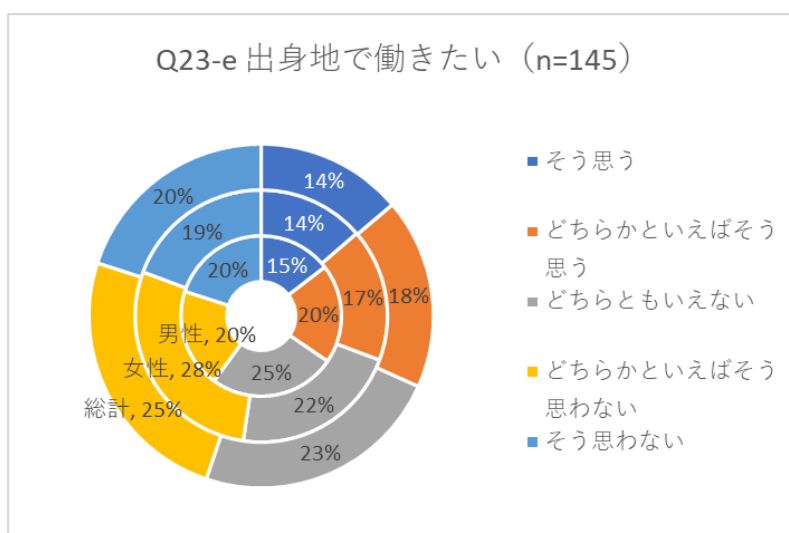
⑤ 出身地で働きたい (Q23-e)

出身地（熊本県）で働くことについては、同意が32%、不同意が45%となった。この設問については、これまでの設問と質が異なり、働きたい企業の規模ではなく働きたい場所（出身地）に関する質問であり、Q34でたずねている「熊本に戻る意思」と関連するものとなっている。

この結果については、R2 国交省調査における類似の設問の調査結果である「東京圏外出身で東京圏在住者」が「地元で働きたい」と考えている割合である19%（そう思う4%、どちらかといえばそう思う15%）よりも高くなっており、熊本県出身学生は全国平均に比べて「地元で働きたい」という仕事観を持つ割合が高いことが分かる。

一方で、不同意の数値（45%）が県外・社会人に対するアンケート結果（38%）に比べてかなり増えているのが気になるところである。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=88)	12	15	19	25	17
男性(n=55)	8	11	14	11	11
答えたくない(n=2)			1		1
総計(n=145)	20	26	34	36	29

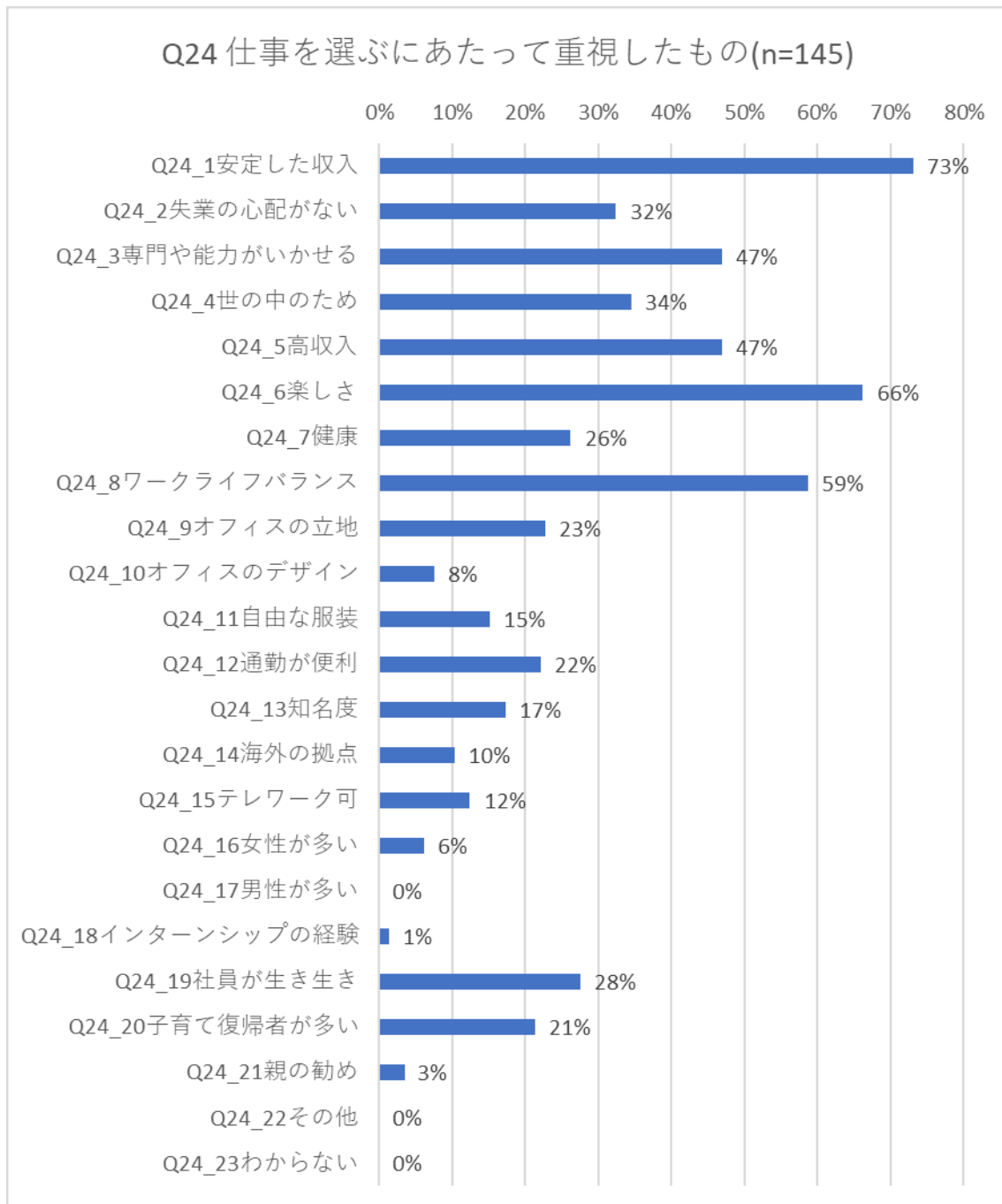


#### (14) 仕事を選ぶに当たって重視したもの (Q24)

仕事を選ぶうえで重視した項目として、「収入が安定している」(73%)が最も高くなっている。次いで、「自分にとって楽しい」(66%)、「私生活とバランスがとれる」(59%)、「自分の専門知識や能力がいかせる」(47%)、「高い収入が得られる」(47%)などが続く。この傾向は、県外・社会人のアンケート結果とも同様であるが、各項目の数値はより上昇している。

	Q24_1安定した収入	Q24_2失業の心配がない	Q24_3専門や能力がいかせる	Q24_4世の中のため	Q24_5高収入	Q24_6楽しさ	Q24_7健康	Q24_8ワークライフバランス
女性(n=88)	68	31	38	32	38	59	27	56
男性(n=55)	38	15	29	17	30	35	11	29
答えたくない(n=2)		1	1	1		2		
総計(n=145)	106	47	68	50	68	96	38	85
	Q24_9オフィスの立地	Q24_10オフィスのデザイン	Q24_11自由な服装	Q24_12通勤が便利	Q24_13知名度	Q24_14海外の拠点	Q24_15テレワーク可	Q24_16女性が多い
女性(n=88)	27	10	18	23	13	9	14	8
男性(n=55)	6	1	3	9	12	6	3	0
答えたくない(n=2)			1				1	1
総計(n=145)	33	11	22	32	25	15	18	9
	Q24_17男性が多い	Q24_18インターンシップの経験	Q24_19社員が生き生き	Q24_20子育て復帰者が多い	Q24_21親の勧め	Q24_22その他	Q24_23わからない	
女性(n=88)	0	0	32	31	2	0	0	
男性(n=55)	0	2	6	0	3	0	0	
答えたくない(n=2)			2					
総計(n=145)	0	2	40	31	5	0	0	



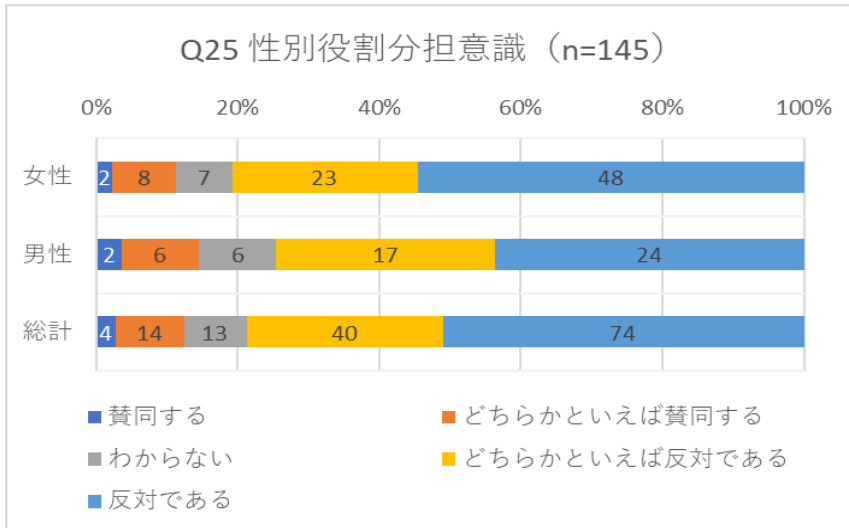


(15) アンコンシャスバイアスについて (Q25-27)

① 性別役割分担意識に賛成するか (Q25)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった性別役割分担意識について賛同するかという問いに対し、「反対」(51%)と「どちらかといえば反対」(28%)を合わせた否定派は8割近くなった。

	賛同する	どちらかといえば賛同する	わからない	どちらかといえば反対である	反対である
女性(n=88)	2	8	7	23	48
男性(n=55)	2	6	6	17	24
答えたくない(n=2)					2
総計(n=145)	4	14	13	40	74

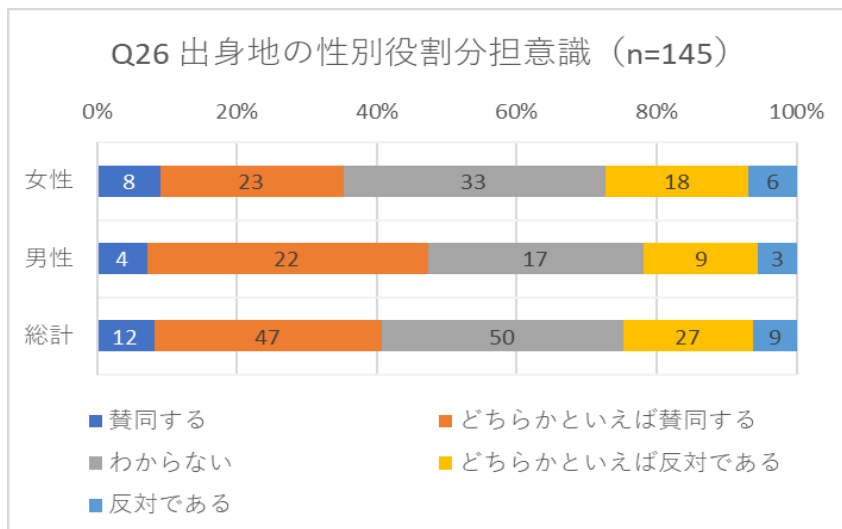


② 出身地の人たちは性別役割分担意識に賛成するか (Q26)

出身地の人たちが「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった性別役割分担意識について賛同するかという問いに対し、「反対」(6%)と「どちらかといえば反対」(19%)を合わせた否定派は合計25%、「賛同」(8%)と「どちらかといえば賛同」(32%)を合わせた賛同派が40%になった。多くの回答者が、自分の出身地では固定的な性別役割分担意識が強いと感じていることがうかがえる。

この設問について、R2 国交省調査における「国内の女性であり東京圏外出身で東京圏在住者」の回答と比較すると、国交省調査では賛同派38% (賛同する8%、どちらかといえば賛同する30%)、否定派24% (反対である5%、どちらかといえば反対である19%)となっており、今回の学生アンケートの結果は全国平均と類似している。

	賛同する	どちらかといえば賛同する	わからない	どちらかといえば反対である	反対である
女性(n=88)	8	23	33	18	6
男性(n=55)	4	22	17	9	3
答えたくない(n=2)		2			
総計(n=145)	12	47	50	27	9



③ 家事・育児の役割分担状況 (Q27)

※この設問についてはアンケートの設定ミスにより回答の集計が不可能であった。

(16) 職場における男女共同参画 (Q28-29)

職場における男女の平等性をたずねた Q28、男女の役割分担をたずねた Q29 については 2 名から回答があった。

	Q28 あなたの職場では男女どちらが優遇されていますか		Q29 男女の役割分担という考えはありますか	
	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	そう思わない	どちらかといえばそう思う
女性	1	1	1	1
男性				
答えたくない				
総計	1	1	1	1

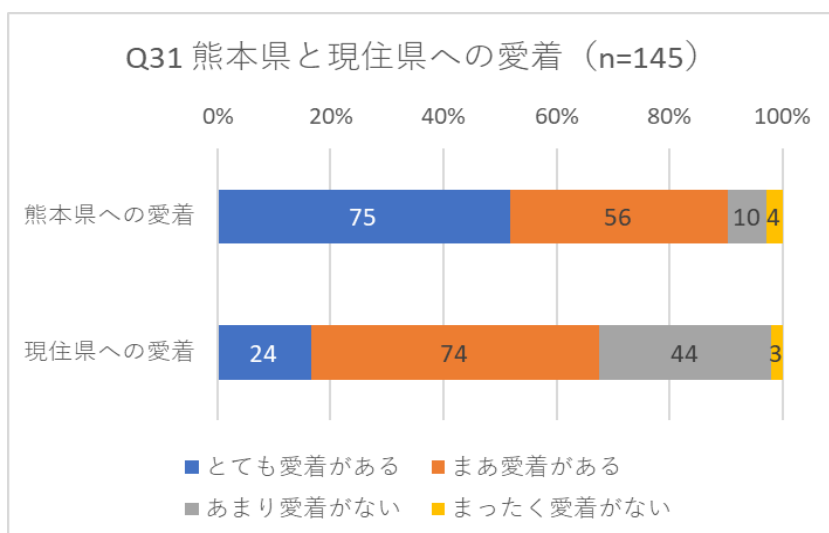
(17) 自治体への愛着 (Q30)

熊本県への愛着と住んでいる都府県への愛着をたずねた設問について、熊本県に対して「とても愛着がある」と「まあ愛着がある」と答えた者は 9 割以上となっている。特に、「とても愛着がある」と答えている者の割合だけで 5 割を超えている。

現在住んでいる場所に対しても愛着があると答えた者は 7 割弱、「とても愛着がある」は 2 割弱であり、熊本県に対する答えとは大きく異なっている。

熊本県への愛着	とても愛着がある	まあ愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない
女性(n=88)	48	32	6	2
男性(n=55)	26	24	3	2
答えたくない(n=2)	1		1	
総計(n=145)	75	56	10	4

現住県への愛着	とても愛着がある	まあ愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない
女性(n=88)	14	48	24	2
男性(n=55)	10	26	18	1
答えたくない(n=2)			2	
総計(n=145)	24	74	44	3



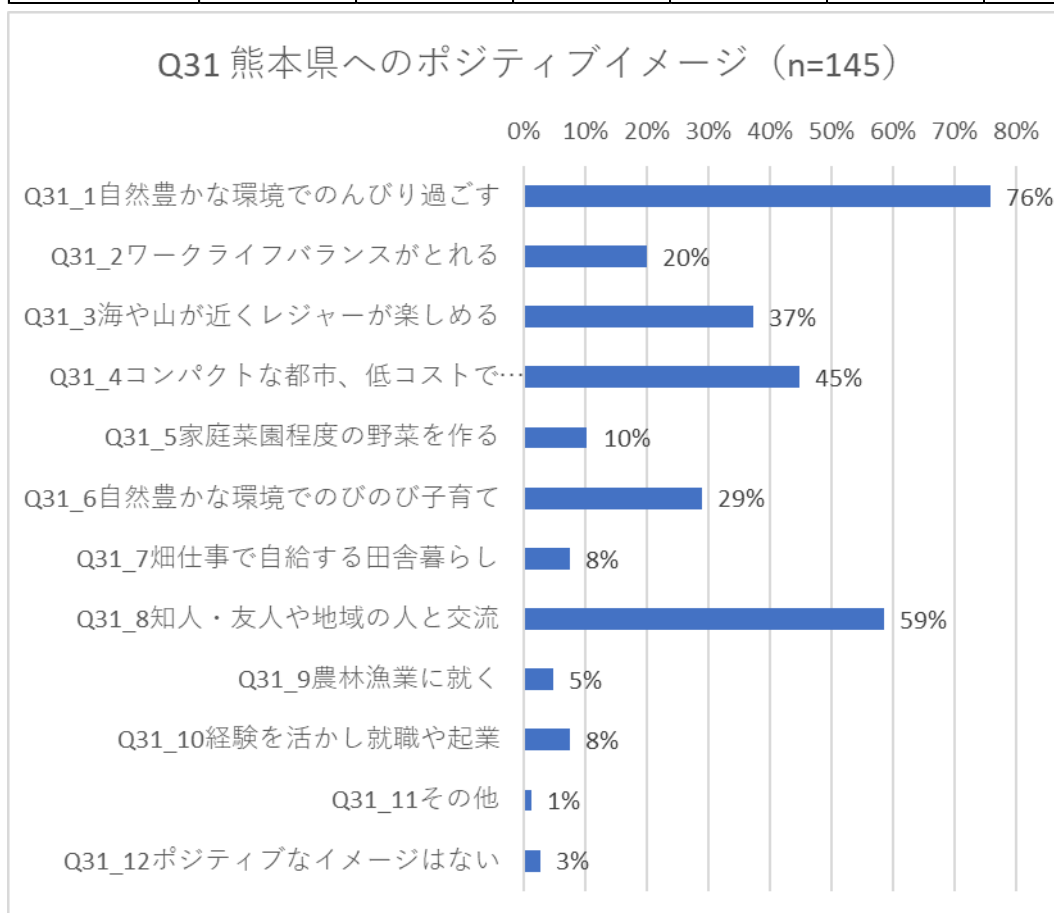
## (18) 熊本県へのイメージ (Q31-32)

### ① 熊本県へのポジティブイメージ (Q31)

熊本県に対するポジティブなイメージとして、「自然豊かな環境でのんびりと過ごす暮らし」(76%)が最も多く、次いで「以前からの知人・友人や地域の人と交流しながらの暮らし」(59%)、「コンパクトな都市で、低コストで利便性のある暮らし」(45%)などが高くなっている。

その他の記述では「水のおいしさ」を指摘する声があった。

	Q31_1自然豊かな環境でのんびり過ごす	Q31_2ワークライフバランスがとれる	Q31_3海や山が近くレジャーが楽しめる	Q31_4コンパクトな都市、低コストで利便性	Q31_5家庭菜園程度の野菜を作る	Q31_6自然豊かな環境でのびのび子育て
女性(n=88)	63	12	30	44	7	27
男性(n=55)	45	16	23	20	7	15
答えたくない(n=2)	2	1	1	1	1	
総計(n=145)	110	29	54	65	15	42
	Q31_7畑仕事で自給する田舎暮らし	Q31_8知人・友人や地域の人と交流	Q31_9農林漁業に就く	Q31_10経験を活かし就職や起業	Q31_11その他	Q31_12ポジティブなイメージはない
女性(n=88)	5	54	4	7	2	3
男性(n=55)	6	30	3	3	0	1
答えたくない(n=2)		1		1		
総計(n=145)	11	85	7	11	2	4



② 熊本県へのネガティブイメージ (Q32)

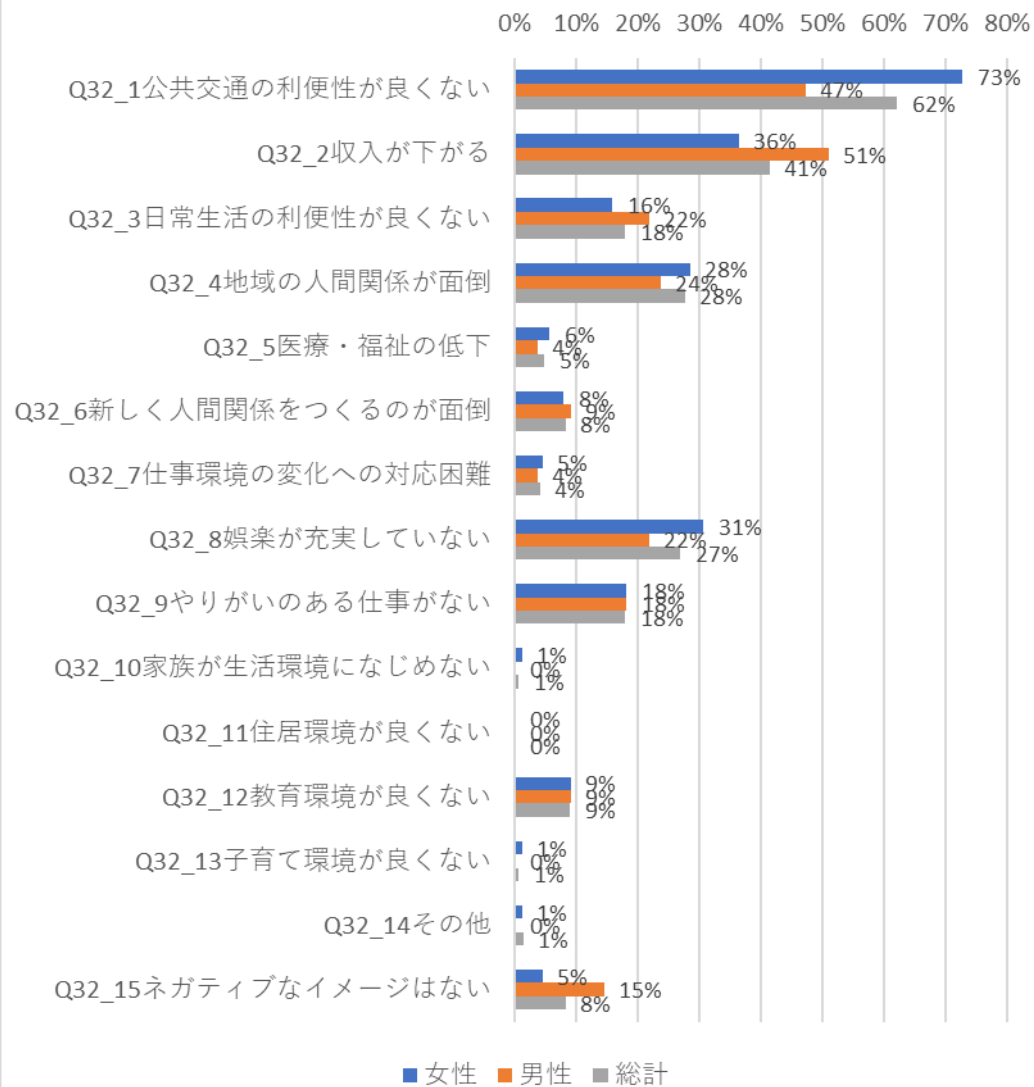
熊本県に対するネガティブなイメージとしては、「公共交通の利便性が良くない」(62%) が最も多く、次いで「収入が下がる」(398件、41%)、「限られた地域の強い人間関係の中で生活することが面倒、難しい」(28%)、「余暇を楽しむ施設やサービスが充実していない」(28%)が続く。

男女別に見ると、公共交通に対する不満は女性の方が多く、収入に対する不満は男性の方が大きくなっている。(女性の方は統計的にも有意差がある。)

その他の記述欄では、「閉塞感がある」、「保守的」などの意見があった。

	Q32_1公共交通の利便性が良くない	Q32_2収入が下がる	Q32_3日常生活の利便性が良くない	Q32_4地域の人間関係が面倒	Q32_5医療・福祉の低下	Q32_6新しく人間関係をつくるのが面倒	Q32_7仕事環境の変化への対応困難	Q32_8娯楽が充実していない
女性(n=88)	64	32	14	25	5	7	4	27
男性(n=55)	26	28	12	13	2	5	2	12
答えたくない(n=2)				2				
総計(n=145)	90	60	26	40	7	12	6	39
	Q32_9やりがいのある仕事がない	Q32_10家族が生活環境になじめない	Q32_11住居環境が良くない	Q32_12教育環境が良くない	Q32_13子育て環境が良くない	Q32_14その他	Q32_15ネガティブなイメージはない	
女性(n=88)	16	1	0	8	1	1	4	
男性(n=55)	10	0	0	5	0	0	8	
答えたくない(n=2)						1		
総計(n=145)	26	1	0	13	1	2	12	

### Q32 熊本県へのネガティブイメージ (n=145)

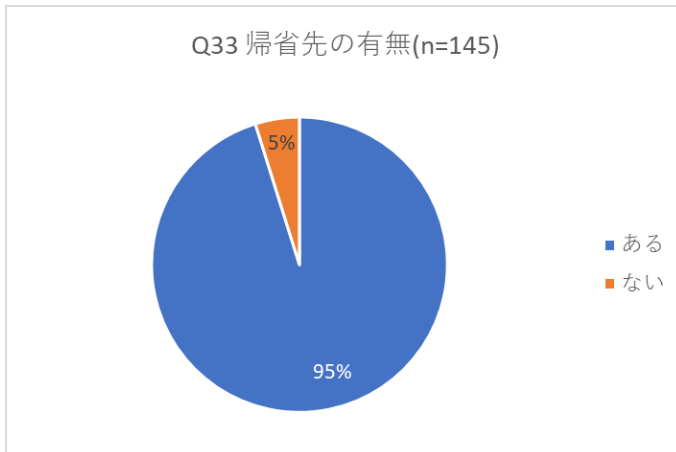


### (19) 熊本に戻ることに (Q33-41)

#### ① 帰省先の有無 (Q33)

帰省先の有無については、95%の者が有りと答えている。

	ある	ない
女性(n=88)	82	6
男性(n=55)	54	1
答えたくない(n=2)	2	
総計(n=145)	138	7



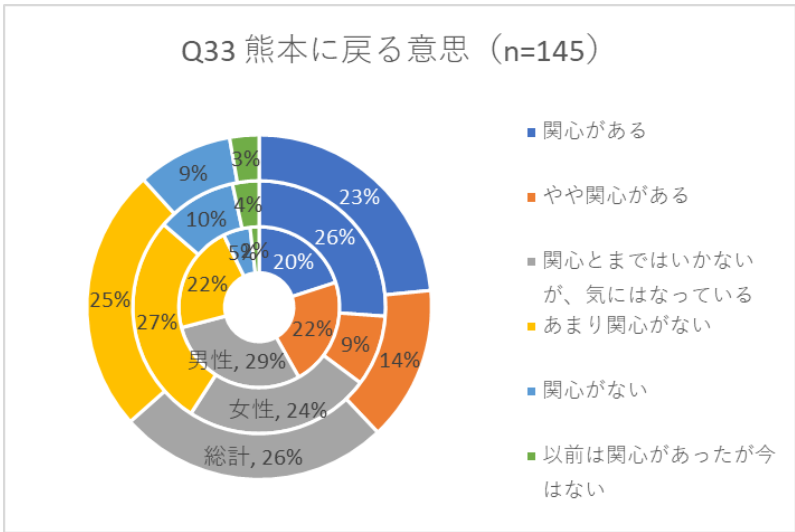
② 熊本に戻って暮らすことへの関心 (Q34)

「熊本県に戻って暮らすことに関心がありますか」という設問に対し、関心があると回答した「意向層」は63%（関心がある23%、やや関心がある14%、気にはなっている26%）となった。この数値は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が令和2年に行った「移住に関するアンケート調査」における「意向層」の49.8%（関心がある15.6%、やや関心がある15.5%、気にはなっている18.7%）と比べて10ポイント以上も高く、同調査の地方圏出身者の意向層の61.7%も上回る。

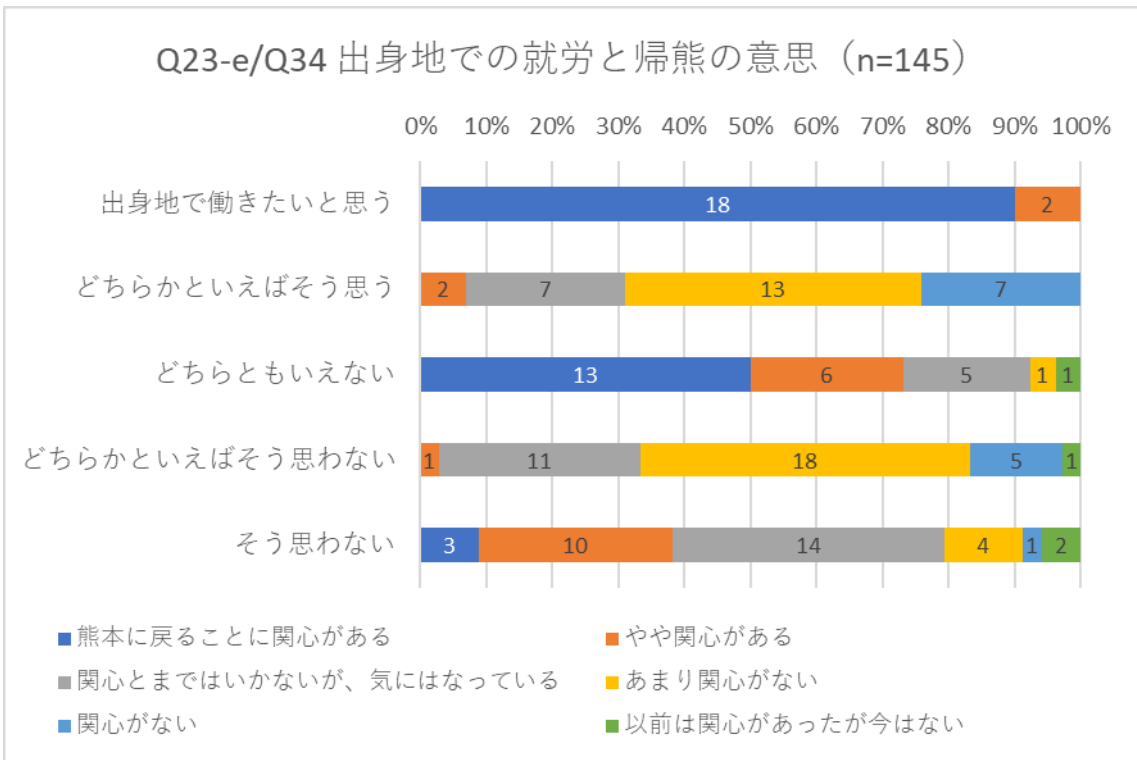
男女別に見ると、女性の方が「あまり関心がない」、「関心がない」と答えた割合が多くなっている。（統計的な有意差は無い。）

	関心がある	やや関心がある	関心とまではいかないが、気にはなっている	あまり関心がない	関心がない	以前は関心があったが今はない
女性(n=88)	23	8	21	24	9	3
男性(n=55)	11	12	16	12	3	1
答えたくない(n=2)		1			1	
総計(n=145)	34	21	37	36	13	4





Q23-e でたずねた「出身地で働きたい」という設問での回答と、本設問での回答の関係性について示したクロス集計表においても、出身地で働きたいかという質問に「そう思う」と答えた者は Q34 において「熊本に戻ることに関心がある」、「やや関心がある」に 100%回答している。また「どちらかといえばそう思う」と答えた者についても、「気にはなっている」までで 9 割以上となっている。



③ 熊本に戻る時期（Q35）

「具体的に熊本県に戻って暮らす時期は決まっていますか」という設問に対し、9割以上が「3年以上または時期は決めていない」と回答している。

	1年以内	2年以内	3年以内	それ以上／時期は決めていない
女性(n=52)	1	1	2	48
男性(n=42)	2	1		39
総計(n=94)	3	2	2	87

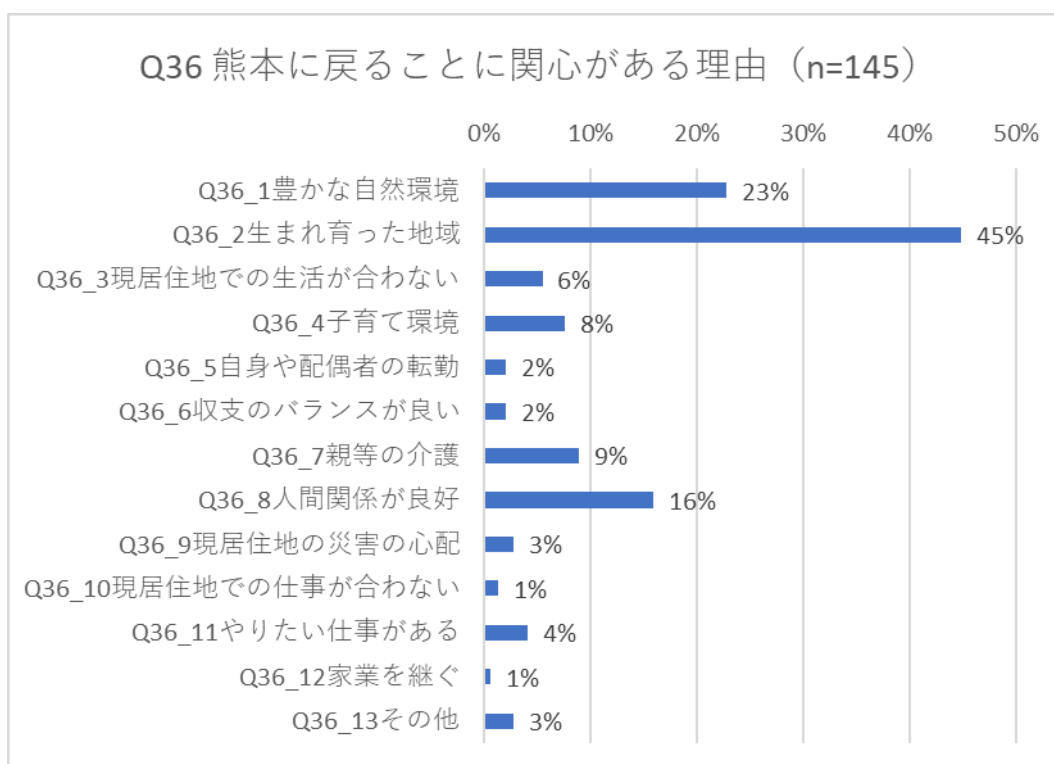
④ 熊本に戻って暮らすことに関心がある理由（Q36）

熊本に戻ることに関心がある理由をたずねた問いについては「生まれ育った地域で暮らしたいため」（45％）が最も多く、次いで「豊かな自然環境があるため」（23％）が続く。この傾向は県外・社会人のアンケート結果も同じである。

その他の記述欄については、「親がいる」、「子育てに親のサポートを受けたい」などの意見があった。

この結果を R2 内閣府調査における同様の設問と比較すると、R2 内閣府調査の地方圏出身者の数字は「生まれ育った地域で暮らしたいため」38.4％、「豊かな自然環境があるため」40.9％等となっている。「生まれ育った地域で暮らしたい」は R2 内閣府調査よりもやや高いが、「豊かな自然環境」については数値が下回っている。

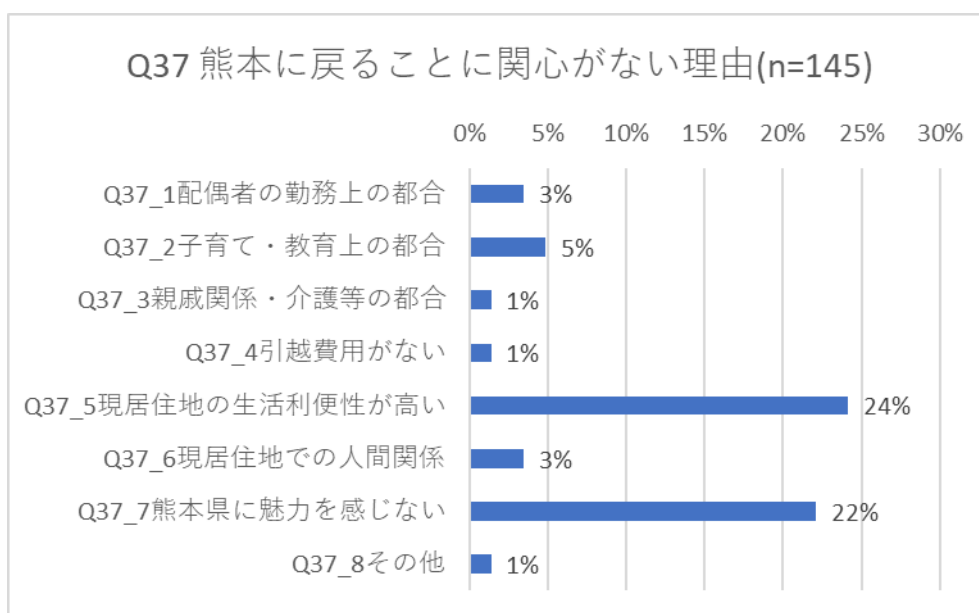
	Q36_1豊かな自然環境	Q36_2生まれ育った地域	Q36_3現居住地での生活が合わない	Q36_4子育て環境	Q36_5自身や配偶者の転勤	Q36_6収支のバランスが良い	Q36_7親等の介護
女性(n=88)	18	37	4	7	2	1	9
男性(n=55)	14	28	4	4	1	2	4
答えたくない(n=2)	1						
総計(n=145)	33	65	8	11	3	3	13
	Q36_8人間関係が良好	Q36_9現居住地の災害の心配	Q36_10現居住地での仕事が合わない	Q36_11やりたい仕事がある	Q36_12家業を継ぐ	Q36_13その他	
女性(n=88)	14	2	1	2	1	2	
男性(n=55)	9	2	1	4	0	2	
答えたくない(n=2)							
総計(n=145)	23	4	2	6	1	4	



⑤ 熊本に戻って暮らすことに関心が無い理由 (Q37)

熊本に戻ることに関心が無い理由をたずねた問いについては「現居住地の生活利便性が高いため」(24%) が最も多く、次いで「熊本県に戻って暮らすことに魅力を感じないため」(22%) となっている。

	Q37_1配偶者の勤務上の都合	Q37_2子育て・教育上の都合	Q37_3親戚関係・介護等の都合	Q37_4引越費用がない	Q37_5現居住地の生活利便性が高い	Q37_6現居住地での人間関係	Q37_7熊本県に魅力を感じない	Q37_8その他
女性(n=88)	3	3	1	1	22	3	17	2
男性(n=55)	2	4	1	1	12	2	14	0
答えたくない(n=2)					1		1	
総計(n=145)	5	7	2	2	35	5	32	2

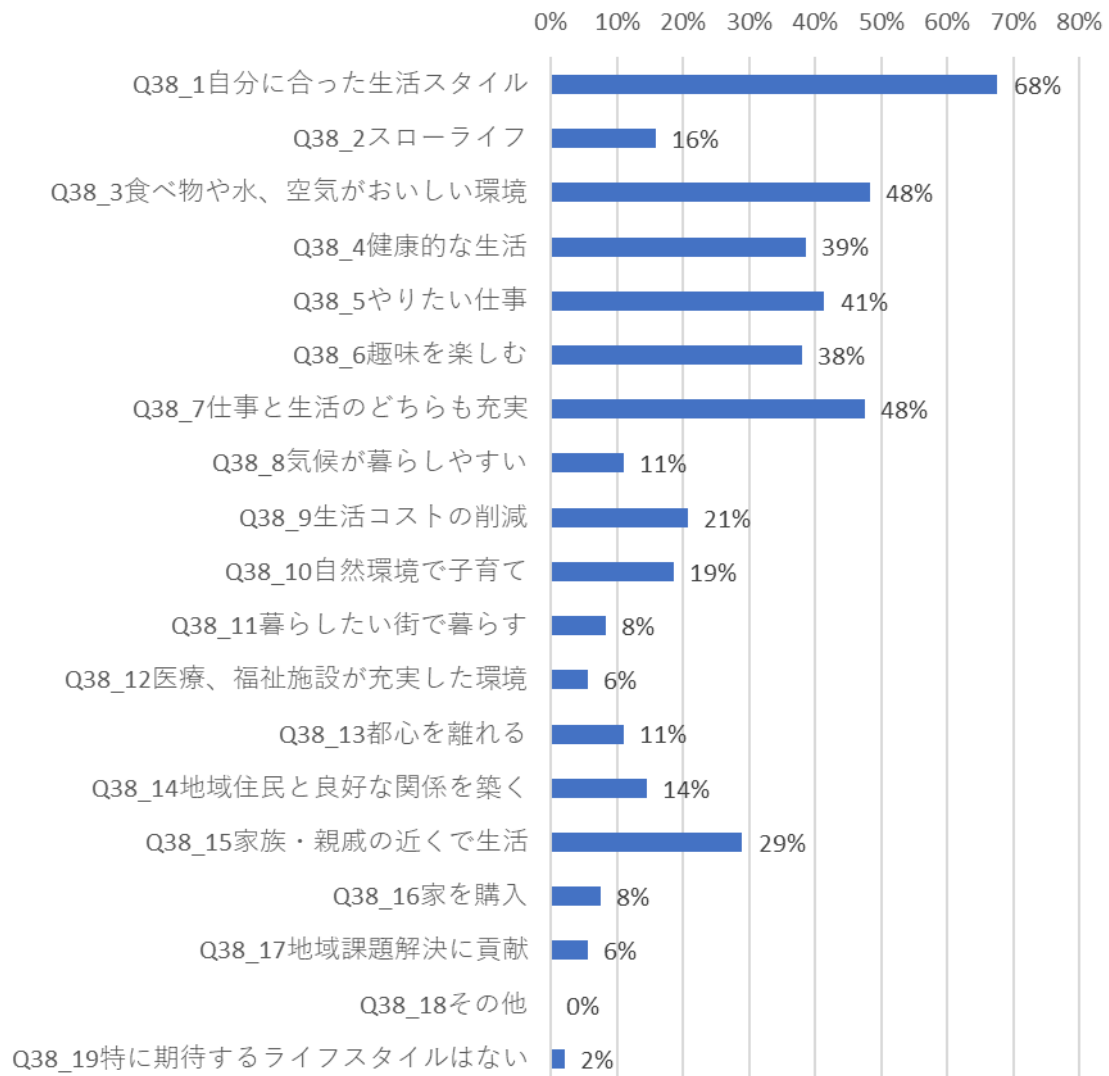


#### ⑥ 熊本で期待するライフスタイル、実現したいこと (Q38)

「あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、期待するライフスタイル、実現したいことは何ですか」という設問については、「自分に合った生活スタイルを送ること」(68%)が最も多く、次いで「食べ物や水、空気がおいしい環境で生活すること」(48%)、「仕事と生活のどちらも充実させること」(48%)が続く。

	Q38_1自分に合った生活スタイル	Q38_2スローライフ	Q38_3食べ物や水、空気がおいしい環境	Q38_4健康的な生活	Q38_5やりたい仕事	Q38_6趣味を楽しむ	Q38_7仕事と生活のどちらも充実	Q38_8気候が暮らしやすい	Q38_9生活コストの削減	Q38_10自然環境で子育て
女性(n=88)	62	8	47	36	37	33	45	12	25	17
男性(n=55)	34	15	22	20	22	21	24	4	5	10
答えたくない(n=2)	2		1		1	1				
総計(n=145)	98	23	70	56	60	55	69	16	30	27
	Q38_11暮らしたい街で暮らす	Q38_12医療、福祉施設が充実した環境	Q38_13都心を離れる	Q38_14地域住民と良好な関係を築く	Q38_15家族・親戚の近くで生活	Q38_16家を購入	Q38_17地域課題解決に貢献	Q38_18その他	Q38_19特に期待するライフスタイルはない	
女性(n=88)	11	7	6	15	28	5	3	0	1	
男性(n=55)	1	1	9	6	14	6	5	0	2	
答えたくない(n=2)			1							
総計(n=145)	12	8	16	21	42	11	8	0	3	

### Q38 熊本でのライフスタイル(n=145)

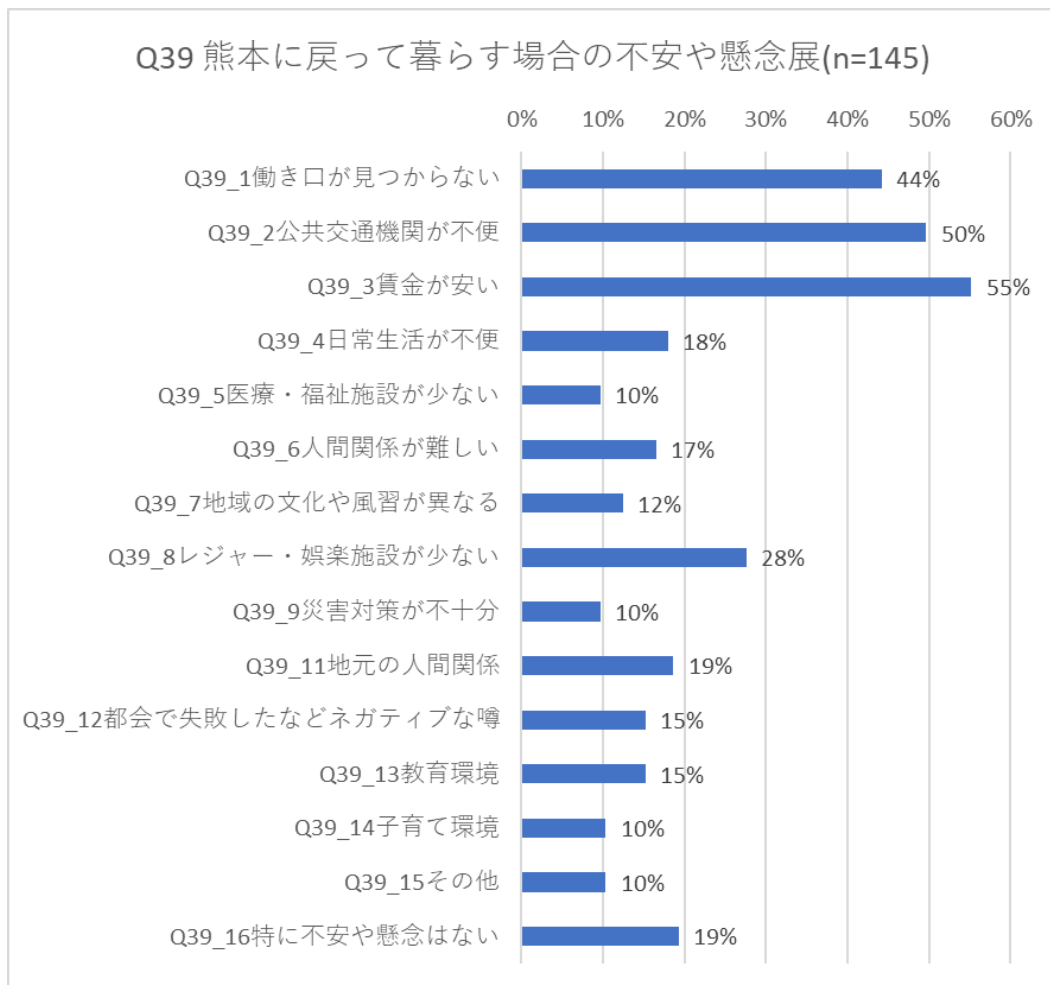


⑦ 熊本での暮らしの不安や懸念点 (Q39)

熊本に戻って暮らす場合の不安や懸念点については、「賃金が安いこと」(55%)、「公共交通機関が不便なこと」(50%)、「働き口が見つからないこと」(44%)の3つが高い。この3つが高いことについては、R2 内閣府調査においても同様である。

その他の記述欄では、「起業したいがターゲット層の人口が少ないので不安」などの意見があった。

	Q39_1働 き口が見 つからな い	Q39_2公 共交通機 関が不便	Q39_3賃 金が安い	Q39_4日 常生活が 不便	Q39_5医 療・福祉 施設が少 ない	Q39_6人 間関係が 難しい	Q39_7地 域の文化 や風習が 異なる	Q39_8レ ジャー・ 娯楽施設 が少ない
女性(n=88)	39	51	52	20	11	18	12	28
男性(n=55)	24	21	27	6	3	5	6	12
答えたくない(n=2)	1		1			1		
総計(n=145)	64	72	80	26	14	24	18	40
	Q39_9災 害対策が 不十分	Q39_11地 元の人間 関係	Q39_12都 会で失敗 したなど ネガティ ブな噂	Q39_13教 育環境	Q39_14子 育て環境	Q39_15そ の他	Q39_16特 に不安や 懸念はな い	
女性(n=88)	11	20	16	14	10	11	17	
男性(n=55)	3	6	6	8	5	3	11	
答えたくない(n=2)		1				1		
総計(n=145)	14	27	22	22	15	15	28	



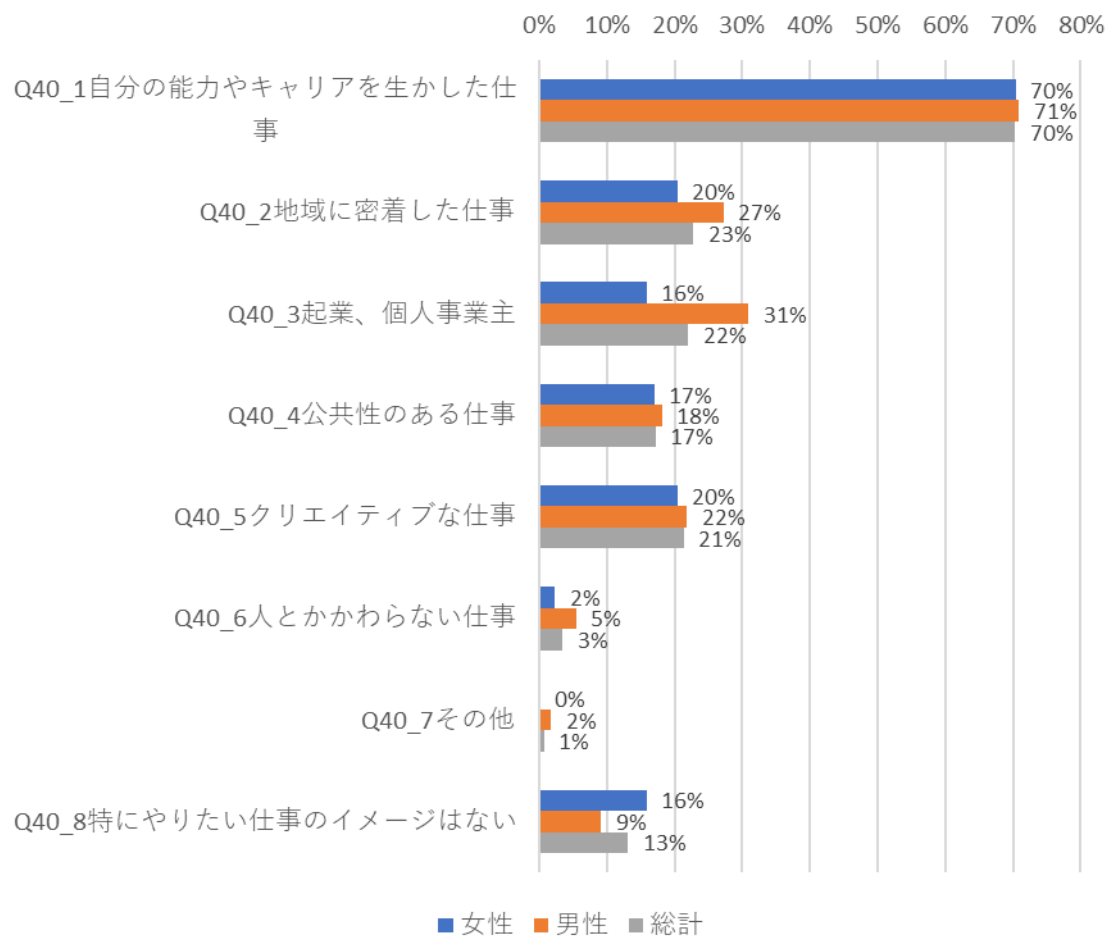
⑧ 熊本でやりたい仕事のイメージ (Q40)

熊本でやりたい仕事のイメージについては「自分の能力やキャリアを生かした仕事がしたい」(70%)が突出して高くなった。

男女別では、「自分で起業したい、または個人事業主になりたい」について、男性が優位に高い回答となっている。

	Q40_1自 分の能力 やキャリ アを生か した仕事	Q40_2地 域に密着 した仕事	Q40_3起 業、個人 事業主	Q40_4公 共性のある仕事	Q40_5ク リエイ ティブな 仕事	Q40_6人 とかかわ らない仕 事	Q40_7そ の他	Q40_8特 にやりた い仕事の イメージ はない
女性(n=88)	62	18	14	15	18	2	0	14
男性(n=55)	39	15	17	10	12	3	1	5
答えたくない(n=2)	1		1		1			
総計(n=145)	102	33	32	25	31	5	1	19

### Q40 熊本でやりたい仕事のイメージ (n=145)





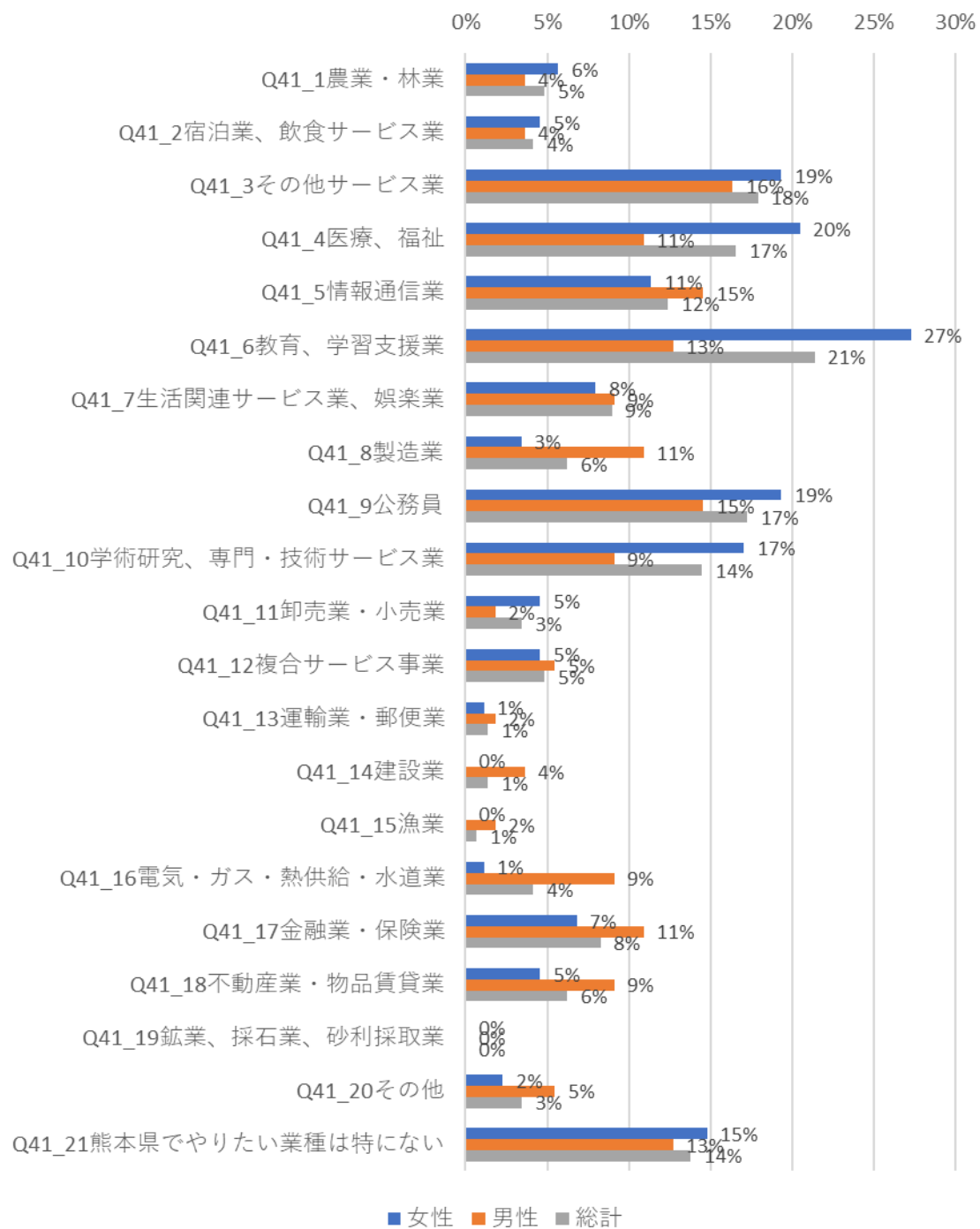
⑨ 熊本でやりたい業種 (Q41)

熊本でやりたい業種については「教育、学習支援業」(21%)、「サービス業 (他に分類されないもの)」(18%)、「医療、福祉」(17%)、「公務員」(17%) などが高くなっている。

男女別に見ると、男性が女性よりも希望している業種は「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「金融業・保険業」、「不動産業・物品賃貸業」などがあげられる。一方、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」については女性が大幅に上回る。

	Q41_1農業・林業	Q41_2宿泊業、飲食サービス業	Q41_3その他サービス業	Q41_4医療、福祉	Q41_5情報通信業	Q41_6教育、学習支援業	Q41_7生活関連サービス業、娯楽業
女性(n=88)	5	4	17	18	10	24	7
男性(n=55)	2	2	9	6	8	7	5
答えたくない(n=2)							1
総計(n=145)	7	6	26	24	18	31	13
	Q41_8製造業	Q41_9公務員	Q41_10学術研究、専門・技術サービス業	Q41_11卸売業・小売業	Q41_12複合サービス事業	Q41_13運輸業・郵便業	Q41_14建設業
女性(n=88)	3	17	15	4	4	1	0
男性(n=55)	6	8	5	1	3	1	2
答えたくない(n=2)			1				
総計(n=145)	9	25	21	5	7	2	2
	Q41_15漁業	Q41_16電気・ガス・熱供給・水道業	Q41_17金融業・保険業	Q41_18不動産業・物品賃貸業	Q41_19鉱業、採石業、砂利採取業	Q41_20その他	Q41_21熊本県でやりたい業種は特にない
女性(n=88)	0	1	6	4	0	2	13
男性(n=55)	1	5	6	5	0	3	7
答えたくない(n=2)							
総計(n=145)	1	6	12	9	0	5	20

### Q41 熊本でやりたい業種 (n=145)

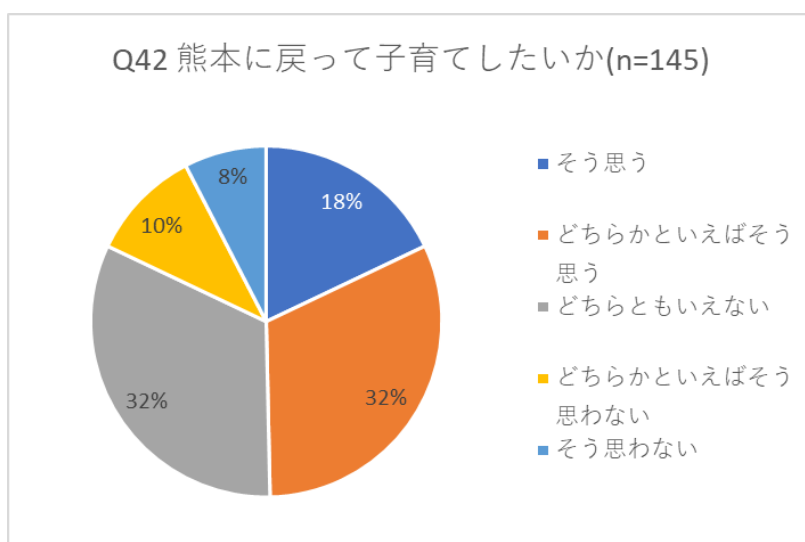


## (20) 熊本での子育て (Q42-44)

### ① 熊本に戻っての子育ての希望 (Q42)

熊本に戻って子育てを希望したいと思うかという設問については、「そう思う」(18%)と「どちらかといえばそう思う」(32%)の合計で半数となった。回答には男女差はほとんどない。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
女性(n=88)	15	30	26	11	6
男性(n=55)	11	15	20	4	5
答えたくない(n=2)		1	1		
総計(n=145)	26	46	47	15	11



### ② 熊本県で子育てを希望したいと思わない理由 (Q43)

熊本県で子育てを希望したいと思わない理由については、学生であるためか回答数が非常に少ない。その中でも「自身の就職先がない」、「進学先(大学・専門学校等)の選択肢が少ない」は比較的多数が回答している。

	Q43_1身内の支援が受けられない	Q43_2自身の就職先がない	Q43_3配偶者の就職先がない	Q43_4出産・子育てに関する相談窓口がない	Q43_5育児に対する補助金等が少ない	Q43_6育児支援サービスが少ない	Q43_7民間団体による支援が少ない	Q43_8活用できる家事・育児サービスが少ない	Q43_9保育所が少ない
女性	1	6	2	0	1	2	1	1	0
男性	0	4	0	0	0	2	0	1	0
答えたくない									
総計	1	10	2	0	1	4	1	2	0
	Q43_10子連れで行ける施設が少ない	Q43_11医療機関が少ない	Q43_12教育レベル	Q43_13進学先の選択肢が少ない	Q43_14子どもの就職先がない	Q43_15公共交通機関	Q43_16その他	Q43_17熊本県で子育てしたくない理由は特にない	
女性	1	0	4	12	2	4	1	1	
男性	3	0	4	5	2	3	1	2	
答えたくない				1					
総計	4	0	8	18	4	7	2	3	

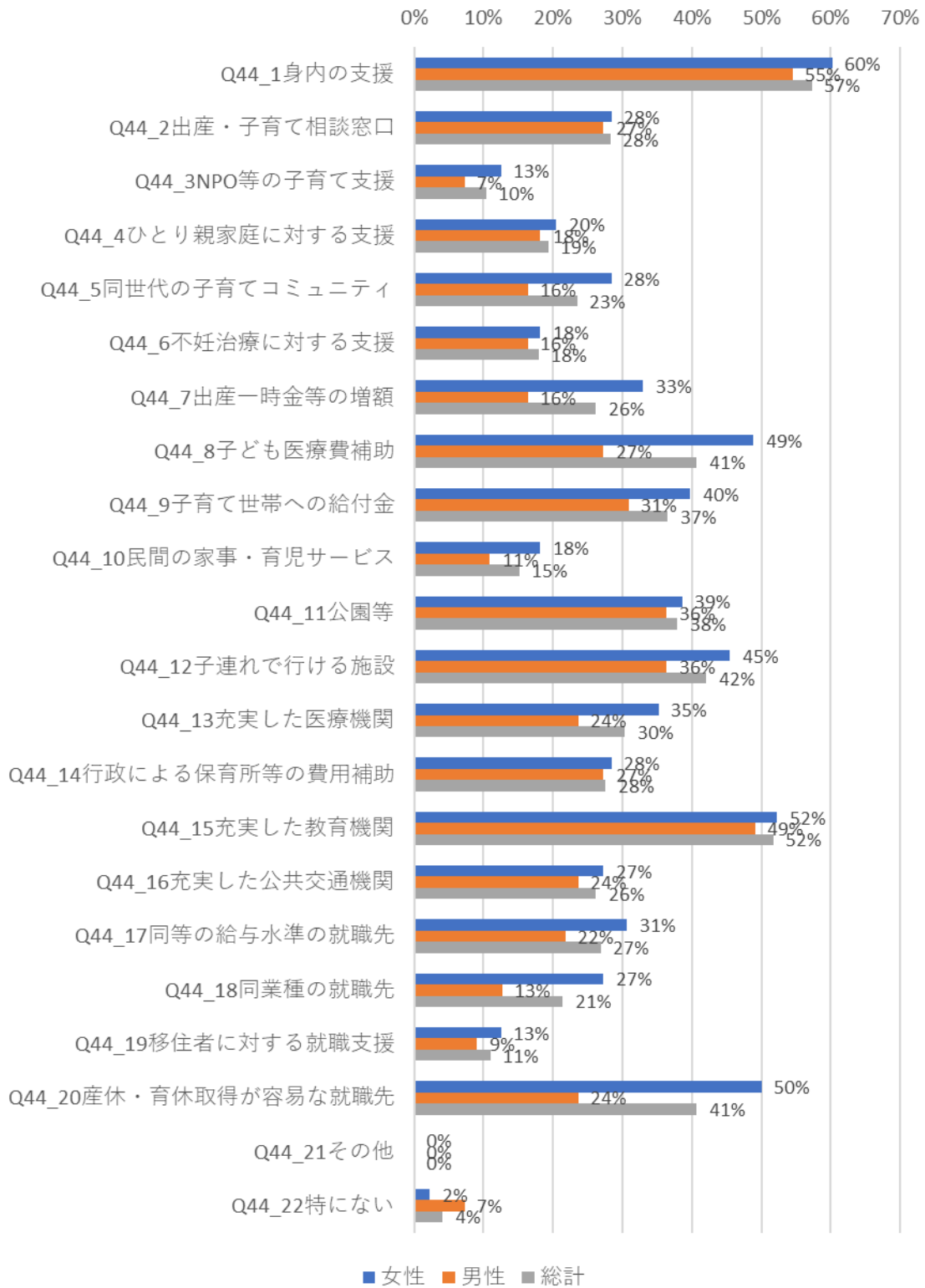
### ③ 熊本県で子育てするうえで必要な支援 (Q44)

熊本県で子育てするうえでどういった子育て支援・環境が必要かという問いに対しては、「親や親族等の身内の支援」(57%)が最も多くなっている。次いで、県外・社会人のアンケート結果では中位であった「充実した教育機関(大学、専門学校等)」(52%)が2位となっている。

男女別では、「産休・育休の取得が容易な就職先」、「子ども医療費補助」、「出産一時金の増額」などが女性の回答割合が高い。

	Q44_1身内の支援	Q44_2出産・子育て相談窓口	Q44_3NPO等の子育て支援	Q44_4ひとり親家庭に対する支援	Q44_5同世代の子育てコミュニティ	Q44_6不妊治療に対する支援	Q44_7出産一時金等の増額	Q44_8子ども医療費補助
女性	53	25	11	18	25	16	29	43
男性	30	15	4	10	9	9	9	15
答えたくない		1				1		1
総計	83	41	15	28	34	26	38	59
	Q44_9子育て世帯への給付金	Q44_10民間の家事・育児サービス	Q44_11公園等	Q44_12子連れで行ける施設	Q44_13充実した医療機関	Q44_14行政による保育所等の費用補助	Q44_15充実した教育機関	
女性	35	16	34	40	31	25	46	
男性	17	6	20	20	13	15	27	
答えたくない	1		1	1			2	
総計	53	22	55	61	44	40	75	
	Q44_16充実した公共交通機関	Q44_17同等の給与水準の就職先	Q44_18同業種の就職先	Q44_19移住者に対する就職支援	Q44_20産休・育休取得が容易な就職先	Q44_21その他	Q44_22特にない	
女性	24	27	24	11	44	0	2	
男性	13	12	7	5	13	0	4	
答えたくない	1				2			
総計	38	39	31	16	59	0	6	

### Q44 熊本で子育てをするうえで必要な支援（n=145）



### (21) 居住地の候補 (Q45)

熊本県に戻って暮らす場合に候補となる圏域についてたずねた設問では、「熊本市」という回答が76%となっている。

	熊本市	県央	県南	県北	天草
女性(n=88)	67	4	5	12	
男性(n=55)	42	2	2	7	2
答えたくない(n=2)	1			1	
総計(n=145)	110	6	7	20	2

### (22) 就職を機に転出した者の就労について (Q46-48)

#### ① 就職を機に転職したか (Q46)、その仕事は熊本県でも可能か (Q47)

学生の回答結果であるため、Q46 で就職を機に熊本県外に転出したと回答した者は3名のみである。また、その全員がQ47 においてその仕事は熊本県でも可能であると回答している。

	飲食店ホールスタッフ	学生	地方公務員
女性	1	1	1
男性			
答えたくない			
総計	1	1	1

#### ② 熊本県以外で就職した理由 (Q48)

この設問についても、回答した者は4名のみであった。

	家族がいる	実家(地元)を出たい	都会で暮らしたい
女性	1	1	1
男性	1		
答えたくない			
総計	2	1	1

### 3. 県外・学生に対するアンケート結果の小括

県外に居住する学生に対するアンケート結果から得られる示唆をあげておく。

#### (1) 学生の特徴について

学生に対するアンケートでは、大半の回答者が未だ就労や子育てをしたことがないことから、就労や子育てに対する設問の回答については想像で答えている側面も多いと思われる。

一方で、熊本県に対する愛着という点では、Q30で熊本県に対して「とても愛着がある」と「まあ愛着がある」と答えた者は9割以上となっている。また、Q34の「熊本県に戻って暮らすことに関心があるか」という設問に対し、関心があると回答した「意向層」は63%とR2内閣府調査の回答を上回っており、Q23-eの「出身地で働きたいかどうか」の設問への同意もR2内閣府調査を大幅に超えている。

今回、同時に実施したUIターン者に対するアンケートでは、「県外の大学に進学した者が就職時に熊本に戻ってくる」というのがUターンの典型的パターンの一つであることも判明している。そのため、地元への愛着度が高い熊本県の学生に対して、就職活動時に的確に熊本県での働き先の情報を提供していくことが、今後の熊本県の人口政策において非常に重要となるであろう。

#### (2) ターゲットとしやすい層

学生の現在の居住地として、3分の1以上が福岡県と回答している(Q16)。福岡県在住者については距離的に近いこともあり心理的障壁が低くなる可能性が高いため、今後は「福岡県（または九州管内）在住の大学生」といった県外者を対象にした合同就職説明会の開催なども考えられるのではないだろうか。

## III-4 アンケートのクロス集計・重回帰分析

### 1. アンケートの詳細な分析について

アンケート分析において中心となる県外・社会人の調査結果について、クロス集計や重回帰分析等の手法による追加分析を行った。分析に当たっては「熊本県に戻って暮らす意思」(Q34)が高いのはどのような層なのか、という問題意識を中心に、以下のような視点から検討を行っている。

(分析の視点)

- 現在の居住都道府県ごとに帰熊の意識の差が存在するかどうか。
- 出身圏域によって熊本県に対するイメージの差が存在するかどうか。
- 帰熊の意思を目的変数とする重回帰分析（熊本県に対してどのような意識を持っている人が熊本県に戻る意向が高いかの関係性の分析）

※以下、グラフ内にサンプル数の表記があるものについては一覧表は省略。

### 2. 個別の結果概要

#### (1) 居住地毎の意識の差について (Q16)

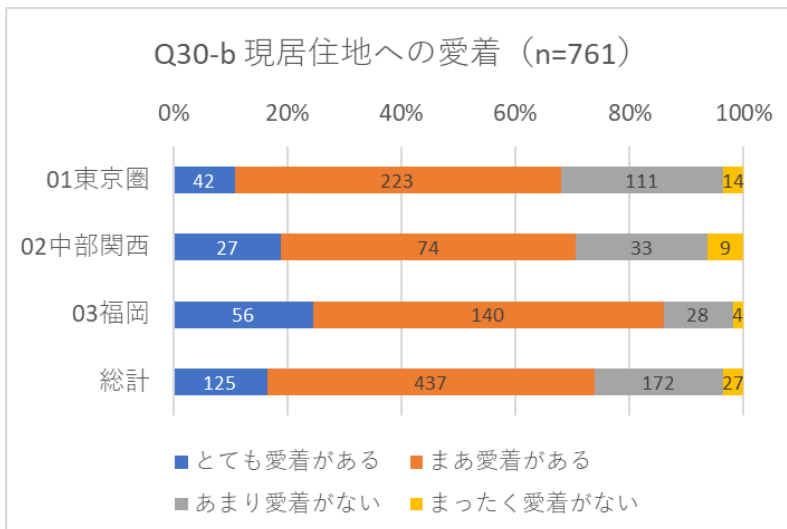
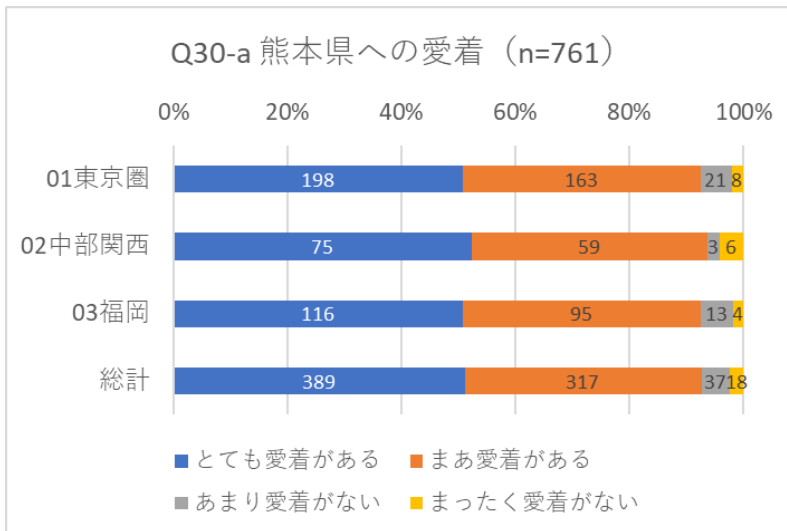
Q16でたずねた回答者の現居住地域については、大きく分けると「東京圏（関東地方各都県）」、「中部関西（名古屋および関西各府県）」、「福岡（福岡県）」に区分可能である。これらの居住地域毎に意識の差が現れるのかどうかについて検証した。

##### ① 熊本県への愛着、現居住地への愛着 (Q30-a、b)

居住地域毎に熊本県への愛着 (Q30-a) と現居住地への愛着 (Q30-b) の差があるかどうかの検証を行った。

熊本県に対する愛着についてはいずれの地区でも極めて高く、居住地域による意識の差は全くみられない。一方で、現居住地への愛着については、福岡に居住する者の愛着が他の地域に比して有意に高い ( $p < 0.05$ )。福岡に居住する熊本県出身者は、熊本に対する愛着も強いが、福岡に対する愛着も強いといえる。

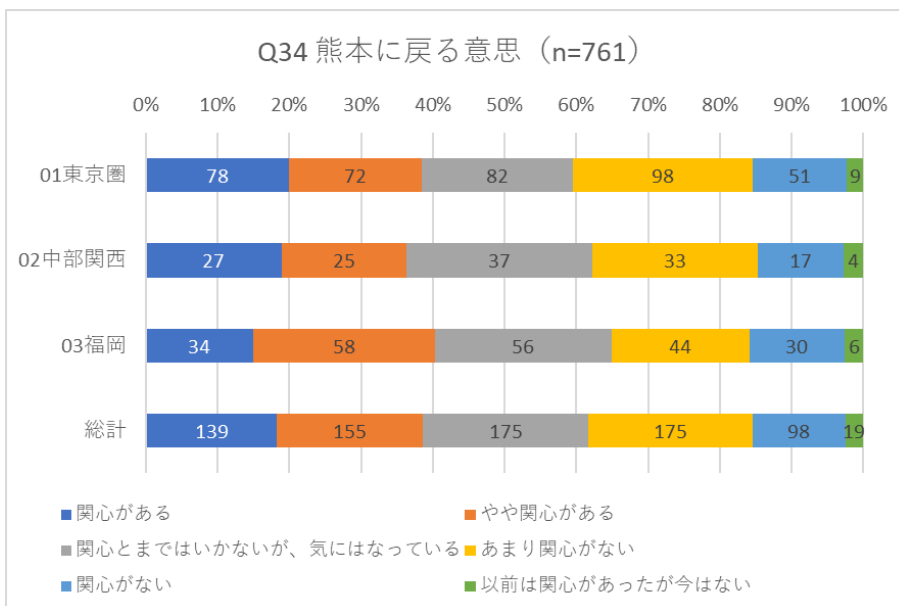
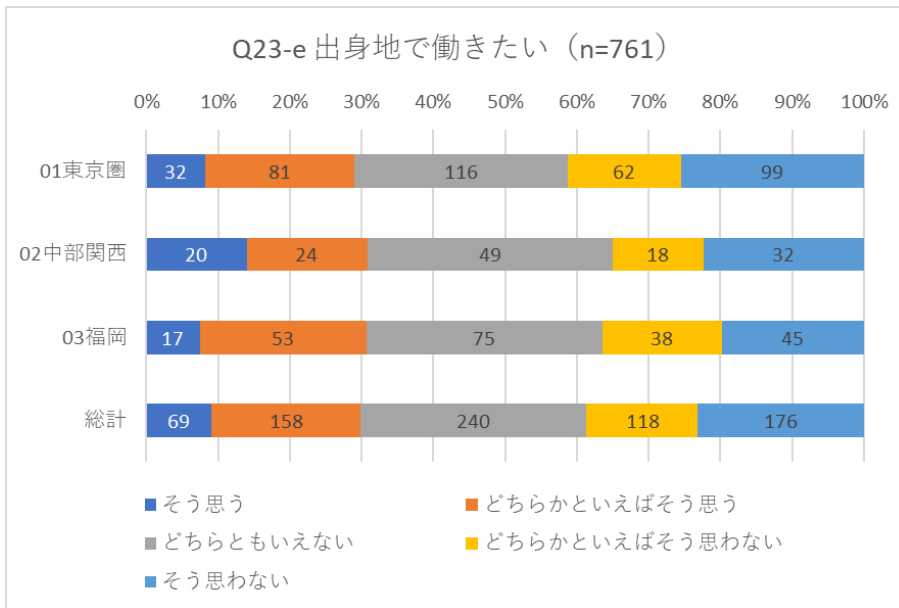




② 出身地で働く意向 (Q23-e)、帰熊の意思 (Q34)

居住地域毎に出身地で働く意向 (Q23-e)、帰熊の意思 (Q34) の差があるかどうかの検証を行った。

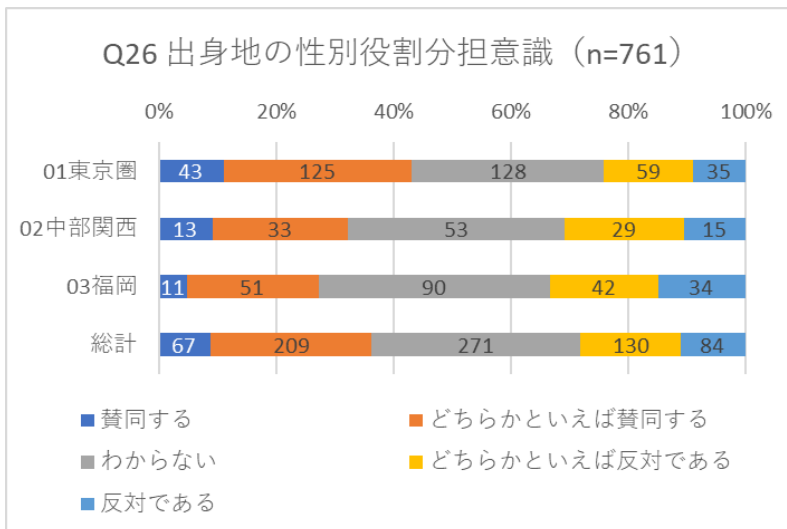
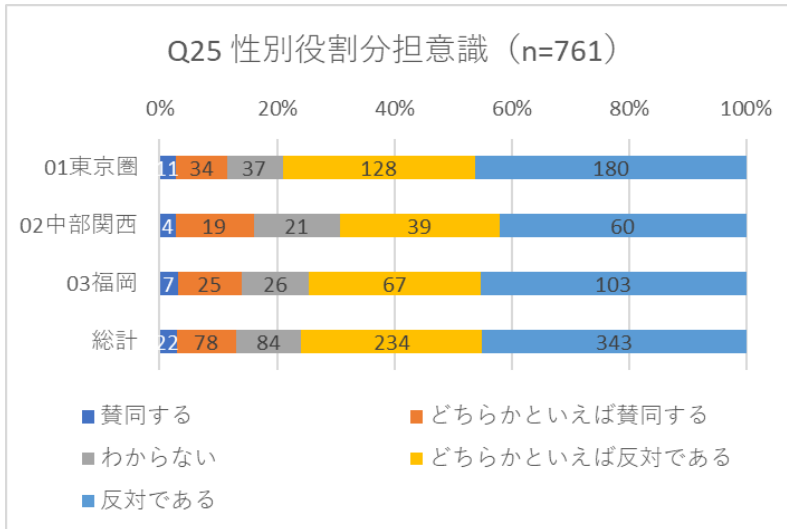
検証結果からは、居住地域毎の明確な傾向は確認できなかった。出身地で働く意向については中部関西と福岡が東京圏よりもやや高く、また帰熊の意思については福岡が一番高くなっているが、いずれも統計的な有意差は無い。



### ③ アンコンシャスバイアス (Q25、26)

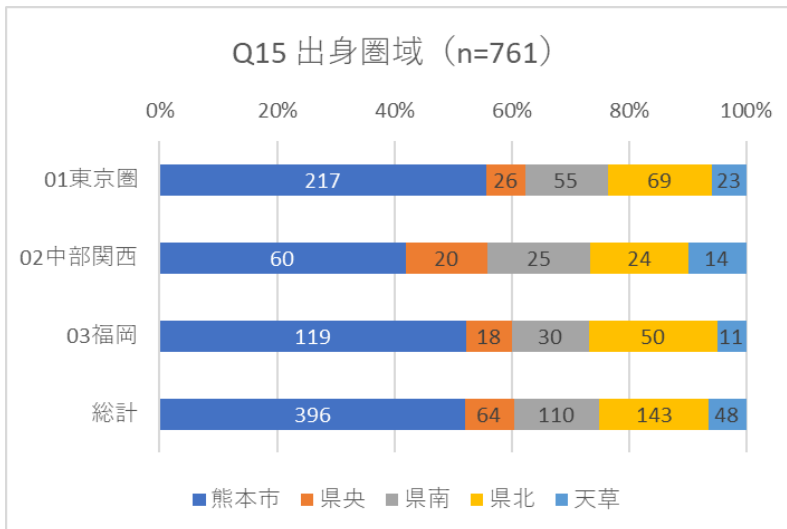
居住地域毎にアンコンシャスバイアスの相違があるかどうかについて調べたところ、特に東京圏の回答者において他地域との意識の差が現れた。

自分自身の性別役割分担意識 (Q25) についてはいずれの地域の居住者も賛同派は少ないが、一方で出身地における性別役割分担意識 (Q26) については東京圏の居住者の回答で賛同派の合計が有意に高くなった ( $p < 0.05$ )。この結果は、地元における性別役割分担意識などのアンコンシャスバイアスを嫌った者が、そのような空気から比較的自由的な東京圏へと流出している可能性を示す。



④ 出身圏域 (Q15)

参考までに、出身圏域毎に現居住地の差があるかどうかについて確認した。福岡については県北出身者の割合が、中部関西については県央・県南・天草の割合がやや高くなっている。

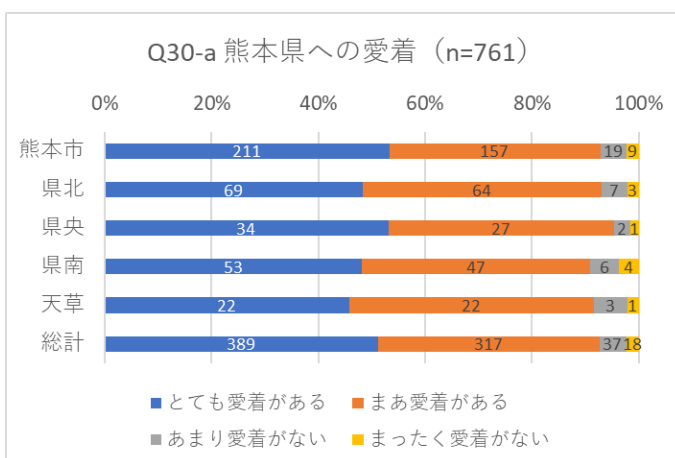


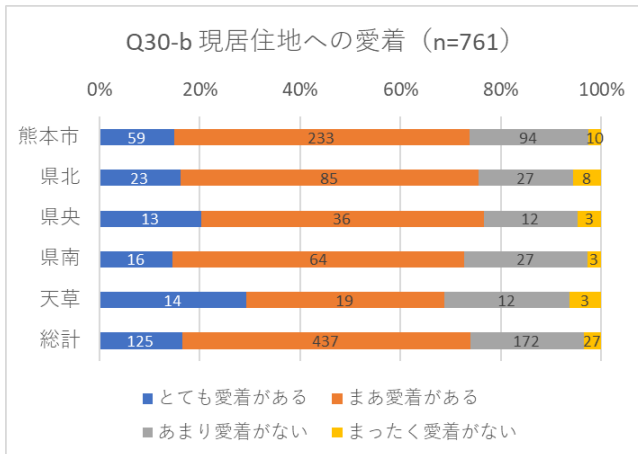
## (2) 出身圏域毎の意識の差について (Q16)

出身圏域（熊本市・県北・県央・県南・天草）毎に意識の差が現れるのかどうかについて検証した。

### ① 熊本県への愛着、現居住地への愛着 (Q30-a、b)

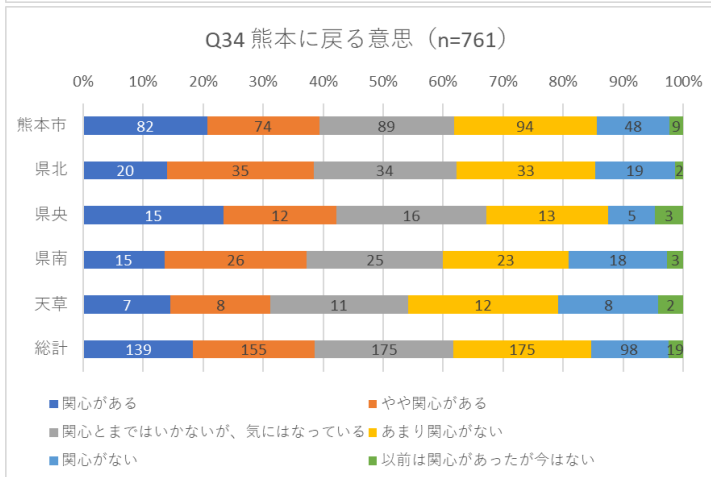
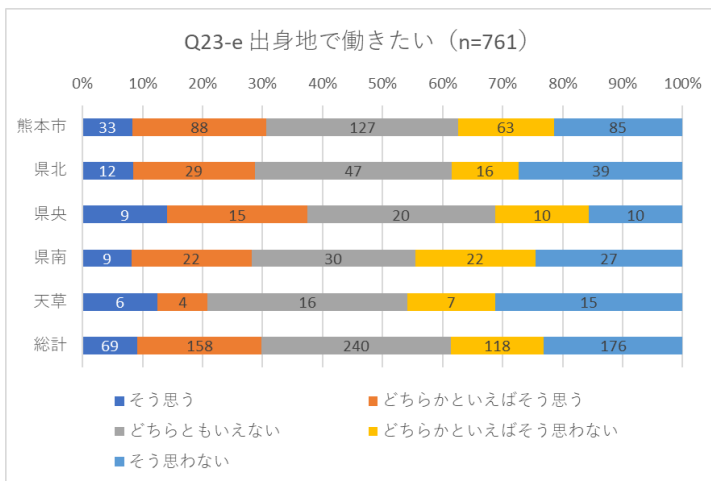
出身圏域毎に熊本県への愛着 (Q30-a) と現居住地への愛着 (Q30-b) の差があるかどうかの検証を行った。現居住地への「とても愛着がある」が天草で高くなっていたが、それ以外は熊本県に対する愛着、現居住地への愛着とも有意な差は見られない。





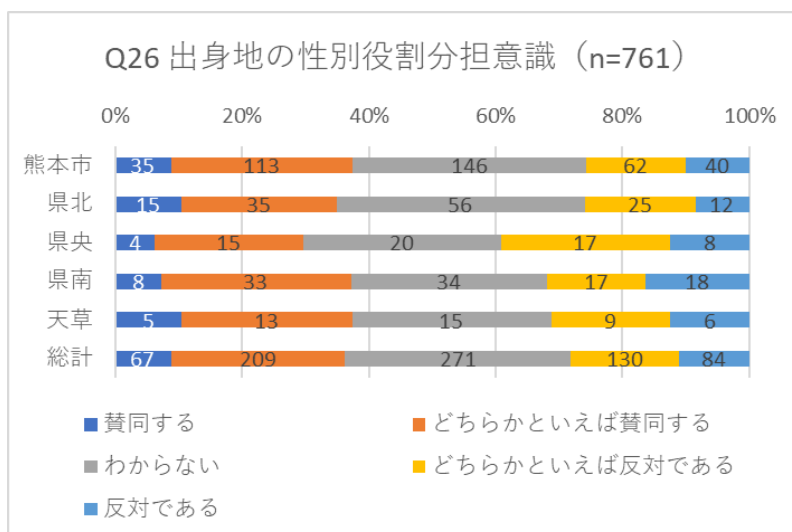
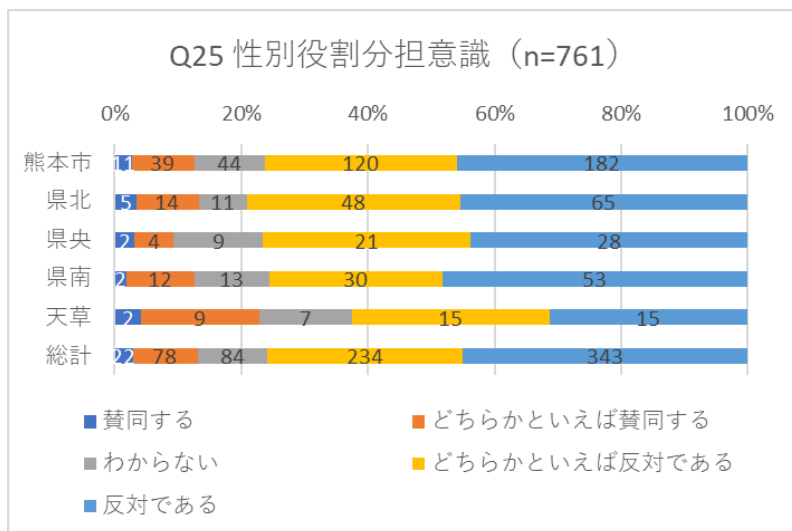
② 出身地で働く意向 (Q23-e)、帰熊の意思 (Q34)

出身地で働く意向 (Q23-e)、帰熊の意思 (Q34) については、特に県央の出身者が出身地で働きたいという傾向や熊本に戻る意思が他地域に比べて比較的多くなっている。(統計的な有意差は無い。)



### ③ アンコンシャスバイアス (Q25、26)

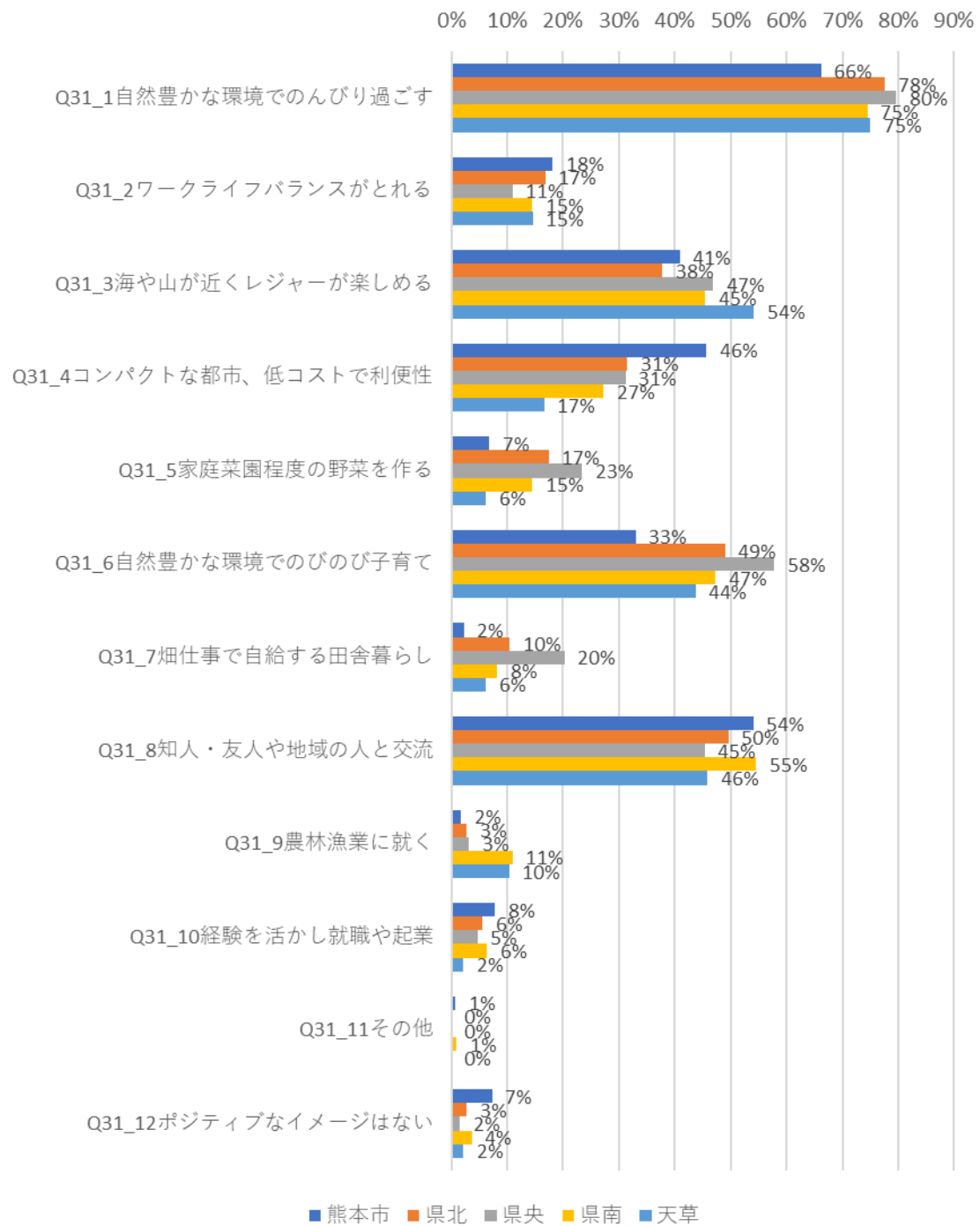
出身圏域毎にアンコンシャスバイアスの相違があるかどうかについて調べたところ、天草において自らが性別役割分担意識に賛同する割合が突出して高くなった。サンプル数自体は少ないが、統計的に見ても他地域との間に明らかな差が存在する ( $p<0.05$ )。



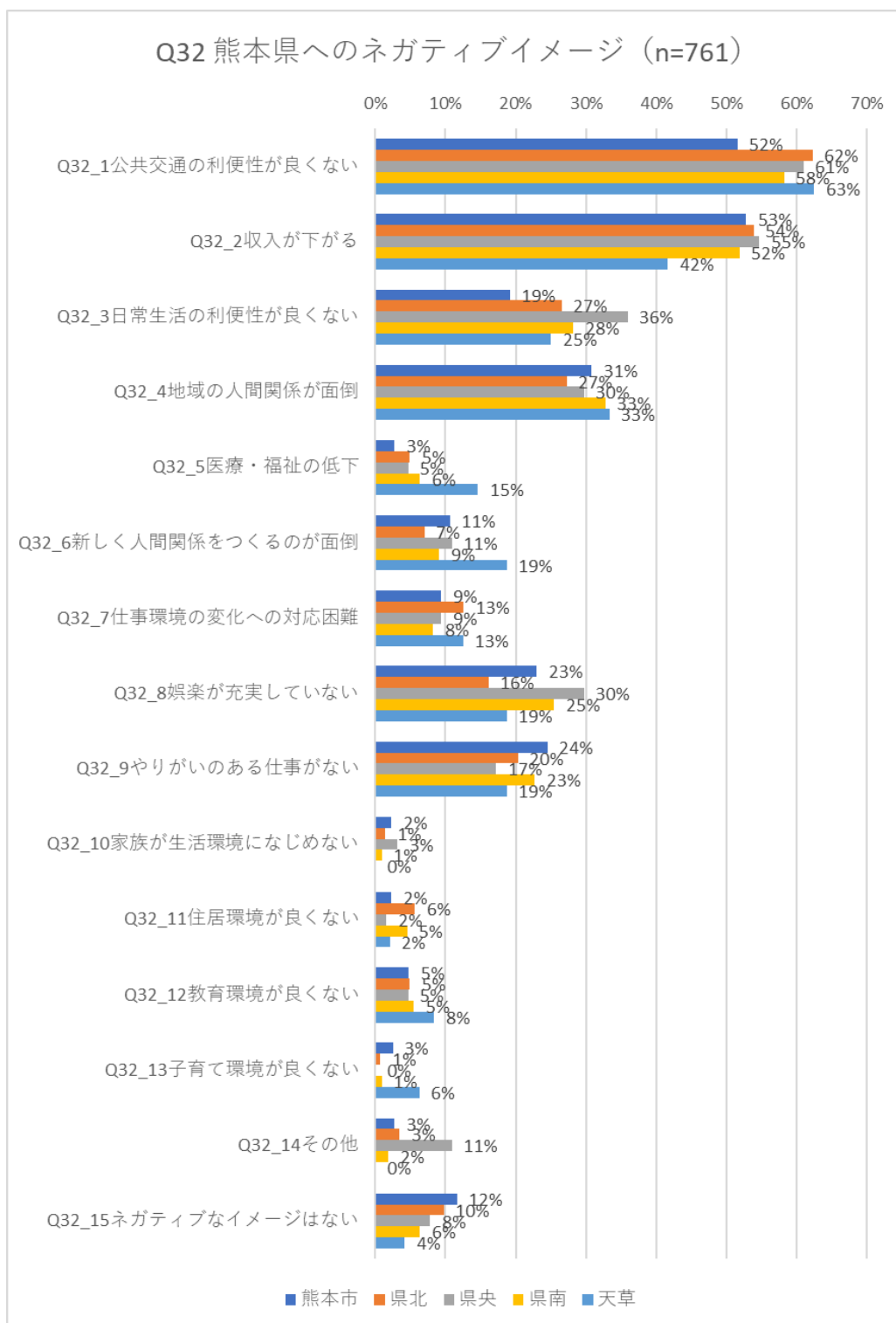
### ④ 熊本県へのポジティブイメージ、ネガティブイメージ (Q31、32)

熊本県に対するポジティブなイメージ (Q31) について出身圏域別に見ると、熊本市においては他圏域と比べ「コンパクトな都市」の割合が高い。一方でその他の圏域においては「自然豊かな環境でのんびり過ごす」など自然環境に関する回答の割合が全体的に熊本市より高くなっている。

### Q31 熊本県へのポジティブイメージ (n=761)



一方でネガティブイメージ（Q32）については、ほとんどの圏域で「公共交通機関の利便性」が最も多くなっている中で、唯一熊本市出身者のみが「収入が下がる」の割合の方が公共交通の利便性よりも高くなっている。この部分は、熊本市内と他圏域での公共交通機関の利便性の差を表していると考えられよう。





### (3) 帰熊の意思を目的変数とする重回帰分析

#### ① 重回帰分析について

今回のアンケートでは Q34 で「熊本県に戻って暮らすことに興味がありますか」とたずねている。回答は「関心がある」、「やや関心がある」、「関心とまではいかないが、気にはなっている」、「あまり関心がない」、「関心がない」、「以前は関心があったが今はない」の6件のうちから選択となっている。今回、これらの回答を目的変数とする重回帰分析も行った。

回帰分析とは、ある値が変わったとき、その結果に連動して他のものの数値が変わるといった場合の両者の関係性（相関関係）を分析するものである。前者を説明変数、後者を目的変数と呼ぶ。例えば「気温が上がるとアイスクリームが売れる」という場合、気温が説明変数、アイスクリームの売り上げが目的変数となる。説明変数が一つの分析を単回帰分析、説明変数が複数の分析を重回帰分析という。

今回の重回帰分析では、目的変数である「帰熊の意思」を決定する要因として、因果関係を持つ可能性がある複数の説明変数を設定した<sup>1</sup>。これらの数値の高低が、帰熊の意思にどのような変化を与えているかを確認する。

#### 【説明変数一覧】

- Q1 年齢（年齢階層）
- Q2 性別（女性ダミー<sup>2</sup>：男性=0、女性=1）
- Q3 結婚の有無（婚姻ダミー：未婚=0、結婚=1）
- Q5 同居の子どもの有無（同居子どもダミー：同居無し=0、有り=1）
- Q13 年収（年収階層）
- Q16 居住地（福岡ダミー、東京圏ダミー：それぞれ0と1）
- Q21 生活の満足度（不満0～満足10）
- Q22 仕事の満足度（不満0～満足10）
- Q25 性別役割分担意識（賛同5～反対1）
- Q26 出身地の性別役割分担意識（賛同5～反対1）
- Q31 熊本県のポジティブイメージ（各項目ダミー：それぞれ0と1）
- Q32 熊本県のネガティブイメージ（各項目ダミー：それぞれ0と1）
- Q33 帰省先の有無（帰省先有りダミー：帰省先無し=0、有り=1）

---

<sup>1</sup> 帰熊の意思と関係しそうな「Q23-e 出身地で働きたいか」、「Q30-a 熊本県への愛着」、「Q42 熊本で子育てしたいか」等の各設問については、今回の目的変数である帰熊の意思とほぼ同じ性格であるため、説明変数に含めていない。

<sup>2</sup> ダミー変数とは、ある属性を備えているかどうかで0か1のいずれかの値をとる変数のこと。Yesならば1、Noならば0となる。

目的変数の Q34 帰熊の意思については、「関心がある」を 5、「関心がない」を 1 とし てそれぞれ数値化を行った。なお、「以前は関心があったが、今はない」については 「関心がない」と同等と見なし 1 とした。分析には統計ソフト R のバージョン 4.1.3 を 用い、有意水準は 5%としている。

## ② 重回帰分析の結果

重回帰分析の結果については以下のとおり<sup>3</sup>。5%水準で統計的に有意な項目にのみ網 掛けをしている。

	係数	標準偏差	t値	P値	
切片	3.338	0.416	8.029	0.000	***
Q1年齢	-0.043	0.058	-0.736	0.462	
Q2女性ダミー	-0.077	0.120	-0.640	0.523	
Q3婚姻ダミー	0.184	0.138	1.327	0.185	
Q5同居子どもダミー	0.016	0.162	0.098	0.922	
Q13年収	-0.005	0.036	-0.144	0.885	
Q16a福岡ダミー	0.096	0.147	0.655	0.513	
Q16b東京圏ダミー	0.083	0.135	0.614	0.539	
Q21生活の満足度	-0.109	0.032	-3.412	0.001	***
Q22仕事の満足度	-0.007	0.026	-0.271	0.787	
Q25自身の性別役割分担意識への同意度	-0.038	0.050	-0.773	0.440	
Q26出身地の性別役割分担意識への同意度	-0.035	0.048	-0.722	0.471	
Q31_1自然豊かな環境でのんびり過ごす	0.424	0.121	3.489	0.001	***
Q31_2ワークライフバランスがとれる	0.237	0.131	1.819	0.069	
Q31_3海や山が近くレジャーが楽しめる	0.137	0.107	1.281	0.201	
Q31_4コンパクトな都市、低コストで便利	0.119	0.106	1.119	0.264	
Q31_5家庭菜園程度の野菜を作る	0.460	0.172	2.680	0.008	**
Q31_6自然豊かな環境でのびのび子育て	0.011	0.108	0.099	0.921	
Q31_7畑仕事で自給する田舎暮らし	0.024	0.224	0.106	0.916	
Q31_8知人・友人や地域の人と交流	0.195	0.104	1.870	0.062	
Q31_9農林漁業に就く	0.014	0.273	0.051	0.959	
Q31_10経験を活かし就職や起業	0.473	0.201	2.354	0.019	*
Q31_12ポジティブなイメージはない	-0.320	0.265	-1.208	0.228	
Q32_1公共交通の利便性が良くない	-0.181	0.111	-1.631	0.103	
Q32_2収入が下がる	-0.161	0.108	-1.493	0.136	
Q32_3日常生活の利便性が良くない	-0.196	0.126	-1.558	0.120	
Q32_4地域の人間関係が面倒	-0.499	0.119	-4.208	0.000	***
Q32_5医療・福祉の低下	0.110	0.250	0.439	0.661	
Q32_6新しく人間関係をつくるのが面倒	-0.368	0.177	-2.084	0.038	*
Q32_7仕事環境の変化への対応困難	0.145	0.164	0.881	0.379	
Q32_8娯楽が充実していない	-0.014	0.120	-0.118	0.906	
Q32_9やりがいのある仕事がない	-0.030	0.117	-0.258	0.797	
Q32_10家族が生活環境になじめない	0.241	0.355	0.677	0.498	
Q32_11住居環境が良くない	-0.185	0.282	-0.656	0.512	
Q32_12教育環境が良くない	-0.542	0.235	-2.308	0.021	*
Q32_13子育て環境が良くない	0.513	0.359	1.428	0.154	
Q32_15ネガティブなイメージはない	-0.286	0.205	-1.398	0.162	
Q33帰省先有りダミー	0.710	0.226	3.148	0.002	**
調整済み決定係数R <sup>2</sup>	0.1727	****<0.001	***<0.01	*<0.05	!<0.1

<sup>3</sup> 調整済み決定係数 R<sup>2</sup>については 0.17 とそれほど高い数値ではなく、今回の説明変数が 帰熊の意思の全てを説明できているわけではないことに留意されたい。なお、各項目間の VIF は最も高くても 2 程度であり、多重共線性の問題は生じていないと判断できる。

### 【結果の考察】

- Q21 生活の満足度については係数がマイナスの負の相関となっている。つまり、「生活に満足していない人ほど帰熊の意思が高まる」こととなる。
- Q31 熊本のポジティブイメージについては、「1 自然豊かな環境でのんびりと過ごす暮らし」、「5 家庭菜園程度の野菜を作る暮らし」がそれぞれ正の相関となっている。熊本に自然のイメージを持っている人ほど帰熊の意思が高い。
- また、同じく Q31 の設問で、熊本に「10 都市圏での経験を活かし、熊本県で就職や起業をして活躍する暮らし」という積極的なイメージを持つ人も帰熊の意思が高くなる。
- 一方で、Q32 熊本のネガティブイメージの項目については、人間関係に関するものが帰熊の意思に影響を与えていた。「4 限られた地域の強い人間関係の中で生活することが面倒、難しい」と「6 新しく人間関係をつくるのが面倒、難しい」の2つが係数がマイナスの負の相関となっている。これは、「地方特有の人間関係を嫌う者ほど帰熊の意思が低くなる」ことを表す。
- 同じ Q32 の設問で、熊本が「教育環境が良くない」というイメージを抱いている人についても帰熊の意思が低いという結果になっている。
- Q33 帰省先の有無については、帰省先があると回答する人は帰熊の意思が高いという結果となった。係数も 0.7 と大きく、帰省先の有無と帰熊の意思は強い相関を持つ。
- その他、年齢や性別、婚姻や子どもの有無、福岡や東京圏などの居住地域等の各項目については、全て帰熊の意思と統計的に有意な相関関係は認められなかった。

重回帰分析の結果については上記のとおりとなった。この分析結果からは、「生活の満足度が低い人」や「帰省先のある人」は帰熊の意思が高いことが分かる。ただしこの2項目については、県の政策で対応できない性質のものである。

一方で、ポジティブイメージ、ネガティブイメージの各項目については、県の政策如何で影響を与えることが可能である。他の節でも触れたとおり、自然豊かというイメージは熊本県の強みであり、それは実際に帰熊の意思にも影響を与えている。また、「都会での経験を活かして熊本で働く」という積極的なイメージを持つ人ほど帰熊の意思が高いということを考えれば、「あなたの持つ経験やスキルを熊本県で活かしてみませんか？」といったスローガンで UIJ ターンのキャンペーンを行うことも有効といえるのではないだろうか。

また、今回の分析で、地方特有の人間関係にネガティブなイメージを持つ人は帰熊の意思が低くなることも明らかになった。このことは、熊本県におけるアンコンシャスバ

イアスの低減に向けた取組の必要性を示すものの一つといえよう。こちらについては即効性を持つ対策をとることは困難かもしれないが、県全体での意識改革に向けてしっかりと継続的に取り組んでいかなければならない。

## IV ヒアリング調査の結果

### IV-1 ヒアリング調査の概要

#### 1. 調査目的

県外転出者（東京圏、中部関西圏、福岡県在住）および県内転入者（Uターン、Iターン、Jターン）の若年層（20～39歳）の女性を対象にヒアリングを行い、熊本県を転出した理由や熊本県に戻るために必要なこと等を把握し、女性が住みたくなる魅力的な地域づくりの施策を提案することを目的とする。

#### 2. 調査方法

個別インタビュー（Zoomにて実施）

#### 3. 調査対象と調査日時

##### (1) 県外転出者

【対象者】大都市圏（東京圏、中部関西圏、福岡県）在住の20～39歳の女性

【調査期間】2022年8月15日～9月13日

【対象者数】23人

##### (2) UIJターン者

【対象者】本県へ移住もしくは大都市圏（東京圏、中部関西圏、福岡県）から本県へ戻って就職した20～39歳の女性

【調査期間】2022年8月16日～8月29日

【対象者数】11人

#### 4. ヒアリング項目

【県外転出者・UIJターン者共通】

##### (1) 基本属性

年齢、居住地・居住歴、住居形態、職業、勤務地、同居家族、出身地

##### (2) 現在の暮らし・ライフスタイル、仕事、家族について

1) 仕事の満足度（10点満点、その理由）

2) 生活の満足度（10点満点、その理由）

3) 休日の過ごし方

4) 生活で重視する点、大切にしていること、譲れないこと

5) 〈子どもがいる者のみ〉家事・育児分担、子育て環境の満足度（10点満点、その理由）、子どものために心がけていること

- (3) ライフヒストリーについて
- 1) 出身市町村、県外転出までの熊本県内での移転等の経験、各移転の理由
  - 2) 県外への転出理由・時期
  - 3) 熊本県への思いについて（好き嫌い、感情）
- (4) 熊本県は子育てがしやすい環境だと思うか（10点満点、その理由）

**【県外転出者のみ】**

- (5) 将来的に熊本県に戻る意向の有無
- (5) の回答で (A) 非意向層・(B) 関心層・(C) 検討層に分類
- (A) 非意向層
- A-1 熊本県に戻ろうと思わない理由
  - A-2 現在の居住地に住み続けたい理由
  - A-3 熊本県に何があれば戻りたいと思うか
- (B) 関心層
- B-1 熊本県へ戻ることに関心を持つようになったきっかけ
  - B-2 現在、戻る関心までにとどまる理由
  - B-3 熊本県に何があれば戻りたいと思うか
- (C) 検討層
- C-1 熊本県へ戻ることを意識するようになったきっかけ
  - C-2 いつ頃、戻る予定でいるか
  - C-3 現在、戻ることを検討するまでに留まる理由
- (6) どういった支援・環境があれば熊本県で子育てをしようと思うか。

**【U/Iターン者のみ】**

- (7) 出身地（熊本）へ戻る（来る）ことになったきっかけ
- (8) 出身地（熊本）へ戻って（来て）、不安・心配に感じていること、懸念点
- (9) Uターン者（I・Jターン者）を増やすために必要なこと
- (10) どういった支援・環境があれば、より子育てをしやすくなると思うか

参考文献：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「移住等の増加に向けた広報戦略の立案・実施のための調査事業」（R2 内閣府調査）pp73-82.

## IV-2 県外転出者ヒアリング結果

### 1. 基本属性について

年齢は、20代18人、30代5人であった。

現在の居住地は、東京圏14人、中部関西圏6人、福岡県3人であり、居住歴は1年未満3人、1年以上3年未満5人、3年以上5年未満4人、5年以上10年未満7人、10年以上4人であった。居住形態は賃貸マンション・アパートが15人、戸建て（持ち家）2人、社宅・社員寮2人、その他2人であった。

職業は会社員が16人（総合職7人、一般職1人、専門職8人）で最も多く、パート・アルバイト2人、専業主婦2人、学生3人であった。勤務（通学）地は居住地と同じ圏域であった。

既婚者は6人、子どもがいる者は3人であった。

出身地は、熊本市14人、県央（熊本市を除く）1人、県北5人、県南1人、天草2人であった。

### 2. 現在の暮らしについて

#### 1) 仕事（学業）の満足度

10点満点中平均点は7.1点、最高点は9点、最低点は5点であった。

専門性の高い仕事など、自身の希望通りの働き方ができているため、やりがいを感じているという意見があった。また、ほとんどの人が人間関係は良好であり仕事内容にも満足していた。

低い評価の理由には、仕事量に見合わない給料と労力（忙しさ）があがった。多忙であることから、今後出産したり家族の介護が必要になったりした場合の将来が見通せない不安を感じていると語る者もいた。特に医療関係の職種ではコロナ渦で様々な制限がかかり、仕事のやりがいも感じづらくなっていることが語られた。

#### 2) 現在の生活の満足度

10点満点中平均点は7.5点、最高点は10点、最低点は5点であった。

大都市圏は交通の利便性が高く、遊ぶ場所も多いことから高い評価となった。

低い評価の理由には、都心部の家賃や物価が高く、経済面の余裕があまりないことがあがった。そのような中職場からの家賃補助などが、大都市圏での経済面の負担軽減になっていると語る者がいた。

### 3) 休日の過ごし方

家族や友人と外出をして、食事や買い物を楽しむ者が多かった。子どもを持つ者からは、商業施設や自然に触れることができる場所によく出かけるという回答があった。

### 4) 生活で重視している点、大切にしていること、譲れないこと

交通の利便性や買い物のしやすさなど、住環境の質にこだわっているという回答があった。仕事での成長や自己実現を目指しながら、趣味に費やすことができる時間を確保するなど、仕事とプライベートの両方を充実させたいという思いが見られた。配偶者や子どもがいる者は、家族や子どもとの時間を大切にしたいという考えをもっていた。

## 3. 家事・育児の分担、居住地での子育て環境について（子どもがいる者のみ）

### 1) 家事・育児の分担について

共働きの者は配偶者と半々で分担していた。本人が専業主婦の者は、自分が家事を担っていると答えた。

### 2) 居住地での子育て環境の満足度について

10点満点中、9点2人、7点1人であった。子どもを尊重し、子どもとの時間を大切にしている印象を受けた。

減点の理由は保育園（保育料）や遊び場に関するものであった。7点だった者は、実家にいる両親の手助けが得られないことや、共働きでないと家計を維持できず育児が厳しいこと、簡単に保育園に入ることができない点を懸念していた。さらに、子連れだと公共交通機関は危険を感じるため使用を控えたいが、公園が近くにないため車で行くと駐車料金がかかること、都市部でも住宅街に住んでいるため、子どもを連れて行ける施設が少ないことが語られた。

## 4. 県外への転出理由について

### 進学と就職のために県外へ転出。大都市圏は選択肢が多いことが魅力。

23人中、進学を機に県外へ転出した者が18人（大学16人、高校2人）であった。

大学進学では、自分が入りたい学部や偏差値が高い大学への挑戦が理由としてあがった。また、大都市圏は就職先の選択肢も多いため、将来を見据えて大学から大都市圏へ行くことを決めたと語る者もいた。高校進学については、看護科のある高校へ進学するために鹿児島県へ転出し、卒業後は奨学金を受けた大都市圏の病院に就職していた。

就職が転出のきっかけとなった者は、大都市圏の企業の給与の高さや福利厚生の実施、IT系のベンチャー企業など就職したい企業があることを理由としてあげた。

その他、親元を離れたい、一人暮らしをしてみたい、都会へのあこがれ、自分の興味・関心の実現のしやすさなどにより転出していた。



大都市圏に対しては、進学、就職において選択肢が多いことや、様々な人や文化に触れることができ、情報も早いことから視野が広がり、仕事においても力が付くことを魅力だと感じていた。

**【代表的な発言】**

「自分の興味のある分野を生かして仕事をしたいと思った時に、それに直結するのは東京にある企業だったので、大学もそうだし。」

(進学のため東京圏へ)

「自分が生まれ育った所じゃない、県外に行ってみたいというところと、自分が生まれ育ったところよりも都会に行き、知見を広めたい。」

(進学のため福岡県へ)

「一応熊本でも(就職先)は、探しはしたんですけど、給料が格段に違ったので。」

(就職のため東京圏へ)

「高校生の時に学校の先生とかに、熊本で男女平等な仕事だと公務員ぐらいしかないみたいなことを言われたことがあって。(中略)自分の選択肢をちゃんと持っておきたいと思った。」

(進学のため東京圏へ)

## 5. 将来的に熊本県に戻る意向について

対象者の回答から判別が難しいものも多く見られたが、非意向層 12 人、関心層 10 人、検討層 1 人であった。

### 1) 非意向層：戻ろうと思わない理由、現在の居住地に住み続けたい理由

希望の仕事につけないこと、生活水準が下がることが懸念点。大都市圏は公共交通網が発達していて、より自分に合ったものにアクセスしやすい。

熊本県は大都市圏と比べ、希望する職種や安定した仕事につけない可能性が高いこと、さらに賃金が低いこと、現在の生活水準の低下を不安視する声があがった。特に、子どもが幼稚園に通い始め、戸建てを持つ者にとって、戻るとは厳しい現状にあった。大都市圏に暮らしたことで、熊本県に対して刺激が少ないと感じている者がいた。

**【代表的な発言】**

「この業界は、熊本だと職場がなかったですね。一応調べたんですけど、なかったです。どうしても同じような業界となると、支社があったとしても福岡が限界ですね。」

(コンサルタント)

「どうしてもエンジニアの単価は東京よりは大阪、大阪よりは福岡、福岡よりは熊本の方がだんだん低くなってきちゃうので、それを考えるとあまり地方には（行かない）という感じ。」

（元エンジニア）

「仕事、給与面ですよね。（中略）熊本の最低賃金で働いていると、ちょっと厳しい部分があるのかな。」

（学生）

「（熊本県では）今楽しいことが全部できなくなるイメージがあって、住み心地が悪いイメージがすごくあって。（中略）価値観が狭い、刺激が少ない感じ。」

（20代・熊本市出身）

日常生活を送るうえで、熊本県に比べて、大都市圏は公共交通網が発達しており、様々な人や情報、イベント、お店などにアクセスしやすく、より自分に合ったもの、好きなものを得ることができるため、現在の居住地や大都市圏に住み続けたいと思っていた。

#### 【代表的な発言】

「熊本市内だったら市電とか、便利だからいいんですけど、〇〇（出身地：県北）はしんどい。（中略）JRの〇〇駅は全然私の家からも近くて便利なところにあるんですけど、新幹線の△△駅に着かれてもどうしようもない。」

（20代・東京圏）

「車がないと移動ができないのが、やっぱり大変かなって思っちゃって、公共交通機関が発達していて、車なしでいろいろな所に行ったり、近場に何かあったりという方がいいかな。」

（20代・東京圏）

「福岡市はコンパクトシティで交通の便もいいし、買い物できる商業施設もコンパクトにまとまっています。一方で、ちょっと自然に触れたいとなったら、車を走らせて1時間もあれば、いろんな自然のあるところに行けるとか、生活するのに非常にコンパクトにまとまっていることが、生活しやすいと思っているところです。」

（30代・福岡県）

「一人だと熊本よりこっちの方が全然楽しいなと思っていて、やっぱり一人で自由に行ける場所もあるし、周りに色々行く所があってすごく楽だし。」

（20代・東京圏）

- 2) 関心層：戻ることに関心を持つようになったきっかけ、戻る関心までに留まる理由  
将来的に子育てや親の介護が必要になったら戻ることを考える。熊本県は、仕事、交通、地元の価値観において、住みにくさを感じる点が戻る関心までに留まる理由。

子育てや親の介護が必要になった時や老後に熊本県へ戻ることを考えるが、戻ることは近い将来ではないと語る者が多かった。

**【代表的な発言】**

「気持ちとしては戻りたい気持ち、特に子育てをするのであれば戻りたい。親の今後というか、介護が必要になった場合に手助けしたい。」

(20代・既婚)

「自分がずっと育った環境ですごく好きなのと、ゆったり公園の散歩とかもできそうですし、それこそ欲しいものが買いたいと思ったら、まちに行けばそこに集まっているので、老後に体が重かったりしても便利。」

(20代・熊本市出身)

非意向層と同様、仕事や交通に関する懸念点により、戻る関心までに留まっていた。仕事については、現在勤めている業種や希望する業種が大都市圏にしかないことや同じ業種でも大都市圏と同じような仕事内容が期待できないこと、給与が低くなることがあげられた。交通については、大都市圏と熊本県の通勤時間は変わらないという指摘や、熊本県ではプライベートで出かける時も公共交通機関だけでは不便だとの意見があがった。加えて、地元の価値観については、親や周囲の人から「結婚・子育て＝幸せ」という価値観を押し付けられるのは気持ち的にしんどいと語る者もいた。

**【代表的な発言】**

「自分の能力を生かして高めつつ、それ相応のお給料をもらえるところに勤めたい。」

(20代・専門職)

「私の実家の方は西区の端の方なので。(中略)東区とか反対の方の地域で働くことになる、やっぱり通勤に1時間とかそれ以上かかると思うと、状況としては、こちらで働くところを探して、電車で通勤するというのと時間的にはあまり変わらないなというふうに思っています。」

(20代・東京圏)

**3) 検討層：戻ることを意識するようになったきっかけ、検討するまでに留まる理由**

戻りたい気持ちは強いが、生活水準が下がることを心配し、検討するまでに留まっている。

もともと戻りたい気持ちがあるため、退職後に熊本県で過ごすことを考えていた。しかし、熊本県では大都市圏と同等の給与を期待できず、生活水準を下げなければならないことを憂慮し、現時点では検討するまでに留まっていた。また、子育て、大学、就職を考えた時に大都市圏の方が子どものためになると考えていた。

**【代表的な発言】**

「夫は仕事も引退して、向こうでゆっくり、〇〇（九州内他県）でも熊本でも過ごしたらいいんじゃないと言ってくれていて、私はもともと帰りたい人なので、ぜひ（帰りたい）と思っています。」

（20代・既婚子あり）

「私たちも一回戻ろうかなみたいになった時に、夫が給料がこれだけ下がってしまうんであったらきつくないとなって、確かにねとなって（戻ることを）とどまった。」

（同上）

**6. 今後、熊本県へ戻ることに関心を持つ、現実的になるために必要なこと**

**仕事、交通、イベントの充実を求める声が多数。**

生活を考えると仕事を得られることが最も重要であり、希望の職種につけることや給与、福利厚生での充実を求める声があがった。加えて、女性が活躍できる企業の増加やリモートワークの実現といった女性の働きやすい環境の整備と、そのモデルケースの発信を求める意見もあった。

また、交通アクセスについては、バスなどの最終時間の延長や本数を増やしてほしいなどの意見があった。その他、最近のトレンドや芸術、サブカルチャーに関連するイベントを求める声からは、プライベートも充実させたいという意向が見られた。

**【代表的な発言】**

「同じような仕事で、同じような給料で働けるのであれば、熊本でも全然問題ない。」

（30代・非意向層）

「完全リモートで入社しなくていい、家からでいいよみたいなのが、もっとちゃんと充実してくるようだったら、住まいは熊本のままで、東京の会社に就職するという働き方、暮らし方はできるのかなとは思いますが。」

（20代・非意向層）

「先行例みたいなのがたくさんあるよというのがあれば、熊本でも、女の人でも働きながら子育てできるんだとか、仕事を辞めなくていいんだとか思えば、結構戻りたいと思う人も多くなるんじゃないかなと思いますね。」

（30代・関心層）

「今、バスはバスセンターを中心に放射線状に行っているじゃないですか。（中略）もうちょっと郡部の方で行き来できるものがあつたらいいんじゃないかな。」

（20代・非意向層）

「熊本の市電は走行距離、走行範囲が狭いじゃないですか。街中に限られているというか、健軍より奥もちょっとほしいなと思う時もあるし、どちらかというと帯山とか、あっちの方にも延ばせたらいいのかなとたまに思う。」

(20代・関心層)

「東京だと本当にすごく小さい小劇場がいっぱいあったりするので、同じ日とか同じ時期にいろんな舞台とかイベントがやっていたりするので、そういうものがあるといいかなと思います。」

(30代・非意向層)

「自然を活かしたレジャーがもうちょっと増えてもいいのかなと最近思います。せっかく自然豊かだし、熊本は。」

(20代・関心層)

## 7. 熊本への思いについて

**ポジティブなイメージは自然や家族・友人の存在。**

熊本県への思いでポジティブなものとしては、自然が豊かさや家族・友人の存在で心が健やかに過ごせることがあげられた。

### 【代表的な発言】

「私の出身が田舎（西区）だからなのもあるけど、都会よりは田舎の方というか、自然の方が好きなので、自分の周りの環境的には育った場所はすごく最適だったなと思います。」

(20代・熊本市出身)

**ネガティブなイメージは、家庭・学校におけるアンコンシャスバイアスや空港までのアクセスが悪いこと。**

ネガティブなものとしては、固定的性別役割分担意識の根強さ、コミュニティの狭さ、高校以降の教育に対する考え方があげられた。

具体的には、祖父母世代・父母世代の固定的性別役割分担意識とその価値観を強要されるおそれ、パートナーや子どものことを深掘りされること、大都市圏の人々より考え方が古典的で固執していること、特に女性において大学進学が当たり前ではない風潮などであった。対象者の中には中学生の頃から、これら地元の価値観に違和感を持っている者もいた。熊本県のアンコンシャスバイアスへの指摘は強い印象を受けた。さらに、熊本県における女性のリーダーや管理職が少ないことを指摘する意見もあった。

一方で、大都市圏で専業主婦をしている者は、男女ともに働くことが当たり前という価値観が主流の大都市圏と比べ、熊本県は専業主婦にやさしい地域だと捉えていた。

公共交通機関については、空港が熊本市内から遠く不便であることがあがった。大都市圏

では、地下鉄や電車1本で空港へ移動でき、勤務時間内や日帰りでの出張が可能である。それに対して、熊本県での空港への移動には車やバスの利用が必須であり、渋滞も起きやすく、時間や天候を気にしないといけない点がいまひとつであると語られた。

その他、福岡県と比べると熊本県はイベントが少なく、中心街が衰退している点を懸念する声もあった。

#### 【代表的な発言】

「親戚一同で集っていたりすると、奥さま方はみんな台所において、男の人は飲んでいるみたいな。田舎なので、そういう風潮が強い地域だと思うので、そっちで結婚をしようとする、私もその波に飲まれるんじゃないか。」

(20代・熊本市出身)

「女の人はパートで働いてとか、女の人が家事をやるという意識が都会よりちょっと強いのかなという気がする。」

(30代・熊本市出身)

「なんか干渉されるイメージがあって、熊本は。やっぱり東京に比べると狭いので、なんか窮屈な感じがして。(中略)うわさとかも全部いろんな情報が回ってきたり。人間関係が狭いというのがやっぱり一番嫌ですね。」

(20代・熊本市出身)

「就職とか大学とかも、私は結構、勉強を頑張りたいとか大学受験も頑張りたいと思っていたんですけど、あんまり周りはそんなに(女の子は)頑張らなくてもみたいな感じがあって。」

(20代・熊本市出身)

「雰囲気として、大学進学が今住んでいるところで感じるよりも(熊本県では)一般的ではないというか、大きな選択肢の一つとして入ってきていないような感じ。」

(20代・熊本市出身)

「熊本にいと専業主婦が珍しくないなと思っていて、こっちにいと女も男も働いているのが普通で、国が女性の社会進出を勧めているのもあって、女性が家の中だけにいるのはあまり良く思われないうか、古い価値観みたいな感じで思われがちだと思うんです。熊本にいとあまりそれを感じないので、専業主婦という生き方を選択したい女性にとっては優しいというか、変化を求められなくてつらくないというのは、とてもいいかなと思います。」

(20代・大阪圏)

「一番不便だなと思うのは、県外に出てから思ったのですけれど、空港までのアクセスがすごい悪いじゃないですか。電車がない。バスとか車がないと行けないので。」

(30代・東京圏)

## 5. 子育てについて

熊本県の子育て環境は整っているとの評価がある一方で、教育面での選択肢の少なさが気になる点。

子どもの有無に関係なく、「熊本県は子育てしやすい環境か」を尋ねたところ、平均点は約 6.5 点だった。自然に触れることができ、公園や病院、図書館・美術館等の文化施設もあるため、子育て環境としては整っていると評価する者が一定数いた。しかし、大都市圏と比べると学校や習い事などの教育面において選択肢が少ないという意見が多数みられた。さらに、熊本県では、高校によってその先の進路が決まることへの問題提起や通学の不便さがあげられた。加えて、子育てにおける固定的性別役割分業を感じる者もいた。

未婚者では、子育てに関する支援や制度について全く知識がないという者も見受けられた。

### 【代表的な発言】

「(熊本県は)ちょっと足を延ばせば自然にも触れ合えるし、市内のほうに行けば美術館とかもあるし。」

(20代・未婚)

「車があったら、いろんな自然の中で遊ぶ体験をさせてあげられたり、小学校のときに授業でお米を育てたりホウキグサを育てたり、田んぼの中の生き物を手ですくって観察するとか学校でやったりしていたので、そういうことは熊本とか地方じゃないとできないかなと思います。」

(20代・既婚)

「結局高校からみんなどこかに出ないといけない、家から通えるところは本当に限られたところばかりとなったときに、確かに自分がそのへんが苦勞したというのがあって。」

(20代・既婚子あり)

「私が住んでいたところは、学校にバスで行っていたのですが、もう本当にそのバスぐらいしか通ってなくて。市内に遊びに行こうとか思っても、もう親に送ってもらうぐらいしか手段がなくて。そういうときは、すごく不便だなんて思っていました。」

(20代・未婚)

「高校の力が強いというのはあると思うので、結構高校主義みたいなところに対しては対策していかないといけない。」

(20代・既婚)

「自分が子育てする立場になったら、将来のことを考えたら、習い事だったり、周りの環境としてはもうちょっと栄えている所のほうが、選択肢が増える、自分が親の立場になるんだったら、そっちを選びますね。」

(20代・未婚)

### 長期的な子育て制度の充実と子育て情報の発信を希望。

子育て支援について、具体的には、一時保育の安価な提供、自身の親に頼らなくてよい子育て制度の充実、子どもの遊び場への公共交通機関のアクセスのしやすさなどがあげられた。また、大学までの長期的な視点で取り組むことを求める声があった。

さらに、大都市圏に住む出身者に子育てに関連する情報発信やPRをすることや、情報発信にはSNSを活用することの提案があった。

#### 【代表的な発言】

「やっぱり働きながら子育てをしようと思ったときに、一時的に預かってくれる制度みたいな。(中略)自分で預けると結構高くつくらしいんですよ。そういうのが行政というか、公的に安く、あったほうがいいんだろうなと思います。自分の心の健康のために、たぶんあったほうがいいと思います。」

(20代・未婚)

「子どもができて、誰か頼れる人がいなくても子育てをやっていけるというか。やっぱりそういう制度が整っていたほうが魅力に感じるのかなとは思いますがね。」

(20代・未婚)

「遊び場の紹介とかあって、アクセスの手段が多ければ子育てもしやすいのかなというの  
はちょっと思いますかね。」

(20代・既婚子あり)

「コンシェルジュじゃないですけど、相談するとこういうのがありますよみたいなのを教えてくれる、県外からもし戻るとなった時のサポートしてくれる何かがあれば、結構スムーズに教育のことを相談して、この地区は教育が強いですよとか、子ども向け施設が多いですよとか。」

(30代・既婚)

「教育をしっかりされたい親御さんだと、その情報量の差みたいなものは東京と比較するとあるのかなと思うので、そういう教育関連の情報をもっと充実すると良いのかなと思います。」

(20代・未婚)

「今だったらInstagramが主流だから、インスタをメインとしてTwitter、Facebookというふうに使って。 (中略) ショートみたいに短い動画で何かお勧めとかしたら、短い時間に見れるじゃないですか。」

(20代・未婚)



## IV-3 UIJ ターン者ヒアリング結果

### 1. 基本属性について

移住形態は、Uターン7人、Iターン2人、Jターン2人であった。出身地は、熊本県内6人、九州内3人、九州外2人であった。本調査においては、本来の定義とは異なるが、出身地から熊本県に転入したケースをIターン、出身地から大都市圏に出て熊本県に移住したケースをJターンとしている。また、出身地は熊本県外だが幼少期から熊本県で過ごしたケースはUターンに含めている。

年齢は20代5人、30代6人であった。

居住歴は1年以上3年未満1人、3年以上5年未満3人、5年以上10年未満5人、10年以上2人であった。居住形態は賃貸マンション・アパートが7人、戸建て（持ち家）1人、社宅・社員寮1人、不明2人であった。

職業は会社員10人（総合職7人、専門職3人）、パート・アルバイト1人であり、勤務地はすべて熊本市であった。

既婚者は4人、子どもがいる者は3人であった。

### 2. 現在の暮らし・ライフスタイル、仕事、家族について

#### 1) 仕事の満足度

10点満点中平均点は約7.5点、最高点は9点、最低点は6点だった。高い評価では、給与に満足、休みがとりやすい、やりがいがあるという意見があった。低い評価では、もっとキャリアを積みたいや自身が希望する業務を担当できていないという意見があった。

#### 2) 生活の満足度

10点満点中平均点は約7.9点、最高点は10点、最低点は5点だった。高い評価では、自分の時間が確保できている、1人暮らしで伸び伸び生活できている、コロナ禍によりイベントが減少し、定時退社ができるようになったという意見があった。低い評価では、新型コロナウイルス感染症に不規則な出勤が続くプライベートに制限がかかっている（医療従事者）や、子どもとの時間が十分に取れていないという意見があった。

#### 3) 休日の過ごし方

家で過ごすや、旅行や食事、買い物など様々であった。子どもがいる者は、子どもと公園やショッピングモールに行ったり、子どもの習い事や部活に付き添うなど、子ども中心の生活であった。

#### 4) 生活で重視している点、大切にしていること、譲れないこと

趣味の時間を持つやストレスをため込まないなど、自分の気持ちや時間を大事にするという意見が目立った。子どもがいる者は、手作りの料理を食べさせたいや仕事と子育ての両立など子どもや家族のことを重視していた。

### 3. 家事・育児の分担、熊本県の子育て環境について（子どもがいる者のみ）

#### 1) 家事・育児の分担について

本人が正社員である2人は、半々での分担と時間がある方が担当（特に決めていない）であったが、パートタイマーである1人は、正社員で働いていた時は違ったが現在は9：1で自分が多いと回答した。

#### 2) 熊本県の子育て環境の満足度について

10点満点中7点と8点であった（1名は不明）。子どもを尊重した関わりを心がけている印象を受けた。

高評価の点として、自然が豊かで学校で様々な体験ができることが語られた。低評価の点として、児童館、図書館、公園が少ないことや子どもだけで遊びに行ける場所がない、親が希望する時期に認可保育園に入園できる現状にないことが挙げられた。子育て支援に関しては、手厚いと感じる者もいれば更なる充実を求める者もいた。

### 4. 一度県外へ転出した理由（Uターン者）

#### 大学進学が6人、就職が1人／7人中。

大学進学を機に一度、熊本県から離れる者がほとんどであった。自分の希望する学部や学びたい分野がある大学が県外にあることや、レベルの高い大都市圏の大学を目指したかったことなど、自己実現を叶えるために県外へ転出した者が多かった。その他、親元を離れて一人暮らしをするためや、都会への憧れを理由の一つとして語る者もいた。

就職を機に県外へ転出した者は、どこかのタイミングで熊本県から出たい意向を持っていた。

熊本県とは異なる環境へ行き、知らないことを体験したいと考えていた者の中には、「親元を離れてもなるべく近くにいてほしい」という親の思いを酌んで、九州内（福岡県）に留まったケースもあった。

#### 【代表的な発言】

「自分の偏差値で行ける大学、ちょうどいい大学が福岡の大学、自分が行った先の進学先だったので、（中略）県内だと熊本大学が一番偏差値は高いかなというところですけども、もうちょっと上に行きたかったというのもあって、出てみよう。」

（進学のため福岡県へ）

「親が近くにいてほしいと、熊本を離れてもいいけど、というのもありまして、せめて九州内にいてほしいということだったので、福岡にというかたちです。」

(就職のため福岡県へ)

「やりたいことができる、自分の夢がかなえられたり、チャレンジできる環境という軸で考えた時に、そこがベストだったので、勤務地とかエリアを問わず、自分のやりたいことを優先して東京にまず行きました。」

(進学のために大阪へ転出後、就職のため東京へ)

## 5. 熊本県に戻ってきた理由 (Uターン者)

熊本県に戻ってくる理由は、子育て、介護、就職をきっかけにするものが多数。

熊本県に戻ってきた理由は、子育てのため、将来の親や家族の介護のため、県内企業への就職のため 3 パターンに分けられた。子育てについては、東京などの都会での子育ての難しさや経済的な不安を感じ、将来の子育てを親元ですることによって手助けを得たいと考える者がいた。親や家族の介護については、熊本地震や東日本大震災などの自然災害をきっかけに将来的に必要な家族の支援を考え、親元で暮らしたいと思った者がいた。さらに、県内企業への就職では、熊本県の企業に内定をもらった者、親の希望により U ターンして就職した者がいた。

### 【代表的な発言】

「小さい妹が東京に遊びに来た時に、すごい周りの人に、電車とかで気を遣ったり、母がしているのを見て、私はそれをあまりしたくないなって思ったので。(中略) 経済的なものも含めて、(東京での子育ては) なかなかきついだらうなどは思っています。」

(20代・未婚)

「2011年の東日本大震災で関東も同じように被災して、(中略) 家族とか友達から毎日のように電話をもらって、自分のやりたいことだけでなく自分の人生、キャリアを考えたときに、周りの人のことも想像して考えないといけないというふうに考えるきっかけになりました。それから、私は一人っ子というものもあるので、両親の近くで生活とかキャリアを積んでいける道を考えようというふうに決意して、熊本に帰ってくることを決めました。」

(30代・未婚)

## 6. 熊本県に移住した理由 (I・Jターン者)

進学、就職のために熊本県に移住する者が多い。

熊本県に移住してきた理由は、進学や就職であった。しかし、始めから熊本県に進学や就職を希望していた者はおらず、内定をもらった先が熊本県の企業だからや、実習先の希望条件に当てはまりそのまま就職したなどの、偶然の縁で移住したという印象であった。

**【代表的な発言】**

「〇〇職で探していてヒットした会社を見て行って、ここは良さそうだなというところを片っ端から受けていったような記憶なんです。(中略) 熊本は確かに遠いなと思ったんですけど、仕事ができるならぐらいの感じでした。」

(九州外出身)

「短大に進学するために熊本に来ました。(中略) 熊本のほうがほど良い都会で住みやすいなと短大のときに感じたので、そのまま熊本で就職することにしました。」

(九州内出身)

**7. 戻ってきて(移住してきた)の不安・心配・懸念点**

**仕事がないことや、キャリアアップの見込みに対する不安。**

仕事に関する懸念点としては、全国に拠点がある企業が熊本県にない、リモートワークが進んでいない、熊本県と大都市圏ではキャリアアップにギャップがあるがあがった。大都市圏は様々な企業の拠点となりやすい。また、特に女性にとって不安の要素となるものは、配偶者に付いていくことで勤務地を変えなければならないことであった。これらの課題に対して、職場の完全リモートワーク化や企業の拠点が熊本県まで広がることによって、仕事を辞めなくても済む体制を整えることを求めている。また、大都市圏は、業種や職業選択の幅が広く、業種の中でもさらに専門分野が分化しているため、キャリアアップを目指す者にとって魅力の一つとなっていた。

**【代表的な発言】**

「全国どこに行ってもうちの社員として働けるような環境をつくらないといけないというのは(中略) すごく課題に感じているところかなと思います。」

(20代・総合職)

「東京でキャリアを積むのと熊本でキャリアを積むのでは同じように積めるかという、そうじゃなくて成長度合いとかも違ってくるので、地方都市ならではのキャリアの足かせのようなところは、漠然と不安になることはあります。」

(30代・総合職)

**交通面でアクセスを良くするには難しい立地条件。**

交通面で特に目立った回答は、主要道路以外の道が少なく、渋滞が起きやすいことであった。熊本県は車の必要性が高いため、必然的に交通量も多くなる。特に中心市街地までは、いつも渋滞していて不便であるとの意見があった。

熊本県で生活をする場合、主要公共施設の立地が利便性の要となる。具体的な悩みとして、役所や空港、免許センターなどが地域の中心部から離れており、空港までのアクセスに満足していないという意見があった。特に、対照としてあがった福岡県は、電車、バスともに空港までつながっていて、便数も多いことから、利便性における魅力のひとつだと語る者もいた。

また、車を安全に運転できる間はよいが、高齢になった際の運転技術や状況把握の能力低下により車中心の生活ができるのか不安に思う者もいた。

#### 【代表的な発言】

「ちょっと移動するのも、買い物もずっと車でいきますし、そのぶん渋滞もびっくりした点です。福岡よりも、熊本はすごく渋滞するじゃないですか。通勤時間とか、今は車通勤はしていないですけど、お休みの日も夕方とかは、普通の大きいメインの道路が絶対に渋滞しているというのが日々見る光景なので、こっちに来て驚いたことかなと思います。」

(Iターン者)

「老後は（熊本県に）戻ろうと考えたときにも、自分の体も老いているのに運転してどこかに行ってしまうのも難しいけど、交通の便はそんなに良くなかったり。」

(Uターン者)

## 8. 熊本県での子育てについて

**子育て支援施設や制度のさらなる充実を求める意見が多い。**

子どもの有無に関係なく、「熊本県は子育てしやすい環境か」と尋ねたところ、平均点は約7点だった。

熊本県での子育てについて、地域差はあるが保育園（特に認可保育園）に入れず待機児童になること、保育園の送迎時間など働き方や経済状況に合った子育て支援が不十分で、祖父母などの家族に頼って子育てが成り立っている現状が明らかになった。

これらの課題に対しては、企業型保育園の増設、病児保育や一時保育など、通常保育＋αの保育サービスの充実を図り、それらを安価で提供してほしいというニーズが聞かれた。また、再就職への不安に関連して、子育て世代に対する経済的補助、再就職支援、ひとり親支援、父親の産休・育休取得推進など幅広い支援が求められた。

さらに、子どもを取り巻く環境としては、熊本県の自然環境を生かしながら公園や児童館、図書館、博物館、美術館などの文化施設の充実を図り、子どもが様々なことに触れ、チャレンジできる場所づくりが提案された。

車社会であることを子育て世代のメリットとして捉える者もあり、通勤のついでに子どもを送迎でき、買い物や遠出の際には便利であるという意見も聞かれた。

**【代表的な発言】**

「何かを体験できるかどうか、その選択肢がどれくらいあるかは、私は個人的にすごくいつも気になっているので、それがたくさんあるほうが子どもは豊かになるのかなというふうには思いますね。」

(30代・既婚子あり)

「高齢者の方の活用の機会の創出と、安価で公的なサービスとして預け先を提供できるネットワークがあると、すごく地域のつながりみたいな感じがしていいのかなとは思いますがね。」

(20代・未婚)

「就職をして、いろいろな企業を回ってというのが東京だったら可能なのですが、熊本ってなかなかそれが難しいなとは思っています。自分に子どもができてとかで働くのがきつくなってきたときに、再就職先を見つけるのがなかなか大変だろうなとは思いますがね。」

(20代・未婚)

**時代のニーズに合わせて、情報管理や制度の利用も最適化が求められる。**

子育て支援サービスの情報を必要とする者へ確実に届けられるように、紙媒体だけでなく気軽に目を通せるインターネット上での情報提供を推進することを求めている。児童館などのホームページのイベント情報は、利用者が必要とする情報が伝わりにくく、申し込みはFAXまたは郵送などアナログ的な手順で不便であるとの意見があった。

特に1・Jターナー者で子育てする者は、昔からの知り合いがいない中での子育てとなるため、地域やコミュニティ内で孤立することが懸念される。そこで、子育てサークルのような親子が気軽に参加できるコミュニティを形成し、そこへのアクセスのしやすさにも配慮する必要がある。

**【代表的な発言】**

「24時間目を離してはいけない小さい子どもがそばにいる中で、ウェブで個人情報を入れてとかできないし、それをさらに記入して郵便ポストに投函しなきゃいけないとか、ファックスなんて今家庭には全然ないのにしなきゃいけないなんて。(中略) アナログではなくてウェブ、子育て支援のデジタル化を進めていくのは、子育て支援としてはよいかと思います。」

(30代・既婚)

「子どもがまだ小さいときに、復職する前に地域の子育てサークルみたいなのところに、友人から声をかけてもらって参加していたんですけど、そういう情報が平等に回ってこないというか。」

(30代・既婚子あり)

## 9. UIJ ターン者を増やすための施策

### 仕事と子育ての魅力を向上し、PR する。

多くの人が、女性がさらに活躍できる雇用を創出することを求めている。その実現のために、リモートワークなどの柔軟な働き方の推進や、福利厚生の実充が提案された。また、働き方改革として残業を減らすことで、熊本県ではプライベートが充実できる環境にあることや、出張の際には新幹線を利用すれば、福岡県や鹿児島県まで移動が容易であること、休日は自然の中で過ごすことがアピールポイントになるとの意見があった。

さらに、熊本県での子育てでは、山や海のある自然豊かな環境でのびのびと育てることができ、農水産物や畜産物、水資源も豊富なため、安心安全な食材で子どもたちの身体を育成できることが魅力であるとの意見があがった。

#### 【代表的な発言】

「会社の企業価値を高めたうえで、もっと発信していける場所が増えて知ってもらえる機会が増えると学生さんたちの目にも留まって、熊本で働きたいと気持ちが変わる方が増えるんじゃないかなと思う。」

(I ターン者)

「熊本にいて、もしお給料が高くて、こんな自然が豊かな場でプライベートも充実させられるなら、すごくいい場所、何でもそろっているの。そこ（給料）の部分が変わっていけば、帰ってくる人は多くなるのかなと思いますね。」

(U ターン者)

「例えば経験者の声を基に、こういうキャリア形成やライフプランというものがありますよというのが、何か魅力的に伝わるようなものがあるといいのかなと女性目線で思います。」

(30代・既婚子あり)

「熊本のこの地で子育てしたいとか子どもを育てていきたい、こういう場所で育ててほしいみたいなふうなイメージを持ってもらうのも、一つ大事なのかな。」

(20代・未婚)

## V 女性が住みたくなる地域づくり

### V-1. 県外転出者への調査から見えてきたこと

#### 1. 県外への転出理由について

アンケート結果より、熊本県出身者は、全国平均と比較して就業、進学を背景に県外へ転出した割合が高いことが明らかとなった。また、ヒアリング対象者においては、約7割が大学進学を機に県外に転出していた。具体的には、希望する学部や、より偏差値の高い大学を求めた結果であり、このことに県の政策で介入することは難しい。一方、看護科のある高校進学のための近隣県への転出ケースは、県内の同様の高校や専門学校、大学への進学も可能だったと考える。彼らは、その後、病院奨学金制度の医療機関へ就職するため、大都市圏へ転出している。加えて、県外転出女性の現在の業種では「医療・福祉」が多い(Q10)。

以上のことから、県内の医療や福祉に関連する教育機関においては、県内の医療機関や福祉施設による奨学金制度を充実させるなど、県内に就職することを条件とした学費の助成に取り組むことで、「医療・福祉」関連の業種を目指す女性の県外転出に歯止めをかけられる可能性がある。

ヒアリングにおいて、就職をきっかけに転出した者は、給料の高さや福利厚生の実感により大都市圏の企業を選んだと語った。また、他県に移住した理由として女性は「レジャー・娯楽施設が少ないこと」が男性より有意に上回り(Q19)、ヒアリングでも、大都市圏では、仕事、娯楽などにおける「選択肢」の多さを魅力として挙げる者が多かった。さらに、女性は、仕事を選ぶうえで「私生活とバランスがとれる」を重視していた(Q24)。

これらのことより、女性は働くうえで、収入だけでなく、ライフワークバランスも重視していることが明らかである。熊本県での仕事や娯楽において、大都市圏と同等の「選択肢」の多さを獲得することは厳しい現状にある。しかし、熊本県において充実している特定の業種（医療・福祉）や生活（自然、食など）での「選択肢」の多さを創造し、仕事と私生活とのバランスがとれた暮らしをアピールすることは可能だと考える。

#### 2. 県外転出者が熊本へ戻ることが現実的になるために

##### (1) 将来の「子育て」を見据えたアプローチ

アンケートにおいて、熊本に戻って暮らすことに関心がある「意向層」は6割であったが、その9割近くは戻る時期として「3年以上または時期は決めていない」と回答した。この結果からは、対象者が20代、30代のため、熊本に戻ることを直近では考えてないが、何かのきっかけやタイミングによっては戻る可能性があるかと推察できる。さらに、関心のある理由として「子育て環境が整っている」は、R2内閣府調査より高く評価をしていた。ヒアリングでは、自身が「子育て」をすることになった時、もしくは親などの「介護」が必要になった時に戻ることを考えるという意見が多かった。



これらのことから、「子育て」前の既婚者や未婚者に、将来「子育て」をすることを見据えて帰熊することを提案することが、県外転出者が戻ってくるための最も現実的な施策だと考える。熊本県へのポジティブなイメージは、アンケート、ヒアリングともに、自然の豊かさや家族・友人の存在であった。これらの要素と「子育て」を関連づけた施策が最も取り組みやすい。一方で、アンケートの重回帰分析では、「熊本は教育環境が良くないというイメージを持っている人は、帰熊の意志が低い」という結果がでた。「教育環境が良くない」とは、具体的にはヒアリングで語られた「習い事や学校などの選択肢の少なさ」のことを指していると想定される。

熊本県においては、家族の協力を得た子育てや幼少期の自然の中での子育てでは強みを発揮できるが、より選択肢の多い教育を求める親にとっては、中学・高校以降の教育のあり方が弱みである。この点については、大都市圏では習えない習い事の発掘や、高校において特色ある教育やカリキュラムを展開することで、熊本県独自の教育の魅力を発揮することを提案する。さらに、ヒアリングでは、高校によってその先の進路も決まる「高校主義」に対する問題提起や、郡部出身者からは、高校通学時の公共交通機関の不便さや高校進学を機に地元を離れなければならないことも意見としてあがった。郡部の高校であっても、通学がしやすく、将来の進路が狭まらないような教育の在り方の検討も必要であろう。

加えて、県外転出者にとっては、熊本県の子育て情報を発信することが有効である。特に、ヒアリングにおいて、働きながら子育てをするうえで、自身の親に頼らなくてよい保育サービスや一時保育のニーズは高かった。これらを安価でかつ使用しやすくすることは、子育て世代にとって魅力的にうつる。さらに、県外転出者からは、公共交通機関の充実を求める声が多くあがったが、それを熊本県において広範囲に実現することは難しい。熊本県で子育てをする上で必要な支援としては、「親や親族等の身内の支援」に続いて、「子どもを連れて行ける施設」が4割強を占めていた(Q44)。そこで、子どもの遊び場や文化施設(図書館、動物園、博物館など)だけでも、公共交通機関でのアクセスがしやすくなれば、子どもや親に優しい地域としてアピールできると考える。

## (2) 熊本県に対する愛着心へのアプローチ

今回、熊本県出身者の熊本県に対する愛着は全国平均より非常に強いことが分かった。よって、この愛着の強さを維持してもらえような関わりが有効だと考える。例えば、熊本県のポジティブなイメージ「自然豊かな環境での暮らし」を若者が利用する SNS (twitter、Instagram など) で定期的に発信する。その際、世間一般に熊本県と関連付けられているマスコットやキャラクターを活用すれば、それらにリンクする形で熊本県の情報を発信できる。これは、熊本県出身者だけでなく他県出身者にも熊本県のポジティブなイメージを発信できる効果的な方法である。

さらに、県外に転出する手続きの際に、熊本県の公式 LINE などへの登録を推奨し、熊本県でのブライツ企業や子育てしやすい企業、各市町村の子育て支援サービスの紹介など、仕

事や子育てに関する情報を定期的に提供する。いつでも必要な時に熊本県へ戻って暮らすための情報を獲得できれば、戻ることが現実的になった時の移行もスムーズになる。女性の方が出身地で働きたい希望が多かったこと（Q23-e）から、特に女性に対して効果を発揮することが期待できる。

### （3）熊本県に戻る場合の懸念点を解消するアプローチ

ヒアリングにおいて、熊本県に戻ることに関心はあるが、子育てや介護など戻る必要性がない限りは、大都市圏で暮らし続けたいという意向があることも明らかになった。そこには、大都市圏で生活をしていると、仕事やプライベート、公共交通機関の充実が手放しにくく、熊本県に戻ることによって生活水準が低下することが懸念点となっているようだった。これは、アンケートでの「熊本に戻って暮らすことに関心がない理由（Q37）」で「現住地の生活利便性が高いため」（59%）が最も多かったことから分かる。また、熊本県に戻って暮らす場合の不安や懸念点については、「賃金が安いこと」（57%）が最も多かった（Q39）。

熊本県において、大都市圏と同様の賃金を保障することは現実的ではない。そこで、大都市圏と熊本県を比較した生涯の収支シミュレーションや大都市圏より評価できる熊本県での仕事や子育て、住まいの現状をPRすることで、県外転出者が気づいていない熊本県で暮らすことの魅力や価値を伝えることが有効だと考える<sup>1</sup>。さらに、熊本県へのポジティブイメージとしては、熊本市出身者は他圏域出身者と比べ「コンパクトな都市」の割合が高かった。ヒアリングでも、福岡県在住者は、福岡県がコンパクトな都市であることが魅力であると語っていた。よって、熊本市における「コンパクトな都市」のイメージを発信していくことも効果的であると考えられる。

## V-2. UIJ ターン者への調査から見えてきたこと

### 1. 熊本県に移住した理由について

まず、ヒアリングにおいて、U ターン者が一度熊本県を転出した理由は、県外転出者と同様に大学進学が大半を占めた。その中でも、特筆すべきは、親元を離れてもよいが近くに住んでほしいという親の意向を酌んで、隣接の福岡県や鹿児島県に進学したケースである。また、I・J ターンの者も進学や実習を機に熊本県へ転入し、そのまま就職したケースがあった。アンケートにおいても、「県外の大学に進学した者が就職時に戻ってくる」のがU ターンの典型的パターンであることが判明した。九州内からの転入は大都市圏からの転入より実現可能性が高いため、UIJ ターン者をターゲットとする場合、九州内の進学者を対象を絞

---

<sup>1</sup> 島根県、公益財団法人ふるさと島根定住財団「しっているようでしらないしまねの暮らし。」 <https://52hataraku.net/wp-content/uploads/2017/05/shimanenokurashi-1.pdf>（参照日：2022年10月11日）

ることも一つの方策である。

熊本県に移住した理由として、「自分自身の仕事の都合」と「実家や親戚の家がある」は約4割が選択し、上位2項目であった(Q26)。ヒアリングにおいても、大半が就職を機としていたため、本人の希望する業種や仕事内容とのマッチングをサポートするサービスや体制が強化されれば、より熊本県での就職を選ぶ者が増えると考えられる。

また、大都市圏での子育ての厳しさを感じている者は、熊本県に戻って親元での子育てを希望していたり、自然災害をきっかけに親元で暮らしたいと考えた者がいた。このことから、親元での子育て・介護のメリットを伝える一方で、それを支える公的・民間のサポートの充実を図り、熊本県で子育てや介護のしやすい地域を作っていくことが、移住者を増やすことにつながると考える。

## 2. 移住後の懸念点について

### (1) 交通アクセス

熊本県に移住して期待より悪かった点は、「自動車がないと生活できない」(63%)「公共交通機関が不便」(49%)が上位を占めた(Q39)。ヒアリングにおいても、交通アクセスの悪さへの指摘があがった。特に、交通アクセスの対照として福岡県がよくあげられた。これらの問題をハード面から解消することには多くの時間と費用を要する。よって、県内の企業において時差出勤やフレックスタイム制を推進し、出勤・退勤時間の渋滞緩和を図るなどソフト面からアプローチする方が実現可能性は高まる。

また、県外転出者のニーズと同様に、車が必須な子育て世代の利便性を高めるため、子どもの遊び場や文化施設(図書館、動物園、博物館など)への公共交通機関でのアクセスのしやすさや、交通渋滞は解消できるように努め、子育て世代のプライベートの時間に狙いを定める方法も一つである。

さらに、公共交通機関が衰退し、移動手段を車に頼らざるを得ない郡部での老後の生活を不安視する声も聞かれたことから、若い世代が老後でも暮らしやすいと思えるような地域をつくる視点も持たなければ、特に郡部における若い世代の転出は防げないだろう。

### (2) 仕事

「給料が安い」(50%)も、熊本県に移住して期待より悪かった点の上位であった(Q39)。さらに、熊本で子育てをするにあたり、より充実してほしい支援・環境としては、「子どもの医療費補助」(54%)、「出産一時金等の増額」(51%)、「行政による子育て世帯への給付金」(45%)と子育て世代に対する経済的な支援のニーズが上位3位を占めた。経済面で熊本県での暮らしをより良くするためには、金銭面でゆとりを感じられる子育てを実現することが現実的である。

ヒアリングより、女性の働きやすさのためには、リモートワークの推進が肝要であることが分かった。全国的にリモートワークが主流になれば、女性が配偶者の就労先に合わせて転

居することは少なくなると予想される。また、熊本県では大都市圏と同様のキャリアアップは見込めないと思っている者のニーズを満たすためには、全国に拠点がある企業の支店を誘致するなどして、熊本県でも大都市圏と同等のキャリアアップができるような施策が必要である。しかし、県外転出者において、全国規模の企業の支店は福岡県が限界という意見や福岡県ではイベントが充実している一方で熊本県を中心街の衰退を懸念する声もあった。この点をふまえ、特に福岡県寄りの市町においては、福岡県とは異なった暮らしやすさを追求し、仕事や娯楽は福岡県、住まいは熊本県といった通勤圏と生活圏を福岡県まで広げた県内定住策も考えていく必要がある。

### 3. UIJ ターン者を増やすための施策について

アンケートにおいて、移住者を増やすために必要な支援として、「交通アクセスの向上」「就業・就労支援」に続いて、「子育て環境の充実」が続いた（Q40）。この結果からも、熊本県においては、「子育て環境の充実」を図ることが得策だと考える。

ヒアリングでは、対象者は少なかったが子どもがいる者において、現在の子育て環境の満足度は、UIJ ターン者の方が県外転出者より低かった。また、熊本県での子育てに関して、職場において、子どもの登園・退園時間に追われている同僚の話が語られた。アンケートでは、先に述べたように子育て世代に対する経済的な支援のニーズが高いことが明らかになった。そこには、親や家族に頼ることはできても、経済的・時間的にゆとりがない子育てをしている現状が推察された。

よって、待機児童の解消や、一時保育、病児保育の充実、父親の産休・育休取得の推進、子育て世代への経済的支援など多岐にわたる子育て支援を実現し、経済的・時間的にもゆとりある子育てを推進していくことが求められる。

さらに、ヒアリング対象者から指摘があった児童館など親子が利用する施設におけるアナログ的な情報提供は、すぐに対処できる課題である。子育て関連の情報については、ホームページ上での読みやすさや入手の容易さに配慮し、子ども向けのイベント等はインターネット申し込みを主流とすることで参加しやすくする。さらに、I・J ターン者の親がコミュニティに入りやすくなるような支援策も必要である。

最後に、ヒアリングでは、女性目線で働きたいと思える労働環境を整えることが求められていた。県外転出者のアンケートで、女性は仕事を選ぶうえで「女性が多い」「子育てから復帰して働いている人が多い」を重視している（Q24）。大都市圏では、勤務先でロールモデルとなる女性がいることが当たり前になっている。熊本県においても、柔軟な働き方ができ福利厚生が充実した県内企業を増やすことで、働き続けるモデルケースとなる女性を増やしていくことが求められる。そして、彼らを紹介する機会をつくり、一緒に熊本県でのライフプランや子育てのあり方も宣伝することで、女性が熊本県でもキャリアアップ、自己実現できると感じてもらえるように働きかける。進学のために県外へ転出した学生だけではなく、転職・再就職を考えている者も対象とし、魅力ある熊本県での仕事、暮らし、子育て

情報も含めた採用情報を、全国どこにいても入手しやすくすることで、熊本県に戻ってくる者、熊本県に移住する者を増やしていくことができると考える。

### V-3. 女性が住みたくなる熊本に向けて

今回の調査により、女性が県外に転出し戻ってこない背景の一つに、固定的性別役割分担意識をはじめとするアンコンシャスバイアスが関係している可能性が示唆された。

県外転出者のアンケートで、他県に移住した理由として、女性は「人間関係やコミュニティに閉塞感があること」と回答する割合が男性より有意に高かった。また、重回帰分析（総計）においても、「地方特有の人間関係を嫌う者ほど帰熊の意志が低い」という結果であった。さらに、ヒアリングにおいても、地元や家庭、学校における固定的性別役割分担意識や、女性は結婚や子どもを産むことを前提とした考え方といったアンコンシャスバイアスへの指摘の声が強かった。未だ、女子学生に対して大学進学まで期待しない風潮が残っている現実も明らかとなった。これらは、祖父母や父母、親戚など身近な者から感じ取っている場合がほとんどであった。さらに学校では、熊本県における男女平等の職業に対する誤った発言を教員から聞いた者もいた。このようなアンコンシャスバイアスに対する違和感や抵抗感が、出身地での閉塞感を感じさせ、県外転出理由である「親元を離れたい」「一人暮らしをしてみたい」「都会へのあこがれ」に結びついている可能性は否定できない。

さらに、UIJ ターン者のアンケートにおいても、U ターン者において「出身地の人が性別役割分担意識の賛同派である」と回答する割合が有意に高かったことから、一度大都市圏に転出したからこそ、熊本県におけるアンコンシャスバイアスの根強さを実感し、特に女性は暮らしにくさを感じていると推察される。

「職場において男女どちらが優遇されているか」の問いに対して、「平等である」と回答した割合は、UIJ ターン者は 41% で県外転出者の 63% を大きく下回る結果となった。さらに、県外転出者へのヒアリングにおいて、熊本県において女性の管理職が少ないとの指摘もあった。熊本県では、職場においても男女共同参画が県外ほど進んでなく、県外転出者にもその認識があり、熊本県における女性の働きにくさを感じている。

女性が暮らしやすい地域をつくっていくために、まず、県民に対して固定的性別役割分担意識をはじめとするアンコンシャスバイアスに関する認識を持ってもらい、意識改革を図っていくことが必要である。また、実際に、男性も家事・育児に参加できるよう企業にも働きかけ、県内で働く女性がどのような点において男性の方が優遇されていると考えているのかを明らかにして、その対策を検討し実践していかなければならない。

一方で、大都市圏で専業主婦をしている者からは、共働きが主流である大都市圏と比べ、熊本県は専業主婦にとっては過ごしやすい地域であるという意見もあった。

女性がどのような生き方を選んでも過ごしやすいと感じられる地域が、女性が住みたくなる地域の理想の姿であろう。そのような地域をつくっていくためには、さらに様々な立場の女性の意見を聴取し、それを反映させた施策を実現していくことが求められる。

## おわりに

本調査では、20代～30代の県外転出者・UIJターン者それぞれに対してアンケート調査およびヒアリング調査を行った。調査結果から判明した熊本県出身者の特徴の考察については、Vの女性が住みたくなる地域づくりの章を参照されたい。

アンケート、ヒアリングについては、熊本県出身の多数の方に快くご協力いただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げたい。また、調査対象者の選定に当たっては、熊本県庁各課の職員の方々にご尽力いただいた。このような協力無しには本調査は成立しなかったであろう。こちらについても深甚なる感謝を申し上げたい。

本事業の実施に当たっては、熊本県からの受託の他、熊本県立大学地域・研究連携センターからの研究助成もいただくことができ、調査の一層の充実につなげることが出来た。こちらについても感謝申し上げたい。

本調査研究の結果が、今後の熊本県の人口減少対策ならびに男女共同参画社会の実現に向けてなにかしかの参考となれば誠に幸いである。

(執筆担当)

熊本県立大学総合管理学部	教授	澤田道夫 (I・II・III章)
〃	准教授	松本千晴 (IV・V章)
〃	准教授	小藺和剛 (Web調査)

(調査協力)

熊本県立大学総合管理学部 松本ゼミ3年生一同

## 資料編

### 1. 県外転出者向けアンケート調査項目

Q番号	質問文	選択肢数
Q1	あなたの年齢をお答えください。【必須入力】	4
Q2	あなたの性別をお選びください。（1つだけ）【必須入力】	3
Q3	現在、結婚していますか。	4
Q4	あなたが現在同居している方をお答えください。あてはまるものすべてお選びください。	10
Q5	あなたが現在同居しているお子さまは何人いますか。	4
Q6	あなたと同居しているお子さまの学齢をお答えください。2人以上の場合は、一番上のお子さまと一番下のお子さまの学齢をお答えください。	9
Q7	あなたの住居形態をお答えください。※複数のお住まいがある方は、メインのお住まいについて、お答えください。	6
Q8	あなたご自身の就労の状況就労の状況について最も近いものをお答えください。	13
Q9	あなたの配偶者・パートナーの就労の状況就労の状況について最も近いものをお答えください。	13
Q10	あなたの現在の業種について最も近いものをお答えください。※複数お勤め先がある方は、メインのお勤め先について、お答えください。	20
Q11	あなたは現在の勤務先に勤め始めて何年目ですか。※複数お勤め先がある方は、メインのお勤め先について、お答えください。	5
Q12	あなたの所属する勤務先の規模をお答えください。	7
Q13	あなたの年収をお答えください。	12
Q14	あなたの最終学歴（現在学生の場合は現在通っている学校）についてお答えください。	10
Q15	あなたが20歳になるまでに熊本県内での合計で最も長く暮らした圏域をお答えください。	5

Q番号	質問文	選択肢数
Q16	あなたが現在住んでいる都府県をお選びください。	47
Q17	あなたは、現在住んでいる都府県で何年暮らしていますか。	6
Q18	あなたが現在住んでいる都府県を選んだ目的や理由は何ですか。あてはまるものをすべてお答えください。	20
Q19	あなたが熊本県に残らずに他県に移住することを選択した背景となった事情として、熊本県にあてはまるものをすべてお選びください。	15
Q20	あなたが居住地を選択する際に重視することは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。	20
Q21	あなたがご自分で感じている現在の生活に関する満足度についてお答えください。	11
Q22	あなたがご自分で感じている現在の仕事に関する満足度についてお答えください。	11
Q23	あなたの仕事観についてお聞かせください。	
Q23-a	大企業で働きたい	5
Q23-b	中小企業で働きたい	5
Q23-c	ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい	5
Q23-d	独立・起業したい	5
Q23-e	出身地で働きたい	5
Q24	あなたが現在の仕事を選ぶにあたって重視したことは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。※仕事をされていない場合は、もし仕事をするとしてお答えください。	23
Q25	あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同されますか。	5
Q26	あなたの出身地の人たちは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同しますか。	5
Q27	あなたの家庭における家事・育児等の家庭内での役割分担の状況についてお伺いします。あてはまるものをお選びください。	11



Q番号	質問文	選択肢数
Q28	あなたの職場では男女どちらが優遇されていますか。あてはまるものをお選びください。	5
Q29	あなたの職場やあなたが直接知っている範囲で、職場（仕事）において、男性の方がより重要な役割を担い、意思決定に関わるといった、男女の役割分担という考えはありますか。	5
Q30	次の a、b のところに、あなたはどの程度愛着がありますか。	
Q30-a	熊本県	4
Q30-b	現在住んでいる都府県	4
Q31	あなたは熊本県での暮らしに対してどのようなポジティブなイメージがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。	12
Q32	あなたは熊本県での暮らしに対してどのようなネガティブなイメージがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。	15
Q33	あなたは現在、熊本県に帰省先（実家）はありますか。	2
Q34	あなたは、熊本県に戻って暮らすことに関心がありますか。	6
Q35	あなたは、具体的に熊本県に戻って暮らす時期は決まっていますか。	6
Q36	あなたが熊本県に戻って暮らすことに関心がある理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。	13
Q37	熊本県に戻って暮らすことに関心がない理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。	8
Q38	あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、期待するライフスタイル、実現したいことは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。	19
Q39	あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、不安や懸念点はどれですか。あてはまるものすべてお選びください。	16
Q40	あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、やりたい仕事のイメージとして近いものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。	8

Q番号	質問文	選択肢数
Q41	あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、やりたい業種は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。	21
Q42	あなたは熊本県に戻って子育てを希望したいと思いませんか。（お子さまがいらっしゃる場合、お子さまがいらっしゃるかと仮定してお答えください。）	5
Q43	熊本県で子育てを希望したいと思わない理由は何ですか。あてはまるものすべてお選びください。（お子さまがいらっしゃる場合、お子さまがいらっしゃるかと仮定してお答えください。）	17
Q44	あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、どういった子育て支援・環境があれば、良いと考えますか。あてはまるものすべてお選びください。（お子さまがいらっしゃる場合、お子さまがいらっしゃるかと仮定してお答えください。）	22
Q45	あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、最も居住地の候補となる圏域をお選びください。	5
Q46	就職を機に熊本県を転出された方のみお答えください。あなたの現在の仕事（職種）についてお答えください。※複数お勤め先がある方は、メインのお勤め先について、お答えください。	37
Q47	就職を機に熊本県を転出された方のみお答えください。前問で選択された仕事（職種）は、熊本県でも就労可能な仕事（職種）だと思いますか。	5
Q48	就職を機に熊本県を転出された方のみお答えください。熊本県以外で就職した最も大きな理由は何ですか。	15

## 県外転出者向けアンケート

\*必須

1. Q1. あなたの年齢をお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 20～24歳  
 25～29歳  
 30～34歳  
 35歳～39歳

2. Q2. あなたの性別をお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 男性  
 女性  
 答えたくない

3. Q3. 現在、結婚していますか。\*

1つだけマークしてください。

- 結婚している（事実婚も含む）  
 結婚していない（結婚したことはない）  
 結婚していない（以前に結婚していたことがある）  
 答えたくない

4. Q4. あなたが現在同居している方をお答えください。あてはまるものすべてお選びください。

※「配偶者・パートナー」は、Q3で「結婚している（事実婚も含む）」と回答した人のみ。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 配偶者・パートナー  
 子ども  
 父・母（義理の父・母含む）  
 同居者はいない  
 きょうだい  
 祖父・祖母（義理の祖父・祖母含む）  
 交際相手  
 友人・知人  
 孫  
 その他: \_\_\_\_\_

5. Q5. あなたが現在同居しているお子さまは何人いますか。

※Q4で「子ども」と回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- 1人  
 2人  
 3人  
 4人以上

6. Q6. あなたと同居しているお子さまの学齢をお答えください。2人以上の場合は、一番上のお子さまと一番下のお子さまの学齢をお答えください。

※Q4で「子ども」と回答した人のみ

当てはまるものをすべて選択してください。

- 未就学児（0～2歳）  
 未就学児（3～6歳）  
 小学生  
 中学生  
 高校生  
 短大・高等専門学校  
 大学生・大学院生  
 社会人等  
 その他

7. Q7. あなたの住居形態をお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 戸建て（持ち家）  
 戸建て（借家）  
 分譲マンション  
 賃貸マンション・アパート  
 社員寮・社宅・学生寮  
 その他

8. Q8. あなたご自身の就労の状況について最も近いものをお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 会社経営者・役員  
 公務員・団体職員  
 会社員（総合職）  
 会社員（一般職）  
 会社員（契約）  
 会社員（派遣）  
 自営業・フリーランス（資格専門職含む）  
 パート・アルバイト  
 休業中（育児、介護、病気療養等）  
 専業主婦／主夫  
 学生  
 無職  
 その他

9. Q9. あなたの配偶者・パートナーの就労の状況について最も近いものをお答えください。

※Q3で「結婚している（事実婚も含む）」と回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 会社経営者・役員
- 公務員・団体職員
- 会社員（総合職）
- 会社員（一般職）
- 会社員（契約）
- 会社員（派遣）
- 自営業・フリーランス（資格専門職含む）
- パート・アルバイト
- 休業中（育児，介護，病氣療養等）
- 専業主婦／主夫
- 学生
- 無職
- その他

10. Q10. あなたの現在の業種について最も近いものをお答えください。

※Q8で、「専業主婦／主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

1つだけマークしてください。

- 農業・林業
- 宿泊業
- 飲食サービス業
- サービス業（他に分類されないもの）
- 医療、福祉
- 情報通信業
- 教育
- 学習支援業
- 生活関連サービス業
- 娯楽業
- 製造業
- 公務員
- 学術研究
- 専門・技術サービス業
- 卸売業・小売業
- 複合サービス事業
- 運輸業・郵便業
- 建設業
- 漁業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 金融業・保険業
- 不動産業・物品賃貸業
- 鉱業
- 採石業
- 砂利採取業
- その他: \_\_\_\_\_

11. Q11. 現在の勤務先に勤め始めて何年目ですか。

※Q8で、「専業主婦／主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 1～2年目
- 3～5年目
- 6～10年目
- 11～20年目
- 20年目以上

12. Q12. あなたの所属する勤務先の規模をお答えください。

※Q8で、「自営業・フリーランス（資格専門職含む）」、「学生」「専業主婦／主夫」「無職」以外を回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 5人以下
- 6人～20人以下
- 21人～50人以下
- 51人～100人以下
- 101人～300人以下
- 301人以上
- わからない

13. Q13. あなたの年収をお答えください。

※Q8で、「専業主婦／主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- なし
- 100万円未満
- 100～199万円
- 200～299万円
- 300～399万円
- 400～499万円
- 500～699万円
- 700～999万円
- 1,000～1,499万円
- 1,500～1,999万円
- 2,000万円以上
- 分からない／答えたくない

14. Q14. あなたの最終学歴（現在学生の場合は現在通っている学校）\* についてお答えください。

1つだけマークしてください。

- 中学校
- 高等学校
- 専門学校
- 高等専修学校
- 高等専門学校
- 短期大学
- 大学
- 大学院
- その他
- 答えたくない

15. Q15. あなたが20歳になるまでに合計で最も長く暮らした圏域を \*  
お答えください。

1つだけマークしてください。

- 熊本市
- 圏央（宇土市・宇城市・下益城郡・上益城郡）
- 圏北（荒尾市・玉名市・山鹿市・菊池市・阿蘇市・合志市・玉名郡・菊池郡・阿蘇郡）
- 圏南（八代市・人吉市・水俣市・八代郡・葦北郡・球磨郡）
- 天草（天草市・上天草市・天草郡）

16. Q16. あなたが現在住んでいる都府県をお選びください。 \*

1つだけマークしてください。

- 福岡県
- 東京都
- 埼玉県
- 千葉県
- 神奈川県
- 群馬県
- 栃木県
- 茨城県
- 大阪府
- 京都府
- 兵庫県
- 奈良県
- 滋賀県
- 和歌山県
- 愛知県
- 岐阜県
- 三重県

17. Q17. あなたは、現在住んでいる都府県で何年暮らしていますか。 \*  
1つだけマークしてください。

- 1年未満
- 1年以上3年未満
- 3年以上10年未満
- 10年以上20年未満
- 20年以上
- 覚えていない

18. Q18. あなたが現在住んでいる都府県を選んだ目的や理由は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 進学したい大学や専門学校のため
- 色々なチャンスがあると思ったから
- 都会で暮らしたかったから
- 地元や親元を離れたかったから
- 地元や親元との近さを重視したから
- 色々な人に会うことができると思ったから
- 交通の便が良いと思ったから
- 趣味をより楽しむため
- 日常生活が便利そうだったから
- 給与の高い仕事に就きたいと思ったから
- やりがいや成長のある仕事に就きたいと思ったから
- 実現したい夢があったから
- 流行や最新のトレンドを入手しやすいと思ったから
- 文化や芸術に触れる機会が充実していると思ったから
- レジャー施設などの遊ぶ場所が充実していると思ったから
- 異動や親や配偶者の都合（自分の意志ではなく、やむを得ず）
- 子育てがしやすい環境だと思ったから
- 医療や福祉が充実していると思ったから
- 老後の生活が送りやすそうだったから
- その他: \_\_\_\_\_

19. Q19. あなたが熊本県に残らずに他県に移住することを選択した背 \*  
景となった事情として、熊本県にあてはまるものを全てお選びく  
ださい。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自分の能力を生かせる仕事が見つからないこと
- 賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと
- 希望する職種の仕事が見つからないこと
- 希望することが学べる進学先がないこと
- 人間関係やコミュニティに閉塞感があること
- 地域の文化や風習が肌に合わないこと
- 災害の危険性が高いこと
- 生活や環境の変化に乏しいこと
- 日常生活が不便なこと
- 医療・福祉施設が少ないこと
- レジャー・娯楽施設が少ないこと
- 公共交通機関が不便なこと
- 子育て環境が良くないこと
- 特になし
- その他: \_\_\_\_\_

20. Q20. あなたが居住地を選択する際に重視することはなんですか。 \*  
あてはまるものをすべてお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 食料品や日用品の買い物の便利さ
- 都市の中心部や繁華街へのアクセスの良さ
- 病院や介護施設など
- 医療・介護環境の充実
- スポーツや文化施設等の充実
- 治安の良さ
- 災害（地震、風水害、土砂災害）などの危険性の低さ
- 衛生環境の良さ
- 保育園、幼稚園などの子育て施設の充実
- 学校などの教育環境の充実
- 希望する仕事の有無
- 賃金水準の高さ
- 家賃等の住まいに関する費用の安さ
- 地域の人々との活発な交流
- 祭りなどの地域活動の活発さ
- 自然環境の豊かさ
- 気候の良さ
- 公園などオープンスペースの豊かさ
- 人の混雑の少なさ
- 家族や親戚の居住地への近さ
- その他: \_\_\_\_\_

21. Q21. あなたがご自分で感じている現在の生活に関する満足度についてお答えください。

※「不満」を0、「満足」を10とした場合、あなたの生活への満足度を10段階でお答えください。

1つだけマークしてください。

- 0
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

22. Q22. あなたがご自分で感じている現在の仕事に関する満足度についてお答えください。

※「不満」を0、「満足」を10とした場合、あなたの仕事への満足度を10段階でお答えください。

※Q8で、「専業主婦/主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- 0
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

Q23. あなたの仕事観についてお聞かせください。

※仕事をされていない場合は、もし仕事をするとお答えください。

23. Q23-a. 大企業で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

24. Q23-b. 中小企業で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

25. Q23-c. ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

26. Q23-d. 独立・起業したい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

27. Q23-e. 出身地で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

28. Q24. あなたが現在の仕事を選ぶにあたって重視したことは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

※仕事をされていない場合は、もし仕事をするとしてお答えください。  
※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 収入が安定している
- 失業の心配がない
- 自分の専門知識や能力がいかせる
- 世の中のためになる
- 高い収入が得られる
- 自分にとって楽しい
- 健康を損なう心配がない
- 私生活とバランスがとれる
- オフィスの立地場所がよい
- オフィスのデザインがよい
- 自由な服装で働ける
- 通勤が便利
- 知名度が高い
- 海外にも拠点がある
- テレワークが可能
- 女性が多い
- 男性が多い
- インターンシップの経験がある
- 社員が生き生きと働いている
- 子育てから復帰して働いている人が多い
- 親の勧め
- わからない
- その他: \_\_\_\_\_

29. Q25. あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同されますか。

1つだけマークしてください。

- 賛同する
- どちらかといえば賛同する
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない

30. Q26. あなたの出身地の人たちは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同しますか。

1つだけマークしてください。

- 賛同する
- どちらかといえば賛同する
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない

31. Q27. あなたの家庭における家事・育児等の家庭内での役割分担の状況についてお伺いします。あてはまるものをお選びください。

※Q3で「結婚している（事実婚も含む）」と回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 1 (男性10割、女性0割)
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10 (男性0割、女性10割)

32. Q28. あなたの職場では男女どちらが優遇されていますか。あてはまるものをお選びください。

※Q8で、「専業主婦/主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている

33. Q29. あなたの職場やあなたが直接知っている範囲で、職場（仕事）において、男性の方がより重要な役割を担い、意思決定に關わるといった、男女の役割分担という考えはあると思いますか。

※Q8で、「専業主婦/主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

Q30. 次のa,bのところに、あなたはどの程度愛着がありますか。

34. Q30-a. 熊本県\*

1つだけマークしてください。

- とても愛着がある
- まあ愛着がある
- あまり愛着がない
- まったく愛着がない

35. Q30-b. 現在住んでいる都府県\*

1つだけマークしてください。

- とても愛着がある
- まあ愛着がある
- あまり愛着がない
- まったく愛着がない

36. Q31. あなたは熊本県での暮らしに対してどのようなポジティブな\*イメージがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自然豊かな環境でのんびりと過ごす暮らし
- ワークライフバランスがとれた暮らし
- 海や山が近く、気軽にレジャーが楽しめる暮らし
- コンパクトな都市で、低コストで利便性のある暮らし
- 家庭菜園程度の野菜を作る暮らし
- 自然豊かな環境でのびのびと子育てする暮らし
- 自給する程度の畑仕事をする田舎暮らし
- 以前からの知人・友人や地域の人と交流しながらの暮らし
- 農林漁業に就いて生計を維持する暮らし
- 都市圏での経験を活かし、熊本県で就職や起業をして活躍する暮らし
- ポジティブなイメージはない
- その他: \_\_\_\_\_

37. Q32. あなたは熊本県での暮らしに対してどのようなネガティブな\*イメージがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 公共交通の利便性が良くない
- 収入が下がる
- 日常生活の利便性が良くない
- 限られた地域の強い人間関係の中で生活することが面倒、難しい
- 医療・福祉サービスの水準の低下
- 新しく人間関係をつくるのが面倒、難しい
- 仕事環境の変化への対応が難しい
- 余暇を楽しむ施設やサービスが充実していない
- やりがいのある仕事がない
- 家族が生活環境になじめない
- 住居環境が良くない
- 教育環境が良くない
- 子育て環境が良くない
- ネガティブなイメージはない
- その他: \_\_\_\_\_

38. Q33. あなたは現在、熊本県に帰省先（実家）はありますか。\*

1つだけマークしてください。

- ある
- ない

39. Q34. あなたは、熊本県に戻って暮らすことに関心がありますか。\*  
1つだけマークしてください。

- 関心がある
- やや関心がある
- 関心とまではいかないが、気にはなっている
- あまり関心がない
- 関心がない
- 以前は関心があったが今はない

40. Q35. あなたは、具体的に熊本県に戻って暮らす時期は決まっていますか。

※Q34で「関心がある」、「やや関心がある」、「関心とまではいかないが、気にはなっている」のいずれかを回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- 条件等が整えばすぐにも
- 半年以内
- 1年以内
- 2年以内
- 3年以内
- それ以上/時期は決めていない

41. Q36. あなたが熊本県に戻って暮らすことに関心がある理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

※Q34で「関心がある」、「やや関心がある」、「関心とまではいかないが、気にはなっている」のいずれかを回答した人のみ。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 豊かな自然環境があるため
- 生まれ育った地域で暮らしたいため
- 今の居住地での生活が自分に合っていないと感じたため
- 子育てする環境が整っていると感じたため
- 自身や配偶者・パートナーの転勤のため
- 熊本県の方が収入と支出のバランスが良いため
- 親等の介護のため
- 人間関係が良好であると感じるため
- 今の居住地での災害が心配なため
- 今の居住地での仕事が自分に合っていないと感じたため
- 熊本県でやりたい仕事があるため
- 自身または配偶者・パートナーの家業を継ぐため
- その他: \_\_\_\_\_

42. Q37. 熊本県に戻って暮らすことに関心がない理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

※Q34で「あまり関心がない」、「関心がない」、「以前は関心があったが今はない」のいずれかを回答した人のみ

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 配偶者・パートナーの勤務上の都合
- 子育て・教育上の都合
- 親戚関係・介護等の都合
- 引っ越し等に係る費用がないため
- 現住地の生活利便性が高いため
- 今の居住地での人間関係を維持したいため
- 熊本県に戻って暮らすことに魅力を感じないため
- その他: \_\_\_\_\_



43. Q38. あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、期待するライフスタイル、実現したいことは何ですか。あてはまるものすべてをお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自分に合った生活スタイルを送ること
- スローライフを実現すること
- 食べ物や水、空気がおいしい環境で生活すること
- 健康的な生活を送ること
- やりたい仕事、自分にあった仕事をする
- 趣味を楽しむこと
- 仕事と生活のどちらも充実させること
- 気候が暮らしやすいこと
- 生活コスト（物価、光熱費、住居費など）の削減をすること
- 自然の多い環境で子育てをすること
- 暮らしてみたい街で暮らすこと
- 医療、福祉施設が充実した環境で暮らすこと
- 都心を離れること
- 地域住民と良好な関係を築くこと
- 家族・親戚の近くで生活すること
- 家を購入すること
- 地域の一員として、地域課題解決に貢献すること
- 特になし
- その他: \_\_\_\_\_

44. Q39. あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、不安や懸念\*点は何ですか。あてはまるものすべてをお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 働き口が見つからないこと
- 公共交通機関が不便なこと
- 賃金が安いこと
- 日常生活が不便なこと
- 医療・福祉施設が少ないこと
- 人間関係が難しいこと
- 地域の文化や風習が異なること
- レジャー・娯楽施設が少ないこと
- 災害対策が不十分なこと、治安が悪いこと
- 地元などで過去の人間関係に戻って生活すること
- 都会で失敗した人などネガティブな噂が立つこと
- 教育環境が良くないこと
- 子育て環境が良くないこと
- 特になし
- その他: \_\_\_\_\_

45. Q40. あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、やりたい仕事のイメージとして近いものはどれですか。あてはまるものすべてをお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自分の能力やキャリアを生かした仕事がしたい
- 地域に密着した仕事がしたい
- 自分で起業したい、または個人事業主になりたい
- 地域課題解決に向けた公共性のある仕事がしたい
- クリエイティブ、インベティブな仕事がしたい
- 人とかがわらない仕事がしたい
- 特にイメージはない
- その他: \_\_\_\_\_

46. Q41. あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、やりたい業種は何ですか。当てはまるものすべてをお選びください

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 農業・林業
- 宿泊業、飲食サービス業
- サービス業（他に分類されないもの）
- 医療、福祉
- 情報通信業
- 教育、学習支援業
- 生活関連サービス業、娯楽業
- 製造業
- 公務員
- 学術研究、専門・技術サービス業
- 卸売業・小売業
- 複合サービス事業
- 運輸業・郵便業
- 建設業
- 漁業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 金融業・保険業
- 不動産業・物品賃貸業
- 鉱業、採石業、砂利採取業
- 特になし
- その他: \_\_\_\_\_

47. Q42. あなたは熊本県に戻って子育てを希望したいと思えますか。\*

※おさまがいらっしゃる場合、おさまがいらっしゃると仮定してお答えください。

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

48. Q43. 熊本県で子育てを希望したいと思わない理由は何ですか。あてはまるものすべてお選びください。

※Q42で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」のいずれかを回答した人のみ。

※お子さまがいらっしゃる場合、お子さまがいらっしゃるを仮定してお答えください。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親族等の身内の支援が受けられない
- 自身の就職先がない
- 配偶者・パートナーの就職先がない
- 出産・子育てに関する相談窓口がない
- 行政からの育児に対する補助金等が少ない
- 行政からの育児支援サービスが少ない
- 民間団体による支援が少ない
- 活用できる家事・育児サービスが少ない
- 保育所等子どもを預ける施設が少ない
- 子どもを連れて行ける施設が少ない
- 医療機関が少ない
- 教育レベルが低く、学習資源も貧しい
- 進学先（大学・専門学校等）の選択肢が少ない
- 子どもの就職先がない
- 公共交通機関が利用しづらい
- 特になし
- その他: \_\_\_\_\_

49. Q44. あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、こういった\*子育て支援・環境があれば、良いと考えますか。あてはまるものすべてお選びください。

※お子さまがいらっしゃる場合、お子さまがいらっしゃるを仮定してお答えください。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親や親族等の身内の支援
- 行政による出産・子育て相談窓口
- NPO等の子育て支援団体による支援
- ひとり親家庭に対する支援
- 同世代による子育てに関するコミュニティ
- 不妊治療に対する支援
- 出産一時金等の増額
- 子ども医療費補助
- 行政による子育て世帯への給付金
- ベビーシッター等の民間の家事・育児サービス
- 公園等子どもの遊び場
- 子どもを連れて行ける施設
- 充実した医療機関
- 行政による保育所等の費用負担
- 充実した教育機関（大学・専門学校等）
- 充実した公共交通機関
- 移住前と同等の給与水準が得られる就職先
- 移住前と同業種の就職先
- 移住者に対する就職支援
- 産休・育休取得が容易な就職先
- 特になし
- その他: \_\_\_\_\_

50. Q45. あなたが熊本県に戻って暮らすと仮定した場合、最も居住地\*の候補となる圏域をお選びください。

1つだけマークしてください。

- 熊本市
- 県央（宇土市・宇城市・下益城郡・上益城郡）
- 県北（荒尾市・玉名市・山鹿市・菊池市・阿蘇市・合志市・玉名郡・菊池郡・阿蘇郡）
- 県南（八代市・人吉市・水俣市・八代郡・葦北郡・球磨郡）
- 天草（天草市・上天草市・天草郡）

Q46以降は、就職を機に熊本県を転出された方のみお答えください。

51. Q46. あなたの現在の仕事（職種）についてお答えください。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

1つだけマークしてください。

- 看護職
- 介護職
- 薬剤師
- 医師・歯科医師
- 歯科衛生士
- 保育士・幼稚園教諭
- 栄養士
- 飲食店ホールスタッフ
- 調理師
- 一般事務
- 会計・経理事務
- 広報・PR
- 営業
- 事業企画
- 人事
- 美容師
- 教員
- 地方公務員
- 国家公務員
- 技術職（電気・電子・機械）
- 技術職（建築・土木）
- 技術職（メディカル・化学・食品・化粧品）
- Webデザイナー
- プログラマー
- コンサルタント
- マーケター
- 客室乗務員
- システムエンジニア
- ライター・編集者・記者

- 建築士
- インテリアコーディネーター
- 秘書
- エステティシャン
- 美容師
- ショップ店員
- 芸能
- その他: \_\_\_\_\_

52. Q47. Q46で選択された仕事（職種）は、熊本県でも就労可能な仕事（職種）だと思いますか。

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

53. Q48. 熊本県以外で就職した最も大きな理由は何ですか

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

1つだけマークしてください。

- 業界上位や大手の企業等で働きたい
- 配属先が熊本県以外だった
- 給料が高い
- 採用が多かった
- 顧客が多い
- キャリアアップが望める
- ロールモデルがいる
- 都会で暮らしたい
- 実家（地元）を出たい
- 家族がいる
- パートナー・恋人がいる
- 友人・知人がいる
- 好きな風景や場所がある
- 娯楽が多い
- その他: \_\_\_\_\_

---

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

## UIJターン者向けアンケート

\*必須

1. Q1. あなたの年齢をお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 20～24歳  
 25～29歳  
 30～34歳  
 35歳～39歳

2. Q2. あなたの性別をお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 男性  
 女性  
 答えたくない

3. Q3. 現在、結婚していますか。\*

1つだけマークしてください。

- 結婚している（事実婚も含む）  
 結婚していない（結婚したことはない）  
 結婚していない（以前に結婚していたことがある）  
 答えたくない

4. Q4. あなたが現在同居している方をお答えください。あてはまるものすべてお選びください。

※「配偶者・パートナー」は、Q3で「結婚している（事実婚も含む）」と回答した人のみ。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 配偶者・パートナー  
 子ども  
 父・母（義理の父・母含む）  
 同居者はいない  
 きょうだい  
 祖父・祖母（義理の祖父・祖母含む）  
 交際相手  
 友人・知人  
 孫  
 その他: \_\_\_\_\_

5. Q5. あなたが現在同居しているお子さまは何人いますか。

※Q4で「子ども」と回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- 1人  
 2人  
 3人  
 4人以上

6. Q6. あなたと同居しているお子さまの学齢をお答えください。2人以上の場合は、一番上のお子さまと一番下のお子さまの学齢をお答えください。

※Q4で「子ども」と回答した人のみ

当てはまるものをすべて選択してください。

- 未就学児（0～2歳）  
 未就学児（3～6歳）  
 小学生  
 中学生  
 高校生  
 短大・高等専門学校  
 大学生・大学院生  
 社会人等  
 その他

7. Q7. あなたの住居形態をお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 戸建て（持ち家）  
 戸建て（借家）  
 分譲マンション  
 賃貸マンション・アパート  
 社員寮・社宅・学生寮  
 その他

8. Q8. あなたご自身の就労の状況について最も近いものをお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 会社経営者・役員  
 公務員・団体職員  
 会社員（総合職）  
 会社員（一般職）  
 会社員（契約）  
 会社員（派遣）  
 自営業・フリーランス（資格専門職含む）  
 パート・アルバイト  
 休業中（育児、介護、病気療養等）  
 専業主婦／主夫  
 学生  
 無職  
 その他

9. Q9. あなたの配偶者・パートナーの就労の状況について最も近いものをお答えください。

※Q3で「結婚している（事実婚も含む）」と回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 会社経営者・役員
- 公務員・団体職員
- 会社員（総合職）
- 会社員（一般職）
- 会社員（契約）
- 会社員（派遣）
- 自営業・フリーランス（資格専門職含む）
- パート・アルバイト
- 休業中（育児、介護、病氣療養等）
- 専業主婦／主夫
- 学生
- 無職
- その他

10. Q10. あなたの現在の業種について最も近いものをお答えください。

※Q8で、「専業主婦／主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ  
※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

1つだけマークしてください。

- 農業・林業
- 宿泊業
- 飲食サービス業
- サービス業（他に分類されないもの）
- 医療、福祉
- 情報通信業
- 教育
- 学習支援業
- 生活関連サービス業
- 娯楽業
- 製造業
- 公務員
- 学術研究
- 専門・技術サービス業
- 卸売業・小売業
- 複合サービス事業
- 運輸業・郵便業
- 建設業
- 漁業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 金融業・保険業
- 不動産業・物品賃貸業、
- 鉱業
- 採石業
- 砂利採取業
- その他: \_\_\_\_\_

11. Q11. 現在の勤務先に勤め始めて何年目ですか。

※Q8で、「専業主婦／主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 1～2年目
- 3～5年目
- 6～10年目
- 11～20年目
- 20年目以上

12. Q12. あなたの所属する勤務先の規模をお答えください。

※Q8で、「自営業・フリーランス（資格専門職含む）」、「学生」「専業主婦／主夫」「無職」以外を回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 5人以下
- 6人～20人以下
- 21人～50人以下
- 51人～100人以下
- 101人～300人以下
- 301人以上
- わからない

13. Q13. あなたの年収をお答えください。

※Q8で、「専業主婦／主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- なし
- 100万円未満
- 100～199万円
- 200～299万円
- 300～399万円
- 400～499万円
- 500～699万円
- 700～999万円
- 1,000～1,499万円
- 1,500～1,999万円
- 2,000万円以上
- 分からない／答えたくない

14. Q14. あなたの最終学歴（現在学生の場合は現在通っている学校）についてお答えください。\*

1つだけマークしてください。

- 中学校
- 高等学校
- 専門学校
- 高等専修学校
- 高等専門学校
- 短期大学
- 大学
- 大学院
- その他
- 答えたくない

15. Q15. この中の移住スタイルではまるものはありますか。\*

※ Uターン：生まれ育った故郷から進学や就職を期に都会へ移住した後、再び生まれ育った故郷に移住すること

※ Iターン：生まれ育った故郷から進学や就職を期に故郷にはない要素を求めて、故郷とは別の地域に移住すること

※ Jターン：生まれ育った故郷から進学や就職を期に都会へ移住した後、故郷に近い地域に移住すること

1つだけマークしてください。

- Uターン
- Iターン
- Jターン
- どれもあてはまらない

16. Q16. あなたの出身地（都道府県又は熊本県出身の方は圏域）を \*  
お選びください。

1つだけマークしてください。

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県

- 和歌山県
- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県
- 熊本市
- 県央（宇土市・宇城市・上益城郡）
- 県北（荒尾市・玉名市・山鹿市・菊池市・阿蘇市・合志市・玉名郡・菊池郡・阿蘇郡）
- 県南（八代市・人吉市・水俣市・八代郡・葦北郡・球磨郡）
- 天草（天草市・上天草市・天草郡）

17. Q17. Q16で選んだ出身地（都道府県又は熊本県出身の方は圏域） \*  
で何年過ごしていましたか。

1つだけマークしてください。

- 1年未満
- 1年以上3年未満
- 3年以上10年未満
- 10年以上20年未満
- 20年以上
- 覚えていない

18. Q18. あなたが現在住んでいる圏域をお選びください。\*

1つだけマークしてください。

- 熊本市
- 県央（宇土市・宇城市・下益城郡・上益城郡）
- 県北（荒尾市・玉名市・山鹿市・菊池市・阿蘇市・合志市・玉名郡・菊池郡・阿蘇郡）
- 県南（八代市・人吉市・水俣市・八代郡・葦北郡・球磨郡）
- 天草（天草市・上天草市・天草郡）

19. Q19. Q18で選んだ圏域で何年暮らしていますか。\*

1つだけマークしてください。

- 1年未満
- 1年以上3年未満
- 3年以上10年未満
- 10年以上20年未満
- 20年以上
- 覚えていない

20. Q20. あなたが熊本県に移住する前に住んでいた都道府県をお選びください。 \*

1つだけマークしてください。

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県

- 和歌山県
- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県

21. Q21. Q20で選んだ都道府県で何年暮らしていましたか。 \*

1つだけマークしてください。

- 1年未満
- 1年以上3年未満
- 3年以上10年未満
- 10年以上20年未満
- 20年以上
- 覚えていない

22. Q22. Q20で選んだ都道府県での就労の状況について最も近いものをお答えください。 \*

1つだけマークしてください。

- 会社経営者・役員
- 公務員・団体職員
- 会社員（総合職）
- 会社員（一般職）
- 会社員（契約）
- 会社員（派遣）
- 自営業・フリーランス（資格専門職含む）
- パート・アルバイト
- 休業中（育児，介護，病氣療養等）
- 専業主婦／主夫
- 学生，無職
- その他

23. Q23. Q20で選んだ都道府県での業種について最も近いものをお答えください。

※Q22で「専業主婦／主夫」，「学生」，「無職」，以外を回答した人のみ  
※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

1つだけマークしてください。

- 農業・林業
- 宿泊業
- 飲食サービス業
- サービス業（他に分類されないもの）
- 医療
- 福祉
- 情報通信業
- 教育
- 学習支援業
- 生活関連サービス業
- 娯楽業
- 製造業
- 公務員
- 学術研究
- 専門・技術サービス業
- 卸売業・小売業
- 複合サービス事業
- 運輸業・郵便業
- 建設業
- 漁業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 金融業・保険業
- 不動産業・物品賃貸業
- 鉱業
- 採石業
- 砂利採取業

その他: \_\_\_\_\_

24. Q24. あなたが、出身地からQ20で選んだ都道府県に移住した目的や理由は何か。あてはまるもの全てお答えください。\*

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 出身地と熊本県に移住前に住んでいた都道府県は同じ
- 進学したい大学や専門学校のため
- 色々なチャンスがあると思ったから
- 都会で暮らしたかったから
- 地元や親元を離れたかったから
- 地元や親元との近さを重視したから
- 色々な人に会うことができると思ったから
- 交通の便が良いと思ったから
- 趣味をより楽しむため
- 日常生活が便利そうだったから
- 給与の高い仕事に就きたいと思ったから
- やりがいや成長のある仕事に就きたいと思ったから
- 実現したい夢があったから
- 流行や最新のトレンドを入手しやすいと思ったから
- 文化や芸術に触れる機会が充実していると思ったから
- レジャー施設などの遊ぶ場所が充実していると思ったから
- 異動や親や配偶者の都合（自分の意志ではなく、やむを得ず）
- 子育てがしやすい環境だと思ったから
- 医療や福祉が充実していると思ったから
- 老後の生活が送りやすそうだったから
- その他: \_\_\_\_\_

25. Q25. あなたが、出身地からQ20で選んだ都道府県に移住することを検討した背景となった事情として、出身地にあてはまるものを全てお選びください。\*

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 出身地と熊本県に移住前に住んでいた都道府県は同じ
- 自分の能力を生かせる仕事が見つからないこと
- 賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと
- 希望する職種の仕事が見つからないこと
- 希望することが学べる進学先がないこと
- 人間関係やコミュニティに閉塞感があること
- 地域の文化や風習が肌に合わないこと
- 災害の危険性が高いこと
- 生活や環境の変化に乏しいこと
- 日常生活が不便なこと
- 医療・福祉施設が少ないこと
- レジャー・娯楽施設が少ないこと
- 公共交通機関が不便なこと
- 子育て環境が良くないこと
- その他: \_\_\_\_\_

26. Q26. あなたが熊本県に移住した目的や理由は何か。あてはまるもの全てお選びください。\*

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自分自身の仕事の都合
- 配偶者・パートナーの事情（転勤など）
- 親族の介護
- 自分自身の進学
- 実家や親戚の家がある
- 友人・知人が近くにいる
- やりたい仕事がある
- 就職支援制度が整っている
- 起業支援制度が整っている
- 一次産業の就職支援が整っている
- テレワークの環境が整っている
- 自然が豊か
- やりたい趣味ができる
- 子育て支援が整っている
- 教育体制が整っている
- 医療体制が整っている
- 生活が便利
- 食べものおいしい
- 物価が安い
- 移住支援制度が整っている
- 親族・知人のすすめ
- その他: \_\_\_\_\_

27. Q27. あなたが居住地を選択する際に重視することはありますか。あてはまるものを全てお選びください。\*

※「その他」を選択した場合は具体的にご記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 食料品や日用品の買い物の便利さ
- 都市の中心部や繁華街へのアクセスの良さ
- 病院や介護施設など
- 医療・介護環境の充実
- スポーツや文化施設等の充実
- 治安の良さ
- 災害（地震、風水害、土砂災害）などの危険性の低さ
- 衛生環境の良さ
- 保育園、幼稚園などの子育て施設の充実
- 学校などの教育環境の充実
- 希望する仕事の有無
- 賃金水準の高さ
- 家賃等の住まいに関する費用の安さ
- 地域の人々との活発な交流
- 祭りなどの地域活動の活発さ
- 自然環境の豊かさ
- 気候の良好さ
- 公園などオープンスペースの豊かさ
- 人の混雑の少なさ
- 家族や親戚の居住地への近さ
- その他: \_\_\_\_\_



28. Q28. あなたがご自分で感じている現在の生活に関する満足度に \*  
ついてお答えください。

※「不満」を0、「満足」を10とした場合、あなたの生活への満足度を10段階でお答えください。

1つだけマークしてください。

- 0
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

29. Q29. あなたがご自分で感じている現在の仕事に関する満足度についてお答えください。

※「不満」を0、「満足」を10とした場合、あなたの仕事への満足度を10段階でお答えください。

※Q8で、「専業主婦/主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- 0
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10

Q30. あなたの仕事観についてお聞かせください。

※仕事をされていない場合は、もし仕事をするとお答えください。

30. Q30-a. 大企業で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

31. Q30-b. 中小企業で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

32. Q30-c. ベンチャー・スタートアップ企業で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

33. Q30-d. 独立・起業したい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

34. Q30-e. 出身地で働きたい\*

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

35. Q31. あなたが現在の仕事を選ぶにあたって重視したことは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

※仕事をされていない場合は、もし仕事をするとしてお答えください。  
※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 収入が安定している
- 失業の心配がない
- 自分の専門知識や能力がいかせる
- 世の中のためになる
- 高い収入が得られる
- 自分にとって楽しい
- 健康を損なう心配がない
- 私生活とバランスがとれる
- オフィスの立地場所がよい
- オフィスのデザインがよい
- 自由な服装で働ける
- 通勤が便利
- 知名度が高い
- 海外にも拠点がある
- テレワークが可能
- 女性が多い
- 男性が多い
- インターンシップの経験がある
- 社員が生き生きと働いている
- 子育てから復帰して働いている人が多い
- 親の勧め
- わからない
- その他: \_\_\_\_\_

36. Q32. あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同されますか。

1つだけマークしてください。

- 賛同する
- どちらかといえば賛同する
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない

37. Q33. あなたの出身地の人たちは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について賛同しますか。

1つだけマークしてください。

- 賛同する
- どちらかといえば賛同する
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない

38. Q34. あなたの家庭における家事・育児等の家庭内での役割分担の状況についてお伺いします。あてはまるものをお選びください。

※Q3で「結婚している(事実婚も含む)」と回答した人のみ

1つだけマークしてください。

- 1 (男性10割、女性0割)
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10 (男性0割、女性10割)

39. Q35. あなたの職場では男女どちらが優遇されていますか。あてはまるものをお選びください。

※Q8で、「専業主婦/主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている

40. Q36. あなたの職場やあなたが直接知っている範囲で、職場(仕事)において、男性の方がより重要な役割を担い、意思決定に関わるといった、男女の役割分担という考えはあると思いますか。

※Q8で、「専業主婦/主夫」「学生」「無職」以外を回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

Q37. 次のa,bのところに、あなたはどの程度愛着がありますか。

41. Q37-a. 熊本県\*

1つだけマークしてください。

- とても愛着がある
- まあ愛着がある
- あまり愛着がない
- まったく愛着がない

42. Q37-b. 出身地

※Q15で、「Iターン」、「Jターン」、「どれにもあてはまらない」を回答した人のみ。

1つだけマークしてください。

- とても愛着がある
- まあ愛着がある
- あまり愛着がない
- まったく愛着がない

43. Q38. 熊本県に移住して期待より良かった点はなんですか。あてはまるものをお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 一軒家を建てられた
- 家が広く快適
- 安価な住宅を購入できた
- 自然環境が豊かである
- アウトドア（キャンプや釣りなど）を楽しめる
- 景色が良い
- 気候がよい
- 地域住民が親切
- 地域住民と程よい距離感で過ごしやすい
- 地域の人に声をかけてもらえる
- 生まれ育った地域で暮らすことが出来る
- 家族・親戚の近くで生活出来る
- 子供が外遊びをしやすい
- 保育園・幼稚園などが子どもにあっている
- 医療・福祉施設が充実している
- 子どもの医療費の補助が充実している
- 職場の人間関係がよい
- 仕事内容がよい
- 通勤時間が短い
- 公共交通機関が利用しやすい
- 食べ物が美味しい
- 災害が少ない
- 商業施設が充実している
- その他: \_\_\_\_\_

44. Q39. 熊本県に移住して期待より悪かった点はなんですか。あてはまるものをお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自動車がないと生活できない
- 老後の移動手段が心配
- 公共交通機関が不便
- 道路が悪い（狭い・舗装がされていないなど）
- 災害が多い
- 寒さが厳しい
- 紫外線が強い
- 近所付き合いがない
- 移住民に対して警戒が大きい
- 街灯が少ない
- 移住支援金をもらえなかった
- 移住支援金の対象になる人が少ない
- 給料が安い
- 仕事が見つからない
- 大きな病院が近くにない
- 病院が遠い
- 子どもが遊べる場所が少ない
- スーパーが少ない
- 飲食店が少ない
- 行政手続きが不便
- ゴミの分別が細かい
- その他: \_\_\_\_\_

45. Q40. ご自身の体験をふまえ、熊本県への移住者を増やすために必要な支援や有効だと思う取り組みは何だと思えますか。あてはまるもの全てお答えください。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 就業・就労支援（働く場や機会の拡充）
- 住宅支援（住宅整備や空き家活用など）
- 地域の魅力アップや地域情報の発信
- 子育て環境の充実（教育・子どもの医療充実など）
- 行政による移住に係る補助や移住後の支援・助成
- 交通アクセスの向上
- 地域コミュニティの充実
- 商業等の生活利便施設や機能の充実
- 都市住民との交流や体験・宿泊機会の充実
- 医療の充実、行政の相談窓口機能の強化
- 通信環境の整備・充実（Wi-fi,インターネット環境）
- 上下水道等のインフラ整備の充実
- 自然環境等の保全
- 高齢者等の福祉の充実
- 農業参入に係る支援
- 除雪対策の強化
- その他: \_\_\_\_\_

46. Q41. 熊本県で子育てをするにあたり、より充実してほしい支援・環境はどのようなものですが。あてはまるものすべてお選びください。

※「その他」を選択した場合は具体的に記入ください

当てはまるものをすべて選択してください。

- 親や親族等の身内の支援
- 行政による出産・子育て相談窓口
- NPO等の子育て支援団体による支援
- ひより親家庭に対する支援
- 同世代による子育てに関するコミュニティ
- 不妊治療に対する支援
- 出産一時金等の増額
- 子ども医療費補助
- 行政による子育て世帯への給付金
- ベビーシッター等の民間の家事・育児サービス
- 公園等子どもの遊び場
- 子どもを連れて行ける施設
- 充実した医療機関
- 行政による保育所等の費用負担
- 充実した教育機関（大学、専門学校等）
- 充実した公共交通機関
- 移住前と同等の給与水準が得られる就職先
- 移住前と同業種の就職先
- 移住者に対する就職支援
- 産休・育休取得が容易な就職先
- 特にない
- その他: \_\_\_\_\_

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

## 資料編

### 2. ヒアリング項目

#### ヒアリング調査項目

##### 【全グループ共通】

##### 1. 基本属性

年齢、居住地・居住歴、住居形態、職業、勤務地、同居家族、出身地

##### 2. 現在の暮らし・ライフスタイル、仕事、家族について

2-1 仕事の満足度（10点満点で尋ねる。またその点数にした理由も尋ねる）

2-2 生活の満足度（10点満点で尋ねる。またその点数にした理由も尋ねる）

2-3 休日の過ごし方

2-4 生活で重視する点、大切にしていること、譲れないこと

2-5 （子あり）家事・育児分担、子育て環境の満足度（10点満点で尋ねる。またその点数にした理由も尋ねる）、子どものために心がけていること

##### 3. ライフヒストリーについて

3-1 出身市町村、県外転出までの熊本県内での移転等の経験、各移転の理由

3-2 県外への転出理由・時期（詳細に尋ねる）

3-3 出身地への思いについて（好き嫌い、感情）

3-4 将来的に出身地（熊本県）に戻る意向の有無

→3-4の回答内容で、非意向層（A）・関心層（B）・検討層（C）へ分類

##### 【非意向層（A）】

A-1 出身地（熊本）に戻ろうと思わない理由は何ですか？

A-2 現在の居住地に住み続けたい理由は何ですか？（出身地に対するネガが強いのか、現在の居住地の魅力が強いのか？を明らかにする）

A-3 熊本県に何があれば帰ってきたいと思うようになりますか。

##### 【関心層（B）】

B-1 出身地（熊本）へ戻ることに関心を持つようになったきっかけは何ですか？

B-2 現在、戻る関心までにとどまる理由は何ですか？（具体的な計画段階に進む障壁となっているものを明らかにする）

B-3 熊本県に何があれば帰ってきたいと思いますか。

### 【検討層 (C)】

- C-1 出身地（熊本）へ戻ることを意識するようになったきっかけは何ですか？
- C-2 いつ頃、戻る予定でいますか？その理由は何ですか？
- C-3 現在、戻ることを検討するまでに留まる理由は何ですか？（具体的な計画段階に進む障壁となっているものを明らかにする）

### 【UIJ ターン層】

1. 出身地（熊本）へ戻る（来る）ことになったきっかけは何ですか？
2. 出身地（熊本）へ戻って（来て）、不安・心配に感じていること、懸念点は何ですか？
3. U ターン者（IJ ターン者）を増やすために必要なことは何だと思えますか？

#### （留意事項）

回答者は出身地と聞くと、出身市町村を想定する可能性が高い。

出身市町村へは戻らないが熊本県内には戻ってくることを検討しているケースも考えられるため、出身市町村と戻りたい県内の市町村を確認して、インタビューを進める必要がある。

### 【追加調査項目】

1. 熊本県は子育てがしやすい環境だと思いますか？（10 点満点で尋ねる。また、その点数にした理由も尋ねる。）
2. どういった支援・環境があれば、より子育てをしやすくなると思いますか。（UIJ ターン者のみ）出身地（熊本）へ戻って（来て）、不安・心配に感じていること、懸念点は何ですか？
3. （熊本から転出した理由が「仕事がないから」だった場合）、熊本ではできない仕事（職種）とは具体的に何か。